中間貯蔵施設環境安全委員会（第 24 回）

令和５年３月 28 日（火）13：30～15：15
於　交流施設 Link（りんく）る大熊　多目的ホール

議　事　次　第

１．開会

２．議題

（１）中間貯蔵施設環境安全委員会の運営について

（２）中間貯蔵施設に係る事業の実施状況について

・令和５年度の中間貯蔵施設事業の方針
・除去土壌等の搬入及び施設の運営状況
・県外最終処分に向けた取組の進捗状況　外

（３）中間貯蔵施設事業において発生した事例と対応等について

（４）福島県・大熊町・双葉町が実施した中間貯蔵施設における状況確認の結果等について

（５）その他

３．閉会

配布資料一覧

中間貯蔵施設環境安全委員会　委員名簿
中間貯蔵施設環境安全委員会（第 24 回）座席表
環境省出席者名簿

資料１　中間貯蔵施設事業の状況等について

資料１別添　モニタリング等の状況の詳細について

資料２　中間貯蔵施設事業において発生した事例と対応等について（2022 年８月環境安全委員会報告以降）

資料２別添　中間貯蔵施設事業において発生した事例と対応等の詳細（2022 年８月環境安全委員会報告以降）

資料３　福島県・大熊町・双葉町が実施した中間貯蔵施設における状況確認の結果等について

資料1

中間貯蔵施設事業の状況等について

2023年３月

環境省

事業の方針

令和5年度の中間貯蔵施設事業の方針①

総　論

○ 昨今の事故も踏まえ、安全を第一に、地域の理解を得つつ、また、住民の帰還や生活に支障を及ぼさないよう、事業を実施する。

輸　送

○特定復興再生拠点区域等で発生した除去土壌等の搬入を進める。また、仮置場を介さずに輸送を行うための方法を検討する。

○安全で円滑な輸送のため、以下の対策を実施する。

・運転者研修等の交通安全対策や必要な道路補修等を実施し、安全な輸送を確保

・円滑な輸送のため、輸送出発時間の調整など、特定の時期・時間帯への車両の集中防止・平準化

○福島県と連携し、市町村と調整の上、立地町である大熊町・双葉町への配慮等をしつつ、計画的な輸送を実施する。

令和5年度の中間貯蔵施設事業の方針②

用　地

〇着実な事業実施に向け、丁寧な説明を尽くしながら、施設整備の進捗状況、除去土壌等の発生状況に応じて、必要な用地取得を行う。

施　設

〇受入・分別施設は、安全かつ計画的に稼働する。また、施設の解体作業に当たっては安全を確保して確実に行う。

〇土壌貯蔵施設は、安全に稼働するとともに、貯蔵が終了した施設では、安全性を確保しつつ、維持管理を着実に実施する。

〇仮設焼却施設及び仮設灰処理施設並びに廃棄物貯蔵施設は、安全に稼働しつつ有効に活用する。

令和5年度の中間貯蔵施設事業の方針③

再生利用・最終処分

○最終処分量の低減に資する、除去土壌等の減容・再生利用に向け、関係機関の連携の下、地元の御理解を得ながら、技術開発や県内外での実証事業を実施するとともに、再生利用先の具体化を推進する。

○減容処理や安定化技術の更なる開発・検証や最終処分場の必要面積・構造に係る実現可能ないくつかの選択肢の検討など、県外最終処分に向けた検討を加速する。

○上記の検討等の結果も踏まえ、県外最終処分に係る経緯や必要性及び減容・再生利用の必要性・安全性等に関する理解醸成活動を全国に向けて引き続き推進する。

情報発信

○環境再生に向けた取組や地元の思いなどを発信するため、現場視察・見学会の充実や、地方自治体・関係省庁等との連携を推進し、より多くの方に福島の復興や環境再生の取組について発信する。

当面の施設整備イメージ図

（令和4年12月時点）

現時点での各施設の整備の想定範囲を示したものであり、図中に示した範囲の中で、地形や用地の取得状況を踏まえ、一定のまとまりのある範囲で整備していくこととしています。また、用地の取得状況や施設の整備状況に応じて変更の可能性があります。

土壌貯蔵施設の容量について、既に発注済の双葉①～③工区、大熊①～⑤工区の工事範囲においては、実際に整備することとなる地形や貯蔵高さ、用地確保の状況によって変動しますが、輸送量ベースで1,350万～1,500万㎥程度の貯蔵が可能と見込んでいます。

双葉町

大熊町

中間貯蔵施設区域

双葉①工区
受入・分別施設（2施設）
1施設解体済
土壌貯蔵施設
双葉②工区
受入・分別施設
1施設解体済
土壌貯蔵施設
貯蔵完了
双葉③工区
土壌貯蔵施設
双葉2工区
廃棄物貯蔵施設
双葉1工区
廃棄物貯蔵施設
仮設焼却施設及び仮設灰処理施設
技術実証施設
大熊④工区
受入・分別施設
土壌貯蔵施設
大熊①工区
土壌貯蔵施設
貯蔵完了
受入・分別施設
解体済
大熊②工区
受入・分別施設（2施設）
1施設解体済
土壌貯蔵施設
大熊⑤工区
土壌貯蔵施設
受入・分別施設
大熊1工区
廃棄物貯蔵施設
仮設焼却施設及び関連施設
大熊③工区
受入・分別施設
土壌貯蔵施設
スクリーニング
監視員待機所
分析施設
スクリーニング
解体済
中間貯蔵工事情報センター
保管場等
細谷川
陳場沢川
夫沢川
小入野川
熊川

着工・整備済み
（着手予定範囲を含む）
主な輸送・運搬ルート
運搬用ベルトコンベアルート
敷地境界の緑地帯
（既存植生がない部分に植栽する）

※ 保管場等とは、除去土壌や灰等の保管場、解体物等の置場、受入分別施設等跡地、輸送車両の待機場等に加え、現段階では整備する施設の種類を検討中の用地を含む。

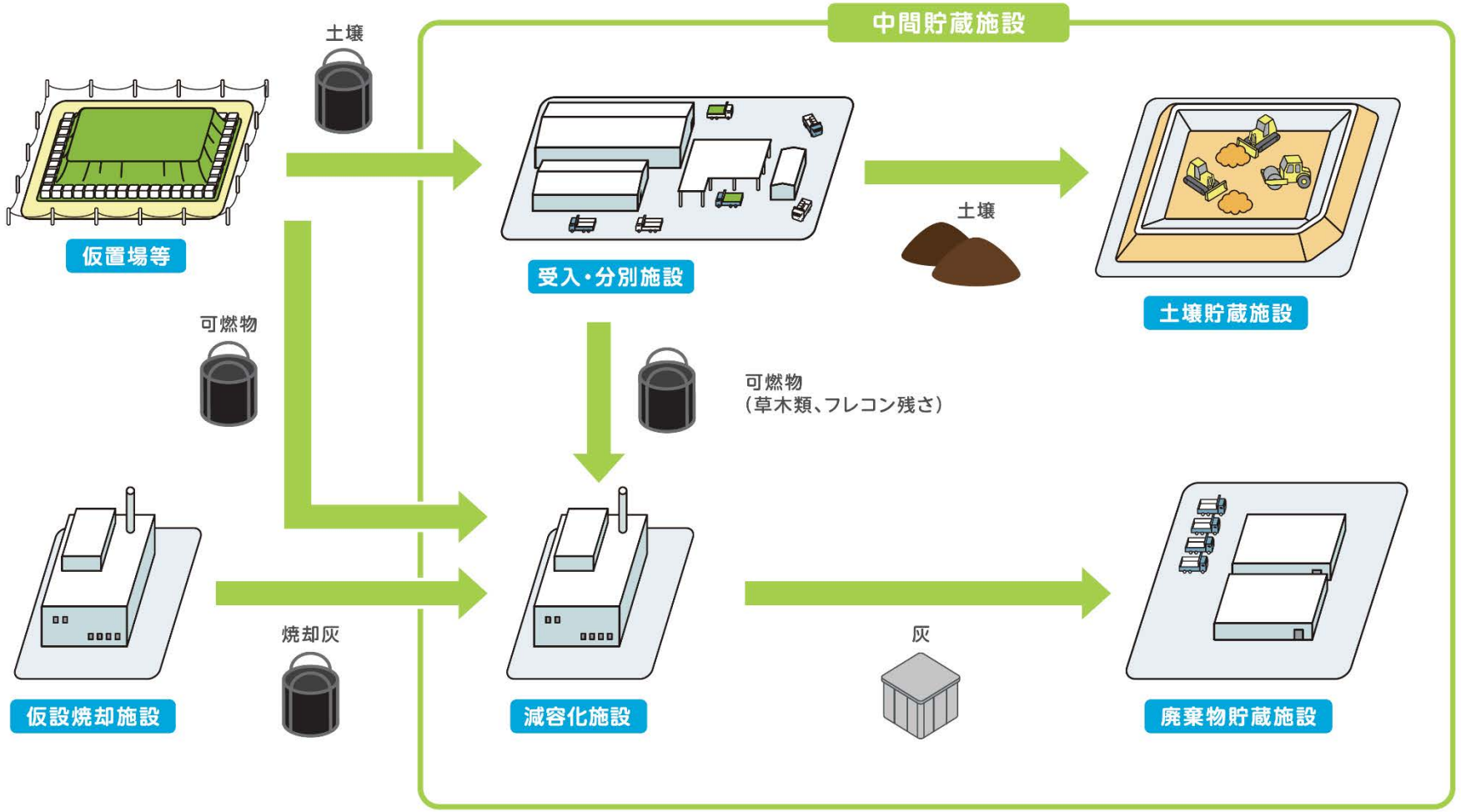
0 250 500 750 1000 m
1:20000 （A3版印刷時）

施設の整備

中間貯蔵施設事業の流れ

○　仮置場や仮設焼却施設から輸送した除去土壌等は、中間貯蔵施設で処理し、貯蔵する。

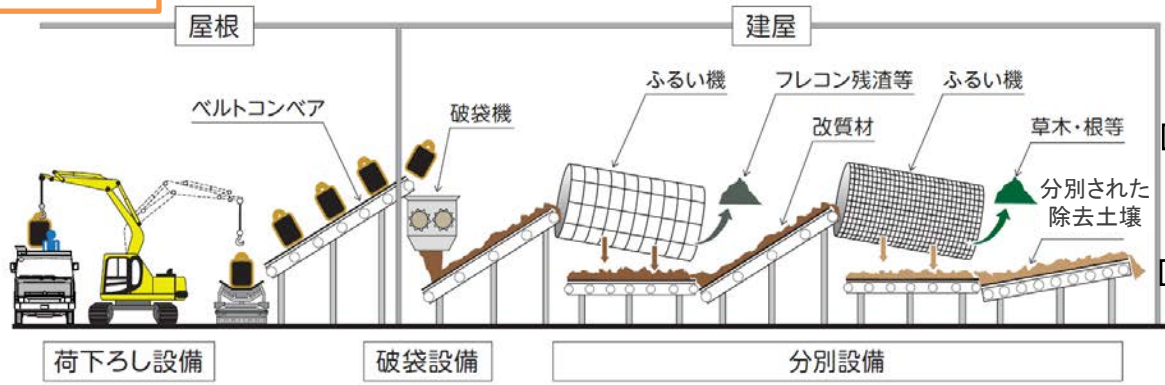
中間貯蔵施設事業の流れ

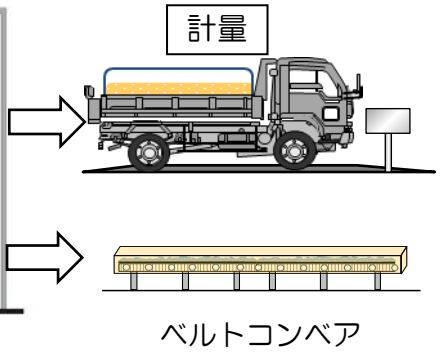


●主な物の流れを示しています。

除去土壌の分別処理と貯蔵のイメージ

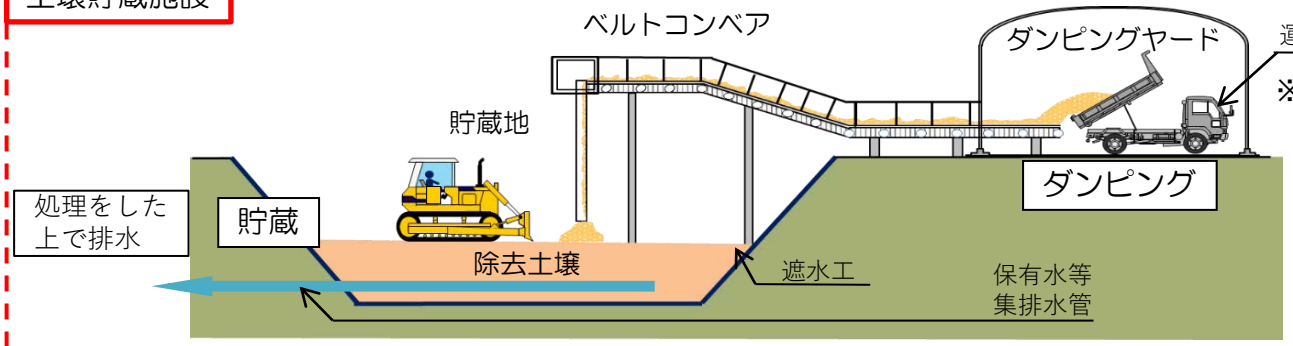
受入・分別施設





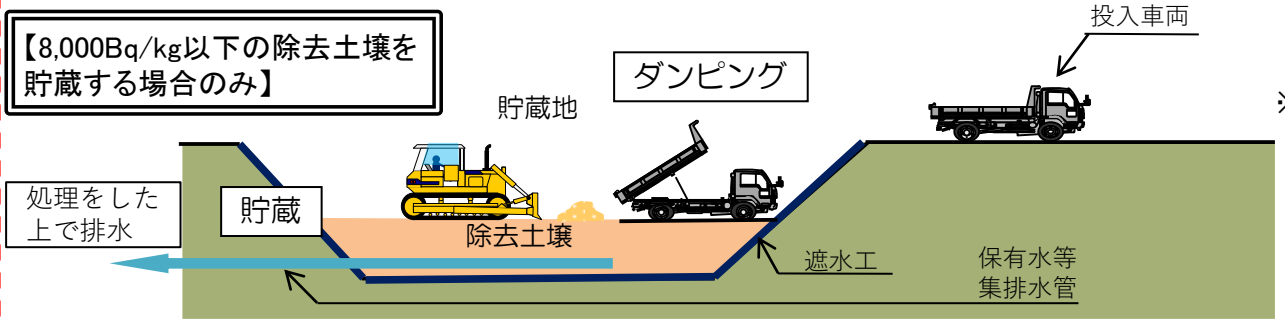
ベルトコンベア
又はダンプで運搬

土壌貯蔵施設



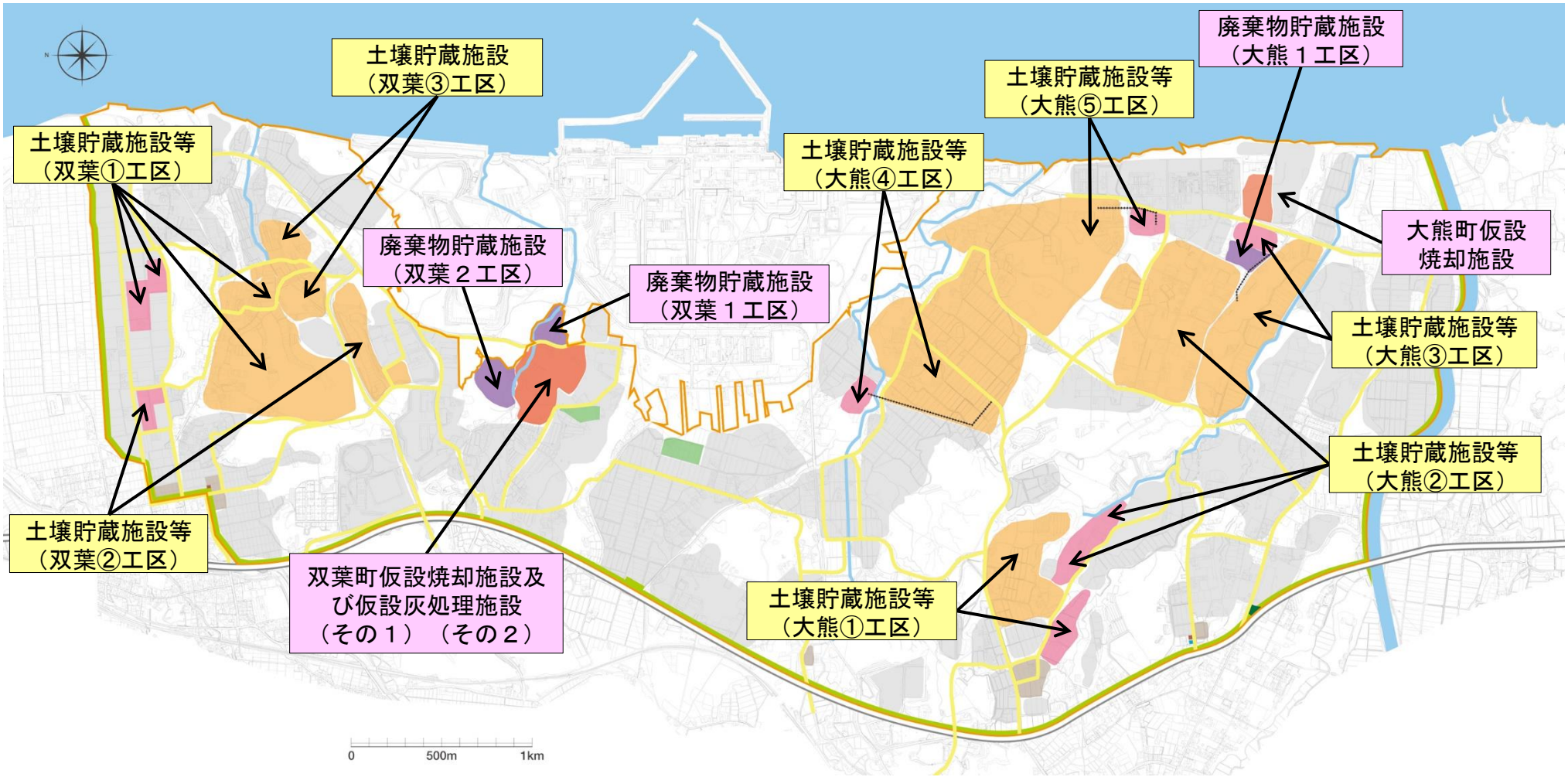
※ダンピングヤードにおいてダンピングする運搬車両が退出する際は、周辺への汚染防止のため、荷台後部の清掃を実施する。

【8,000Bq/kg以下の除去土壌を貯蔵する場合のみ】



※貯蔵地を走行する投入車両が公道に退出する際は、汚染検査又はタイヤ洗浄を実施する。

主な施設の配置


土壌貯蔵施設
（双葉③工区）
土壌貯蔵施設等
（双葉①工区）
廃棄物貯蔵施設
（双葉２工区）
廃棄物貯蔵施設
（双葉１工区）
土壌貯蔵施設等
（双葉②工区）
双葉町仮設焼却施設及
び仮設灰処理施設
（その１）（その２）
土壌貯蔵施設等
（大熊④工区）
土壌貯蔵施設等
（大熊⑤工区）
廃棄物貯蔵施設
（大熊１工区）
大熊町仮設
焼却施設
土壌貯蔵施設等
（大熊③工区）
土壌貯蔵施設等
（大熊②工区）
土壌貯蔵施設等
（大熊①工区）
0
500m
1km

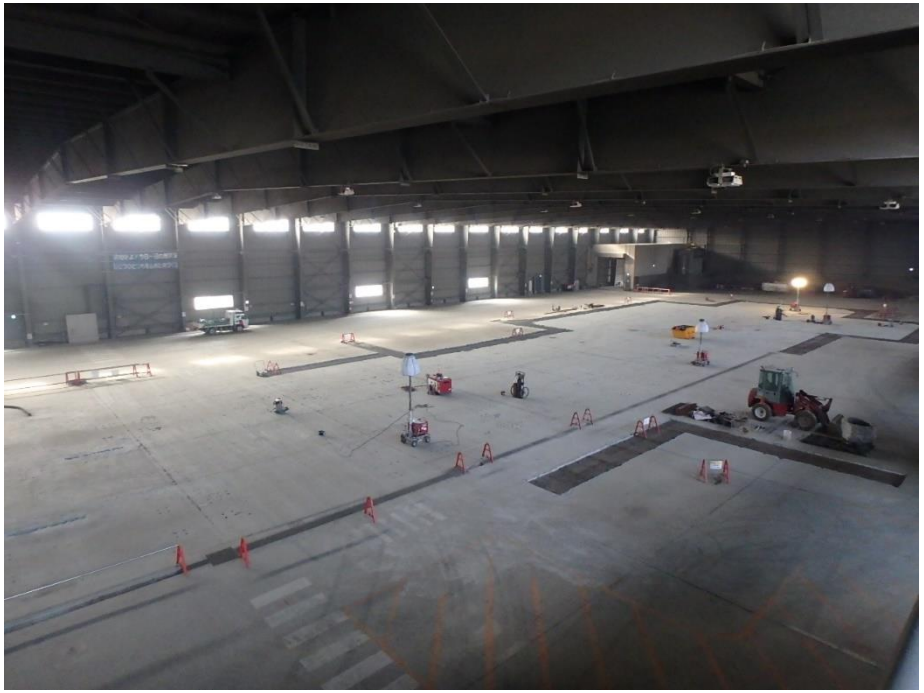
受入・分別施設及び土壌貯蔵施設の概要

工区	大熊①工区	大熊②工区	大熊③工区	大熊④工区	大熊⑤工区	双葉①工区	双葉②工区	双葉③工区
受入・分別施設数※1	1	2	1	1	1	2	1	－
貯蔵容量※2	約100万㎥	約330万㎥	約210万㎥	約160万㎥	約200万㎥	約140万㎥	約90万㎥	約80万㎥
貯蔵量	約106.7万㎥	約292.1万㎥	約148.1万㎥	約156.2万㎥	約202.7万㎥	約89.5万㎥	約92.5万㎥	約65.5万㎥
着工	2017年 9月着工	2016年 11月着工	2017年 11月着工	2018年 10月着工	2018年 10月着工	2016年 11月着工	2018年 1月着工	2018年 9月着工
受入・分別施設スケジュール	2018年7月 運転開始 2022年12月 解体完了	2017年8月 2018年7月 運転開始 2022年5月 解体開始※3	2018年7月運転開始	2019年8月 運転開始	2019年8月 運転開始	2017年6月 2018年9月 運転開始 2022年4月 解体開始※3	2019年2月 運転開始 2022年10月 解体完了	（なし）
土壌貯蔵施設スケジュール	2018年7月 運転開始 2022年8月 貯蔵完了	2017年10月 運転開始	2018年10月 運転開始	2020年3月 運転開始	2019年4月 運転開始	2017年12月 運転開始	2019年5月 運転開始 2022年4月 貯蔵完了	2019年12月 運転開始
受注者	鹿島JV	清水JV	大林JV	清水JV	大林JV	前田JV	大成JV	安藤・間JV

※1　発注時の１施設当たりの処理能力は140t／時。双葉③工区は、受入・分別施設を整備していない。
※2　貯蔵容量は、仮置場等からの輸送量ベース（１袋＝１㎥で換算）。用地確保状況等により変更となる可能性がある。
※3　２施設のうち１施設について運転を終了し、解体完了。残る１施設は運転中。

土壌貯蔵施設等（大熊①工区）の状況

- 2017年9月に施設の工事に着手。
- 2018年7月に受入・分別施設の運転及び除去土壌の貯蔵を開始。（2022年８月に貯蔵完了。）
- 2022年８月から施設解体を開始し、2022年12月に解体完了。



受入・分別施設

土壌貯蔵施設

施設の位置

★：受入・分別施設
☆：土壌貯蔵施設

●貯蔵量　約　106．7万㎥

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積（輸送量ベース）

（2023年 2 月 28 日時点）

土壌貯蔵施設等（大熊②工区）の状況

- 2016年11月に施設の工事に着手。
- 2017年８月及び2018年７月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2017年10月に除去土壌の貯蔵を開始。
- 2022年５月から受入・分別施設２施設のうち１施設の解体を開始し、2022年10月に解体完了。

受入・分別施設（一部解体完了：赤枠部分）

受入・分別施設（運転中）

土壌貯蔵施設

施設の位置

★：受入・分別施設
☆：土壌貯蔵施設

●貯蔵量　約　292．1万㎥

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積（輸送量ベース）

（ 2023年 2 月 28 日時点）

土壌貯蔵施設等（大熊③工区）の状況

- 2017年11月に施設の工事に着手。
- 2018年７月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2018年10月に除去土壌の貯蔵を開始。

受入・分別施設

土壌貯蔵施設

施設の位置

★：受入・分別施設
☆：土壌貯蔵施設

●貯蔵量　約　148．1万㎥

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積（輸送量ベース）
（ 2023年 2 月 28 日時点）

土壌貯蔵施設等（大熊④工区）の状況

- 2018年10月に施設の工事に着手。
- 2019年８月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2020年３月に除去土壌の貯蔵を開始。

受入・分別施設

土壌貯蔵施設

施設の位置

★：受入・分別施設
☆：土壌貯蔵施設

●貯蔵量　約　156．2万㎥

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積（輸送量ベース）
（ 2023年 2 月 28 日時点）

土壌貯蔵施設等（大熊⑤工区）の状況

- 2018年10月に施設の工事に着手。
- 2019年８月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2019年４月に除去土壌の貯蔵を開始。

受入・分別施設

土壌貯蔵施設

施設の位置

★：受入・分別施設
☆：土壌貯蔵施設

●貯蔵量　約　202．7万㎥

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積（輸送量ベース）
（ 2023年 2 月 28 日時点）

土壌貯蔵施設等（双葉①工区）の状況

- 2016年11月に施設の工事に着手。
- 2017年６月及び2018年９月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2017年12月に除去土壌の貯蔵を開始。
- 2022年４月から受入・分別施設２施設のうち１施設の解体を開始し、2022年11月に解体完了。

受入・分別施設（運転中）

受入・分別施設（解体完了）

土壌貯蔵施設

施設の位置

★：受入・分別施設
☆：土壌貯蔵施設

●貯蔵量　約　89．5万㎥

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積（輸送量ベース）

（ 2023年 2 月 28 日時点）

土壌貯蔵施設等（双葉②工区）の状況

- 2018年１月に施設の工事に着手。
- 2019年２月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2019年５月に除去土壌の貯蔵を開始。（2022年４月に貯蔵完了。）
- 2022年４月から施設解体を開始し、2022年10月に解体完了。

受入・分別施設

土壌貯蔵施設

施設の位置

★：受入・分別施設
☆：土壌貯蔵施設

●貯蔵量　約　92．５万㎥

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積（輸送量ベース）

（ 2023年 2 月 28 日時点）

土壌貯蔵施設（双葉③工区）の状況

- 2018年９月に施設の工事に着手。
- 2019年12月に除去土壌の貯蔵を開始。

土壌貯蔵施設

施設の位置

☆：土壌貯蔵施設

●貯蔵量　約　65．5万㎥

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積（輸送量ベース）

（ 2023年 2 月 28 日時点）

仮設焼却施設及び仮設灰処理施設の概要

工区	大熊町	双葉町（その１）	双葉町（その2）
規模	• 仮設焼却施設： 200ｔ／日 × １炉 （ストーカ炉）	• 仮設焼却施設： 150ｔ／日 × １炉 （シャフト炉） • 仮設灰処理施設： 75ｔ／日 × ２炉 （表面溶融炉）	• 仮設焼却施設： 200ｔ／日 × １炉 （ストーカ炉） • 仮設灰処理施設： 75ｔ／日 × ２炉 （コークスベット式灰溶融炉）
業務用地面積	約５.0ha	約５.7ha	約6.８ha
処理開始	2018年2月	2020年3月	2020年3月
処理対象物	• 大熊町で発生した除染廃棄物、災害廃棄物等 • 中間貯蔵施設内で発生した廃棄物及び搬入した除染廃棄物	• 双葉町で発生した除染廃棄物、災害廃棄物等 • 中間貯蔵施設内で発生した廃棄物及び搬入した除染廃棄物 • 中間貯蔵施設内で発生する焼却残さ及び中間貯蔵施設内に搬入した焼却残さ	同左
受注者	三菱・鹿島JV	新日鉄・クボタ・大林・TPTＪＶ	ＪＦＥ・前田ＪＶ

仮設焼却施設及び仮設灰処理施設の処理量等

工区	大熊町	双葉町（その１）	双葉町（その2）
処理量 (2023年2月末まで)	可燃物：243,104トン	可燃物：113,062トン 焼却残渣：85,762トン	可燃物：78,206トン 焼却残渣：71,479トン
焼却灰等の放射性物質濃度	焼却灰：5,200～180,000Bq/kg ばいじん：8,800～290,000Bq/kg	ばいじん：12,000～650,000Bq/kg スラグ：9～6,700Bq/kg	ばいじん：1,600～360,000Bq/kg スラグ：22～7,200Bq/kg
外観			

廃棄物貯蔵施設の概要

【貯蔵対象物】
・主に双葉町仮設灰処理施設で発生したばいじん（鋼製角形容器に封入し、積み上げて貯蔵）

工区	大熊１工区	双葉１工区	双葉２工区
主な建築構造	鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造（２棟）	鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造（１棟）	鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造（１棟）
貯蔵容量	29,280個	14,678個	30,028個
敷地面積	約2.4ha	約2.2ha	約3.7ha
施設の位置			
着工	2018年7月　造成開始 2018年12月　建築開始	2018年６月　造成開始 2018年11月　建築開始	2019年12月　造成開始 2019年12月　建築開始
貯蔵 スケジュール	2020年４月 貯蔵開始	2020年３月 貯蔵開始	廃棄物貯蔵施設（双葉 １工区）貯蔵完了後予定
施設整備受注者	鹿島建設	大林組	鹿島建設
定置・維持管理 受注者	鹿島建設		

廃棄物貯蔵施設の貯蔵量等

工区	大熊１工区	双葉１工区	双葉２工区
貯蔵量 (2023年2月 末現在)	鋼製角形容器：7,152個	鋼製角形容器：10,230個	廃棄物貯蔵施設（双葉 １工区）貯蔵完了後予定
外観			
貯蔵状況			

保管場等への保管量

保管場

（2023年2月28日時点）

	面積（ha）	保管量（㎥）
大熊工区	67.6（−1.1）	664,639（−516,916）
双葉工区	11.9（−12.4）	182,286（−310,102）
合計	79.5（−13.5）	846,925（−827,018）

灰保管施設

（2023年2月28日時点）

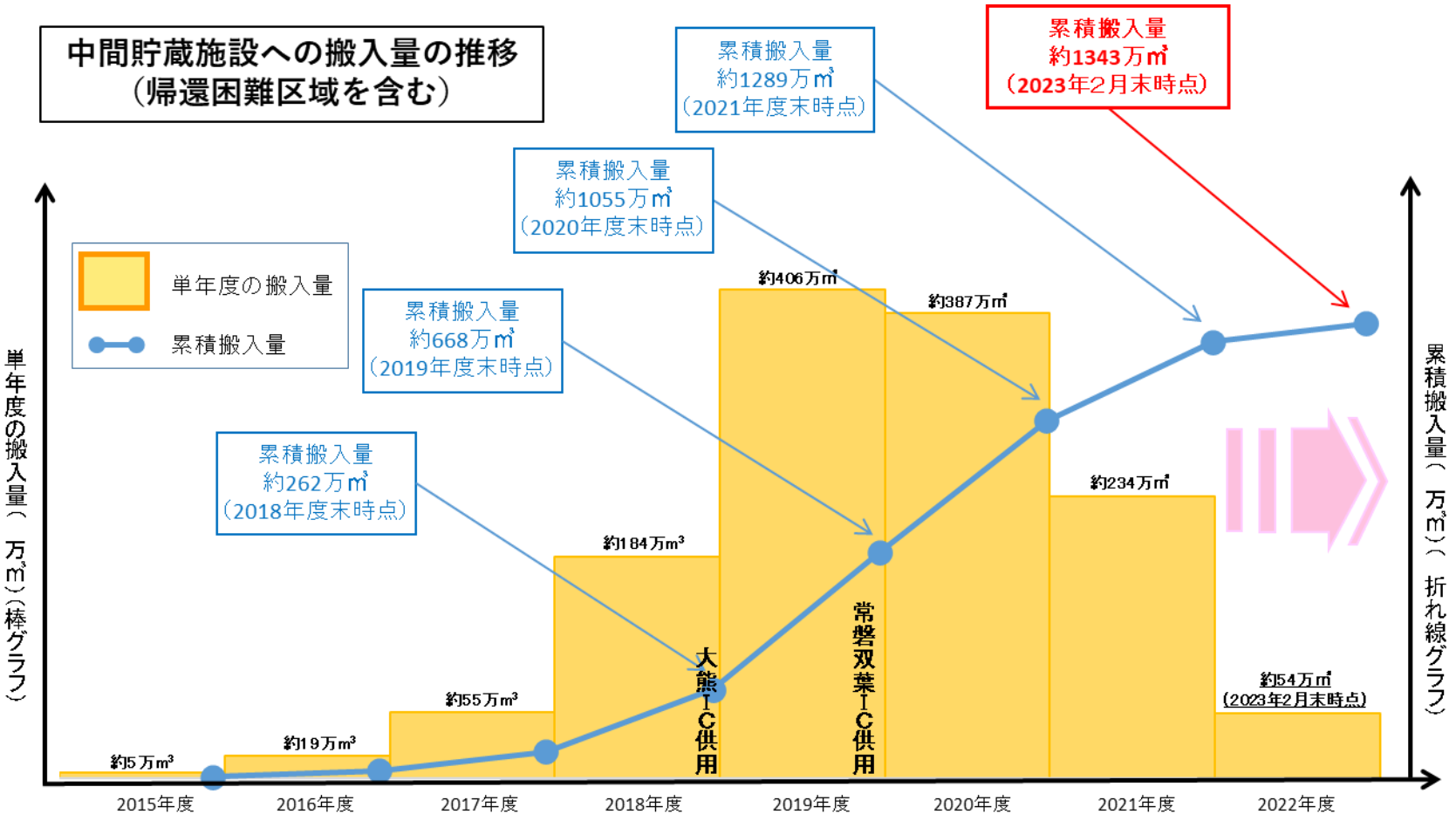
	面積（ha）	保管量（㎥）
大熊工区	2.2（±0）	18,245（−1,068）
双葉工区	6.3（±0）	123,139（−7,574）
合計	8.5（±0）	141,384（−8,642）

※括弧内の数字は、前回報告（R4.7.16時点）からの増減分を表す。

輸送・道路交通対策

中間貯蔵施設に係る当面の輸送の状況

○ 中間貯蔵施設への搬入にあたっては、**安全を第一に、地域の理解を得ながら**、輸送を実施する
○ これまでに**約1,343万㎥の除去土壌等（帰還困難区域を含む）を中間貯蔵施設に輸送**した（2023年2月末時点）



（注）四捨五入の関係で、合計が一致しない場合がある。

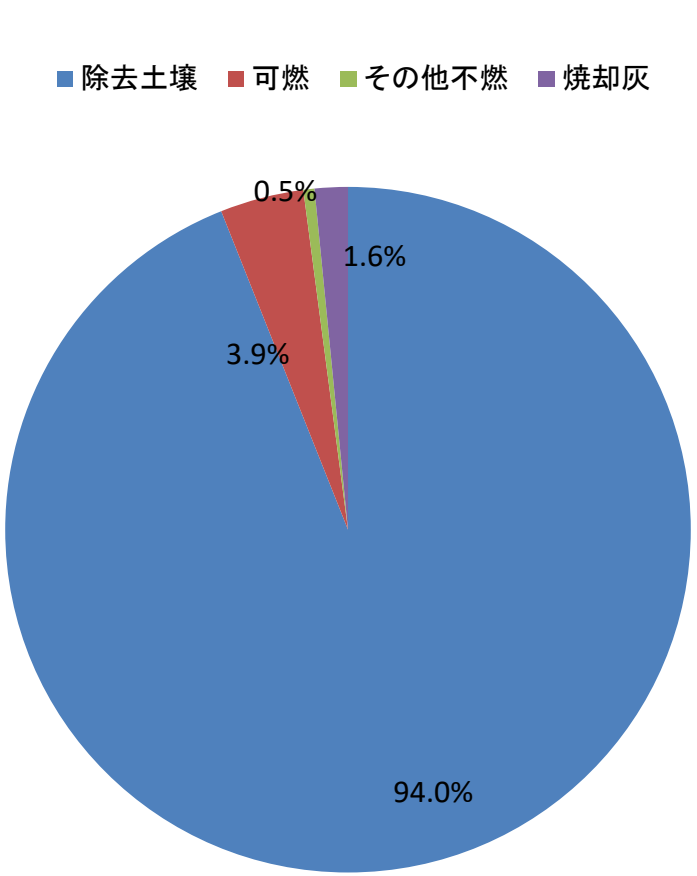
2023年度の中間貯蔵施設への搬入予定

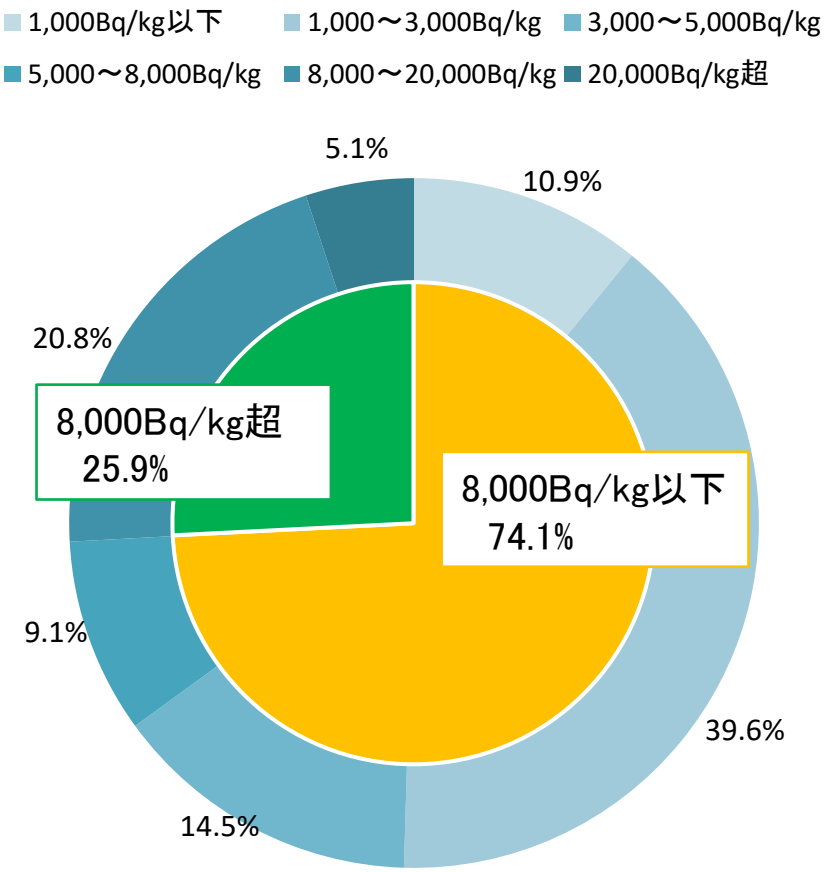
市町村名	搬入予定量（㎥）※1
南相馬市	12,000
富岡町	10,000
大熊町	10,000
双葉町	10,000
浪江町	87,000
飯舘村	160,000
合計	289,000

※1　令和5（2023）年度の実際の搬入量や輸送対象市町村は、下記の要因により変更の可能性がある。
・自然災害等が発生した場合。
・保管実態等が予定と異なる場合。
・年度をまたぐ前倒し・繰越しを行う場合。
・輸送対象物が新たに発生する場合。

中間貯蔵施設に搬入した除去土壌等の種類と濃度の分布

- 2023年2月末までに搬入した除去土壌等のうち、土壌が94.0%であり、可燃物は3.9%、焼却灰1.6%である。
- 除去土壌について、搬出時に仮置場等で測定した表面線量率及び重量によって換算した放射能濃度の分布を見ると、8,000Bq/kg以下が約4分の3を占めている。





※四捨五入の関係で、合計は必ずしも100%とはならない。

輸送ルートと道路交通対策（大熊町）

⑦国道288号の見通し改善及び局部改良
・工事中（一部完了）

浪江町

双葉町

双葉町中間貯蔵施設の保管場へ

至 常磐双葉IC

至 南相馬市

⑩工事用道路の整備
県道252号立体ルートの構築
・工事完了

④工事用道路(町道中央台線)の整備
・工事完了

⑧工事用道路の整備
大熊・双葉を連絡するルートの構築
・工事完了

①県道２５２号
災害復旧工事完了

⑫大熊IC利用

至 田村市

大熊IC

町道東84号

町道西20号

⑪ゲート確認迅速化
・ＥＴＣゲート設置箇所

JR大野駅

常磐線

⑤注意喚起の路面標示等

②予定地内の町道等
・舗装厚改良工事

③予定地外の町道等
・舗装厚改良工事

⑨町道西20号の車道幅員拡幅
大熊ＩＣ待機所設置
・工事完了

⑥工事用道路の整備
（一部町道中央台線含む）
・工事完了

常磐自動車道

大熊町

至 いわき市

常磐富岡IC

富岡町

至 広野IC

⑩工事用道路の整備（完了）：県道252号立体交差

⑥工事用道路の整備（完了）
国道6号橋梁（名称：中央台こ道橋）

④工事用道路の整備（完了）

輸送ルートの凡例

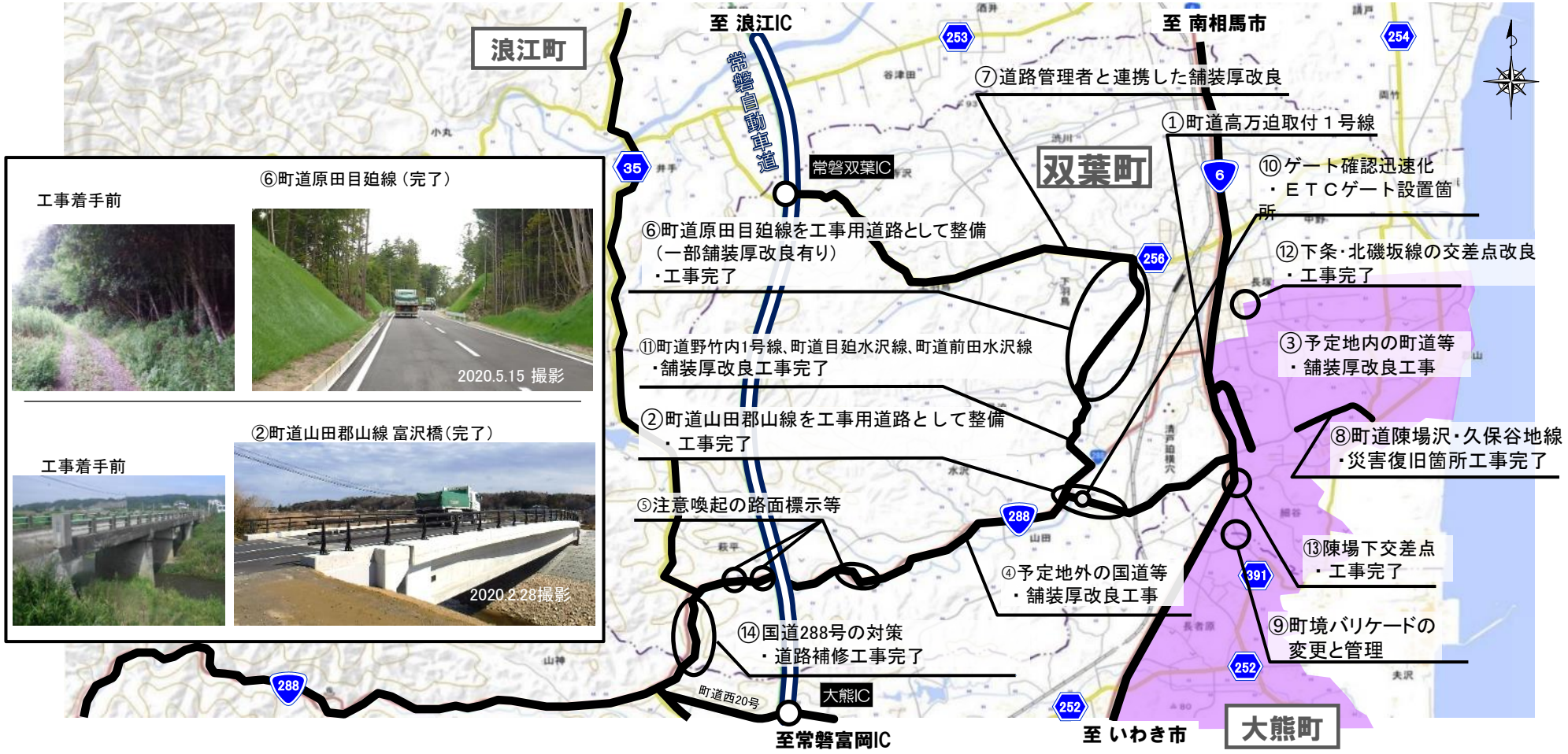
- 輸送ルート
- 緊急時の輸送ルート
- 中間貯蔵施設

輸送ルート（大熊町）

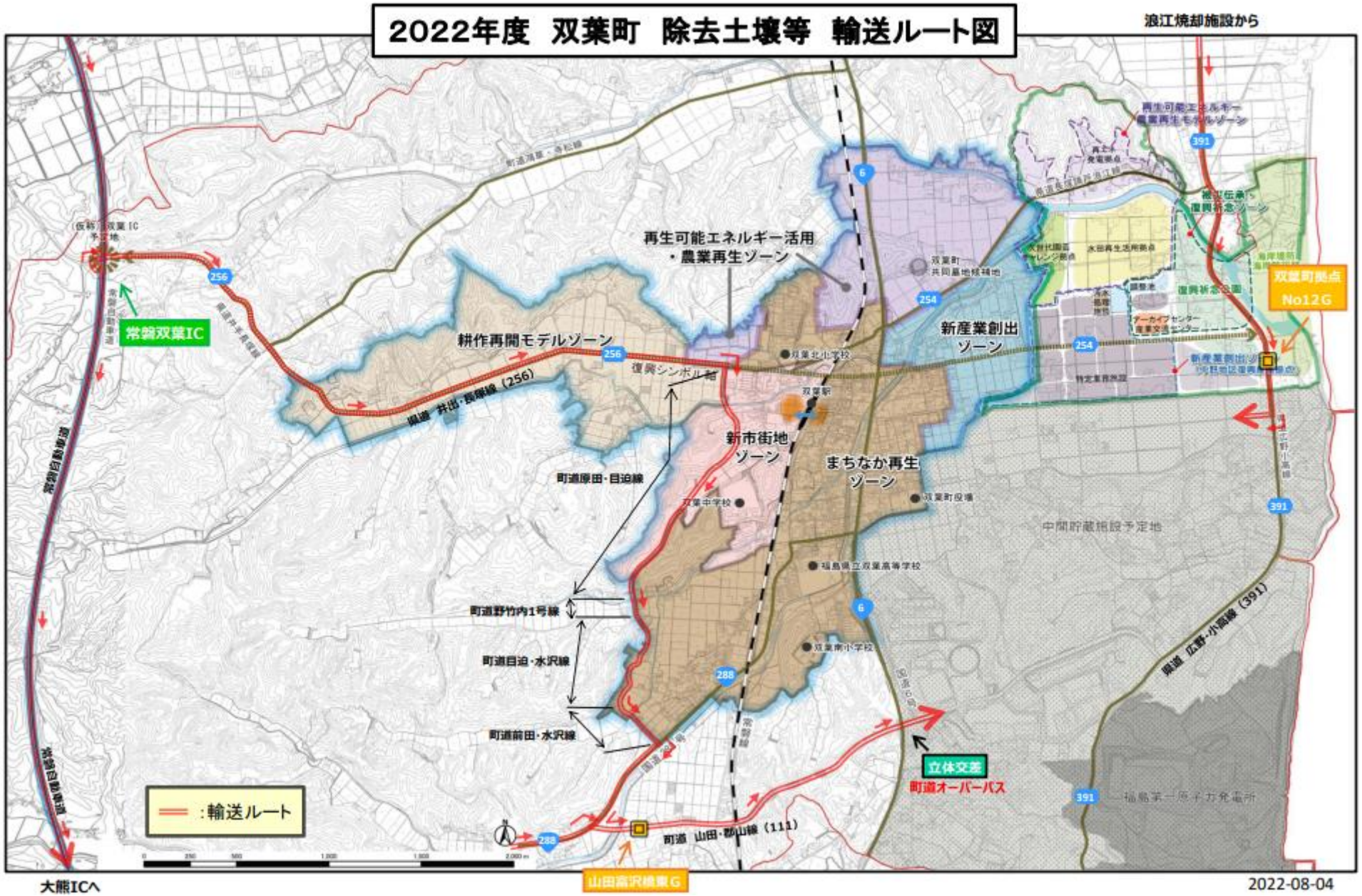
大熊町　特定復興再生拠点区域図
2022年度　大熊町　除去土壌等　輸送ルート図
2023-01-05
【(仮称)大熊ＩＣイメージ】
国土交通省HPより
:輸送ルート
特定復興再生拠点区域
(約860ha)
中央台
仮置場から
大熊IC
(仮称)大熊ＩＣ
大野駅周辺地区
(約230ha)
大熊町No.171G
(旧スポーツセンターG)
福島第一
原子力発電所
中間貯蔵施設用地
(約1,100ha)
大野駅
立体交差
工事用道路
オーバーパス
国道288号
町道西20号線
町道東19号線
県道小良ヶ浜野上線
常磐自動車道
下野上地区
【居住・営農ゾーン】
(約510ha)
下野上地区
【産業・交流ゾーン】
(約100ha)
国道6号・県道251号線
沿線地区(約20ha)
町道東67号線
町道東63号線
JR常磐線
大熊町役場
(新庁舎)
復興拠点
(大川原)
1km
富岡町から

輸送ルートと道路交通対策（双葉町）

輸送ルートの凡例
輸送ルート
中間貯蔵施設

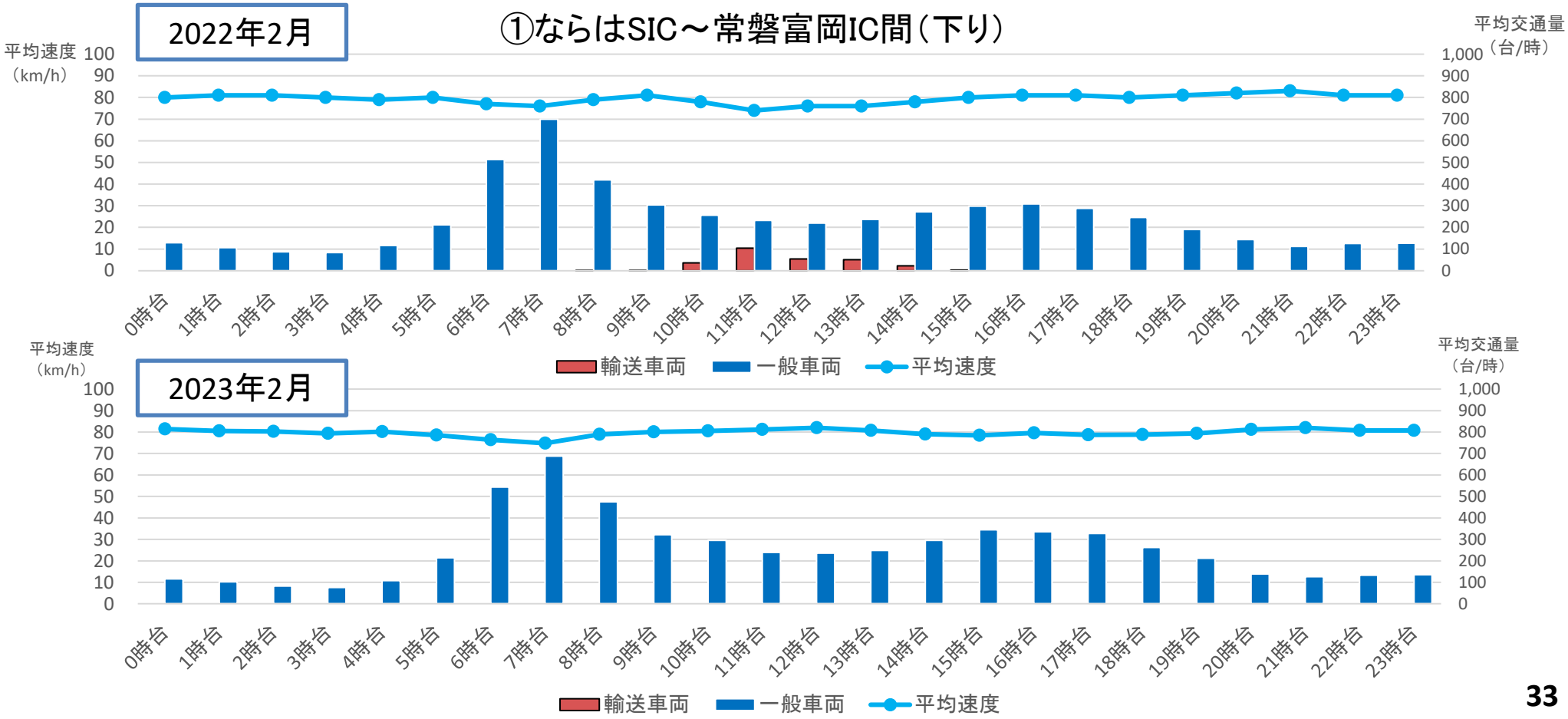


輸送ルート（双葉町）


2022年度　双葉町　除去土壌等　輸送ルート図
浪江焼却施設から
常磐双葉IC
再生可能エネルギー活用
・農業再生ゾーン
耕作再開モデルゾーン
新産業創出
ゾーン
新市街地
ゾーン
まちなか再生
ゾーン
復興シンボル軸
双葉町拠点
No12G
町道原田・目迫線
町道野竹内1号線
町道目迫・水沢線
町道前田・水沢線
立体交差
町道オーバーパス
中間貯蔵施設予定地
福島第一原子力発電所
町道 山田・郡山線（111）
県道 広野・小高線（391）
:輸送ルート
大熊ICへ
山田富沢積置G
2022-08-04

輸送ルート常磐道の交通状況　その１

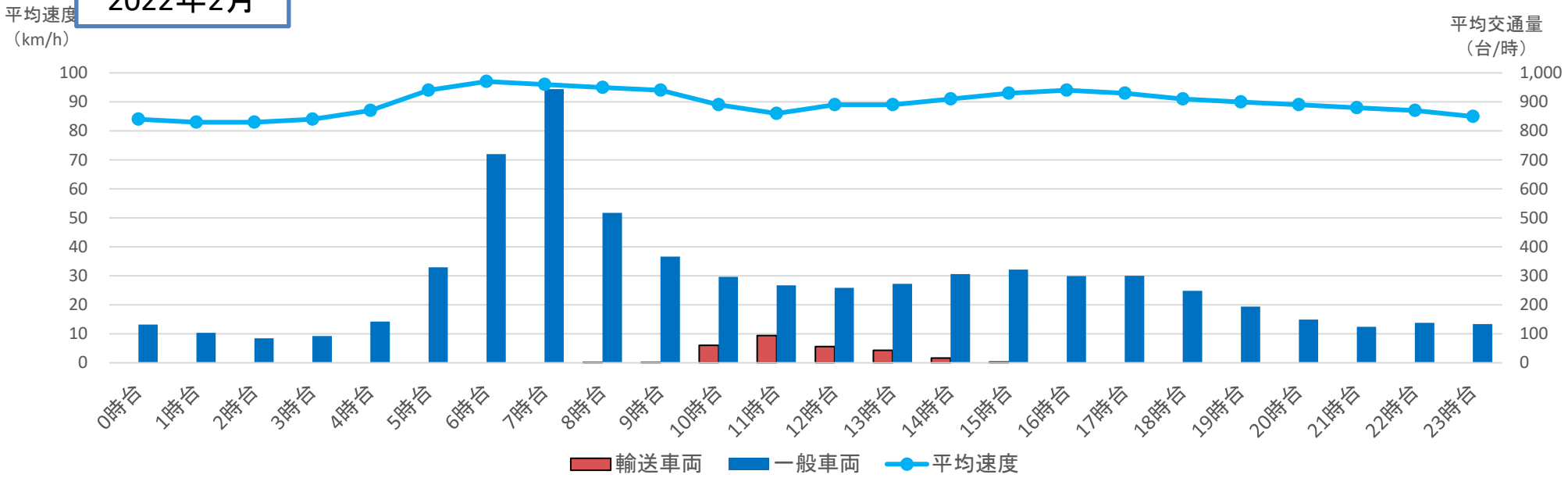
〇輸送車両が走行するルートの交通量は、6時台～7時台がピークとなっており、その時間帯を避けて輸送している。
〇2022年２月と2023年2月の状況を比較すると、いずれの区間においても輸送時間帯の平均速度がわずかに速くなっている。
〇①ならはSIC～常磐富岡IC間の下り及び②いわき四倉IC～広野IC間については、現在輸送車両は通行していない。
〇引き続き、関係機関と連携の上、当該エリアを含む輸送ルートの交通状況を注視していく。



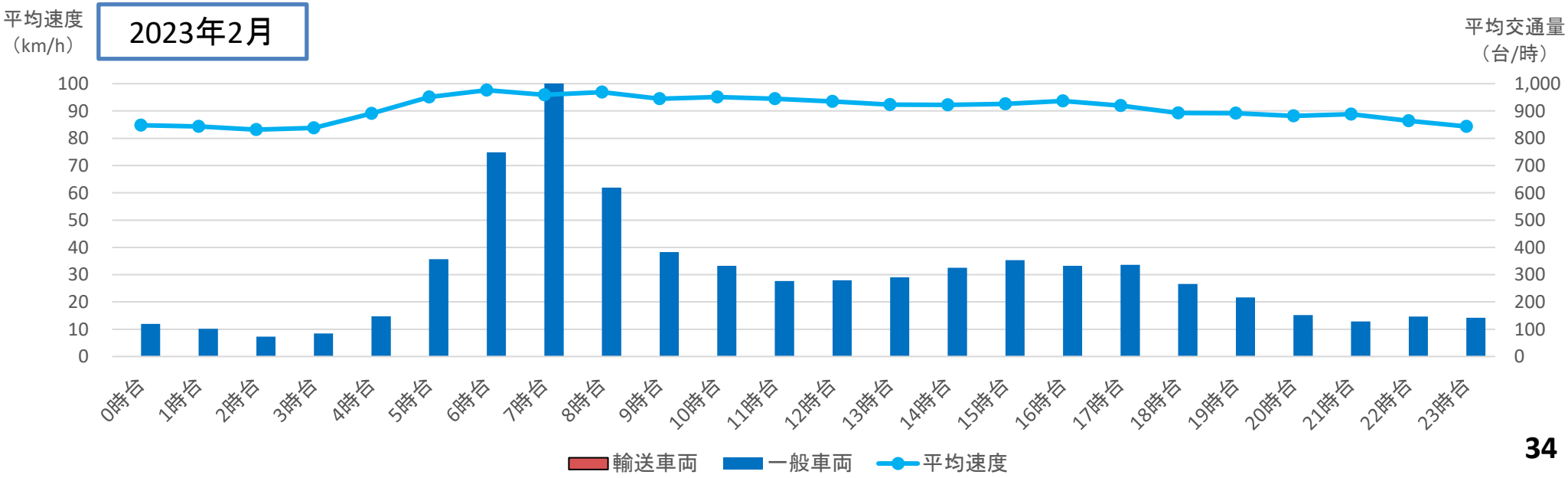
輸送ルート常磐道の交通状況　その２

②いわき四倉IC～広野IC間（下り）

2022年2月

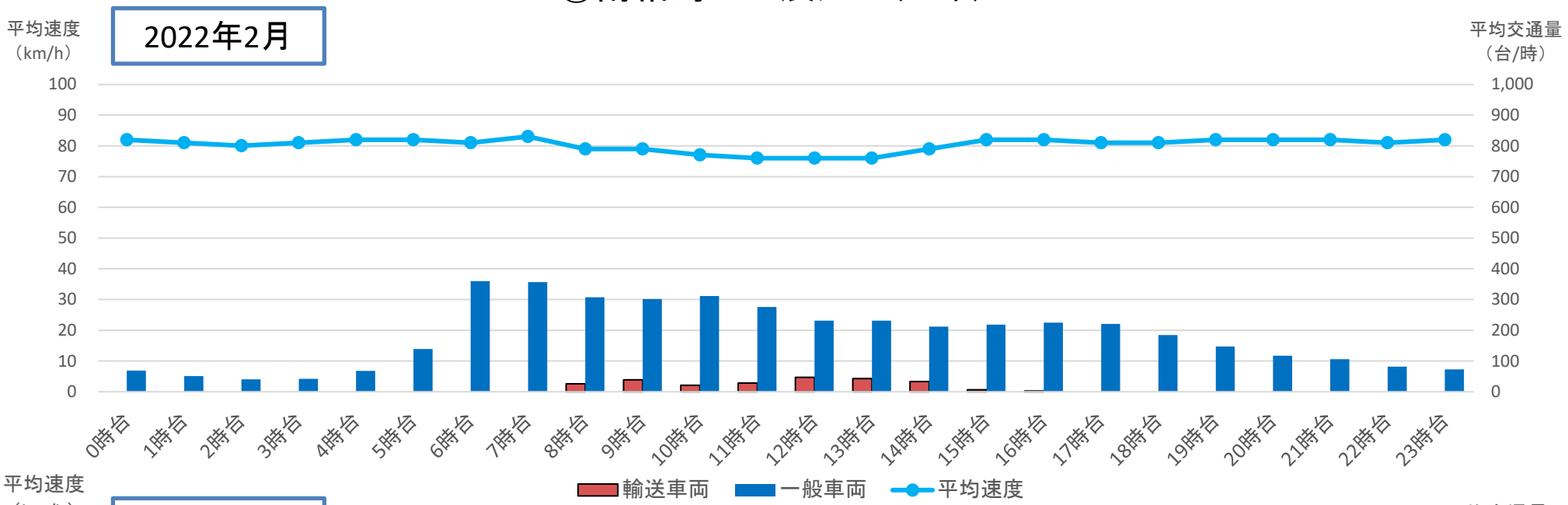


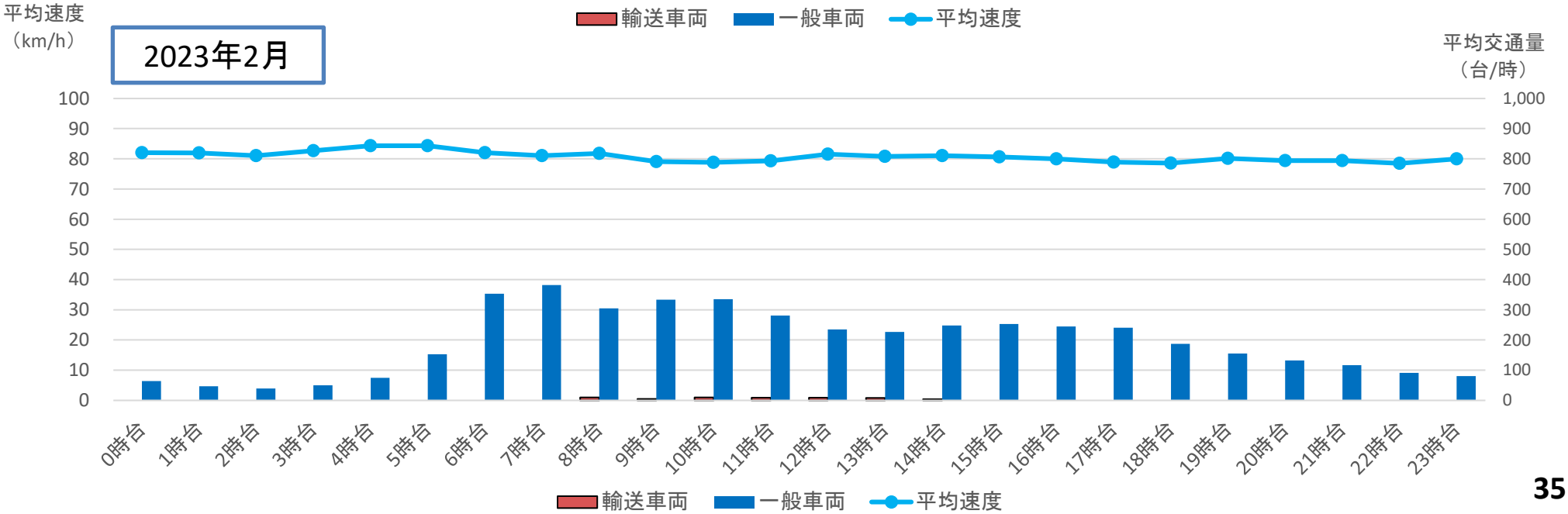
2023年2月



輸送ルート常磐道の交通状況　その３

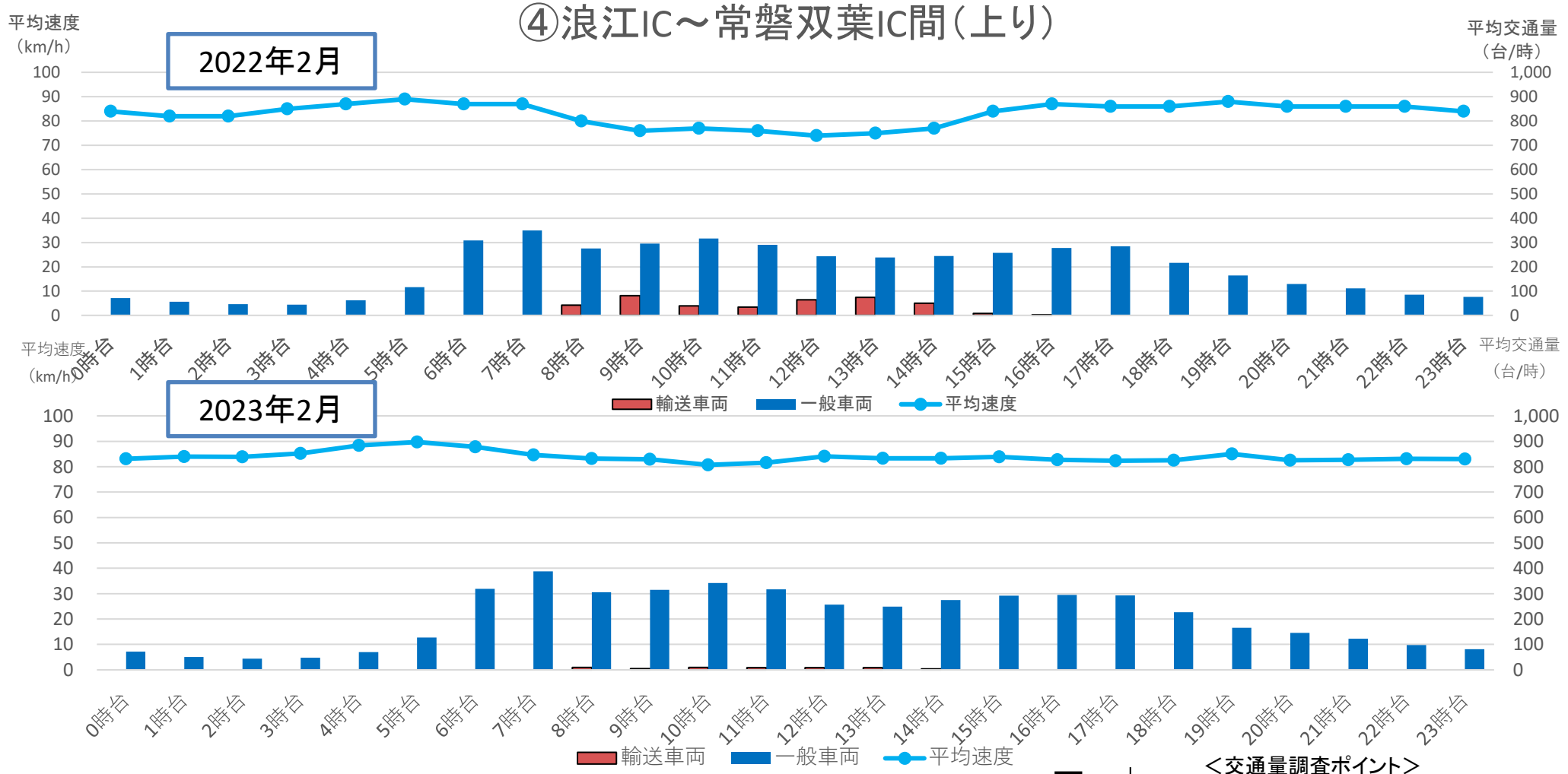
③南相馬IC～浪江IC（上り）





輸送ルート常磐道の交通状況　その４

④浪江IC～常磐双葉IC間（上り）



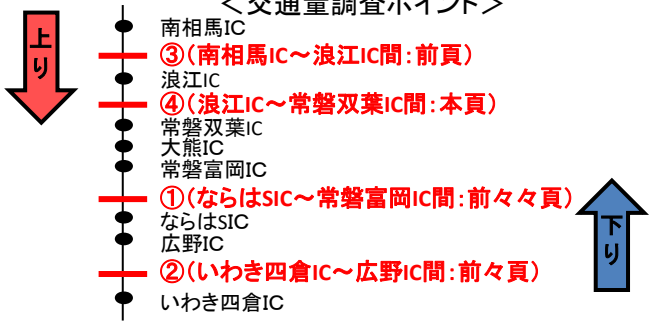
※データ集計の条件

〇速度データ（NEXCOトラカンデータ）
- ・輸送を実施していない日曜、祝日を控除。また、通行止め等の時間帯を控除。

〇一般車両（NEXCOトラカンデータ）
- ・輸送を実施していない日曜、祝日を控除。また、通行止め等の時間帯を控除。
- ・1日当たりの平均輸送車両台数を控除。

〇輸送車両（輸送課実走行データ）
- ・1日当たりの平均輸送車両台数。また、通行止め等の時間帯を控除。

＜交通量調査ポイント＞



モニタリング等

モニタリング結果概要（受入･分別施設　その１）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
◆地下水中の放射能濃度	大熊①工区	2022年7月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.5
		2022年8月3日（環境モニタリング最終回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.6
	大熊②工区、第2期	2022年7月7日 ～ 2023年1月5日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.20
	大熊③工区	2022年7月7日 ～ 2023年1月12日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.23
	大熊④工区	2022年7月7日 ～ 2023年1月5日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.26
	大熊⑤工区	2022年7月7日 ～ 2023年1月5日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.28
	双葉①工区、第2期	2022年7月6日 ～ 2023年1月11日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.35
●排気中の放射能濃度	大熊①工区	2022年7月13,14日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.5
		2022年8月3,4日（環境モニタリング最終回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.6
	大熊②工区、第2期	2022年7月7日 ～ 2023年1月6日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.20
	大熊③工区	2022年7月7日 ～ 2023年1月12日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.23
	大熊④工区	2022年7月8日 ～ 2023年1月5日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.26
	大熊⑤工区	2022年7月13日 ～ 2023年1月11日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.28
	双葉①工区、第2期	2022年7月6日 ～ 2023年1月10日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.35

モニタリング結果概要（受入・分別施設　その２）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
☆防災調節池の放射能濃度	大熊①工区	2022年7月4日 （月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.5
		2022年8月1日（環境モニタリング最終回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.6
	大熊②工区、第2期	2022年7月7日 ～ 2023年1月5日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.20
	大熊③工区	2022年7月7日 ～ 2023年1月12日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.23
	大熊④工区	2022年7月7日 ～ 2023年1月5日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.26
	大熊⑤工区	2022年7月7日 ～ 2023年1月5日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.28
	双葉①工区、第2期	2022年7月6日 ～ 2023年1月11日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.35
★粉じん濃度	大熊①工区	2022年7月4日（月1回）	最大値は3.5mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.5
		2022年8月3日（環境モニタリング最終回）	最大値は0.3mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.6
		2022年9月6日 ～ 12月6日（解体中のモニタリング）	最大値は3.7mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.8
	大熊②工区、第1期	2022年7月7日 ～ 9月1日（解体中のモニタリング）	最大値は3.1mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.15
	大熊②工区、第2期	2022年7月8日 ～ 2023年1月6日（月1回）	最大値は3.4mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.20
	大熊③工区	2022年7月8日 ～ 2023年1月13日（月1回）	最大値は4.0mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.23
	大熊④工区	2022年7月8日 ～ 2023年1月6日（月1回）	最大値は1.4mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.26
	大熊⑤工区	2022年7月13日 ～ 2023年1月11日（月1回）	最大値は5.4mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.28
	双葉①工区、第1期	2022年7月7日 ～ 12月8日（解体中のモニタリング）	最大値は1.1mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.30
	双葉①工区、第2期	2022年7月7日 ～ 2023年1月12日（月1回）	最大値は1.7mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.35
	双葉②工区	2022年7月12日 ～ 12月13日（解体中のモニタリング）	最大値は0.9mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.37

モニタリング結果概要（受入・分別施設　その3）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
★空間線量率（作業環境）	大熊①工区	2022年7月6日（月1回）	0.08 ～ 0.16μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.5
		2022年8月6日（環境モニタリング最終回）	0.09 ～ 0.13μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.6
		2022年9月7日 ～ 12月5日（解体中のモニタリング）	0.08 ～ 0.17μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.8
		2022年12月19,20日（解体終了後の跡地確認測定）	地上より1m高さでは0.11 ～ 2.34μSv/hの範囲、地上より1cm高さでは0.10 ～ 3.20μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.10,13
	大熊②工区、第1期	2022年7月19日 ～ 9月14日（解体中のモニタリング）	0.11 ～ 0.26μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.15
		2022年9月29日（解体終了後の跡地確認測定）	地上より1m高さでは0.14 ～ 0.98μSv/hの範囲、地上より1cm高さでは0.14 ～ 0.71μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.17
	大熊②工区、第2期	2022年7月19日 ～ 2023年1月27日（月1回）	0.13 ～ 1.15μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.20
	大熊③工区	2022年7月8日 ～ 2023年1月13日（月1回）	0.16 ～ 0.27μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.23
	大熊④工区	2022年7月22日 ～ 2023年1月27日（月1回）	0.21 ～ 0.49μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.26
	大熊⑤工区	2022年7月13日 ～ 2023年1月11日（月1回）	0.22 ～ 0.53μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.28
	双葉①工区、第1期	2022年7月7日 ～ 12月8日（解体中のモニタリング）	0.08 ～ 0.10μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.30
		2022年12月12日（解体終了後の跡地確認測定）	地上より1m高さでは0.08 ～ 0.15μSv/hの範囲、地上より1cm高さでは0.08 ～ 0.17μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.32
	双葉①工区、第2期	2022年7月7日 ～ 2023年1月12日（月1回）	0.07 ～ 0.16μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.35
	双葉②工区	2022年7月12日 ～ 12月16日（解体中のモニタリング）	0.10 ～ 0.25μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.37
		2022年12月14日、2023年1月19日（解体終了後の跡地確認測定）	地上より1m高さでは0.10 ～ 1.90μSv/hの範囲、地上より1cm高さでは0.10 ～ 2.82μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.39,41

モニタリング結果概要（受入・分別施設　その4）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
★空気中の放射能濃度	大熊①工区	2022年7月6日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.5
		2022年8月6日（環境モニタリング最終回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.6
	大熊②工区、第2期	2022年7月19日 ～ 2023年1月27日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.20
	大熊③工区	2022年7月8日 ～ 2023年1月13日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.23
	大熊④工区	2022年7月22日 ～ 2023年1月27日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.26
	大熊⑤工区	2022年7月13日 ～ 2023年1月11日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.28
	双葉①工区、第2期	2022年7月7日 ～ 2023年1月12日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.35
表面汚染密度（★床★壁★設備）	大熊①工区	2022年7月12日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.5
		2022年8月5日（環境モニタリング最終回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.6
		2022年12月19,20日（解体終了後の跡地確認測定）	最大値は1,410cpmであり、管理値の13,000cpmを十分に下回った。 ※測定は直接法で実施。	資料1別添 P.10,13
	大熊②工区、第1期	2022年9月29日（解体終了後の跡地確認測定）	最大値は320cpmであり、管理値の13,000cpmを十分に下回った。 ※測定は直接法で実施。	資料1別添 P.17
	大熊②工区、第2期	2022年7月19日 ～ 2023年1月27日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.20
	大熊③工区	2022年7月8日 ～ 2023年1月13日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.23
	大熊④工区	2022年7月22日 ～ 2023年1月27日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.26
	大熊⑤工区	2022年7月13日 ～ 2023年1月11日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.28
	双葉①工区、第1期	2022年12月12日（解体終了後の跡地確認測定）	最大値は162cpmであり、管理値の13,000cpmを十分に下回った。 ※測定は直接法で実施。	資料1別添 P.32
	双葉①工区、第2期	2022年7月16日 ～ 2023年1月21日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.35
	双葉②工区	2022年12月14日、2023年1月19日（解体終了後の跡地確認測定）	最大値は1,300cpmであり、管理値の13,000cpmを十分に下回った。 ※測定は直接法で実施。	資料1別添 P.39,41

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設　その１）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
◆地下水（井戸）中の放射能濃度	大熊①工区	2022年7月4日 ～ 2023年1月11日（月1回※）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 ※貯蔵作業が終了したため、2023年1月から月1回の測定としている。	資料1別添 P.44,46
	大熊②工区	2022年7月7日 ～ 2023年1月26日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.49
	大熊③工区	2022年7月7日 ～ 2023年1月26日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.51
	大熊④工区	2022年7月7日 ～ 2023年1月26日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.53
	大熊⑤工区	2022年7月7日 ～ 2023年1月26日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.55
	双葉①工区東側	2022年7月7日 ～ 2023年1月10日（月1回※）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 ※貯蔵作業が終了したため、2020年4月から月1回の測定としている。	資料1別添 P.57
	双葉①工区西側	2022年7月6日 ～ 2023年1月25日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.59
	双葉②工区	2022年7月7日 ～ 2023年1月26日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.62
	双葉③工区	2022年7月4日 ～ 2023年1月31日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.64
●地下水（集排水設備）中の放射能濃度	大熊①工区	2022年7月4日 ～ 2023年1月11日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.44,46
	大熊②工区	2022年7月21日 ～ 2023年1月23日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.49
	大熊③工区	2022年7月14日 ～ 2023年1月10日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.51
	大熊④工区	2022年7月21日 ～ 2023年1月23日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.53
	大熊⑤工区	2022年7月21日 ～ 2023年1月17日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.55
	双葉①工区東側	2022年7月7日 ～ 2023年1月10日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.57
	双葉①工区西側	2022年7月7日 ～ 2023年1月12日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.59
	双葉②工区	2022年7月12日 ～ 2023年1月25日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.62
	双葉③工区	2022年7月13日 ～ 2023年1月12日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.64

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設　その2）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
■処理水放流先河川の放射能濃度	大熊①工区	2022年7月4日 ～ 2023年1月11日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.44,46
	大熊②工区	2022年7月7日 ～ 2023年1月5日（月1回）	Cs134は全て検出下限値（1Bq/L）未満、Cs137は検出下限値（1Bq/L）未満 ～ 1.0Bq/Lの範囲であり、基準（Cs134の濃度/60+Cs137の濃度/90≦1）を下回った。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.49
	大熊③工区	2022年7月7日 ～ 2023年1月12日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.51
	大熊④工区	2022年7月7日 ～ 2023年1月5日（月1回）	Cs134は全て検出下限値（1Bq/L）未満、Cs137は検出下限値（1Bq/L）未満 ～ 1.3Bq/Lの範囲であり、基準（Cs134の濃度/60+Cs137の濃度/90≦1）を下回った。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は、Cs134は全て検出下限値（1Bq/L）未満、Cs137は検出下限値（1Bq/L）未満 ～ 1.7Bq/Lの範囲であった。	資料1別添 P.53
	大熊⑤工区	2022年7月14日 ～ 2023年1月12日（月1回）	Cs134は全て検出下限値（1Bq/L）未満、Cs137は検出下限値（1Bq/L）未満 ～ 1.8Bq/Lの範囲であり、基準（Cs134の濃度/60+Cs137の濃度/90≦1）を下回った。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.55
	双葉①工区東側	2022年7月7日 ～ 2023年1月10日（月1回）	Cs134は全て検出下限値（1Bq/L）未満、Cs137は検出下限値（1Bq/L）未満 ～ 1.1Bq/Lの範囲であり、基準（Cs134の濃度/60+Cs137の濃度/90≦1）を下回った。 ＊当該施設で発生した処理水は、双葉③工区の浸出水処理施設で処理される。	資料1別添 P.57
	双葉①工区西側	2022年7月6日 ～ 2023年1月11日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は、Cs134は全て検出下限値（1Bq/L）未満、Cs137は検出下限値（1Bq/L）未満 ～ 1.3Bq/Lの範囲であった。	資料1別添 P.59
	双葉②工区	2022年7月12日 ～ 2023年1月5日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.62
	双葉③工区	2022年7月11日 ～ 2023年1月11日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は、Cs134は全て検出下限値（1Bq/L）未満、Cs137は検出下限値（1Bq/L）未満 ～ 2.6Bq/Lの範囲であった。	資料1別添 P.64
河川最下流における放射性セシウムの測定結果	前田川	2023年1月12日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.91
	細谷川	2023年1月12日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.91
	陳場沢川	2023年1月13日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.91
	夫沢川	2023年1月12日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.91
	小入野川	2023年1月12日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.91
	熊川	2023年1月12日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.91

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設　その３）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
★粉じん濃度	大熊①工区	2022年7月5日 ～ 12月7日（月1回）	最大値は3.2mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。 ＊貯蔵作業が終了したため、2022年12月で測定終了。	資料1別添 P.44
	大熊②工区	2022年7月8日 ～ 2023年1月6日（月1回）	最大値は0.5mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.49
	大熊③工区	2022年7月8日 ～ 2023年1月13日（月1回）	最大値は1.3mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.51
	大熊④工区	2022年7月8日 ～ 2023年1月6日（月1回）	最大値は1.2mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.53
	大熊⑤工区	2022年7月13日 ～ 2023年1月12日（月1回）	最大値は4.5mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.55
	双葉①工区西側	2022年7月7日 ～ 2023年1月12日（月1回）	最大値は0.8mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.59
	双葉②工区	2022年7月12日 ～ 2023年1月5日（月1回）	最大値は0.2mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.62
	双葉③工区	2022年7月11日 ～ 2023年1月13日（月1回）	最大値は0.3mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.64
★空間線量率 （作業環境）	大熊①工区	2022年7月5日 ～ 12月3日（月1回）	0.07 ～ 0.32μSv/hの範囲であった。 ＊貯蔵作業が終了したため、2022年12月で測定終了。	資料1別添 P.44
	大熊②工区	2022年7月21日 ～ 2023年1月26日（月1回）	0.18 ～ 0.88μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.49
	大熊③工区	2022年7月8日 ～ 2023年1月13日（月1回）	0.13 ～ 0.90μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.51
	大熊④工区	2022年7月20日 ～ 2023年1月26日（月1回）	0.20 ～ 3.22μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.53
	大熊⑤工区	2022年7月13日 ～ 2023年1月23日（月1回）	0.28 ～ 0.80μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.55
	双葉①工区西側	2022年7月7日 ～ 2023年1月12日（月1回）	0.13 ～ 1.98μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.59
	双葉②工区	2022年7月12日 ～ 2023年1月5日（月1回）	0.23 ～ 0.42μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.62
	双葉③工区	2022年7月25日 ～ 2023年1月23日（月1回）	0.17 ～ 2.03μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.64

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設　その４）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
★空気中の放射能濃度	大熊①工区	2022年7月5日 ～ 12月3日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。 ＊貯蔵作業が終了したため、2022年12月で測定終了。	資料1別添 P.44
	大熊②工区	2022年7月21日 ～ 2023年1月26日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.49
	大熊③工区	2022年7月8日 ～ 2023年1月13日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.51
	大熊④工区	2022年7月20日 ～ 2023年1月26日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.53
	大熊⑤工区	2022年7月13日 ～ 2023年1月12日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.55
	双葉①工区西側	2022年7月7日 ～ 2023年1月12日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.59
	双葉②工区	2022年7月12日 ～ 2023年1月5日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.62
	双葉③工区	2022年7月11日 ～ 2023年1月13日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.64
表面汚染密度 （★床★境界・壁★設備 ★重機）	大熊①工区	2022年7月18日 ～ 12月3日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。 ＊貯蔵作業が終了したため、2022年12月で測定終了。	資料1別添 P.44
	大熊②工区	2022年7月21日 ～ 2023年1月26日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.49
	大熊③工区	2022年7月8日 ～ 2023年1月13日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.51
	大熊④工区	2022年7月20日 ～ 2023年1月26日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.53
	大熊⑤工区	2022年7月13日 ～ 2023年1月23日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.55
	双葉①工区西側	2022年7月16日 ～ 2023年1月21日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.59
	双葉②工区	2022年7月12日 ～ 2023年1月5日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.62
	双葉③工区	2022年7月25日 ～ 2023年1月23日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.64

双葉③工区放流水中の溶解性マンガンについて

経緯等

- 令和4年2月17日に、福島県が実施した土壌貯蔵施設の浸出水の処理後放流水に係る排水基準項目測定（同年1月25日採取）において、溶解性マンガン濃度が11mg/L（指針に基づく基準値：10mg/L）であったとの報告があった。
- 双葉③工区の降水量や浸出水発生量、双葉①工区東側区画からの浸出水の送水量、浸出水処理系統の各所における溶解性マンガン濃度の追加調査等を行い、有識者の意見等を踏まえつつ原因究明を図ってきた。

溶解性マンガン濃度の上昇・変動の要因について

- 福島県内の土壌はマンガンを豊富に含むものが多く、除去土壌の貯蔵量が増加する中で、溶解性マンガンの溶出量も基本的には増加していくと見込まれる。他方、埋立中の土壌貯蔵施設の浸出水中の溶解性マンガン濃度は、埋立中の区画に降った雨の量に影響されると考えられる。
- 溶解性マンガン濃度が11mg/Lとなった令和4年1月25日については、直近2週間にわたって降雨がない状況であり、また双葉③工区東側区画も埋立開始前であったため、浸出水中の溶解性マンガン濃度が高まりやすい状況にあった。なお、双葉①工区からの送水は貯水量に対して小さく、処理水に影響する直近の送水は同年1月13日であったことから、主たる要因とは考えにくい。これらを踏まえると、前述の要因によって埋立期間中に一時的に高まった溶解性マンガン濃度が、浸出水処理設備を経てもなお指針の基準値を上回る状況となったものと推定される。

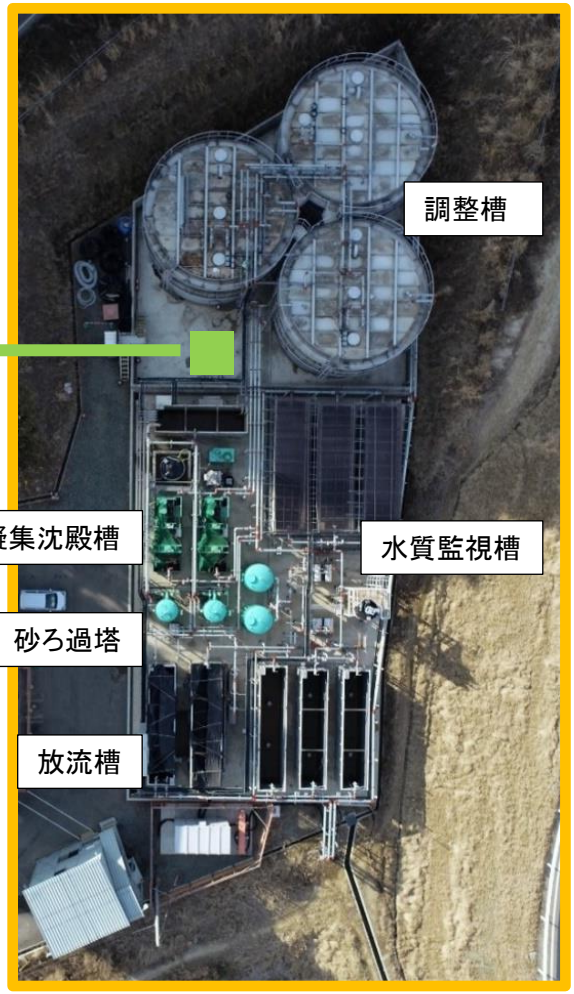
対応策及び結果

- 貯蔵量の増加、被覆工の実施等に伴って、処理設備に流入する浸出水中の溶解性マンガン濃度が再度10mg/Lを超える可能性があると考えられることから、令和5年1月に、アルカリ凝集沈殿（※）により放流水中の溶解性マンガン濃度を低減させるための設備更新工事を実施した。

  ※水のpHを高めることによって金属の水酸化物を生成させ、凝集剤によって除去するもの。
- 更新工事終了後、アルカリ凝集沈殿処理の実施が可能なこと及び放流水の溶解性マンガン濃度が十分に低減されていることが確認された。

双葉③工区放流水中の溶解性マンガンについて（参考）

【拡大図】



☆：施設の位置

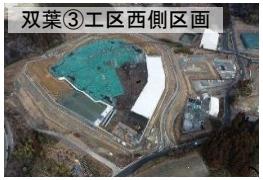
【主な更新設備】

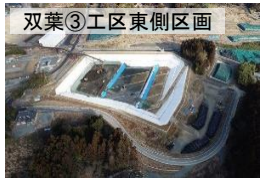
苛性ソーダ貯留槽（15m³）

双葉③工区放流水中の溶解性マンガンについて（参考）

（参考） 土壌貯蔵施設の浸出水の処理フロー

流入





- 双葉③工区の浸出水処理施設では、③工区に加え、双葉①工区東側区画の浸出水も処理

集水

- 各区画の集水ピットで浸出水を集水

調整

調整槽

- 集められた水は調整槽に送水
- 令和4年4月12日から3槽すべて使用開始

水処理

- 調整槽以降2つの系統にて処理
- 凝集沈殿と砂ろ過により浸出水を処理
- アルカリ凝集沈殿設備更新工事を実施

水質監視

- 処理後水は水質監視槽、放流槽を経て放流配管へ送水

放流

- 放流配管から水路へ放流

（参考） マンガンについて

- マンガンは土壌中に普遍的に存在する物質である。
- 飲用水においては、マンガンは浄水処理の過程で除去されている。これらのことから、マンガンについて水質環境基準は設けられていない。
- 排水基準は、水の着色や沈殿物の析出等を防止する観点から、主に利水面に配慮して設定されている。

モニタリング結果概要（仮設焼却施設　大熊町）

主な測定項目	施設名	測定時期	概要	詳細
排ガス中の放射能濃度	大熊町仮設焼却施設	2022年7月1日～2023年2月28日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/m^3)未満であることを確認した。	資料1別添 P.102
地下水（井戸）中の放射能濃度	大熊町仮設焼却施設	2022年7月1日～2023年2月28日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料1別添 P.102
雨水（雨水排水集水桝）中の放射能濃度	大熊町仮設焼却施設	2022年7月1日～2023年2月28日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料1別添 P.102
空間線量率	大熊町仮設焼却施設	2022年7月1日～2023年2月28日（毎日）	0.27 ～ 2.90μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.102
粉じん濃度	大熊町仮設焼却施設	2022年7月1日～2023年2月28日（月1回）	最大値は2.10mg/m^3であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^3超）に該当しない。	資料1別添 P.102

モニタリング結果概要（仮設処理施設 双葉町）

主な測定項目	施設名	測定時期	概要	詳細
排ガス中の放射能濃度	双葉町仮設焼却施設	2022年7月1日～ 2023年2月28日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/Nm^3)未満であることを確認した。	資料1別添 P.104
地下水（井戸）中の放射能濃度	双葉町仮設焼却施設	2022年7月1日～ 2023年2月28日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料1別添 P.104
雨水（雨水排水集水桝）中の放射能濃度	双葉町仮設焼却施設	2022年7月1日～ 2023年2月28日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料1別添 P.104
空間線量率	双葉町仮設焼却施設	2022年7月1日～ 2023年2月28日（毎日）	0.13 ～ 0.35 μSv/h の範囲であった。	資料1別添 P.104
粉じん濃度	双葉町仮設焼却施設	2022年7月1日～ 2023年2月28日（月1回）	最大値は5.03mg/m^3であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^3超）に該当しない。	資料1別添 P.104

モニタリング結果概要（廃棄物貯蔵施設）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
◆地下水中の放射能濃度	大熊1工区	2022年7月1日 ～ 2023年1月5日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.67
	双葉1工区	2022年7月1日 ～ 2023年1月5日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.69
★空間線量率 （作業環境）	大熊1工区	2022年7月29日 ～ 2023年1月27日（月1回）	0.06 ～ 10.5μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.67
	双葉1工区	2022年7月29日 ～ 2023年1月27日（月1回）	0.14 ～ 8.11μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.69
表面汚染密度 （★床★壁）	大熊1工区	2022年7月29日 ～ 2023年1月27日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.67
	双葉1工区	2022年7月22日 ～ 2023年1月20日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.69

モニタリング結果概要（技術実証フィールド）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
◆地下水中の放射能濃度	技術実証フィールド	2022年7月7日 ～ 2023年1月10日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.72
●排気中の放射能濃度	技術実証フィールド	2022年7月7日 ～ 2023年1月6日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.72
★沈砂池からの放流水の 放射能濃度	技術実証フィールド	2022年7月7日 ～ 2023年1月10日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.72
■処理水放流先河川の 放射能濃度	技術実証フィールド	2022年7月7日 ～ 2023年1月10日（月1回）	Cs134は全て検出下限値（1Bq/L）未満、Cs137は検出下限値（1Bq/L）未満～2.3Bq/Lの範囲であり、基準（Cs134の濃度/60+Cs137の濃度/90≦1）を下回った。 なお、処理水の放射能濃度（放流時）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.72
★粉じん濃度	技術実証フィールド	2022年7月6日 ～ 2023年1月6日（月1回）	最大値は0.2mg/m^3であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^3超）に該当しない。	資料1別添 P.72
★空間線量率 （作業環境）	技術実証フィールド	2022年7月6日 ～ 2023年1月6日（月1回）	0.09 ～ 0.69μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.72
★空気中の放射能濃度	技術実証フィールド	2022年7月6日 ～ 2023年1月6日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.72
表面汚染密度 （★床★壁★設備）	技術実証フィールド	2022年7月6日 ～ 2023年1月6日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.72

モニタリング結果概要（飛灰洗浄処理技術等実証施設）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
◆地下水中の放射能濃度	飛灰洗浄処理 技術等実証施設	2022年7月7日 ～ 2023年1月10日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.75
●排気中の放射能濃度	飛灰洗浄処理 技術等実証施設	2022年7月11日 ～ 2023年1月11日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.75
★粉じん濃度	飛灰洗浄処理 技術等実証施設	2022年7月12日 ～ 2023年1月11日（月1回）	最大値は0.7mg/m^3であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^3超）に該当しない。	資料1別添 P.75
★空間線量率 （作業環境）	飛灰洗浄処理 技術等実証施設	2022年7月11日 ～ 2023年1月11日（月1回）	0.11 ～ 0.23μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.75
★空気中の放射能濃度	飛灰洗浄処理 技術等実証施設	2022年7月11日 ～ 2023年1月11日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.75
表面汚染密度 （★床★壁★設備）	飛灰洗浄処理 技術等実証施設	2022年7月11日 ～ 2023年1月11日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.75

その他の空間線量率、放射能濃度等の測定結果

測定項目	対象期間	概要	詳細
保管場等における 空間線量率、地下水中放射能濃度	2022年4月1日 ～ 2023年2月28日	空間線量率については、除去土壌等の保管・処理・貯蔵、灰処理ばいじんを封入した鋼製角形容器の貯蔵及び除去土壌等・溶融飛灰を用いた実証試験事業等による周辺への影響は見られなかった。 また、施設の解体作業時においても周辺への影響は見られなかった。 地下水中の放射能濃度は、全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.106～108
中間貯蔵施設区域境界における 大気中放射能濃度、空間線量率	2022年4月1日 ～ 2023年2月28日	大気中放射能濃度は、全て検出下限値未満であり、基準（Cs134の濃度/20＋Cs137の濃度/30≦1）を下回った。 空間線量率は、通常の変動の範囲内で推移していることを確認した。	資料1別添 P.109,110
輸送路における放射線量率	2022年4月1日 ～ 2023年2月28日	輸送車両が通る時などに、数十秒間程度、平常時より高い放射線量率が観測される場合があったが、追加被ばく線量は十分に小さいことを確認した。	資料1別添 P.112,113
仮置場搬出時の輸送車両周辺の 空間線量率	2022年4月1日 ～ 2023年2月28日	全輸送車両が除去土壌の収集・運搬に係るガイドラインの基準の100μSv/hを十分に下回った。 （表面線量率が30μSv/hを超える大型土のうを積載した車両について測定を実施）	資料1別添 P.115
中間貯蔵施設退出時の 輸送車両の表面汚染密度	2022年4月1日 ～ 2023年2月28日	全輸送車両が退出基準の13,000cpmを十分に下回った。	資料1別添 P.116
中間貯蔵施設区域境界（ゲート付近等） における空間線量率、表面汚染密度	2022年12月4日（年4回）	空間線量率（1m、表面）及び表面汚染密度の測定結果において、低い数値となっていることを確認した。	資料1別添 P.117

作業員の被ばく線量①

- 仮置場等及び中間貯蔵施設の作業員、輸送車両の運転者等、全ての業務従事者の被ばく線量が、電離則及び除染電離則で定められた限度（5年間で100mSvかつ1年間で50mSv等）を超えないよう、各工事の受注者が管理している。具体的には、安全を見込んだ自主的な目安値（年間20mSvよりも低い数値）を設定し、管理している。
- 環境省は、各受注者が管理する作業員の被ばく線量の情報を収集・分析し、管理が適切に実施されていることを確認している。

作業員の累積被ばく線量の分布（2022年4月1日～12月31日）

2018～2021年度毎の線量値集計結果

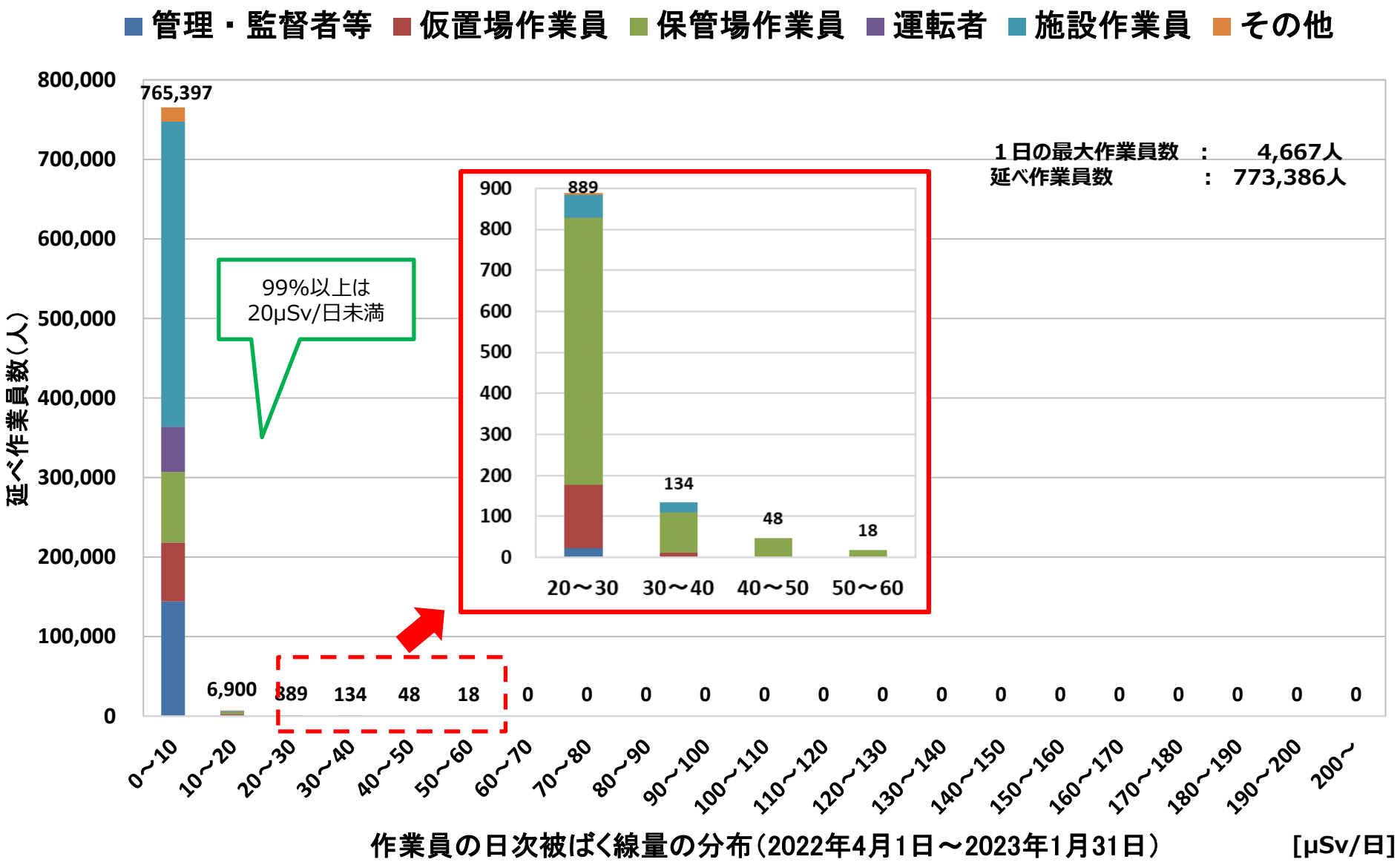
単位：mSv	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	集計 単位：人
20以上	0	0	0	0	0
19以上20未満	2	0	0	0	2
18以上19未満	1	5	1	0	7
17以上18未満	0	3	2	0	5
16以上17未満	0	5	1	2	8
15以上16未満	2	8	2	0	12
14以上15未満	1	3	1	1	6
13以上14未満	4	4	2	1	11
12以上13未満	5	7	6	3	21
11以上12未満	8	9	3	3	23
10以上11未満	3	5	2	0	10
9以上10未満	8	6	1	2	17
8以上 9未満	6	2	2	3	13
7以上 8未満	9	4	7	1	21
6以上 7未満	24	9	3	1	37
5以上 6未満	26	16	1	2	45
4以上 5未満	31	23	10	3	67
3以上 4未満	87	76	17	11	191
2以上 3未満	210	179	105	112	606
1以上 2未満	607	638	714	769	2,728
0以上 1未満	9,856	10,131	10,437	10,528	40,952

※上記グラフは、2022年度に中間貯蔵施設事業ならびに減容化事業に従事者登録された作業員の人数を示す。

※中間貯蔵施設事業による被ばく線量に限ると、2018～2021年度の年度別の累積被ばく線量の最大値は、それぞれ10.3mSv、6.3mSv、4.7mSv、4.0mSv。2022年度（12月末まで）は2.80mSv。

※女性従事者の3か月線量最大は、2018年度の3.00mSvで、電離則及び除染電離則で定められた限度である3か月間で5mSvを下回っている。

作業員の被ばく線量②

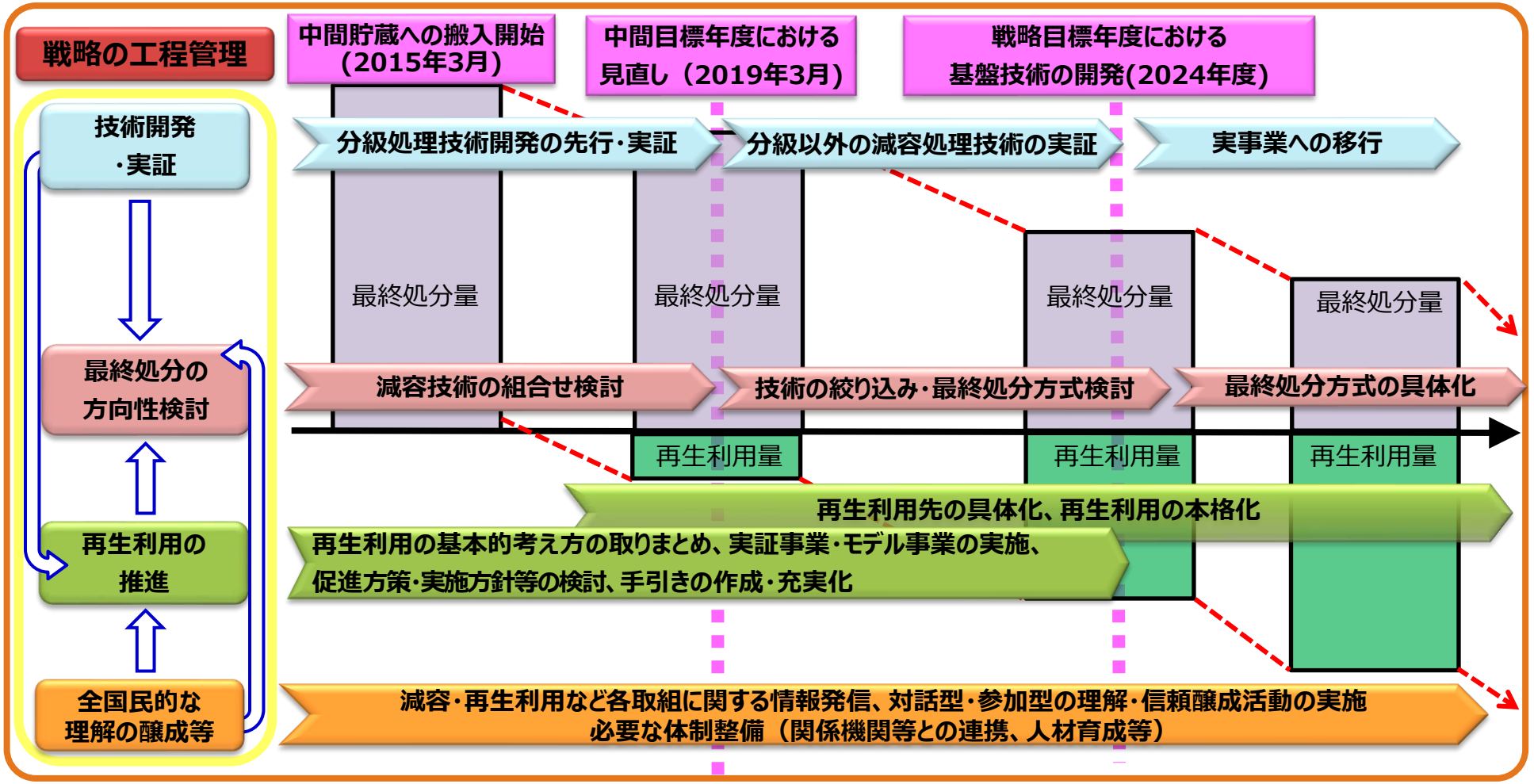


※作業員数は、登録された作業員の延べ人数を示す。

県外最終処分の実現に向けた取組

中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略

- 福島県内で発生した除去土壌等については、**中間貯蔵開始後30年以内に、福島県外で最終処分を完了するために必要な措置を講ずる**こととしている。県外最終処分量を低減するため、政府一体となって、除去土壌等の減容・再生利用等に取り組んでいる。
- 減容・再生利用の推進に当たっては、2016年に策定し、2019年に見直しを行った「**中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略**」及び「工程表」に沿って、具体的な取組を進めている。
- **2024年度を戦略目標**として、基盤技術の開発を進めるとともに、**最終処分場の必要面積や構造について実現可能ないくつかの選択肢を提示**することとしている。その上で、**2025年度以降に最終処分場に係る調査検討・調整などを進めていく**。



今後議論すべき主な事項、スケジュール（案）について

中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略（～2024年度）

	2022年度	2023年度	2024年度	2025～2044年度
最終処分の方向性の検討	・除去土壌等の発生量、放射能濃度の整理 ・再生利用見込み量の検討　・最終処分場の構造、必要面積、立地条件等の検討 ・最終処分に関する放射線安全性評価　・トータルコストの検討 ・埋立実証事業の実施　・埋立基準の検討			・最終処分の具体化 ・取り出し・搬出方法、跡地利用の検討 最終処分地の調査検討、調整 最終処分場の整備 最終処分場への搬入
減容・再生利用技術の開発	・技術実証の進捗整理 ・今後実施する技術実証項目の抽出、実施 ・技術の組み合わせの検討　・処理コストの整理・検討 ・技術を踏まえた最終処分場の構造の検討			
再生利用の推進	福島県内での実証事業（農地、道路）の実施 ⇒ 再生利用基準等の策定 福島県外での実証事業の検討・実施			・再生利用先の具体化 ・再生利用の本格実施
全国民的な理解の醸成等	・飯舘村長泥地区での実証事業を中心とした理解醸成の推進、現地見学会等の継続実施 ・全国での対話フォーラムの継続実施　・次世代への理解醸成活動 ・SNS等も活用した理解醸成の強化　・除去土壌を用いた鉢植え等の設置			

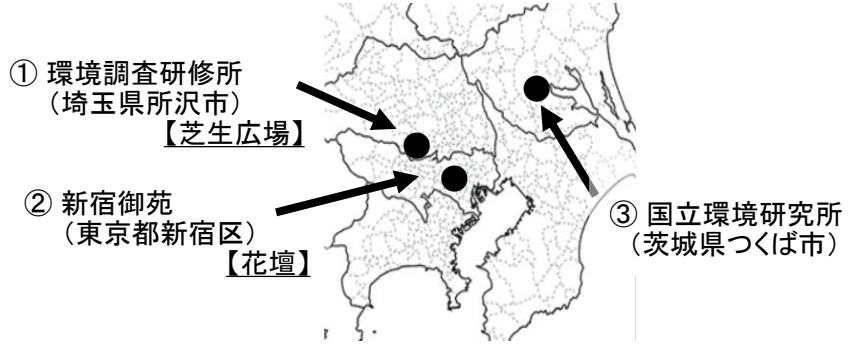
中間貯蔵施設への除去土壌搬送の概ね完了（～2021年度）

福島県外における再生利用実証事業

＜中間貯蔵施設における除去土壌等の再生利用方策検討ワーキンググループ（第２回）資料２－３を一部加工＞

- 福島**県内での再生利用の実証事業を通じて安全性等を確認**してきたことを踏まえ、県外での最終処分・再生利用の実現に向けた次の一歩として、福島**県外においても実証事業**を進めることが重要。
- 環境省の関連施設において、福島県の除去土壌を、**芝生広場や花壇、駐車場で再生利用**し、**モニタリング結果を広く公表**することで、**除去土壌を安全に利用できることを多くの方に知っていただく**ために事業を計画。
- 「①**環境調査研修所**」及び「②**新宿御苑**」については、**12月中旬から住民説明に着手。**
  ※「③国立環境研究所」については、地元と調整中。

【実証箇所（候補）】



①環境調査研修所
（埼玉県所沢市）

12/ 2（金）説明会案内（近隣町会）
12/16（金）住民説明会
1/31（火）市議会に説明（研修会）

②新宿御苑
（東京都新宿区）

12/ 9（金）説明会案内
（近隣町会）
12/21（水）住民説明会

福島県内（中間貯蔵施設内）での道路盛土実証事業　概要

＜中間貯蔵施設における除去土壌等の再生利用方策検討ワーキンググループ（第２回）資料２－２より抜粋＞

（1）実施目的

〇除去土壌の再生利用について、さらなる用途拡大を図るため、中間貯蔵施設用地を活用し、道路盛土への利用について実証実験を行い、実際に現場施工する際の課題や対応方策等を整理する。

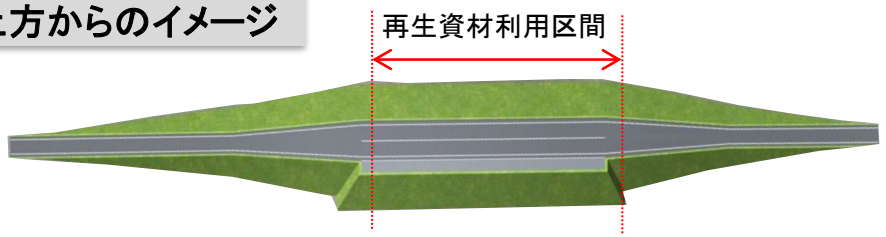
〇成果は「再生利用の手引き（案）」に反映する。

（2）事業概要

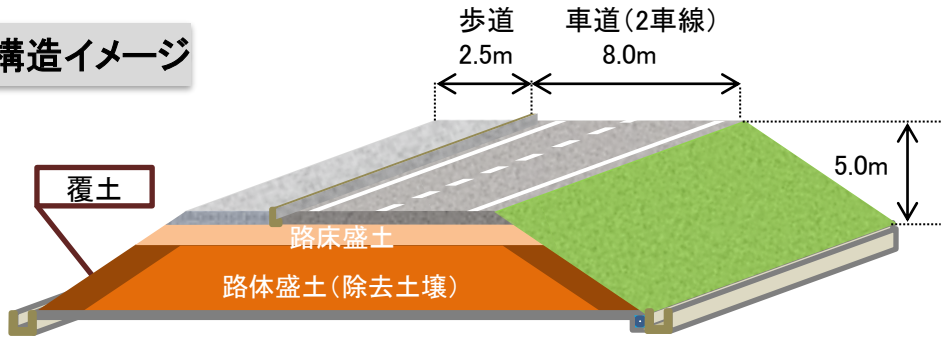
〇実施場所　　中間貯蔵施設内

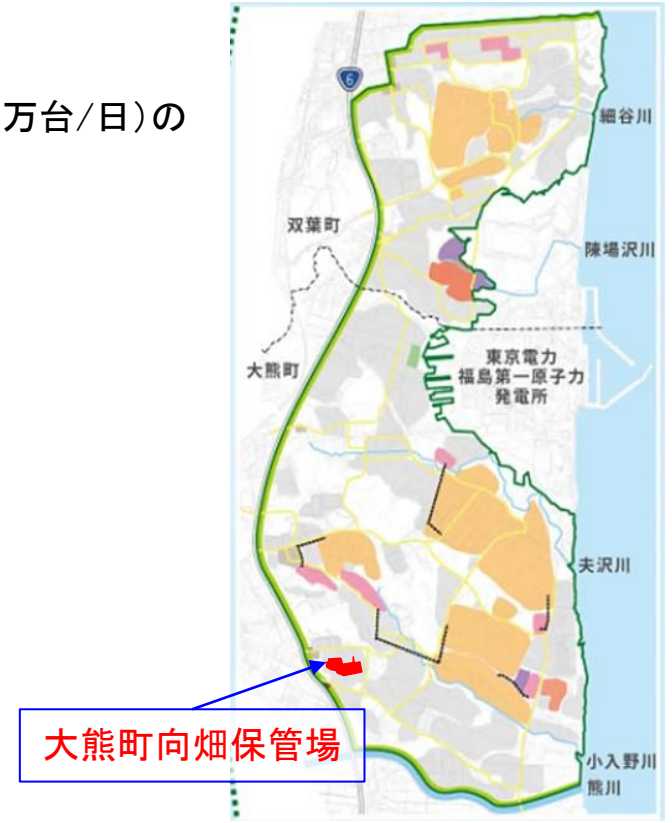
〇構造物の種類　一般的な道路規格として、3種2級（交通量4千～2万台/日）の歩道付きの構造

上方からのイメージ



構造イメージ





（3）検討事項

〇除去土壌を道路盛土に再生利用した場合の留意点

〇「再生利用の手引き（案）」に盛り込むべき事項

再生利用（事例）福島県飯舘村長泥地区

○2022年度は、①農地盛土（2・3・4工区）、②地元住民と協働して花き類の栽培試験、③水田試験を実施。

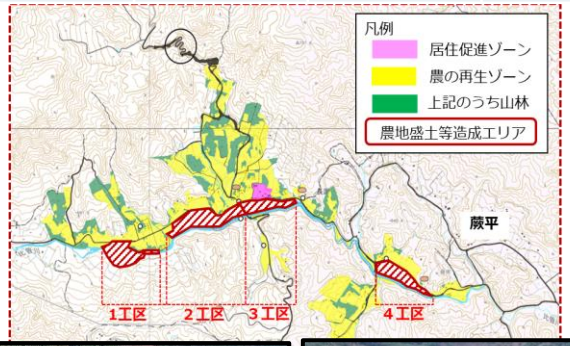
①農地盛土：2021年4月からは、除去土壌（約23万m^3）を用いて、大規模な農地造成（約22ha）に着手。
2022年度は2・3工区は20cm覆土、4工区は50cm覆土まで暫定完成見込み。

③水田試験：2021年度から水田の機能を確認するため、水田に求められる機能に関する試験（透水性、地耐力）等を実施し、透水性等に課題があり、引き続き改善が必要であることを確認。

作業工程スケジュール（概要）

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
栽培実験用盛土	小規模な盛土（栽培実験用）を造成し、環境安全を確認後、大規模な盛土造成を開始。				
①農地盛土					
②栽培試験					
③水田試験					

飯舘村
長泥地区



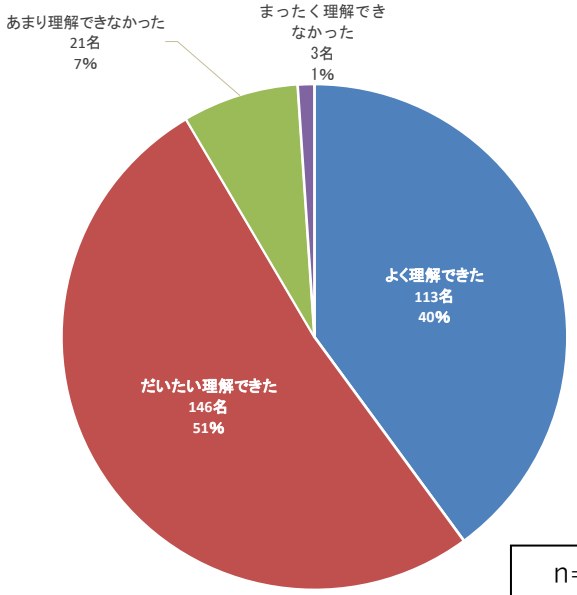
① 農地造成（2・3・4工区）

長泥地区の現地見学会について

・長泥地区環境再生事業に対する認知度や理解度を高めるため、一般の方向けの現地見学会を一昨年から開催し、昨年11月末までに計302名の方に御参加いただいた。
・長泥地区環境再生事業の一般の方向け現地見学会において、参加者にアンケートを実施した。その結果については、以下のとおり。

長泥地区環境再生事業現地見学会のアンケート結果について

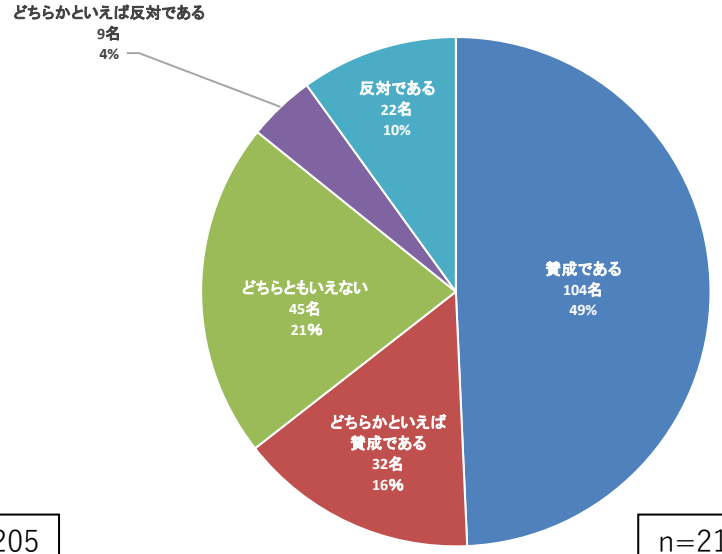
見学会に参加して、長泥再生実証事業に対して、理解されましたか。



n=285のうち県内：205
県外：　80

n=285
(2021年7月3日～11月20日、2022年3月29日～11月19日に行われた計28回の見学会参加者から回答)

県外最終処分に向けて、除去土壌の再生利用を進めることに賛成ですか、それとも反対ですか。



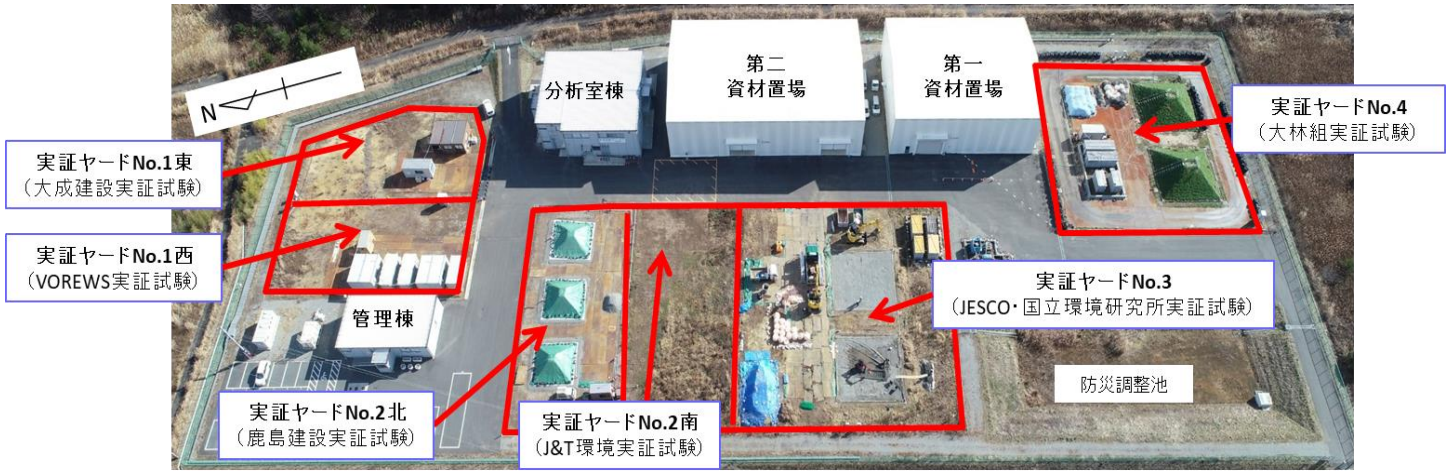
n=212のうち県内：134
県外：　78

n=212
(2021年10月5日～-11月20日、2022年3月29～11月19日に行われた計20回の見学会参加者から回答)

技術実証フィールドの状況

除去土壌等の処理、減容・再生利用及び県外最終処分を効果的に進めていくため、中間貯蔵施設区域内の実際の除去土壌等を用いて、これらに関する実用的、実務的な技術の開発を行う技術実証フィールドを2020年１月に大熊町に整備し、実証試験事業を実施中。

ドローンによる技術実証フィールド全景（2023年1月時点）



技術実証フィールドの主な施設

実証ヤード	実証試験を実施するための４つのヤードを整備（約1,600㎡／ヤード）
資材置場	試験資材の一時置場
分析棟	放射能濃度分析、土質分析、化学分析等を実施
管理棟	技術実証施設管理のための事務室等を設置

2022年度の実証事業

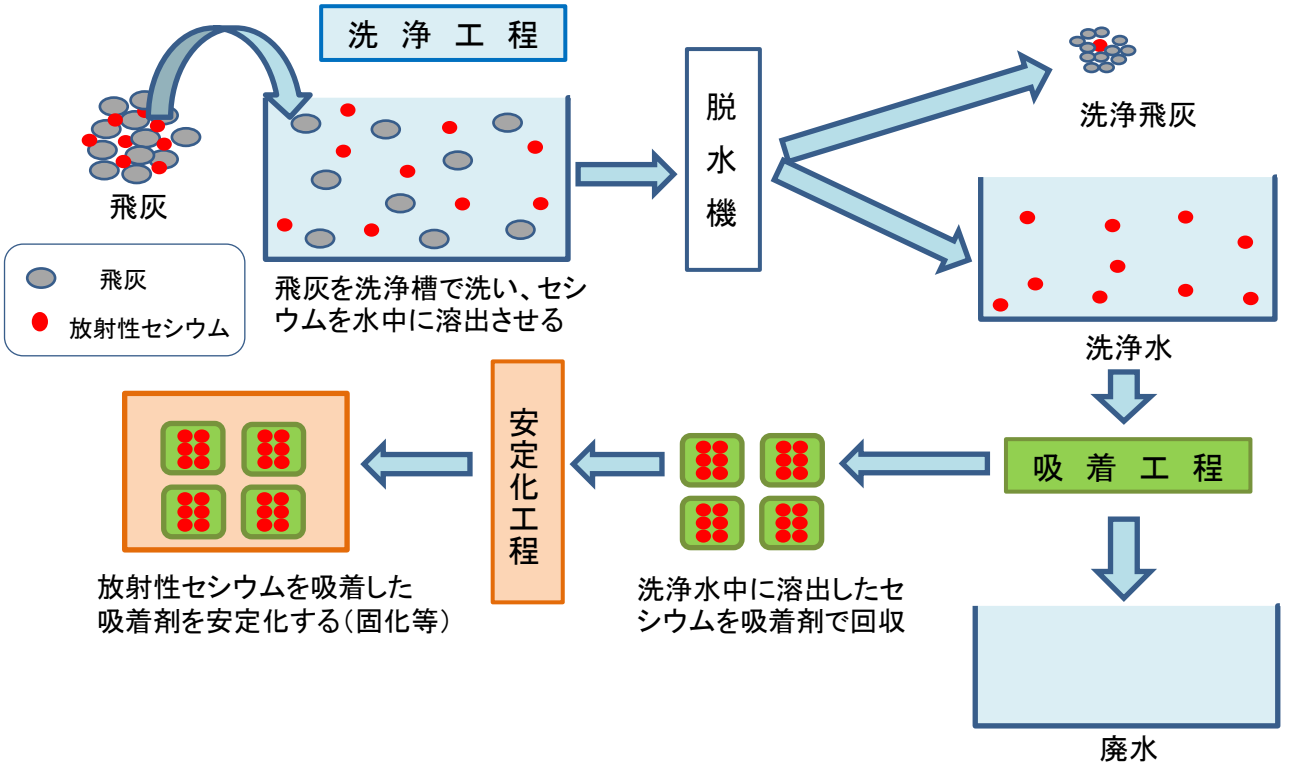
実証試験者	実証テーマ
大林組	溶融スラグの再生利用等技術の実証
大成建設	除去土壌と溶融飛灰と脱水ケーキ等をジオポリマーの固型化材料として利用する技術
除去土壌等減容化・再生利用技術研究組合(VOREWS)	除去土壌を分級処理した砂をコンクリート用細骨材に利用するための技術実証
鹿島建設	高吸水性樹脂含有改質材を含む低放射能濃度除去土壌を大量に再生資材化するための品質調整技術の実証
J&T環境	保管大型土のう袋再資源化の技術実証検討
JESCO・国立環境研究所	除去土壌の再生利用時の安全性や安定性に関する実証実験

飛灰洗浄技術・安定化技術実証試験について

【技術実証試験の内容】

- 仮設灰処理施設で生じる「放射性セシウムが濃縮された飛灰（ばいじん）」の県外最終処分に向け、双葉町（中間貯蔵施設内）において減容化及び安定化を図るための技術について実証を行う。
- 飛灰中の放射性セシウムが水に溶けやすい性質であることを利用し、飛灰を水で洗浄して（洗浄工程）溶け出した放射性セシウムを吸着剤で回収し（吸着工程）、回収した放射性セシウムを安定化体にする（安定化工程）一連の技術について確認する。
- 各試験設備の製作・設置作業が終了し、2023年1月より実証試験を開始。

飛灰洗浄技術実証の工程概要



【飛灰洗浄処理技術等実証施設(双葉町)】
竣　　工：令和３年３月
全体面積：約10,810m^2
実証試験テントのサイズ
：幅約33m×奥行約75m×軒高約10m

除去土壌の再生利用等に関する「対話フォーラム」の開催

福島県内で発生した除去土壌等の３０年以内県外最終処分を実現するため、減容・再生利用の必要性及び安全性について全国での理解醸成活動を抜本的に強化。その取組の一環として、昨年度より対話フォーラムを開催している。

2023年３月18日
対話フォーラム（@仙台）の様子

これまでに合計８回開催。

対話の様子はオンラインで公開中。

＜これまでの開催実績＞
・第1回 2021年05月23日 オンライン配信
・第2回 2021年09月11日 オンライン配信
・第3回 2021年12月18日 名古屋
・第4回 2022年03月19日 福岡
・第5回 2022年07月23日 広島
・第6回 2022年10月29日 高松
・第7回 2023年01月21日 新潟

（YouTubeアーカイブ動画等⇒）

第8回

■日程：2023年３月18日（土） 14:00 ～ 16:00

■会場：仙台国際センター　会議棟2階
大会議室「萩」

■登壇者：
西村環境大臣
土居環境再生・資源循環局長
高村 昇 氏（長崎大学教授）
佐藤 努 氏（北海道大学大学院教授）
開沼 博 氏（東京大学大学院准教授）
政井 マヤ 氏（フリーアナウンサー）
吉田 学 氏（一般社団法人 HAMADOORI13 代表理事）

■参加者数：
会場参加者：74名　オンライン参加者：118名
YouTube同時最大視聴者数：108名
会場・オンライン合わせて、155件の御意見・御質問をいただいた。

対話フォーラムのアンケート結果について

・各回の対話フォーラムにおいては、当日参加者から御意見や御質問を受け付け、開催後にはアンケートを実施した。その結果については、以下のとおり。

対話フォーラム当日参加者からの御意見・御質問について

■第1回
・福島県外最終処分に向けて、どのように国民の理解醸成を行うのか。
・科学的知見等の情報発信の仕方を工夫し、積極的な対話・議論が行われるべき。

■第2回
・除去土壌が今後どのような場で利用されていくのか知りたい。
・若い世代に原発事故の問題に関心を持ってもらうためには？

■第3回
・県外最終処分場の場所は、具体的にどうやって決めるのか。
・再生利用している場所は公表されているのか。

■第4回
・除去土壌が発生した経緯や現状の説明がないと全体像がわからない。
・双葉町、大熊町の中間貯蔵施設を現地で見学できないのか。

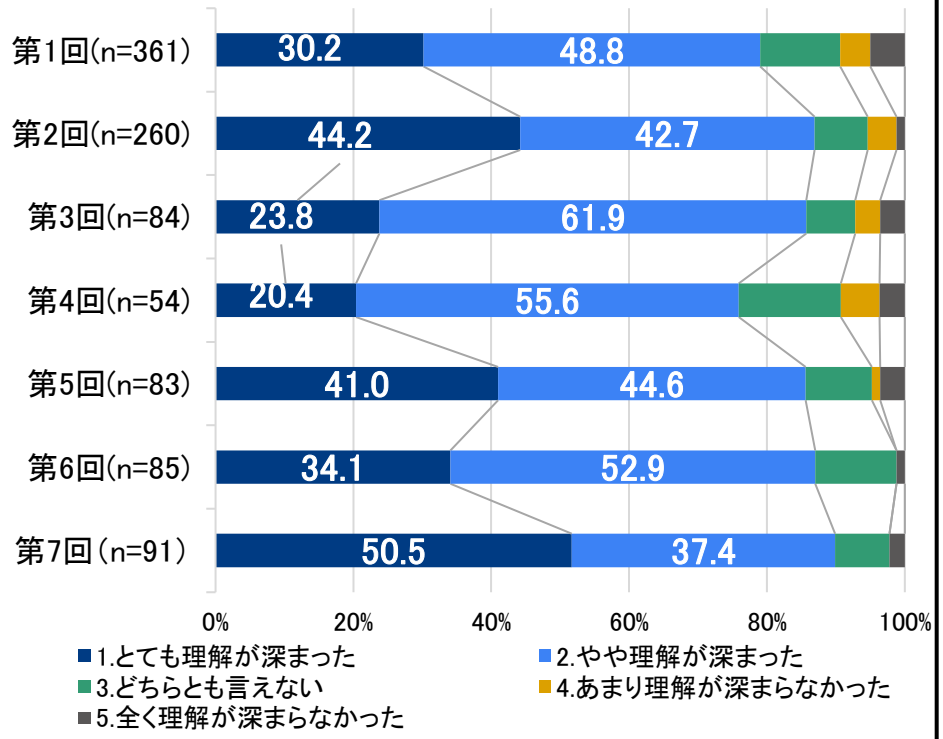
■第5回
・再生利用や資材化はどのように行うのか。
・県外最終処分について、福島県外の人たちには何ができるのか。

■第6回
・具体的にどういう状態で県外に移動されるのでしょうか？
・土を埋め立てに利用することはできないのか。

■第7回
・福島県外での実証事業が行なわれると聞いたが、今後どのような形で進められて行くのか？
・除去土壌の再生利用は良いと思うが、もっと全国にPRすべきと思う。

対話フォーラムのアンケート結果について

・「対話フォーラムを通して、環境再生事業の経緯や取組に関して、理解は深まりましたか。」という設問に対して、「とても理解が深まった・やや理解が深まった」と回答した方は、各回ともに約80%に及んだ。



最終処分・再生利用に係る理解醸成

○ 県外最終処分の方針についての認知度は、**福島県内で約5割、福島県外では約2割**。
○ 除去土壌の再生利用や最終処分に関する全国民的な**理解醸成が必要不可欠であり、除去土壌を用いた鉢植え・プランターの設置や現地視察の充実等の取組を展開中**。

除去土壌を用いた鉢植え等の設置

▼2022年3月には、除去土壌（約5,100Bq/kg）を入れたプランターに花を植えて設置。

➢ R4年度は除去土壌を用いた鉢植えを、経済産業省、国土交通省など関係省庁に設置。2023年1月末時点で福島県外17施設に設置済み。

現場見学

中間貯蔵施設の土壌貯蔵エリアや飯舘村長泥地区の実証事業事業エリアを対象とした現地見学会を開催。

（飯舘村長泥地区の実証事業事業エリア）
➢ 本年度は11月末までにのべ608名の団体視察を受入れ。
➢ 2022年度も一般の方向けの見学会開催。昨年11月までに計167名が参加。

来年度の理解醸成活動計画（案）について

＜中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略検討会コミュニケーション推進チーム（第6回）資料３より抜粋＞

対象・ねらい	効果	主な取組案
全世代	認知・理解	◘ 対話集会の実施（対話フォーラムのほか、小規模な車座対話の試行的実施を通じて、対話集会のあり方（規模や対話の方法等）について検討を進める。） ◘ 除去土壌を用いた鉢植えの設置拡大
	参加	◘ 現地見学会（中間貯蔵施設・飯舘村長泥地区の環境再生事業）の実施 ◘ ホープツーリズムとの連携
	共有/拡散	◘ 対話集会やツアーの参加者等を通じた情報発信
次世代(学生等)	認知・理解	◘ インフルエンサーの活用等によるＳＮＳや各種イベントを通じた広報の実施 ◘ 大学・高校等への講義の実施
	参加	◘ 大学生や高校生等による現地ワークショップ、次世代ツアーの実施
	共有/拡散	◘ 講義やツアーの参加者等を通じた情報発信
現役世代	認知・理解/参加	◘ 企業向けセミナーや現地見学会の実施 ◘ 関係する学会等との連携
自治体	認知・理解	◘ 自治体出席の会議における取組説明 ◘ 現地見学会の実施
メディア	認知・理解	◘ （国内外）プレス向けツアーの実施
海外	認知・理解	◘ 国際会議等での情報発信、ＩＡＥＡとの専門家会合の実施

広報･普及活動

広報・普及活動

- 各種媒体での情報発信
  - テレビ番組「なすびのギモン」やYoutube「小島よしおと一緒に福島を学ぼう」で再生利用に関する取組を紹介し、動画を環境省サイト等で配信。そのほか、福島の環境再生や環境先進地域を目指した取組などについて、コンテンツの充実や表彰制度・公告展開等を推進。
  - テレビCMにて、長泥地区環境再生事業見学会を紹介。
- ポスター等の掲示：チラシやポスターを県内外の高速道路のSAやPAに配置。

テレビ番組「なすびのギモン」

（2014年2月～）

・除染や放射線などに関する様々なギモンを、なすびさんがレポートするTVミニ枠シリーズ。

▶なすびのギモン (env.go.jp)

小島よしおと一緒に福島を学ぼう

（2022年8月～）

・福島第一原子力発電所の事故から11年。復興に向けた福島の大きな課題の一つである「除去土壌」のについて、人気お笑い芸人「小島よしお」が「聞く」「見る」「考える」を通して、分かりやすい言葉で伝えていく。

▶小島よしおと一緒に福島を学ぼう！｜福島、その先の環境へ。環境省(env.go.jp)

動画「TO KNOW TO TELL」

（2022年4月公開）

・除去土壌等の福島県外最終処分に向けて、世代を超えて、除去土壌について伝え、知る、そして考えるため、環境再生事業に関する現地でのフィールドワークやワークショップに参加した学生のメッセージ等を紹介する動画。

▶https://www.youtube.com/watch?v=Ymap8jUdgPw

広報・普及活動

- 各種見学会：中間貯蔵施設（毎月）及び長泥地区の環境再生事業（本年春以降再開予定）について、一般の方向けの見学会（事前申込制）を実施。
- 環境再生ツーリズムの推進：全国の学生を対象に、長泥地区環境再生事業エリアの視察を含むツアー・ワークショップを実施。また、福島県が推進する「ホープツーリズム」での中間貯蔵施設の視察受入れや、福島第一原子力発電所の見学と連携したツアーの実施に向け、関係機関との連携を進めている。

次世代ツアー

・「福島の今と未来を伝えよう」と、全国から学生が集まった学生が復興の現状や福島県が抱える課題を見つめ直し、次世代の視点から情報を発信することを目的として、ツアーを開催。

・長泥地区環境再生事業エリアを視察。京都大学・東京電機大学・青山学院大学・関東学院大学・滋賀県立大学大学院・明石工業高等専門学校の学生が参加。

有識者企画ツアー

・除去土壌等の再生利用・福島県外最終処分等に対する理解醸成等を目的として、飯舘村の長泥地区の再生事業に携わっている万福祐造氏を中心に、全国の大学のネットワークを活用して、学生を集めた現地見学・ワークショップを実施。

・全国の大学生が長泥地区の環境再生事業エリアを見学した。静岡大学・慶應義塾大学・宮崎大学・九州大学・東京農工大学・大阪大学・神戸大学の学生が参加。

中間貯蔵工事情報センターについて

【概　　要】

●2019年１月に国道６号沿いの中間貯蔵施設区域内に情報センターを設置。

●中間貯蔵施設事業を中心とする福島の環境再生に向けた取組について、映像やパネルを用いて分かりやすく紹介。
中間貯蔵施設が立地する大熊町・双葉町の風土、歴史や復興に向けた取組なども紹介。

【運営状況】

●来館者数累計：　18,109 人

平均：　19人/日（平日19人/日　土・祝16人/日）（2019年１月31日～2023年２月28日）

●中間貯蔵施設区域内をバスで周回する中間貯蔵施設見学会（事前申込制）を毎月実施。

●2022年５月から７月にかけて、人事院初任者研修のプログラムの一部として703名の視察を実施。

開館時間：10時から16時まで
休館日：日曜・月曜（月曜日が祝日の場合は翌平日）、年末年始

エントランスゾーン

大熊町・双葉町コーナー

展示コーナー

人事院初任者研修の様子

その他

新型コロナウイルス感染の状況

- 環境省から全事業者に対して、福島県新型コロナウイルス感染拡大防止対策や福島県知事による要請、業界団体等が作成した感染予防ガイドライン等に沿った対策を行うよう、累次にわたり要請・指示を行ってきているところ。
- 感染者数が増加していた2021年８月以降、受注者に対して緊急会議を計９回開催し、各受注者から、それぞれの取組を発表・共有することで、注意喚起を実施。（直近では昨年１２月２３日に実施。）
- 2021年９月からは、受注者である鹿島建設㈱・大成建設㈱において、環境省との調整により、両社以外の受注者を受け入れる「共同職域接種」を実施。両社関係者および両社以外の５下請け作業員を含む約2,200名を対象に富岡町・浪江町の２会場において行われた。環境省としても、受注者より工事等の一時的な休止等の申し出があった場合、監督職員は関連工事等との工程調整等に協力すると共に、必要に応じて契約工期の変更について調整することとする旨、監督職員へ周知。直近では昨年１２月にオミクロン株対応ワクチン共同職域接種を実施し、希望者２５０名に接種を完了した。
- まん延防止等重点措置の期間中は、視察等について、順延又は工事従事者と外部の来訪者の接触がないように配慮。
- 中間貯蔵施設事業の発注工事受注者における感染者数は、２月28日現在、11月31人、12月72人、１月30人、2月13人となっている。

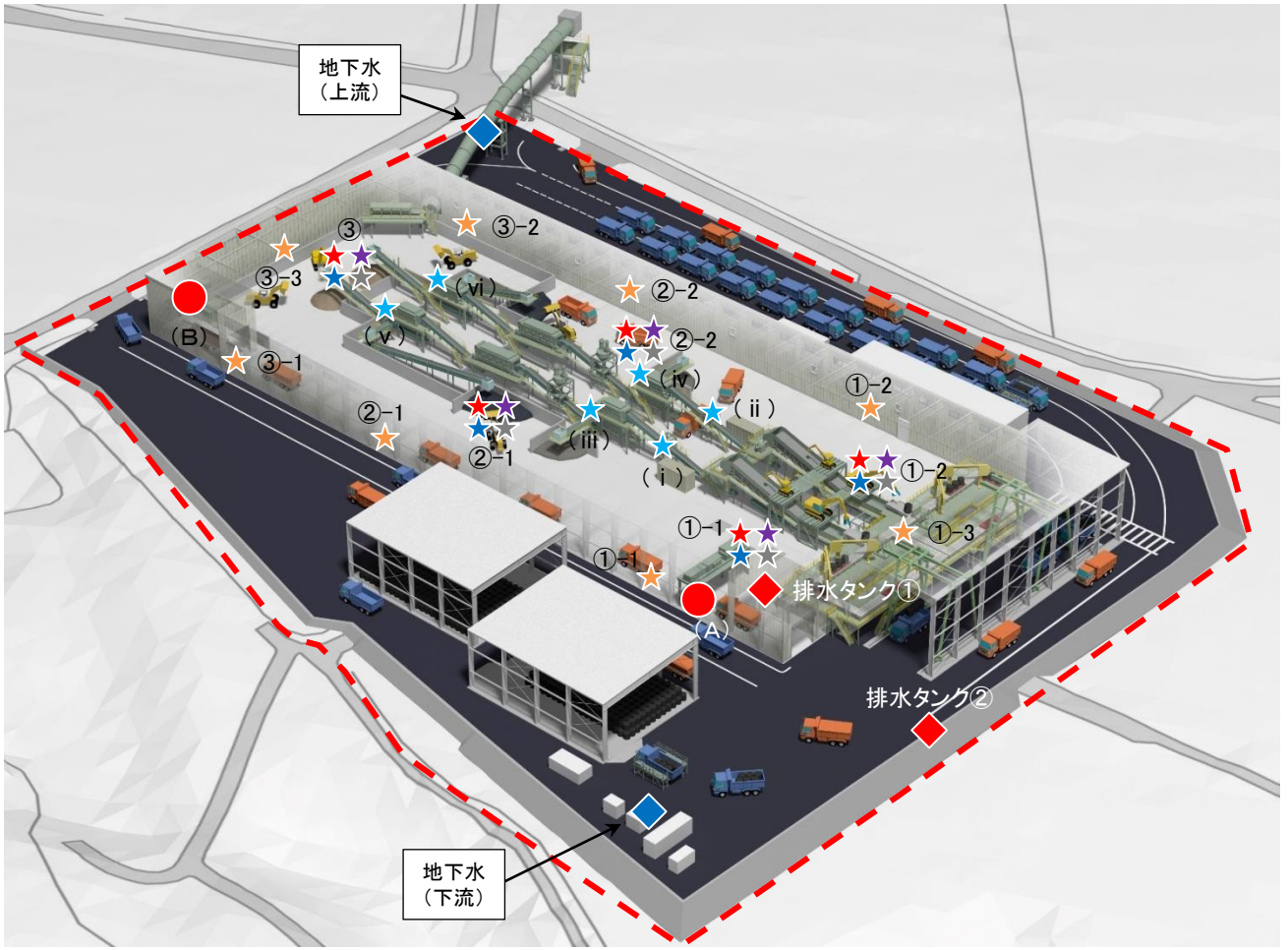
資料１別添

モニタリング等の状況の詳細について

2023年3月
環境省

受入・分別施設のモニタリング結果（月次測定）

受入・分別施設（大熊①工区）のモニタリング測定地点（月次測定）①



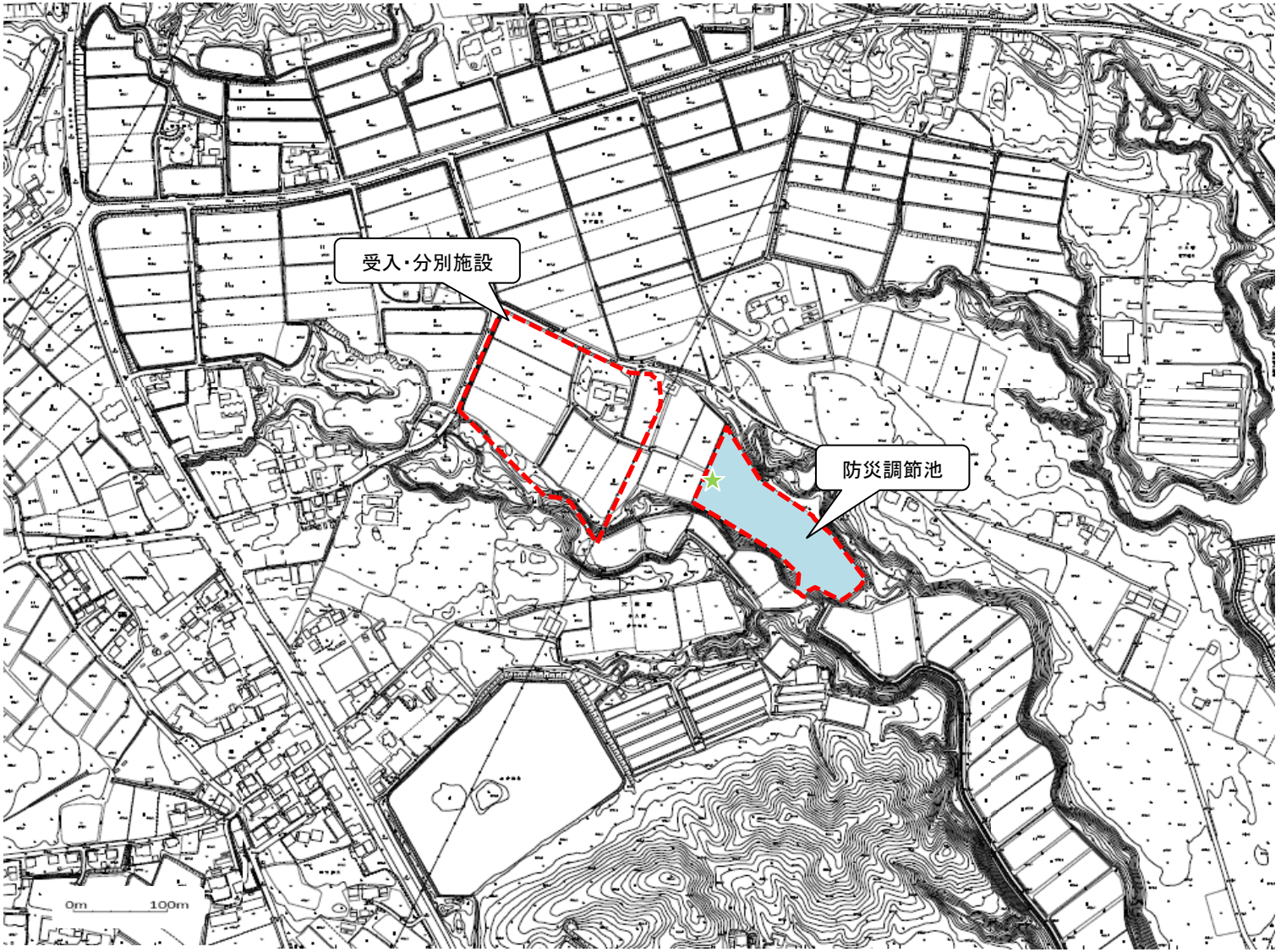
★（P.4参照）

★：施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水中の放射能濃度等
- ●：排気中の放射能濃度
- ◆：排水中の放射能濃度
- ★：防災調節池の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ---：敷地境界線

受入・分別施設（大熊①工区）のモニタリング測定地点（月次測定）②



【 凡例 】

★：防災調節池観測地点　　---：敷地境界線

受入・分別施設（大熊①工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定日＼測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2018/7/10 （稼働前）	23	17
	2022/7/4 （稼働後）	90	16
下流	2018/7/10 （稼働前）	27	5.9
	2022/7/4 （稼働後）	31	38

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
上流	2018/7/10 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/4 （稼働後）	ND	ND
下流	2018/7/10 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/4 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●排気中の放射能濃度

測定地点		2022/7/13,14 Cs-134 (Bq/m^3N)	Cs-137 (Bq/m^3N)
集じん機A	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND

放射能濃度検出下限値（ろ紙部）：セシウム134：0.1 Bq/m^3N、セシウム137：0.1 Bq/m^3N
放射能濃度検出下限値（ドレン部）：セシウム134：0.5 Bq/m^3N、セシウム137：0.5 Bq/m^3N
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆排水中の放射能濃度

排水実績はないため測定なし。

★防災調節池の放射能濃度

測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2022/7/4 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1 Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★粉じん濃度

測定地点	2022/7/4 粉じん濃度 (mg/m^3)
①-1	1.2
①-2	0.5
②-1	1.3
②-2	3.5
③	2.5

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2022/7/6 空間線量率 (μSv/h)
①-1	0.13
①-2	0.08
②-1	0.16
②-2	0.11
③	0.12

★空気中の放射能濃度

測定地点	2022/7/6 Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
①-1	ND	ND
①-2	ND	ND
②-1	ND	ND
②-2	ND	ND
③	ND	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点		2022/7/12 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
床	①-1	ND
	①-2	ND
	②-1	ND
	②-2	ND
	③	ND
壁	①-1	ND
	①-2	ND
	①-3	ND
	②-1	ND
	②-2	ND
	③-1	ND
	③-2	ND
	③-3	ND
設備	（ｉ）一次分別設備（A）	ND
	（ii）一次分別設備（B）	ND
	（iii）改質材添加装置（A）	ND
	（iv）改質材添加装置（B）	ND
	（ｖ）二次分別設備（A）	ND
	（vi）二次分別設備（B）	ND

表面汚染密度検出下限値：0.40Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

受入・分別施設（大熊①工区）のモニタリング測定結果（月次測定）
＜環境モニタリング最終回＞

◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定日＼測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2018/7/10	（稼働前）	23	17
	2022/8/3	（稼働後）	36	16
下流	2018/7/10	（稼働前）	27	5.9
	2022/8/3	（稼働後）	28	42

測定地点	測定日＼測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
上流	2018/7/10	（稼働前）	ND	ND
	2022/8/3	（稼働後）	ND	ND
下流	2018/7/10	（稼働前）	ND	ND
	2022/8/3	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●排気中の放射能濃度

測定地点		2022/8/3,4 Cs-134 (Bq/m^3N)	Cs-137 (Bq/m^3N)
集じん機A	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND

放射能濃度検出下限値（ろ紙部）：セシウム134：0.1 Bq/m^3N、セシウム137：0.1 Bq/m^3N
放射能濃度検出下限値（ドレン部）：セシウム134：0.5 Bq/m^3N、セシウム137：0.5 Bq/m^3N
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆排水中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
排水タンク①	2022/8/29	（稼働後）	ND	ND
排水タンク②	2022/8/29	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★防災調節池の放射能濃度

測定日＼測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2022/8/1	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1 Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★粉じん濃度

測定地点	2022/8/3 粉じん濃度 (mg/m^3)
①-1	ND
①-2	ND
②-1	ND
②-2	ND
③	0.3

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
NDとは定量下限値未満であることを示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2022/8/6 空間線量率 (μSv/h)
①-1	0.11
①-2	0.09
②-1	0.13
②-2	0.09
③	0.10

★空気中の放射能濃度

測定地点	2022/8/6 Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
①-1	ND	ND
①-2	ND	ND
②-1	ND	ND
②-2	ND	ND
③	ND	ND

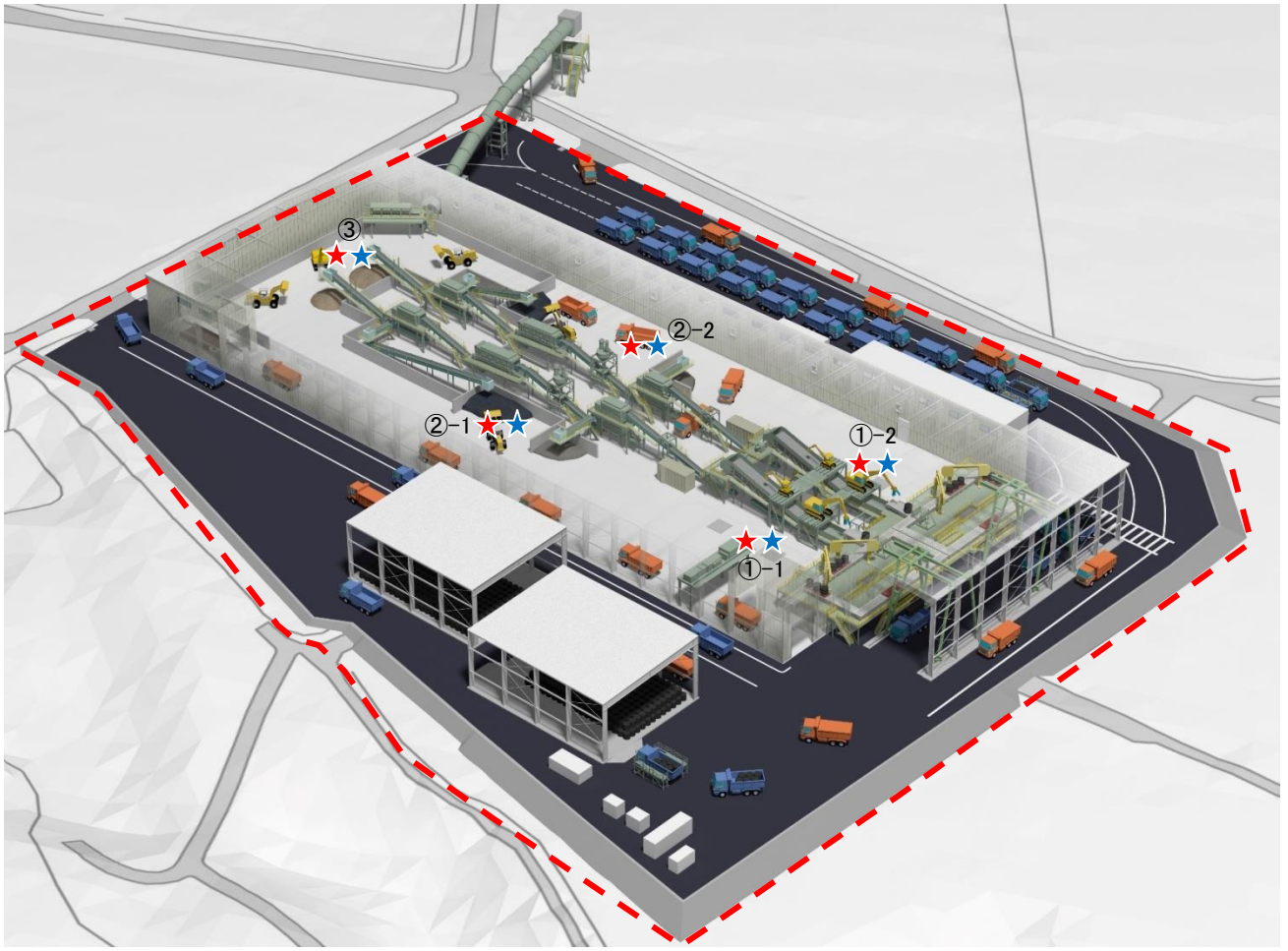
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／$3\times10^{-3}\leqq1$

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点		2022/8/5 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
床	①-1	ND
	①-2	ND
	②-1	ND
	②-2	ND
	③	ND
壁	①-1	ND
	①-2	ND
	①-3	ND
	②-1	ND
	②-2	ND
	③-1	ND
	③-2	ND
	③-3	ND
設備	（ｉ）一次分別設備（A）	ND
	（ⅱ）一次分別設備（B）	ND
	（ⅲ）改質材添加装置（A）	ND
	（ⅳ）改質材添加装置（B）	ND
	（ｖ）二次分別設備（A）	ND
	（ⅵ）二次分別設備（B）	ND

表面汚染密度検出下限値：0.40Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

受入・分別施設（大熊①工区）のモニタリング測定地点（月次測定）
＜解体中のモニタリング＞



★：施設の位置

【 凡例 】

★：粉じん濃度　　★：空間線量率　　---：敷地境界線

受入・分別施設（大熊①工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

★粉じん濃度

測定日	2022/9/6	2022/10/4	2022/11/8	2022/12/6
測定地点	測定結果 (mg/m^3)	測定結果 (mg/m^3)	測定結果 (mg/m^3)	測定結果 (mg/m^3)
①-1	ND	0.2	1.1	2.9
①-2	0.2	0.1	1.4	1.6
②-1	ND	ND	1.6	3.7
②-2	ND	0.2	2.1	1.4
③	ND	0.2	1.2	2.2

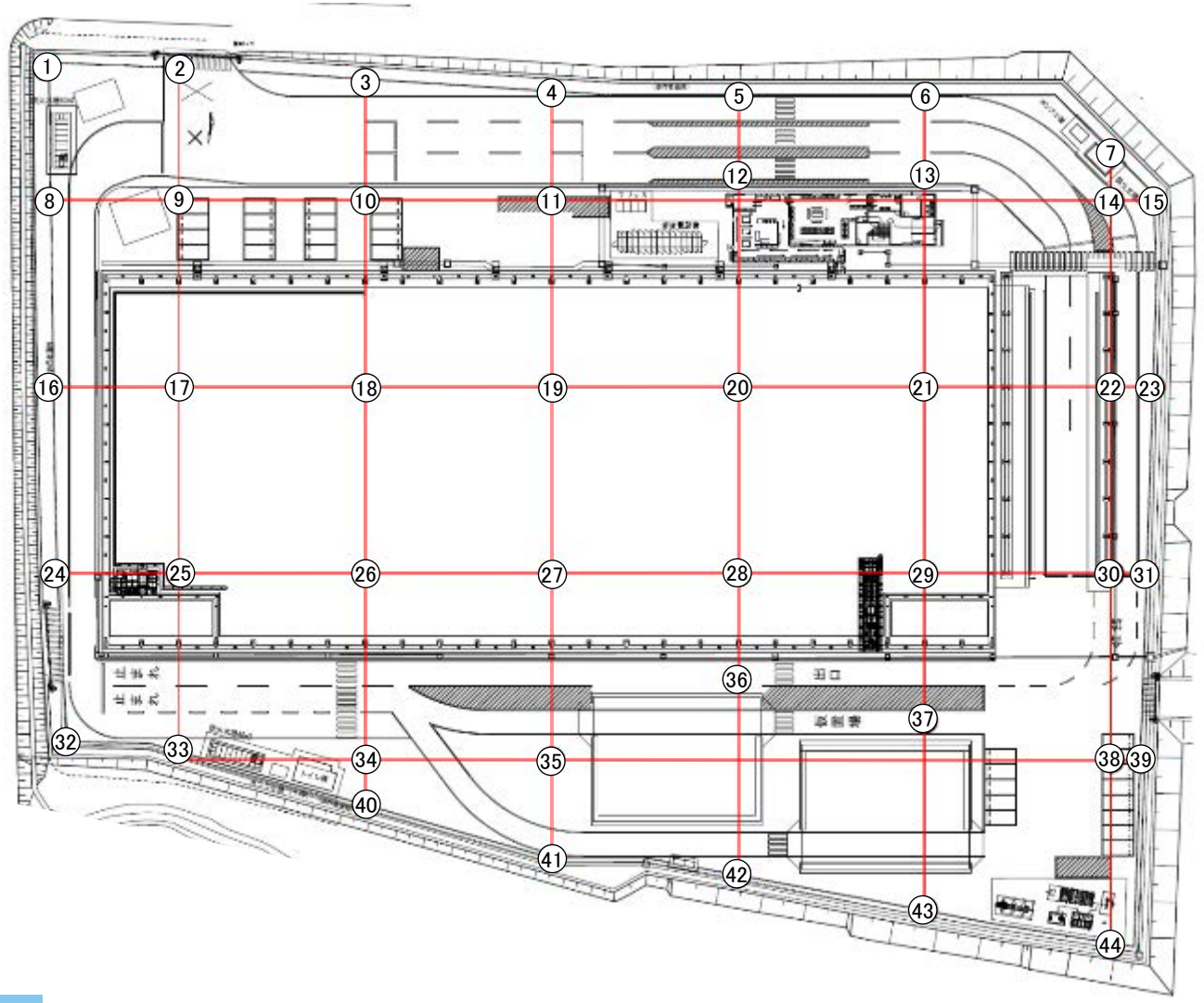
定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

★空間線量率

測定日	2022/9/7	2022/10/5	2022/11/3	2022/12/5
測定地点	測定結果 (μSv/h)	測定結果 (μSv/h)	測定結果 (μSv/h)	測定結果 (μSv/h)
①-1	0.12	0.12	0.14	0.14
①-2	0.08	0.09	0.11	0.12
②-1	0.14	0.14	0.17	0.15
②-2	0.10	0.09	0.12	0.11
③	0.16	0.11	0.15	0.13

受入・分別施設（大熊①工区）のモニタリング測定地点①
＜解体終了後の跡地確認測定（敷地内）＞



★：施設の位置

【 凡例 】

① ～ ㊹ ： 空間線量率（1m及び1cm）、表面汚染計数率（1cm）

受入・分別施設（大熊①工区）のモニタリング測定結果①

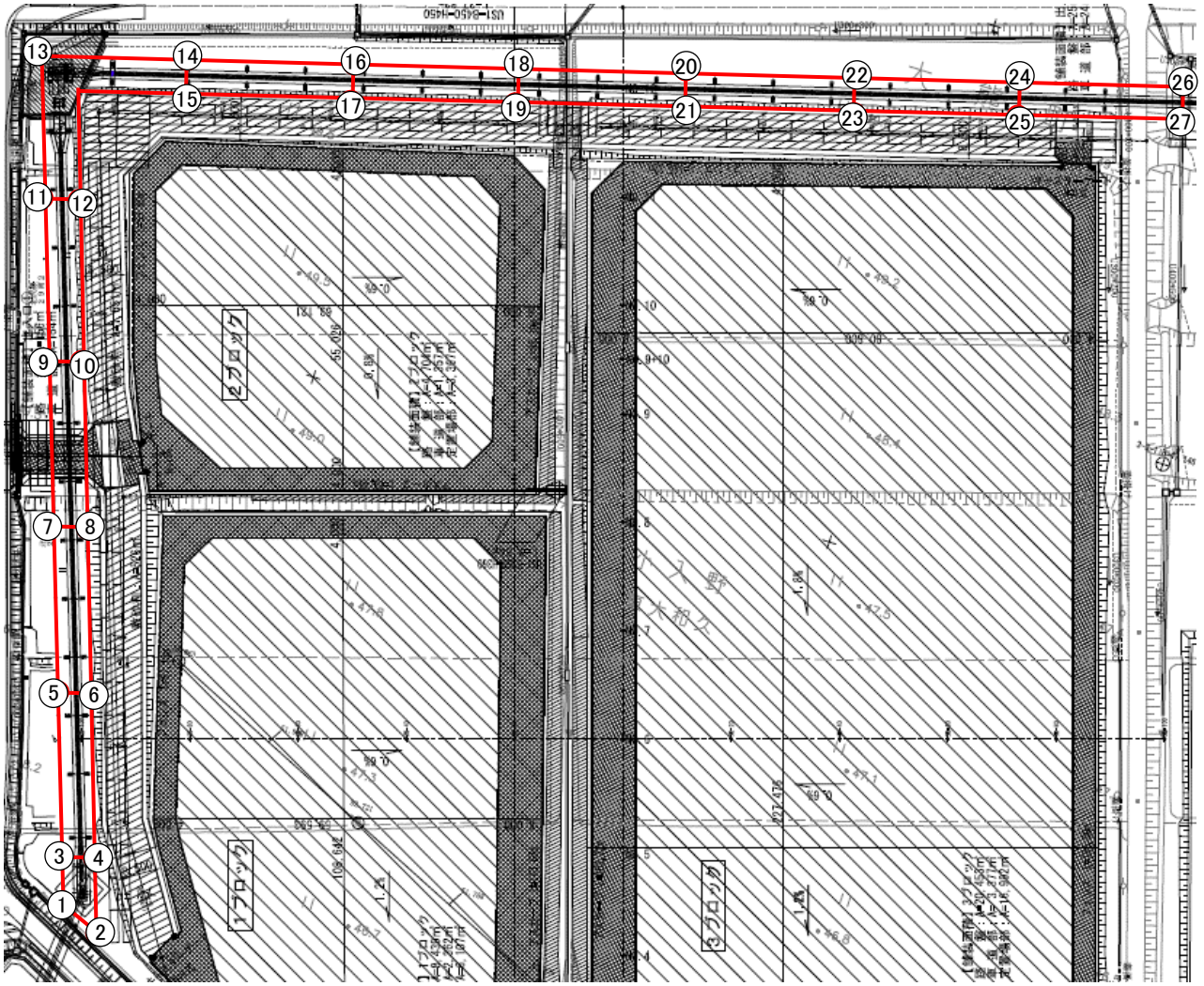
＜敷地内＞

測定地点	測定項目 / 測定日	空間線量率（μSv/h）		表面汚染計数率（cpm）
		1m	1cm	1cm
①	2022/12/19	0.23	0.19	180
②	2022/12/19	0.22	0.19	140
③	2022/12/19	0.23	0.21	130
④	2022/12/19	0.25	0.21	180
⑤	2022/12/19	0.34	0.20	150
⑥	2022/12/19	0.27	0.19	140
⑦	2022/12/19	0.32	0.19	180
⑧	2022/12/19	0.19	0.18	130
⑨	2022/12/19	0.20	0.18	130
⑩	2022/12/19	0.17	0.16	110
⑪	2022/12/19	0.19	0.16	120
⑫	2022/12/19	0.17	0.15	130
⑬	2022/12/19	0.17	0.15	130
⑭	2022/12/19	0.21	0.17	160
⑮	2022/12/19	0.30	0.19	140
⑯	2022/12/19	0.21	0.17	140
⑰	2022/12/19	0.13	0.13	120
⑱	2022/12/19	0.13	0.11	120
⑲	2022/12/19	0.12	0.11	100
⑳	2022/12/19	0.11	0.10	100
㉑	2022/12/19	0.12	0.10	130
㉒	2022/12/19	0.20	0.18	160
㉓	2022/12/19	0.21	0.18	180
㉔	2022/12/19	0.23	0.20	150
㉕	2022/12/19	0.12	0.11	140

測定地点	測定項目 / 測定日	空間線量率（μSv/h）		表面汚染計数率（cpm）
		1m	1cm	1cm
㉖	2022/12/19	0.15	0.13	130
㉗	2022/12/19	0.14	0.16	160
㉘	2022/12/19	0.12	0.12	120
㉙	2022/12/19	0.12	0.11	100
㉚	2022/12/19	0.25	0.19	180
㉛	2022/12/19	0.24	0.23	160
㉜	2022/12/19	0.59	0.52	310
㉝	2022/12/19	0.81	0.52	310
㉞	2022/12/19	0.41	0.36	220
㉟	2022/12/19	0.30	0.28	160
㊱	2022/12/19	0.21	0.19	170
㊲	2022/12/19	0.20	0.20	140
㊳	2022/12/19	0.29	0.27	190
㊴	2022/12/19	0.48	0.30	180
㊵	2022/12/19	0.69	0.45	270
㊶	2022/12/19	0.72	0.40	240
㊷	2022/12/19	0.61	0.34	240
㊸	2022/12/19	0.71	0.36	280
㊹	2022/12/19	0.60	0.36	230

表面汚染計数率管理値：13000cpm

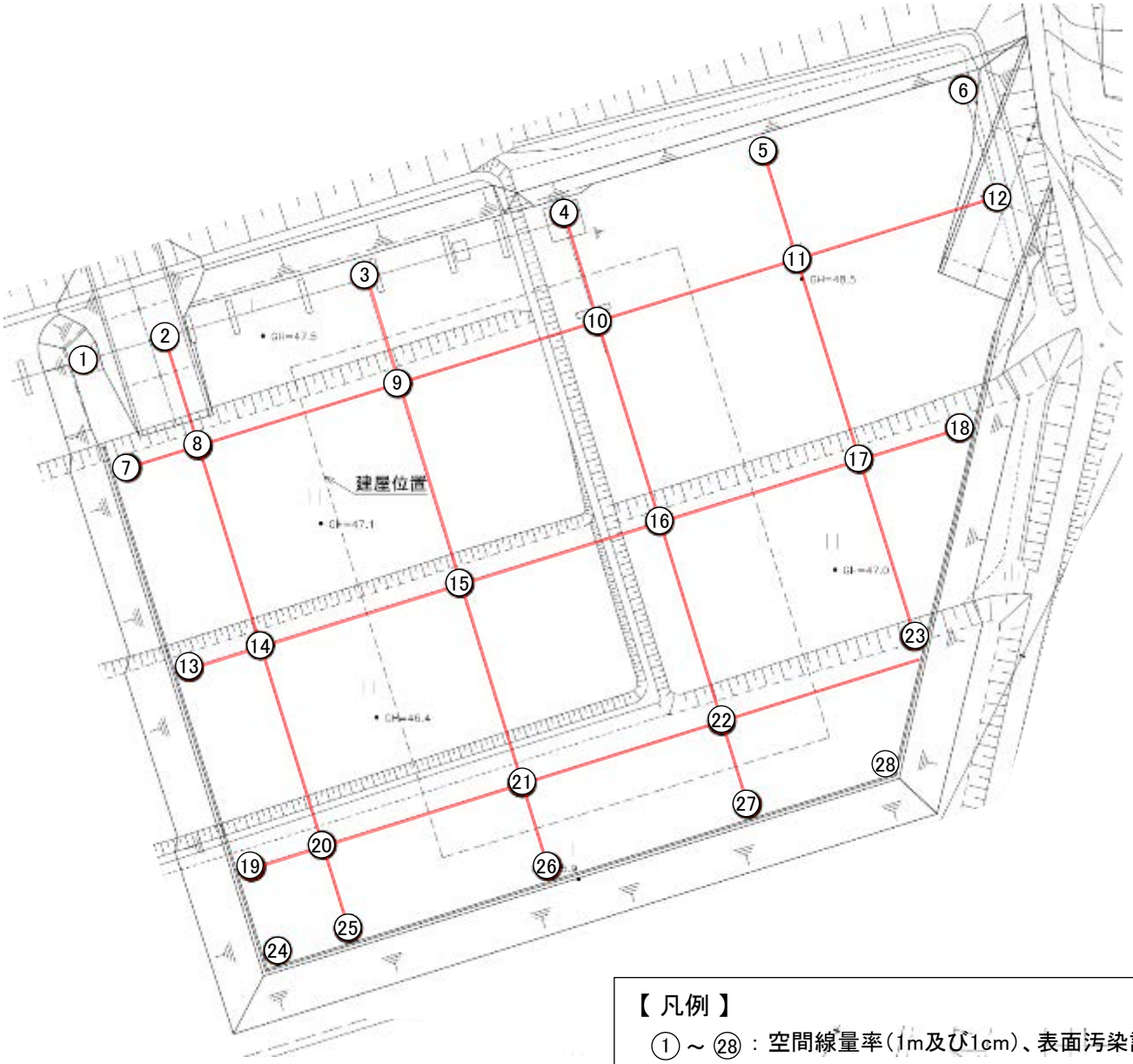
受入・分別施設（大熊①工区）のモニタリング測定地点②
＜解体終了後の跡地確認測定（ベルトコンベア）＞



★：施設の位置

【 凡例 】
①～㉗：空間線量率（1m及び1cm）、表面汚染計数率（1cm）

受入・分別施設（大熊①工区）のモニタリング測定地点③
＜解体終了後の跡地確認測定（処理土壌中継ヤード）＞



★：施設の位置

【 凡例 】
① ～ ㉘ ： 空間線量率（1m及び1cm）、表面汚染計数率（1cm）

受入・分別施設（大熊①工区）のモニタリング測定結果②③

＜ベルトコンベア＞

測定地点	測定項目 / 測定日	空間線量率（μSv/h）		表面汚染計数率（cpm）
		1m	1cm	1cm
①	2022/12/20	0.65	0.47	290
②	2022/12/20	0.67	0.42	260
③	2022/12/20	0.55	0.44	230
④	2022/12/20	0.44	0.34	220
⑤	2022/12/20	0.55	0.36	190
⑥	2022/12/20	0.58	0.59	280
⑦	2022/12/20	1.03	0.82	370
⑧	2022/12/20	0.86	0.68	490
⑨	2022/12/20	1.58	0.85	420
⑩	2022/12/20	0.73	0.43	290
⑪	2022/12/20	0.65	0.47	220
⑫	2022/12/20	0.50	0.49	330
⑬	2022/12/20	0.42	0.33	330
⑭	2022/12/20	0.82	0.48	270
⑮	2022/12/20	0.47	0.34	240
⑯	2022/12/20	0.77	0.60	270
⑰	2022/12/20	0.43	0.34	220
⑱	2022/12/20	1.26	1.15	590
⑲	2022/12/20	1.19	1.50	620
⑳	2022/12/20	2.34	3.20	1410
㉑	2022/12/20	1.30	0.91	390
㉒	2022/12/20	1.89	2.03	730
㉓	2022/12/20	1.54	1.24	650
㉔	2022/12/20	1.30	1.37	540
㉕	2022/12/20	0.74	0.73	410
㉖	2022/12/20	1.15	1.13	460
㉗	2022/12/20	0.90	0.80	380

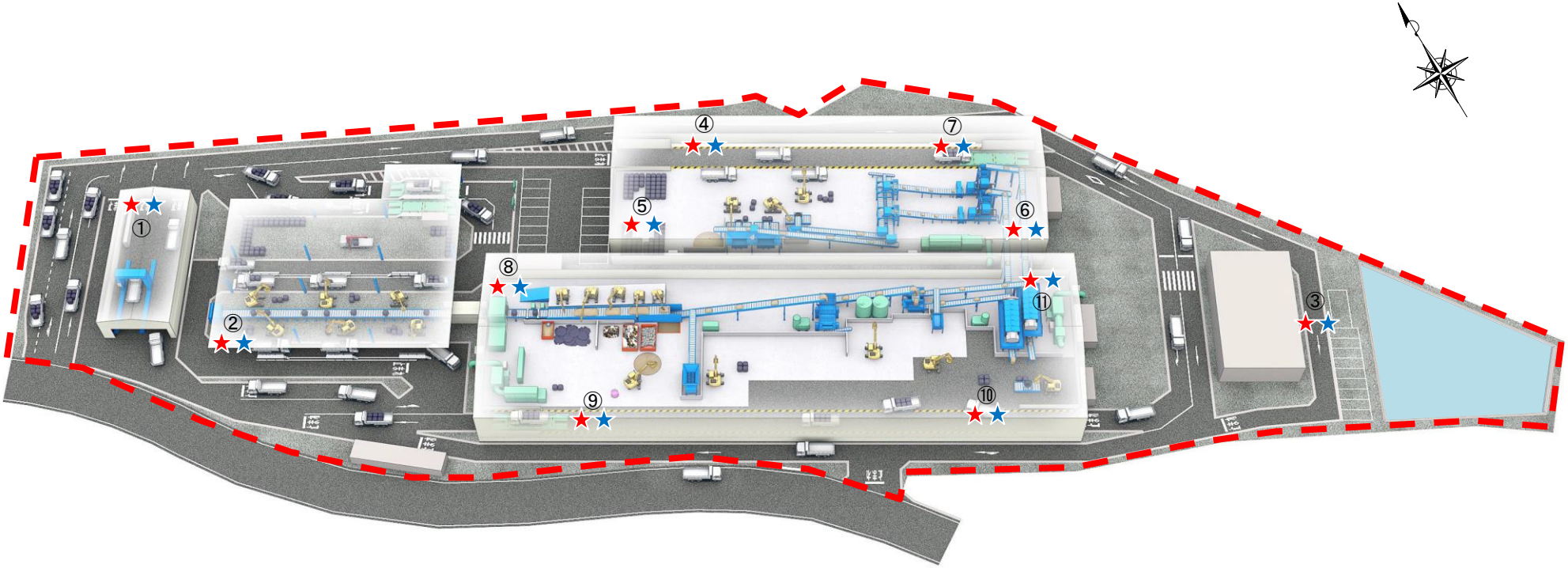
表面汚染計数率管理値：13000cpm

＜処理土壌中継ヤード＞

測定地点	測定項目 / 測定日	空間線量率（μSv/h）		表面汚染計数率（cpm）
		1m	1cm	1cm
①	2022/12/19	0.68	0.49	270
②	2022/12/19	0.46	0.35	220
③	2022/12/19	0.90	0.54	260
④	2022/12/19	0.93	0.45	210
⑤	2022/12/19	1.05	0.86	420
⑥	2022/12/19	0.78	0.60	310
⑦	2022/12/19	0.61	0.30	210
⑧	2022/12/19	0.34	0.31	180
⑨	2022/12/19	0.38	0.27	210
⑩	2022/12/19	0.25	0.21	240
⑪	2022/12/19	0.40	0.34	220
⑫	2022/12/19	0.44	0.38	240
⑬	2022/12/19	0.48	0.23	210
⑭	2022/12/19	0.24	0.20	180
⑮	2022/12/19	0.20	0.20	200
⑯	2022/12/19	0.22	0.17	190
⑰	2022/12/19	0.27	0.27	210
⑱	2022/12/19	0.60	0.24	180
⑲	2022/12/19	0.54	0.22	190
⑳	2022/12/19	0.24	0.21	170
㉑	2022/12/19	0.22	0.18	210
㉒	2022/12/19	0.19	0.16	130
㉓	2022/12/19	0.50	0.29	180
㉔	2022/12/19	0.58	0.28	160
㉕	2022/12/19	0.24	0.23	160
㉖	2022/12/19	0.22	0.18	200
㉗	2022/12/19	0.22	0.21	140
㉘	2022/12/19	0.41	0.22	180

表面汚染計数率管理値：13000cpm

受入・分別施設（大熊②工区、第1期）のモニタリング測定地点（月次測定）
＜解体中のモニタリング＞



★：施設の位置

【 凡例 】

★：粉じん濃度　　★：空間線量率　　---：敷地境界線

受入・分別施設（大熊②工区、第1期）のモニタリング測定結果（月次測定）

★粉じん濃度

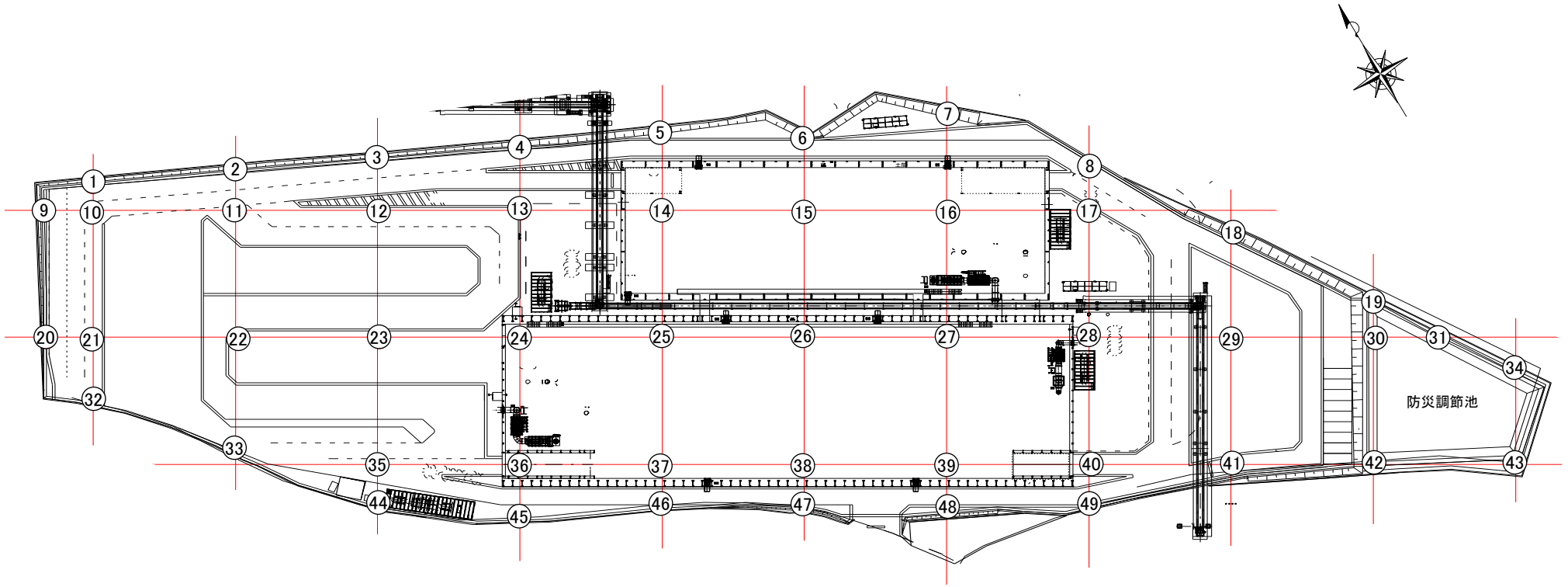
測定日	2022/7/7	2022/8/4	2022/9/1
測定地点	測定結果 (mg/m^3)	測定結果 (mg/m^3)	測定結果 (mg/m^3)
①	0.6	0.7	0.7
②	0.3	0.4	0.3
③	0.7	0.7	0.4
④	1.0	1.6	0.6
⑤	0.9	1.3	0.2
⑥	0.8	0.9	0.2
⑦	0.7	0.8	0.6
⑧	1.8	3.1	0.4
⑨	0.9	1.2	0.6
⑩	2.9	2.4	0.2
⑪	1.1	1.3	1.0

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3

★空間線量率

測定日	2022/7/19	2022/8/8	2022/9/14
測定地点	測定結果 (μSv/h)	測定結果 (μSv/h)	測定結果 (μSv/h)
①	0.19	0.11	0.22
②	0.22	0.21	0.26
③	0.16	0.16	0.16
④	0.16	0.17	0.18
⑤	0.13	0.14	0.15
⑥	0.18	0.18	0.17
⑦	0.17	0.21	0.19
⑧	0.14	0.13	0.15
⑨	0.24	0.16	0.17
⑩	0.17	0.17	0.18
⑪	0.15	0.14	0.16

受入・分別施設（大熊②工区、第1期）のモニタリング測定地点
＜解体終了後の跡地確認測定＞



★ :施設の位置

【 凡例 】
① ～ ㊾ ： 空間線量率（1m及び1cm）、表面汚染計数率（1cm）

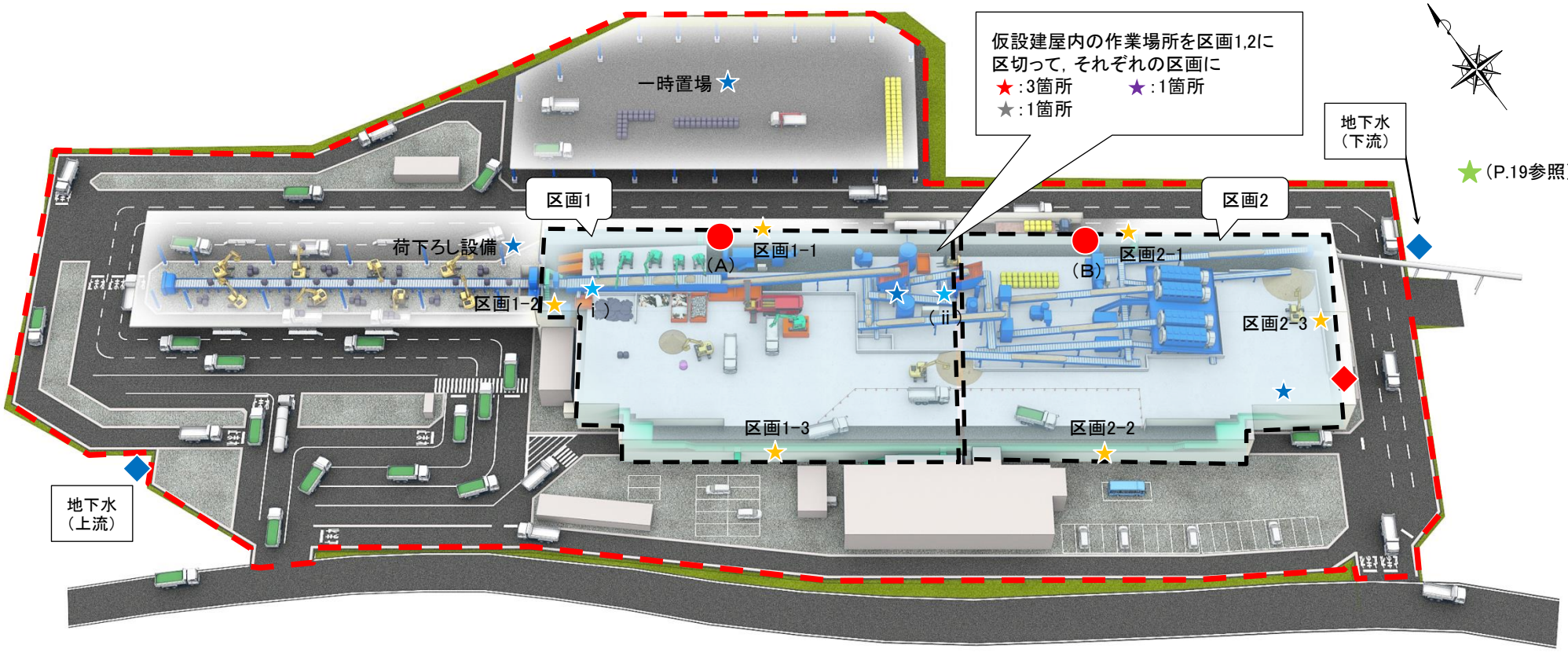
受入・分別施設（大熊②工区、第1期）のモニタリング測定結果

測定地点	測定項目 / 測定日	空間線量率 (μSv/h)		表面汚染計数率 (cpm)
		1m	1cm	1cm
①	2022/9/29	0.34	0.30	110
②	2022/9/29	0.30	0.28	150
③	2022/9/29	0.23	0.18	100
④	2022/9/29	0.23	0.17	110
⑤	2022/9/29	0.21	0.23	150
⑥	2022/9/29	0.63	0.42	250
⑦	2022/9/29	0.58	0.43	220
⑧	2022/9/29	0.76	0.31	180
⑨	2022/9/29	0.29	0.24	160
⑩	2022/9/29	0.20	0.20	110
⑪	2022/9/29	0.18	0.18	140
⑫	2022/9/29	0.19	0.18	130
⑬	2022/9/29	0.16	0.18	90
⑭	2022/9/29	0.15	0.16	130
⑮	2022/9/29	0.18	0.17	170
⑯	2022/9/29	0.18	0.17	150
⑰	2022/9/29	0.18	0.18	150
⑱	2022/9/29	0.57	0.33	210
⑲	2022/9/29	0.92	0.64	300
⑳	2022/9/29	0.31	0.29	190
㉑	2022/9/29	0.21	0.20	140
㉒	2022/9/29	0.18	0.19	150
㉓	2022/9/29	0.19	0.19	140
㉔	2022/9/29	0.14	0.14	120
㉕	2022/9/29	0.14	0.14	110

測定地点	測定項目 / 測定日	空間線量率 (μSv/h)		表面汚染計数率 (cpm)
		1m	1cm	1cm
㉖	2022/9/29	0.14	0.15	170
㉗	2022/9/29	0.14	0.14	140
㉘	2022/9/29	0.16	0.17	230
㉙	2022/9/29	0.21	0.21	140
㉚	2022/9/29	0.37	0.36	180
㉛	2022/9/29	0.98	0.45	270
㉜	2022/9/29	0.27	0.25	180
㉝	2022/9/29	0.25	0.23	150
㉞	2022/9/29	0.80	0.60	220
㉟	2022/9/29	0.19	0.19	150
㊱	2022/9/29	0.17	0.17	160
㊲	2022/9/29	0.15	0.16	140
㊳	2022/9/29	0.16	0.16	170
㊴	2022/9/29	0.16	0.16	150
㊵	2022/9/29	0.15	0.15	140
㊶	2022/9/29	0.20	0.18	130
㊷	2022/9/29	0.36	0.39	180
㊸	2022/9/29	0.98	0.71	320
㊹	2022/9/29	0.27	0.28	160
㊺	2022/9/29	0.26	0.28	190
㊻	2022/9/29	0.26	0.28	140
㊼	2022/9/29	0.26	0.34	200
㊽	2022/9/29	0.23	0.24	200
㊾	2022/9/29	0.17	0.19	100

表面汚染計数率管理値：13000cpm

受入・分別施設（大熊②工区、第2期）のモニタリング測定地点（月次測定）①

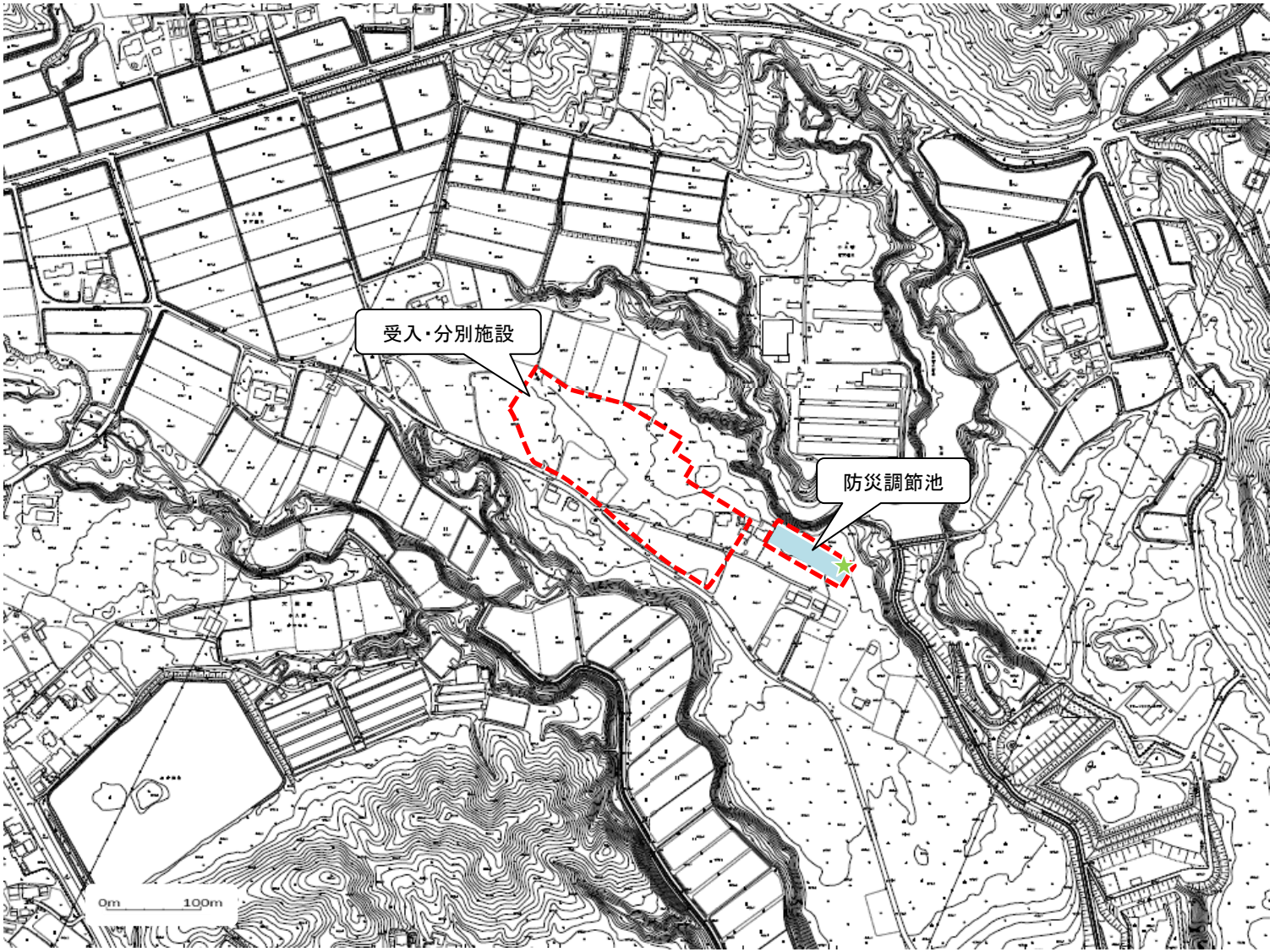


★:施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水中の放射能濃度等
- ●：排気中の放射能濃度
- ◆：排水中の放射能濃度
- ★：防災調節池の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ---：敷地境界線

受入・分別施設（大熊②工区、第2期）のモニタリング測定地点（月次測定）②



【 凡例 】

★ :防災調節池観測地点

--- : 敷地境界線

受入・分別施設（大熊②工区、第2期）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目 / 測定日	電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）
上流	2018/6/13 （稼働前）	11	9.0
	2022/7/7 ～2023/1/5 （稼働後）※	15	14
下流	2018/6/13 （稼働前）	7.9	6.2
	2022/7/7 ～2023/1/5 （稼働後）※	5.5	4.2

※期間中の最大値を示す。

測定地点	測定項目 / 測定日	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
上流	2018/6/13 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/5 （稼働後）	ND	ND
下流	2018/6/13 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/5 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●排気中の放射能濃度

測定地点		2022/7/7～2023/1/6 Cs-134（Bq/m^{3}N）	Cs-137（Bq/m^{3}N）
集じん機A	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND

放射能濃度検出下限値（ろ紙部）：セシウム134：0.1 Bq/m^{3}N、セシウム137：0.1 Bq/m^{3}N
放射能濃度検出下限値（ドレン部）：セシウム134：0.5 Bq/m^{3}N、セシウム137：0.5 Bq/m^{3}N
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆排水中の放射能濃度

測定項目 / 測定日	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
2022/7/12 ～2023/1/20 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★防災調節池の放射能濃度

測定項目 / 測定日	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
2022/7/7 ～2023/1/5 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1 Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★粉じん濃度

測定地点	2022/7/8 ～2023/1/6 粉じん濃度※（mg/m^3）
区画1-1	1.5
区画1-2	1.2
区画1-3	3.4
区画2-1	1.8
区画2-2	2.7
区画2-3	1.7

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2022/7/19 ～2023/1/27 空間線量率（μSv/h） 最小値	最大値
区画1	0.14	0.18
区画2	0.13	0.27
荷下ろし設備	0.22	1.15
一時置場	0.20	0.27

★空気中の放射能濃度

測定地点	2022/7/19～2023/1/27 Cs-134（Bq/cm^3）	Cs-137（Bq/cm^3）
区画1	ND	ND
区画2	ND	ND

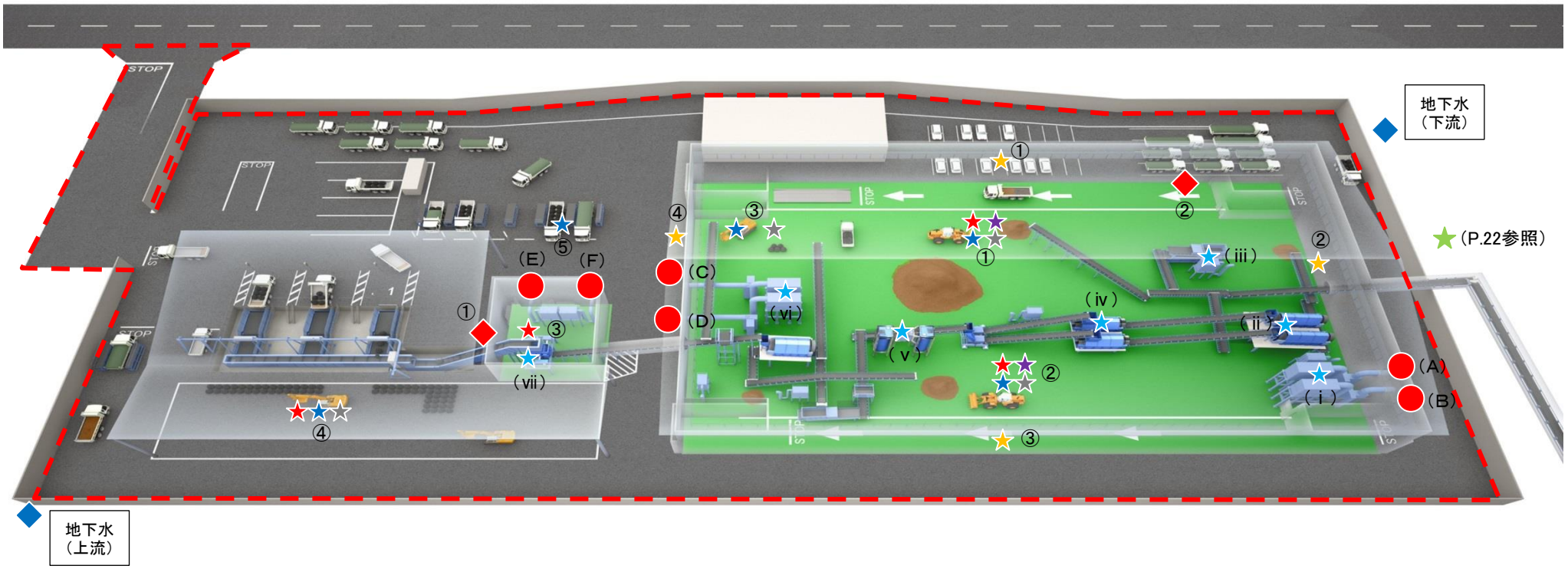
放射能濃度検出下限値：セシウム134：1.0×10^{-7}Bq/cm^3、セシウム137：1.0×10^{-7}Bq/cm^3
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点		2022/7/19 ～2023/1/27 表面汚染密度（Bq/cm^2）
床	区画1	ND
	区画2	ND
壁	区画1-1	ND
	区画1-2	ND
	区画1-3	ND
	区画2-1	ND
	区画2-2	ND
	区画2-3	ND
設備	（ｉ）破袋機操作盤	ND
	（ii）改質機操作盤	ND

表面汚染密度検出下限値：0.14Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

受入・分別施設（大熊③工区）のモニタリング測定地点（月次測定）①

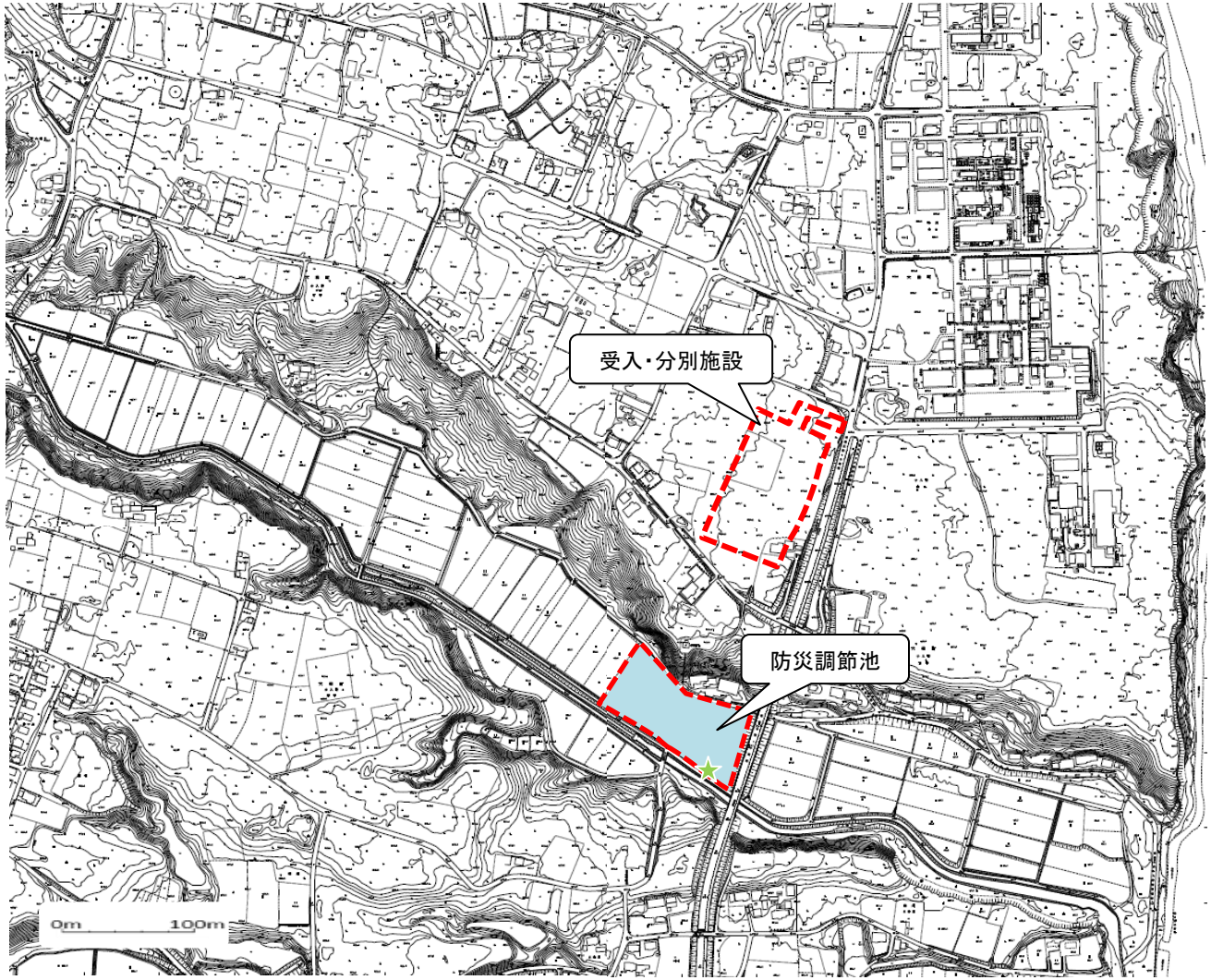


★:施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水中の放射能濃度等
- ●：排気中の放射能濃度
- ◆：排水中の放射能濃度
- ★：防災調節池の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ---：敷地境界線

受入・分別施設（大熊③工区）のモニタリング測定地点（月次測定）②



【 凡例 】

★ :防災調節池観測地点　　--- : 敷地境界線

受入・分別施設（大熊③工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目 / 測定日	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2018/7/6 （稼働前）	17	7.5
	2022/7/7 ～2023/1/12 （稼働後）※	23	22
下流	2018/7/6 （稼働前）	17	22
	2022/7/7 ～2023/1/12 （稼働後）※	15	23

※期間中の最大値を示す。

測定地点	測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
上流	2018/7/6 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/12 （稼働後）	ND	ND
下流	2018/7/6 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/12 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●排気中の放射能濃度

測定地点		2022/7/7～2023/1/12 Cs-134 (Bq/m^3N)	Cs-137 (Bq/m^3N)
集じん機A	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
集じん機E	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
集じん機F	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND

放射能濃度検出下限値（ろ紙部）：セシウム134：0.4 Bq/m^3N、セシウム137：0.4 Bq/m^3N
放射能濃度検出下限値（ドレン部）：セシウム134：0.5 Bq/m^3N、セシウム137：0.6 Bq/m^3N
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆排水中の放射能濃度

排水実績はないため測定なし。

★防災調節池の放射能濃度

測定地点	測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
	2022/7/7 ～2023/1/12 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1 Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★粉じん濃度

測定地点	2022/7/8 ～2023/1/13 粉じん濃度※ (mg/m^3)
①	4.0
②	2.8
③	1.4
④	0.2

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2022/7/8 ～2023/1/13 空間線量率 (μSv/h) 最小値	最大値
①	0.18	0.24
②	0.18	0.22
③	0.16	0.20
④	0.18	0.27
⑤	0.19	0.23

★空気中の放射能濃度

測定地点	2022/7/8～2023/1/13 Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
①	ND	ND
②	ND	ND

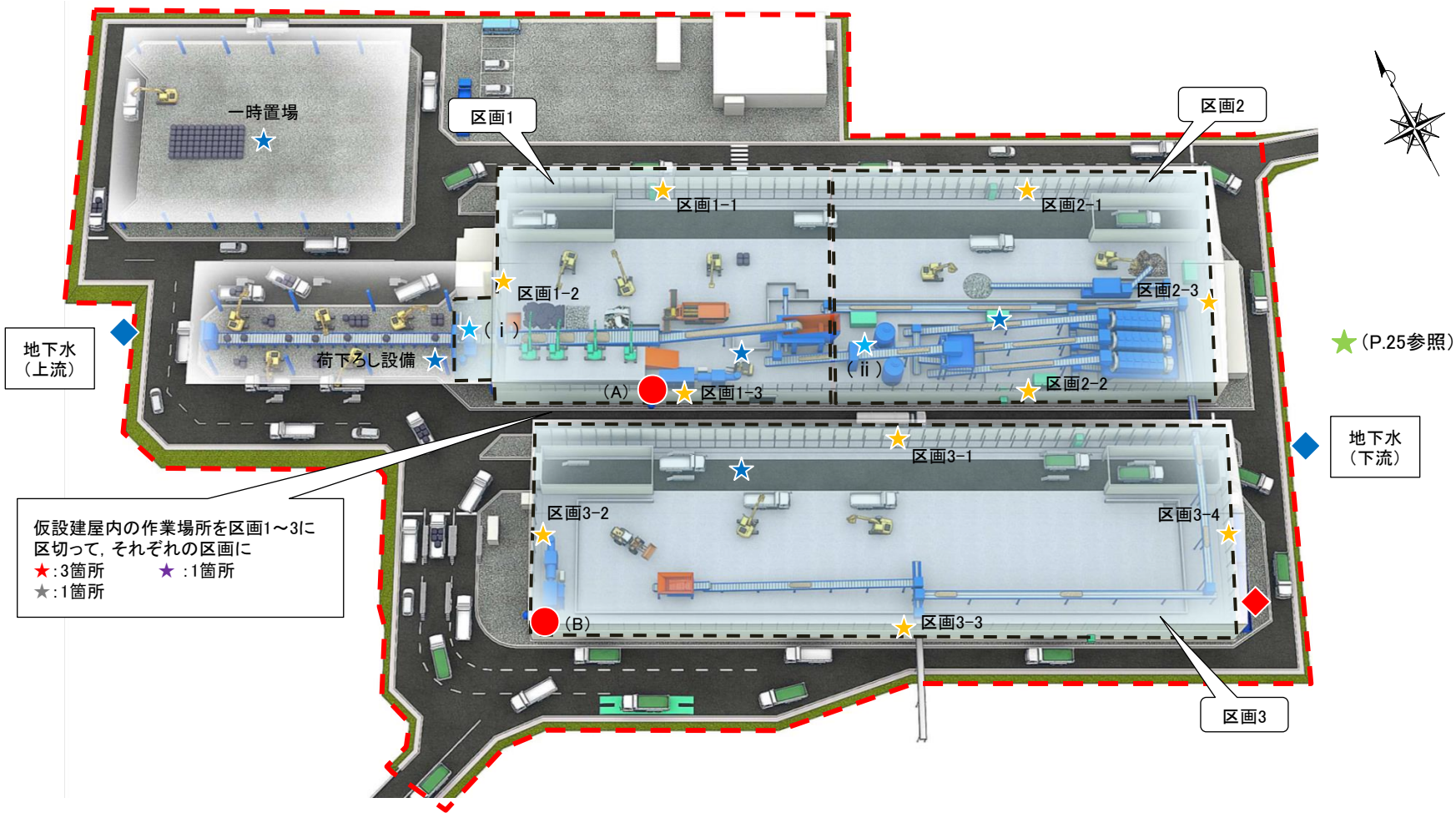
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点		2022/7/8 ～2023/1/13 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
床	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
壁	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
設備	（ⅰ）集じん機②	ND
	（ⅱ）分別機	ND
	（ⅲ）集じん機①	ND
	（ⅳ）ベルトコンベア	ND
	（ⅴ）改質材貯留サイロ	ND
	（ⅵ）集じん機③	ND
	（ⅶ）破袋機	ND

表面汚染密度検出下限値：0.14Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

受入・分別施設（大熊④工区）のモニタリング測定地点（月次測定）①

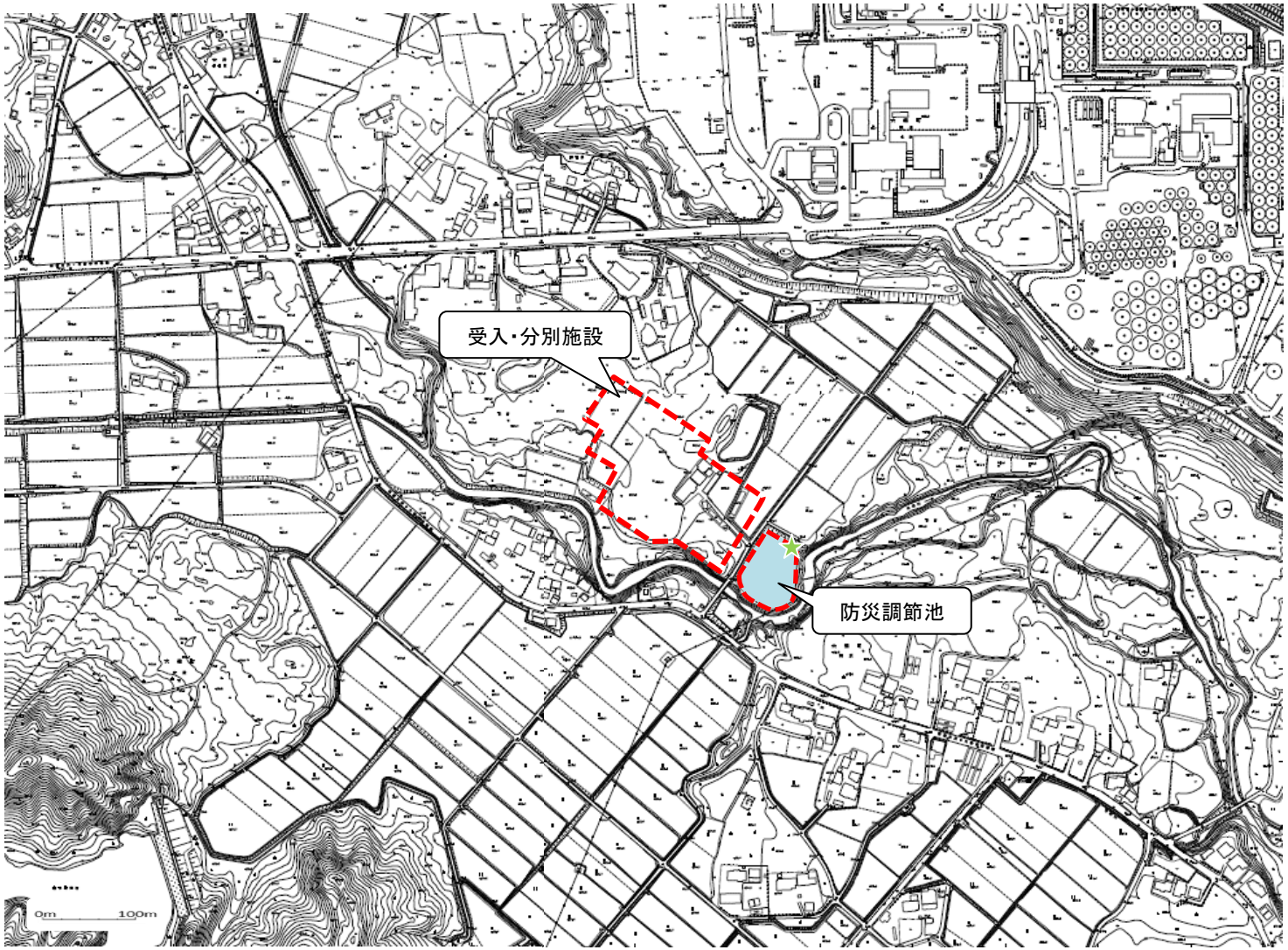


★:施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水中の放射能濃度等
- ●：排気中の放射能濃度
- ◆：排水中の放射能濃度
- ★：防災調節池の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ---：敷地境界線

受入・分別施設（大熊④工区）のモニタリング測定地点（月次測定）②



【 凡例 】

★ :防災調節池観測地点　　--- : 敷地境界線

受入・分別施設（大熊④工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目 / 測定日	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2019/7/24 （稼働前）	12	8.1
	2022/7/7 ～2023/1/5 （稼働後）※	23	10
下流	2019/7/24 （稼働前）	14	5.0
	2022/7/7 ～2023/1/5 （稼働後）※	16	9.9

※期間中の最大値を示す。

測定地点	測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
上流	2019/7/24 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/5 （稼働後）	ND	ND
下流	2019/7/24 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/5 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●排気中の放射能濃度

測定地点		2022/7/8～2023/1/5 Cs-134 (Bq/m^3N)	Cs-137 (Bq/m^3N)
集じん機A	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND

放射能濃度検出下限値（ろ紙部）：セシウム134： 0.1 Bq/m^3N、セシウム137： 0.1 Bq/m^3N
放射能濃度検出下限値（ドレン部）：セシウム134： 0.5 Bq/m^3N、セシウム137： 0.5 Bq/m^3N
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆排水中の放射能濃度

測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2022/7/4 ～2023/1/6 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★防災調節池の放射能濃度

測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2022/7/7 ～2023/1/5 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：１Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★粉じん濃度

測定地点	2022/7/8 ～2023/1/6 粉じん濃度※ (mg/m^3)
区画1-1	ND
区画1-2	1.1
区画1-3	0.9
区画2-1	1.2
区画2-2	0.8
区画2-3	1.4
区画3-1	1.3
区画3-2	1.1
区画3-3	0.8

定量下限値：$0.1mg/m^3$、高濃度粉じんの下限値：$10mg/m^3$
NDとは定量下限値未満であることを示す。
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2022/7/22 ～2023/1/27 空間線量率 (μSv/h) 最小値	最大値
区画1	0.23	0.31
区画2	0.21	0.26
区画3	0.26	0.34
荷下ろし設備	0.37	0.46
一時置場	0.44	0.49

★空気中の放射能濃度

測定地点	2022/7/22～2023/1/27 Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
区画1	ND	ND
区画2	ND	ND
区画3	ND	ND

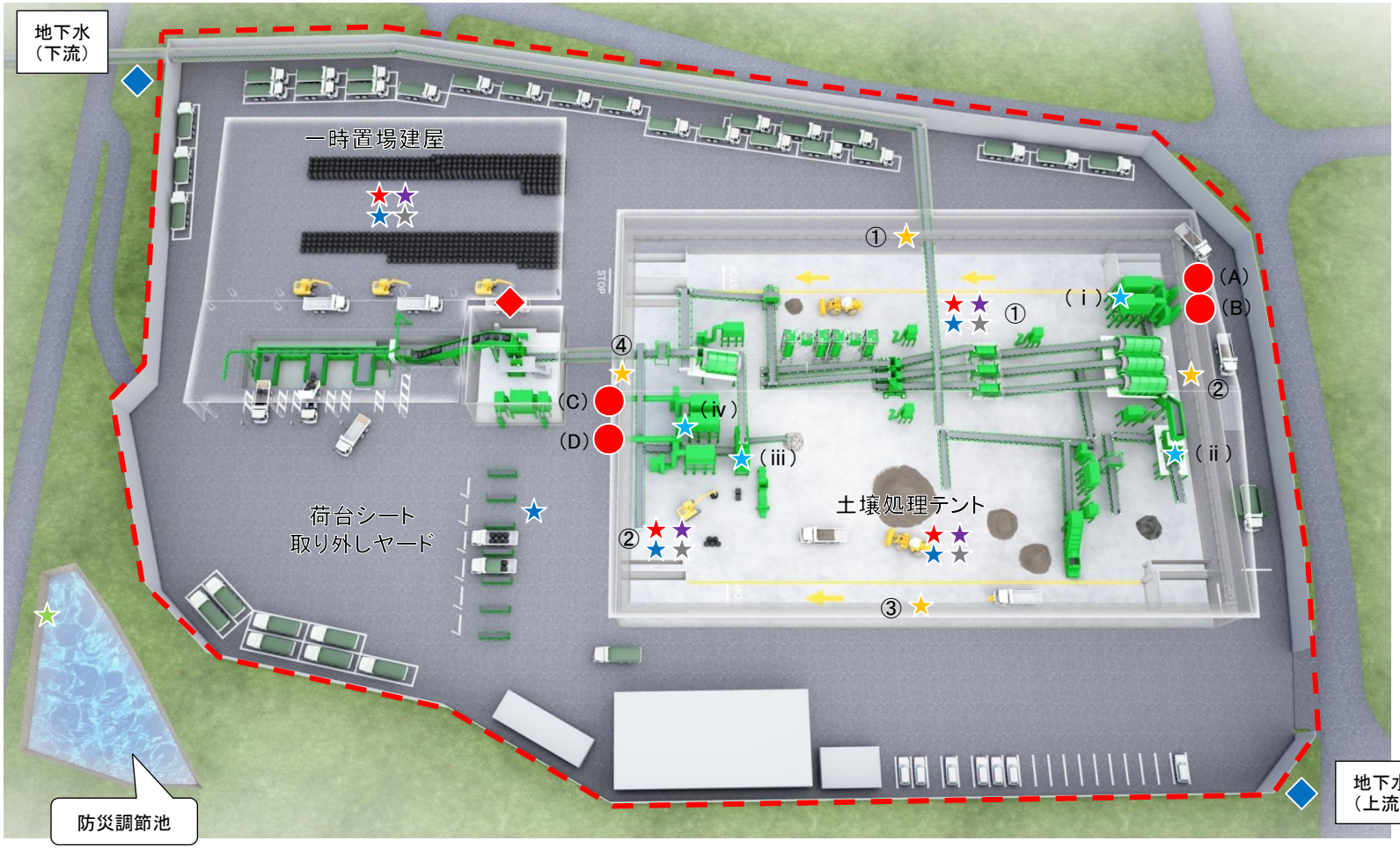
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点		2022/7/22 ～2023/1/27 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
床	区画1	ND
	区画2	ND
	区画3	ND
壁	区画1-1	ND
	区画1-2	ND
	区画1-3	ND
	区画2-1	ND
	区画2-2	ND
	区画2-3	ND
	区画3-1	ND
	区画3-2	ND
	区画3-3	ND
	区画3-4	ND
設備	（ｉ）破袋機操作盤	ND
	（ii）改質機操作盤	ND

表面汚染密度検出下限値：$0.14Bq/cm^2$
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：$40Bq/cm^2$

受入・分別施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定地点（月次測定）



★：施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水中の放射能濃度等
- ●：排気中の放射能濃度
- ◆：排水中の放射能濃度
- ★：防災調節池の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ---：敷地境界線

受入・分別施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目 / 測定日	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2019/7/26 （稼働前）	16	20
	2022/7/13 ～2023/1/11 （稼働後）※	18	12
下流	2019/7/26 （稼働前）	21	10
	2022/7/13 ～2023/1/11 （稼働後）※	28	13

※期間中の最大値を示す。

測定地点	測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
上流	2019/7/26 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/5 （稼働後）	ND	ND
下流	2019/7/26 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/5 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●排気中の放射能濃度

測定地点		2022/7/13～2023/1/11 Cs-134 (Bq/m^3N)	Cs-137 (Bq/m^3N)
集じん機A	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND

放射能濃度検出下限値（ろ紙部）：セシウム134：0.2 Bq/m^3N、セシウム137：0.2 Bq/m^3N
放射能濃度検出下限値（ドレン部）：セシウム134：1.0 Bq/m^3N、セシウム137：1.0 Bq/m^3N
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆排水中の放射能濃度

排水実績はないため測定なし。

★防災調節池の放射能濃度

測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2022/7/7 ～2023/1/5 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1 Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★粉じん濃度

測定地点	2022/7/13 ～2023/1/11 粉じん濃度※ (mg/m^3)
①	5.4
②	3.7
土壌処理テント	4.2
一時置場建屋	0.4

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2022/7/13 ～2023/1/11 空間線量率 (μSv/h) 最小値	最大値
①	0.22	0.26
②	0.29	0.35
土壌処理テント	0.27	0.41
一時置場建屋	0.27	0.32
荷台シート取り外しヤード	0.46	0.53

★空気中の放射能濃度

測定地点	2022/7/13～2023/1/11 Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
①	ND	ND
②	ND	ND
土壌処理テント	ND	ND
一時置場建屋	ND	ND

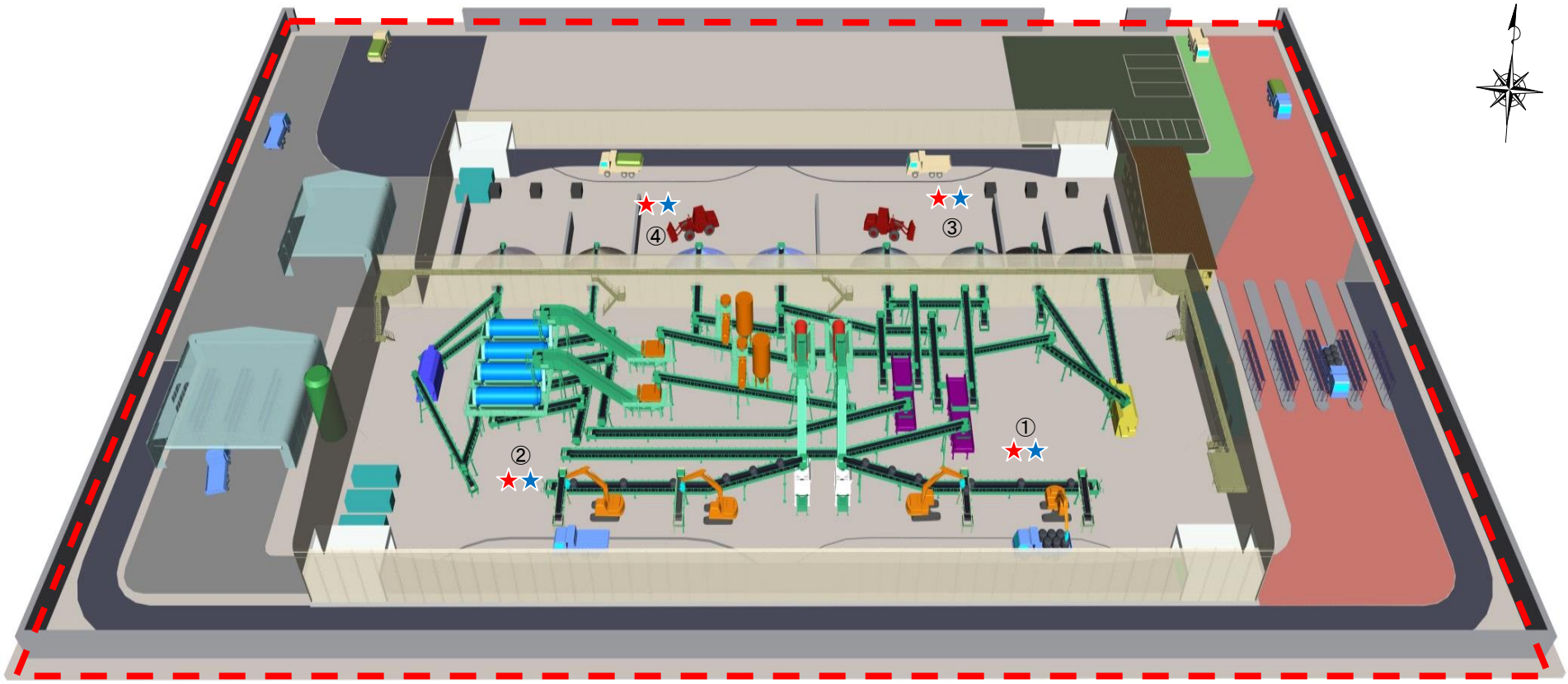
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点		2022/7/13 ～2023/1/11 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
床	①	ND
	②	ND
	土壌処理テント	ND
	一時置場建屋	ND
壁	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
設備	（ｉ）集じん機No.14,15	ND
	（ii）ベルトセパレータ	ND
	（iii）バリオセパレータ	ND
	（iv）集じん機No.12,13	ND

表面汚染密度検出下限値：0.80Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

受入・分別施設（双葉①工区、第1期）のモニタリング測定地点（月次測定）
＜解体中のモニタリング＞



★：施設の位置

【 凡例 】

★：粉じん濃度　　★：空間線量率　　---：敷地境界線

受入・分別施設（双葉①工区、第1期）のモニタリング測定結果（月次測定）

★粉じん濃度

測定日	2022/7/7	2022/8/4	2022/9/8	2022/10/6	2022/11/10	2022/12/8
測定地点	測定結果 (mg/m^3)	測定結果 (mg/m^3)	測定結果 (mg/m^3)	測定結果 (mg/m^3)	測定結果 (mg/m^3)	測定結果 (mg/m^3)
①受入　東	0.2	0.8	ND	ND	ND	ND
②受入　西	0.1	1.1	ND	ND	ND	ND
③搬出　東	ND	ND	ND	ND	0.1	ND
④搬出　西	ND	ND	0.1	0.1	ND	ND

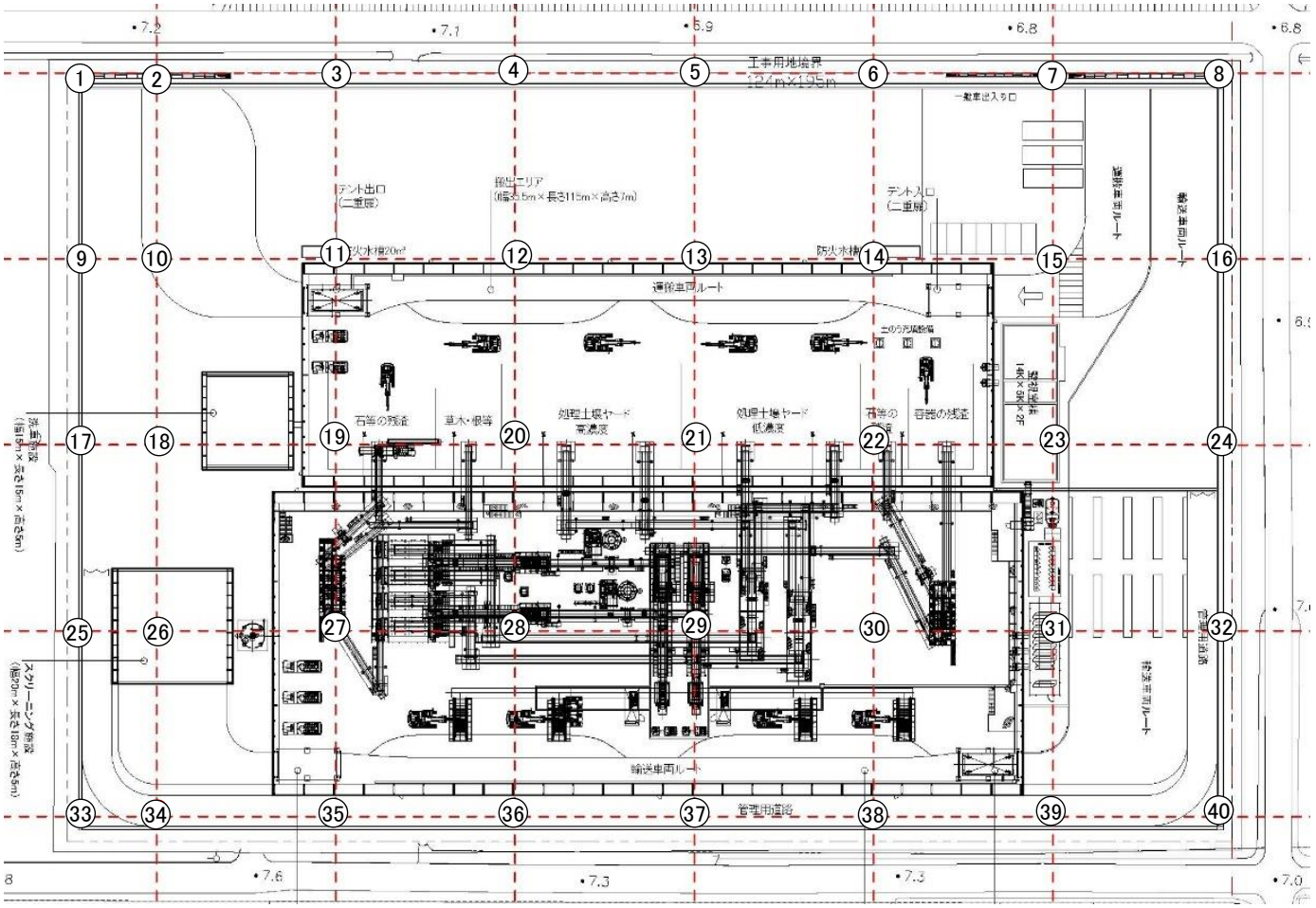
定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

★空間線量率

測定日	2022/7/7	2022/8/4	2022/9/8	2022/10/6	2022/11/10	2022/12/8
測定地点	測定結果 (μSv/h)	測定結果 (μSv/h)	測定結果 (μSv/h)	測定結果 (μSv/h)	測定結果 (μSv/h)	測定結果 (μSv/h)
①受入　東	0.10	0.09	0.09	0.08	0.09	0.09
②受入　西	0.09	0.10	0.10	0.08	0.08	0.10
③搬出　東	0.10	0.08	0.10	0.09	0.08	0.09
④搬出　西	0.10	0.09	0.10	0.08	0.08	0.09

受入・分別施設（双葉①工区、第1期）のモニタリング測定地点
＜解体終了後の跡地確認測定＞



★：施設の位置

【 凡例 】
①～㊵ ： 空間線量率（1m及び1cm）、表面汚染計数率（1cm）

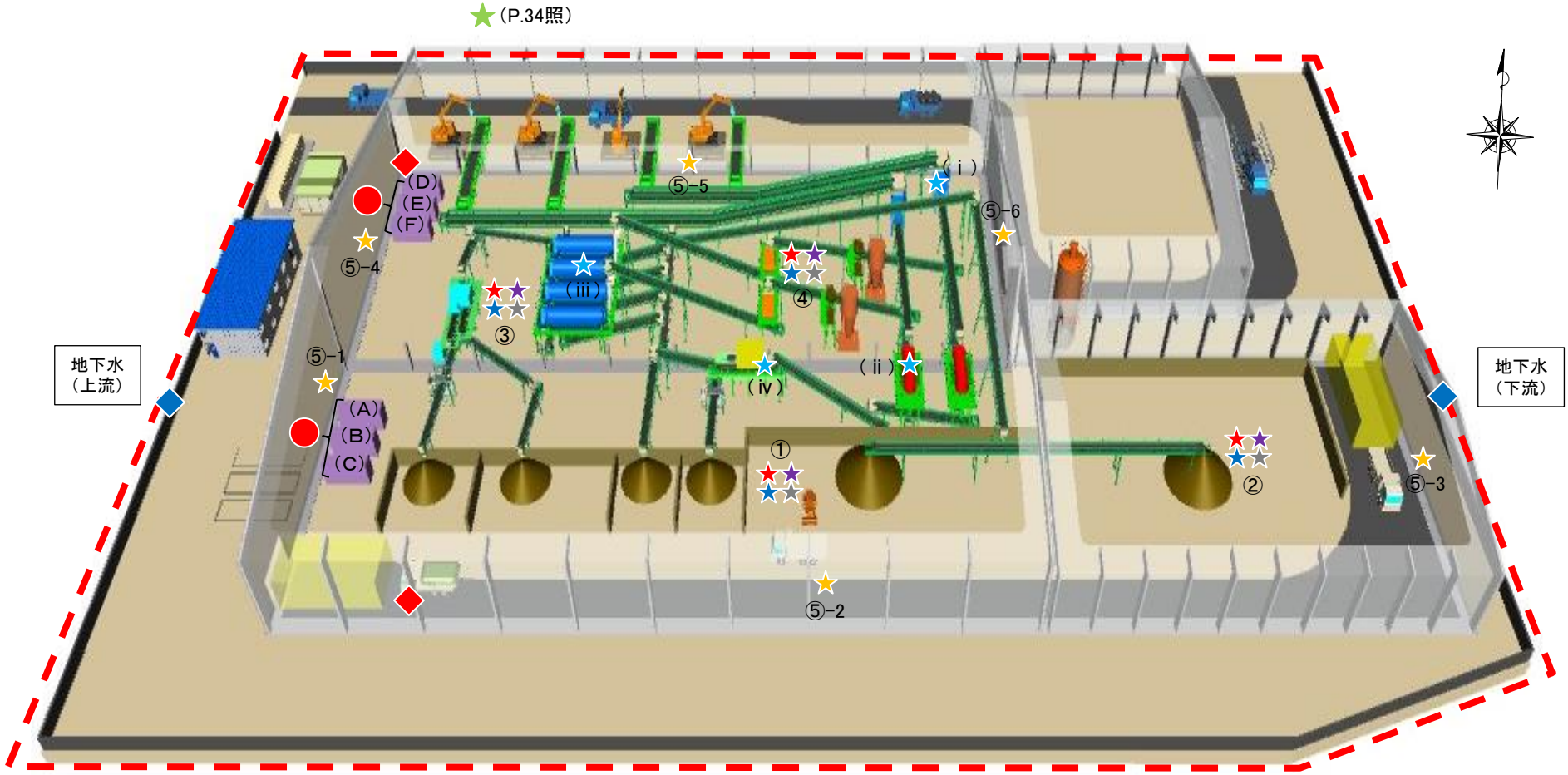
受入・分別施設（双葉①工区、第1期）のモニタリング測定結果

測定地点	測定項目 / 測定日	空間線量率（μSv/h）		表面汚染計数率（cpm）
		1m	1cm	1cm
①	2022/12/12	0.12	0.09	117
②	2022/12/12	0.09	0.08	112
③	2022/12/12	0.12	0.12	148
④	2022/12/12	0.12	0.16	156
⑤	2022/12/12	0.12	0.12	148
⑥	2022/12/12	0.10	0.11	122
⑦	2022/12/12	0.09	0.08	105
⑧	2022/12/12	0.08	0.08	129
⑨	2022/12/12	0.13	0.13	156
⑩	2022/12/12	0.12	0.11	125
⑪	2022/12/12	0.13	0.17	136
⑫	2022/12/12	0.12	0.13	137
⑬	2022/12/12	0.11	0.13	147
⑭	2022/12/12	0.12	0.12	122
⑮	2022/12/12	0.12	0.13	134
⑯	2022/12/12	0.09	0.09	138
⑰	2022/12/12	0.12	0.11	137
⑱	2022/12/12	0.10	0.11	126
⑲	2022/12/12	0.12	0.12	122
⑳	2022/12/12	0.11	0.10	125
㉑	2022/12/12	0.10	0.10	127
㉒	2022/12/12	0.11	0.11	119
㉓	2022/12/12	0.13	0.13	145
㉔	2022/12/12	0.10	0.10	111
㉕	2022/12/12	0.13	0.13	162

測定地点	測定項目 / 測定日	空間線量率（μSv/h）		表面汚染計数率（cpm）
		1m	1cm	1cm
㉖	2022/12/12	0.11	0.12	136
㉗	2022/12/12	0.11	0.12	148
㉘	2022/12/12	0.11	0.11	119
㉙	2022/12/12	0.11	0.10	148
㉚	2022/12/12	0.11	0.10	105
㉛	2022/12/12	0.13	0.15	155
㉜	2022/12/12	0.10	0.09	135
㉝	2022/12/12	0.15	0.14	145
㉞	2022/12/12	0.13	0.15	136
㉟	2022/12/12	0.12	0.11	140
㊱	2022/12/12	0.11	0.11	126
㊲	2022/12/12	0.11	0.10	117
㊳	2022/12/12	0.09	0.09	152
㊴	2022/12/12	0.09	0.09	142
㊵	2022/12/12	0.10	0.09	131

表面汚染計数率管理値：13000cpm

受入・分別施設（双葉①工区、第2期）のモニタリング測定地点（月次測定）①

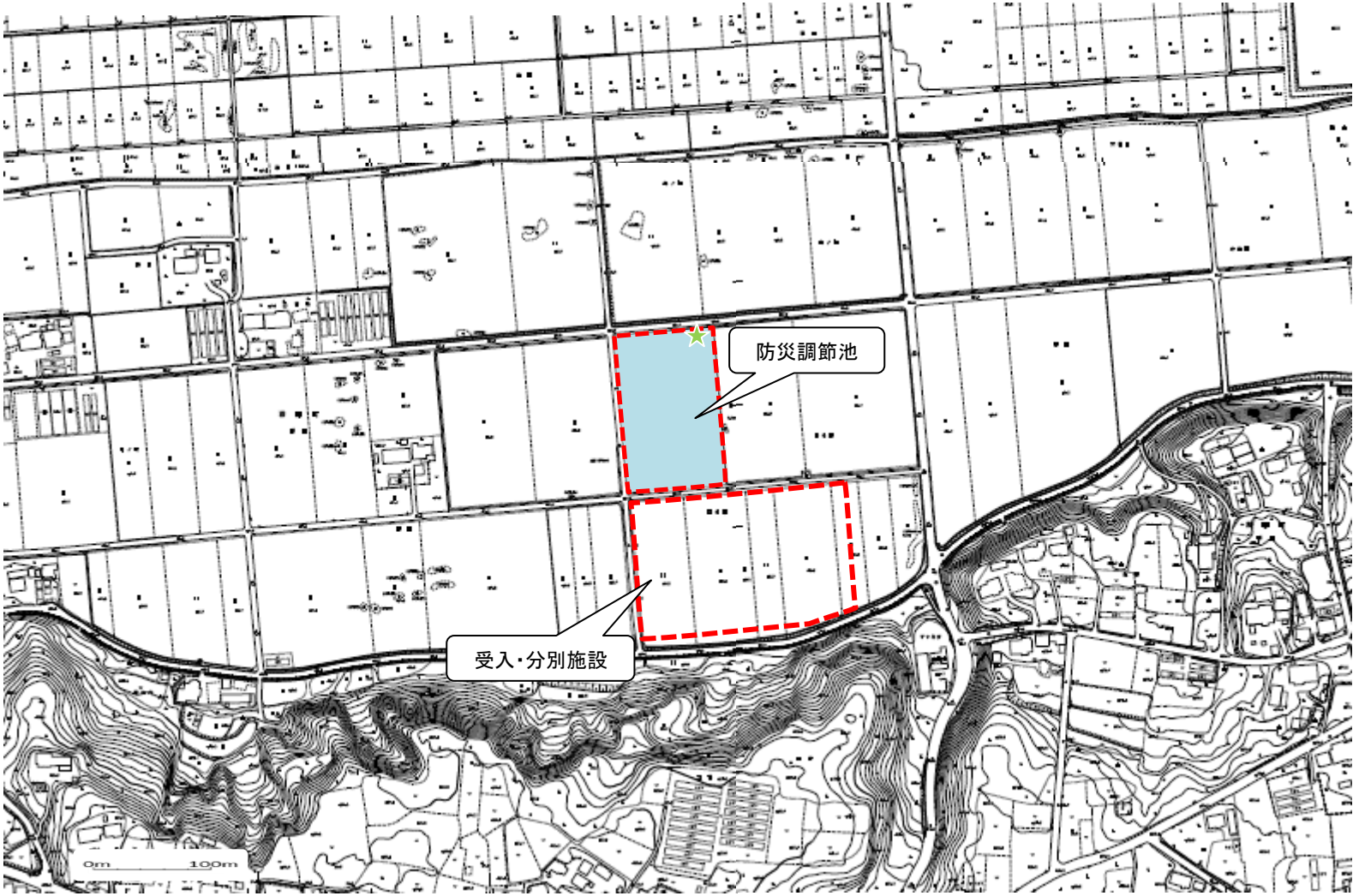


★：施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水中の放射能濃度等
- ●：排気中の放射能濃度
- ◆：排水中の放射能濃度
- ★：防災調節池の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ---：敷地境界線

受入・分別施設（双葉①工区、第2期）のモニタリング測定地点（月次測定）②



【 凡例 】

★ :防災調節池観測地点　　--- : 敷地境界線

受入・分別施設（双葉①工区、第2期）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目 / 測定日	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2018/9/3 （稼働前）	34	9.7
	2022/7/6 ～2023/1/11 （稼働後）※	38	43
下流	2018/9/3 （稼働前）	47	12
	2022/7/6 ～2023/1/11 （稼働後）※	25	37

※期間中の最大値を示す。

測定地点	測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
上流	2018/9/3 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/6 ～2023/1/11 （稼働後）	ND	ND
下流	2018/9/3 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/6 ～2023/1/11 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●排気中の放射能濃度

測定地点		2022/7/6～2023/1/10 Cs-134 (Bq/m^3N)	Cs-137 (Bq/m^3N)
集じん機A	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
集じん機E	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
集じん機F	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND

放射能濃度検出下限値（ろ紙部）：セシウム134：0.1 Bq/m^3N、セシウム137：0.1 Bq/m^3N
放射能濃度検出下限値（ドレン部）：セシウム134：0.4 Bq/m^3N、セシウム137：0.3 Bq/m^3N
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆排水中の放射能濃度

排水実績はないため測定なし。

★防災調節池の放射能濃度

測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2022/7/6 ～2023/1/11 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1 Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★粉じん濃度

測定地点	2022/7/7 ～2023/1/12 粉じん濃度※ (mg/m^3)
①搬出 西	1.7
②搬出 東	1.1
③受入 西	0.3
④受入 東	1.5

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2022/7/7 ～2023/1/12 空間線量率 (μSv/h) 最小値	最大値
①搬出 西	0.09	0.16
②搬出 東	0.09	0.13
③受入 西	0.10	0.13
④受入 東	0.07	0.12

★空気中の放射能濃度

測定地点	2022/7/7～2023/1/12 Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
①搬出 西	ND	ND
②搬出 東	ND	ND
③受入 西	ND	ND
④受入 東	ND	ND

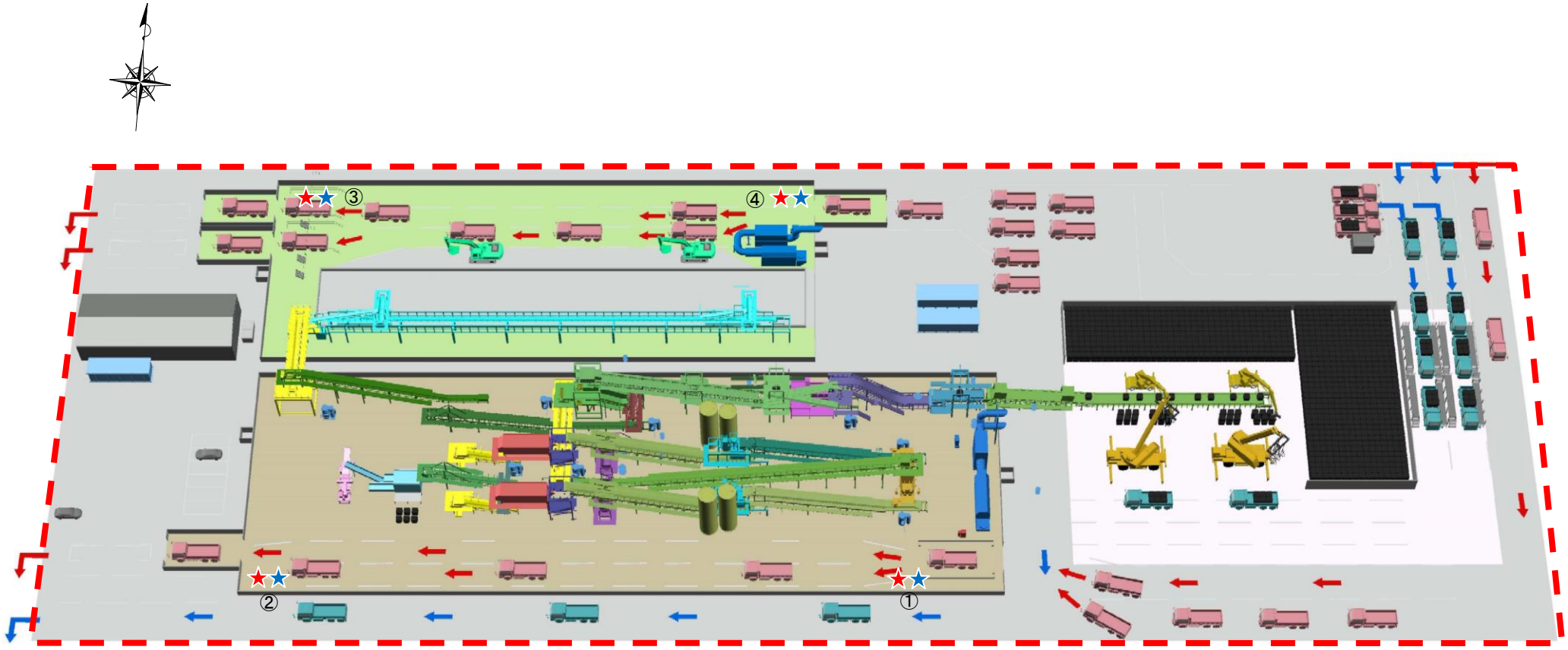
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$3.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$3.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点		2022/7/16 ～2023/1/21 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
床	①搬出 西	ND
	②搬出 東	ND
	③受入 西	ND
	④受入 東	ND
壁	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
	⑤-4	ND
	⑤-5	ND
	⑤-6	ND
設備	（ⅰ）破袋設備	ND
	（ⅱ）一次分別設備	ND
	（ⅲ）二次分別設備	ND
	（ⅳ）可燃物分離設備	ND

表面汚染密度検出下限値：0.73Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

受入・分別施設（双葉②工区）のモニタリング測定地点（月次測定）
＜解体中のモニタリング＞



★:施設の位置

【 凡例 】

★：粉じん濃度　　★：空間線量率　　---：敷地境界線

受入・分別施設（双葉②工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

★粉じん濃度

測定日	2022/7/12	2022/8/1	2022/9/12	2022/10/3	2022/11/11	2022/12/13
測定地点	測定結果 (mg/m^3)	測定結果 (mg/m^3)	測定結果 (mg/m^3)	測定結果 (mg/m^3)	測定結果 (mg/m^3)	測定結果 (mg/m^3)
①	0.6	ND	0.3	ND	ND	ND
②	0.9	0.1	0.1	0.3	ND	ND
③	0.1	0.1	0.2	0.3	ND	ND
④	0.1	ND	0.1	0.9	ND	ND

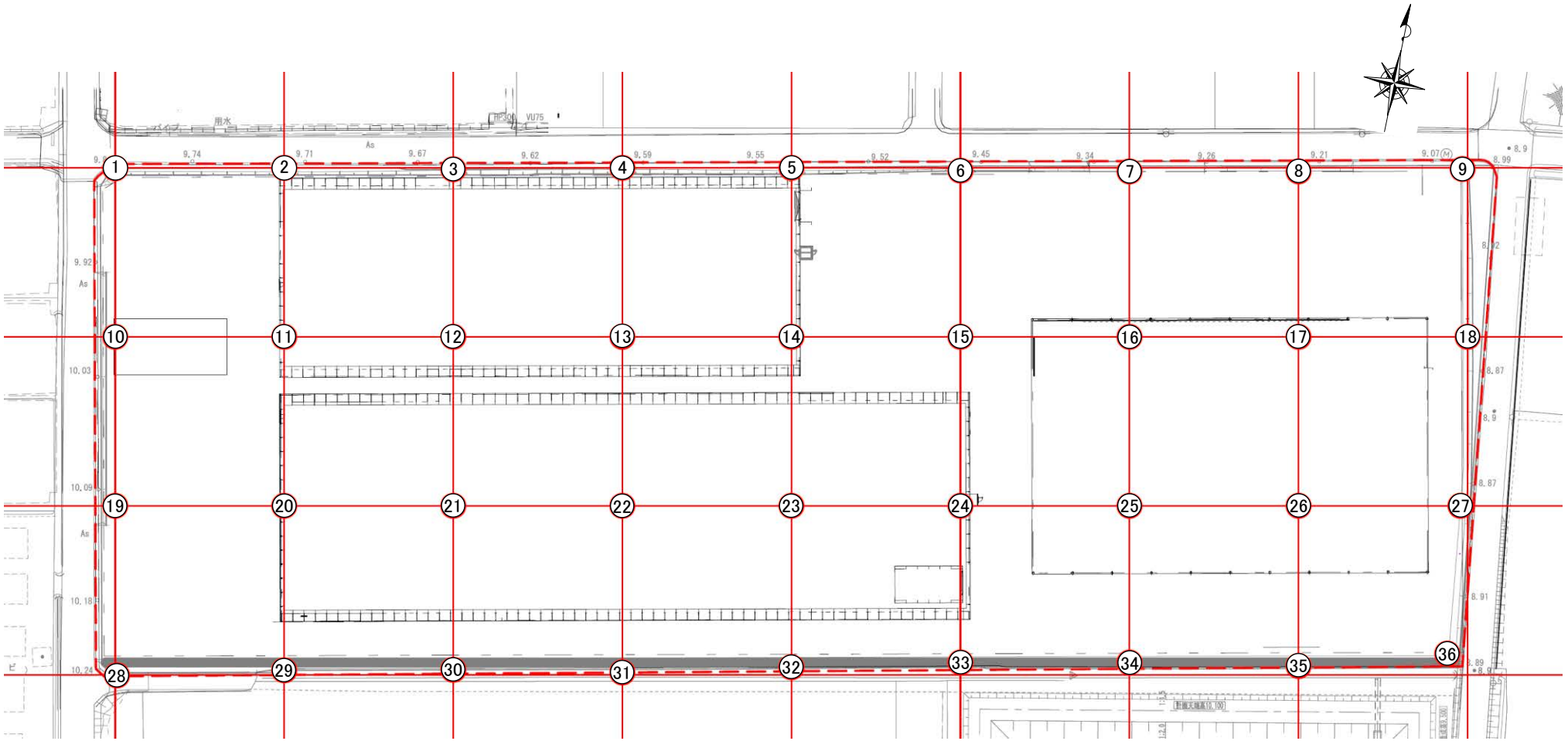
定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

★空間線量率

測定日	2022/7/12	2022/8/1	2022/9/12	2022/10/3	2022/11/11	2022/12/16
測定地点	測定結果 (μSv/h)	測定結果 (μSv/h)	測定結果 (μSv/h)	測定結果 (μSv/h)	測定結果 (μSv/h)	測定結果 (μSv/h)
①	0.11	0.10	0.12	0.14	0.16	0.15
②	0.14	0.14	0.17	0.23	0.22	0.21
③	0.15	0.14	0.18	0.24	0.25	0.24
④	0.12	0.14	0.15	0.17	0.19	0.19

受入・分別施設（双葉②工区）のモニタリング測定地点①
＜解体終了後の跡地確認測定（敷地内）＞



★：施設の位置

【 凡例 】

①～㊱：空間線量率（1m及び1cm）、表面汚染計数率（1cm）

受入・分別施設（双葉②工区）のモニタリング測定結果①

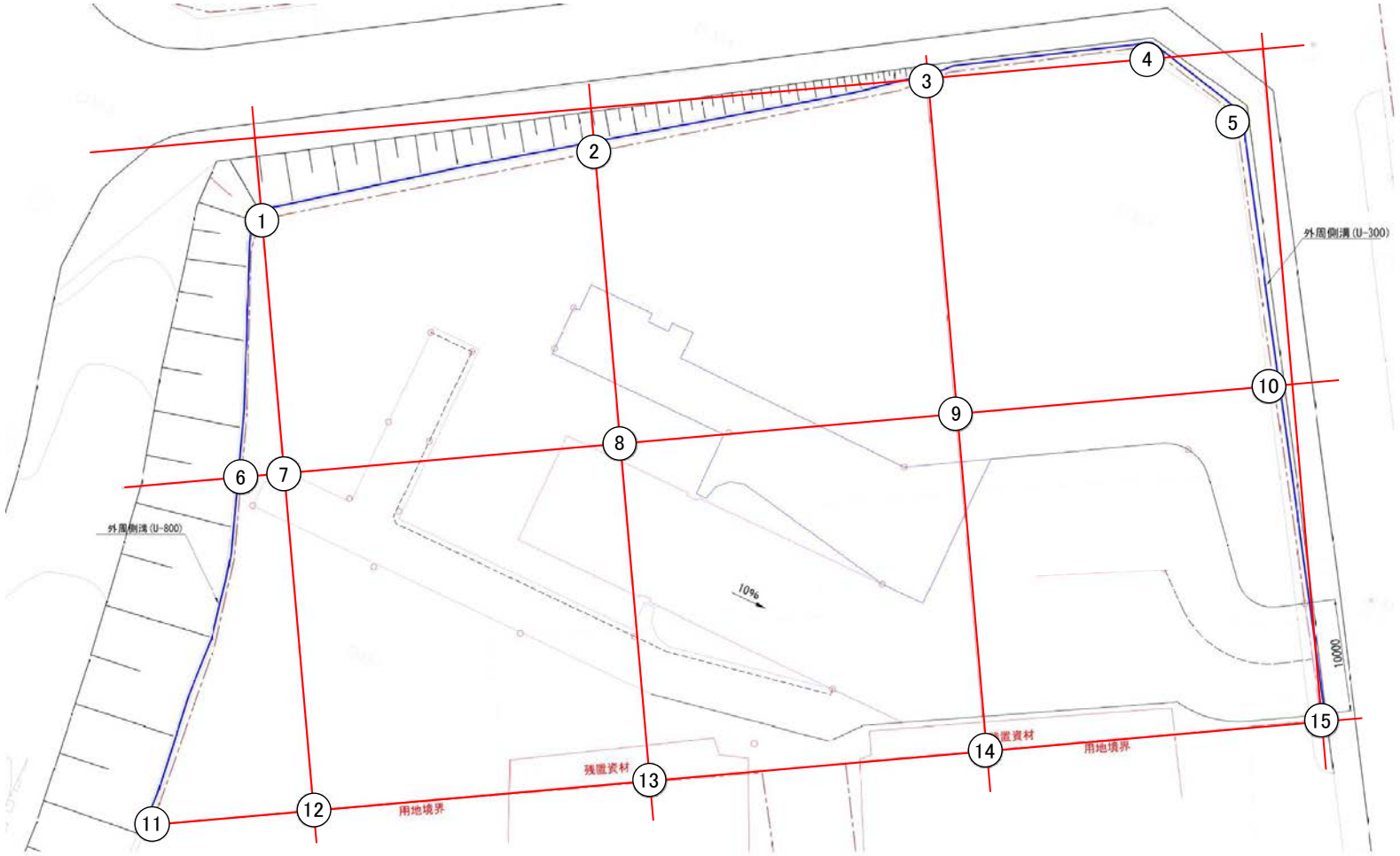
＜敷地内＞

測定地点	測定項目 / 測定日	空間線量率（μSv/h）		表面汚染計数率（cpm）
		1m	1cm	1cm
①	2022/12/14	0.34	0.19	160
②	2022/12/14	0.31	0.18	150
③	2022/12/14	0.34	0.19	170
④	2022/12/14	0.31	0.19	140
⑤	2022/12/14	0.20	0.15	160
⑥	2022/12/14	0.14	0.14	90
⑦	2022/12/14	0.10	0.10	100
⑧	2022/12/14	0.15	0.13	100
⑨	2022/12/14	0.15	0.12	110
⑩	2022/12/14	0.20	0.17	180
⑪	2022/12/14	0.18	0.17	130
⑫	2022/12/14	0.15	0.15	130
⑬	2022/12/14	0.14	0.15	130
⑭	2022/12/14	0.14	0.13	130
⑮	2022/12/14	0.12	0.13	140
⑯	2022/12/14	0.12	0.12	90
⑰	2022/12/14	0.11	0.12	110
⑱	2022/12/14	0.12	0.13	100
⑲	2022/12/14	0.22	0.19	150
⑳	2022/12/14	0.18	0.18	130
㉑	2022/12/14	0.14	0.15	130
㉒	2022/12/14	0.13	0.14	140
㉓	2022/12/14	0.13	0.14	110
㉔	2022/12/14	0.14	0.13	130
㉕	2022/12/14	0.12	0.12	130

測定地点	測定項目 / 測定日	空間線量率（μSv/h）		表面汚染計数率（cpm）
		1m	1cm	1cm
㉖	2022/12/14	0.12	0.11	110
㉗	2022/12/14	0.12	0.11	120
㉘	2022/12/14	0.39	0.22	150
㉙	2022/12/14	0.39	0.21	140
㉚	2022/12/14	0.34	0.20	170
㉛	2022/12/14	0.32	0.18	150
㉜	2022/12/14	0.22	0.15	140
㉝	2022/12/14	0.21	0.12	110
㉞	2022/12/14	0.18	0.15	150
㉟	2022/12/14	0.14	0.13	100
㊱	2022/12/14	0.14	0.10	140

表面汚染計数率管理値：13000cpm

受入・分別施設（双葉②工区）のモニタリング測定地点②
＜解体終了後の跡地確認測定（ダンピングヤード）＞



★：施設の位置

【 凡例 】

①～⑮：空間線量率（1m及び1cm）、表面汚染計数率（1cm）

受入・分別施設（双葉②工区）のモニタリング測定結果②

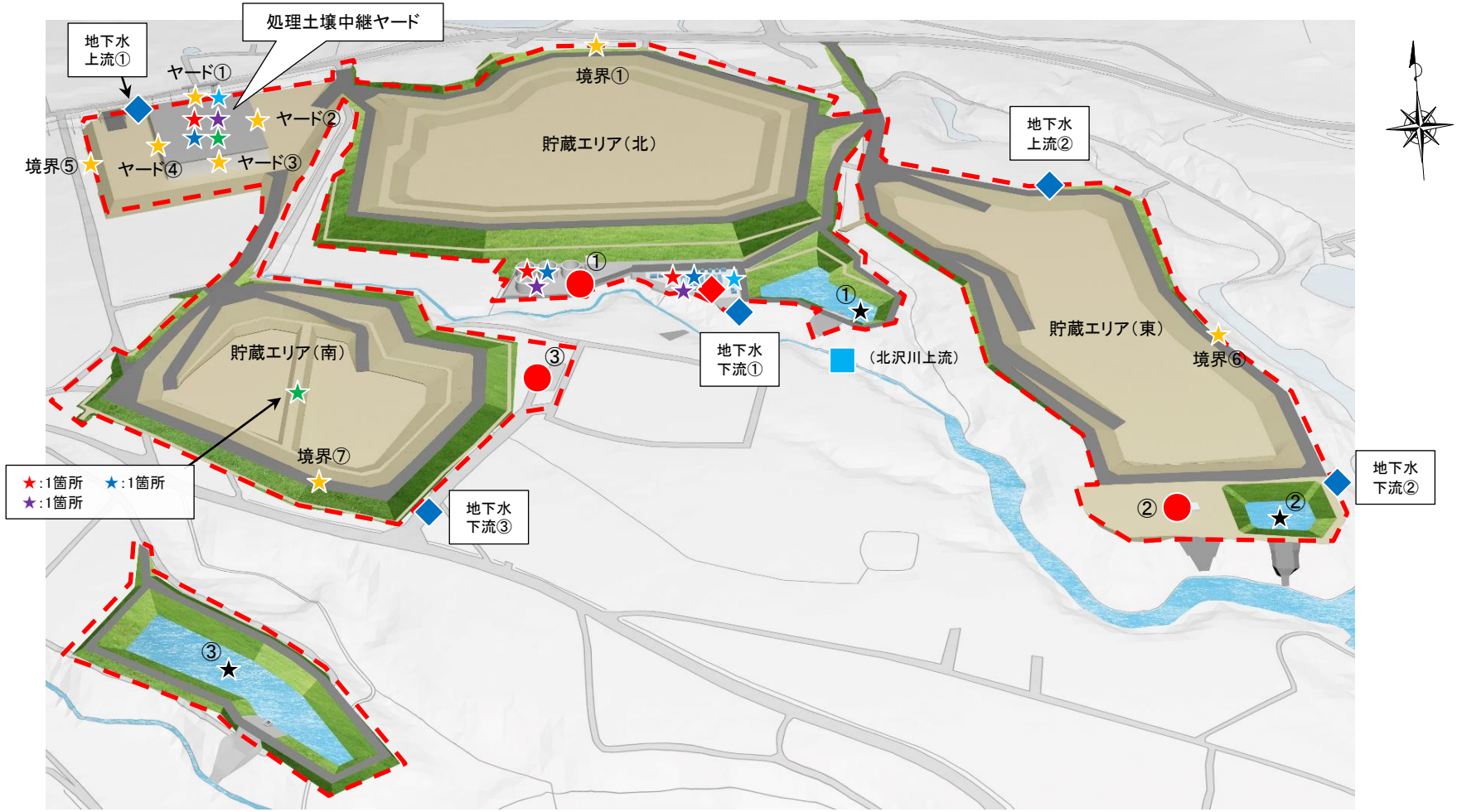
<ダンピングヤード>

測定地点	測定項目 / 測定日	空間線量率（μSv/h）		表面汚染計数率（cpm）
		1m	1cm	1cm
①	2023/1/19	1.53	2.12	900
②	2023/1/19	1.70	2.32	900
③	2023/1/19	1.08	1.35	640
④	2023/1/19	1.55	1.69	900
⑤	2023/1/19	1.90	2.82	1300
⑥	2023/1/19	1.79	2.22	960
⑦	2023/1/19	1.18	1.20	780
⑧	2023/1/19	0.33	0.32	180
⑨	2023/1/19	0.87	1.04	380
⑩	2023/1/19	1.75	1.95	750
⑪	2023/1/19	1.35	1.14	500
⑫	2023/1/19	0.69	0.64	350
⑬	2023/1/19	0.44	0.38	280
⑭	2023/1/19	1.49	0.80	380
⑮	2023/1/19	1.06	0.69	260

表面汚染計数率管理値：13000cpm

土壌貯蔵施設のモニタリング結果（月次測定等）

土壌貯蔵施設（大熊①工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）



☆：施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度
- ●：地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ◆：浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★：沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ■：放流先河川の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（貯蔵施設境界・壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ★：表面汚染密度（重機）
- ---：敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊①工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日＼測定項目	電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）
上流①	2018/7/11（稼働前）	240	8.1
	2022/7/5～2022/12/7（稼働後）※	110	10
上流②	2020/2/24（稼働前）	110	25
	2022/7/5～2022/12/6（稼働後）※	51	11
下流①	2018/7/11（稼働前）	32	9.5
	2022/7/5～2022/12/7（稼働後）※	180	7.3
下流②	2020/2/24（稼働前）	42	23
	2022/7/5～2022/12/6（稼働後）※	39	6.6
下流③	2021/2/23（稼働前）	42	9.6
	2022/7/4～2022/12/6（稼働後）※	42	19

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度（週次測定）

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
上流①	2018/7/11（稼働前）	ND	ND
	2022/7/5～2022/12/26（稼働後）	ND	ND
上流②	2020/2/24（稼働前）	ND	ND
	2022/7/5～2022/12/26（稼働後）	ND	ND
下流①	2018/7/11（稼働前）	ND	ND
	2022/7/5～2022/12/26（稼働後）	ND	ND
下流②	2020/2/24（稼働前）	ND	ND
	2022/7/5～2022/12/26（稼働後）	ND	ND
下流③	2021/2/23（稼働前）	ND	ND
	2022/7/4～2022/12/26（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
集排水設備①	2018/7/11（稼働前）	ND	ND
	2022/7/4～2022/12/7（稼働後）	ND	ND
集排水設備②	2020/3/5（稼働前）	ND	ND
	2022/7/4～2022/12/6（稼働後）	ND	ND
集排水設備③	2021/3/9（稼働前）	ND	ND
	2022/7/5～2022/12/6（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定日＼測定項目	水素イオン濃度（pH）		生物化学的酸素要求量（BOD）（mg/L）	化学的酸素要求量（COD）（mg/L）	浮遊物質量（SS）（mg/L）
	最小値	最大値			
2022/7/5～2022/12/7	7.5	7.8	1.4～10	43～75	8～28

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD管理値：90mg/L，SS基準：60mg/L

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

測定日＼測定項目	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
2022/7/5～2022/12/26	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

放流日	放流回数	濁度		放射性セシウム（Bq/L）	放流量（m^3）
		最小値	最大値		
2022/7/1～2022/12/19	151	0.1	4.9	ND	5087

濁度管理値：5以下
放射性セシウム管理値：ND
NDとは、検出下限値（6.5Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定日＼測定項目	浮遊物質量（SS）※（mg/L）
沈砂池①	2022/7/4～2022/12/7	8
沈砂池②	2022/7/20～2022/12/6	22
沈砂池③	2022/7/4～2022/12/6	26

SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※ 期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日＼測定項目	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
2018/7/11（稼働前）	ND	ND
2022/7/4～2022/12/7（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2022/7/5～2022/12/7 粉じん濃度※（mg/m^3）
貯蔵エリア（南）	0.2
浸出水調整設備	ND
浸出水処理設備	ND
処理土壌中継ヤード	3.2

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
NDとは、定量下限値未満であることを示す。
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2022/7/5～2022/12/3 空間線量率（μSv/h）	
	最小値	最大値
貯蔵エリア（南）	0.31	0.32
浸出水調整設備	0.18	0.24
浸出水処理設備	0.07	0.13
処理土壌中継ヤード	0.18	0.23

★空気中の放射能濃度

測定地点	2022/7/5～2022/12/3	
	Cs-134（Bq/cm^3）	Cs-137（Bq/cm^3）
貯蔵エリア（南）	ND	ND
浸出水調整設備	ND	ND
浸出水処理設備	ND	ND
処理土壌中継ヤード	ND	ND

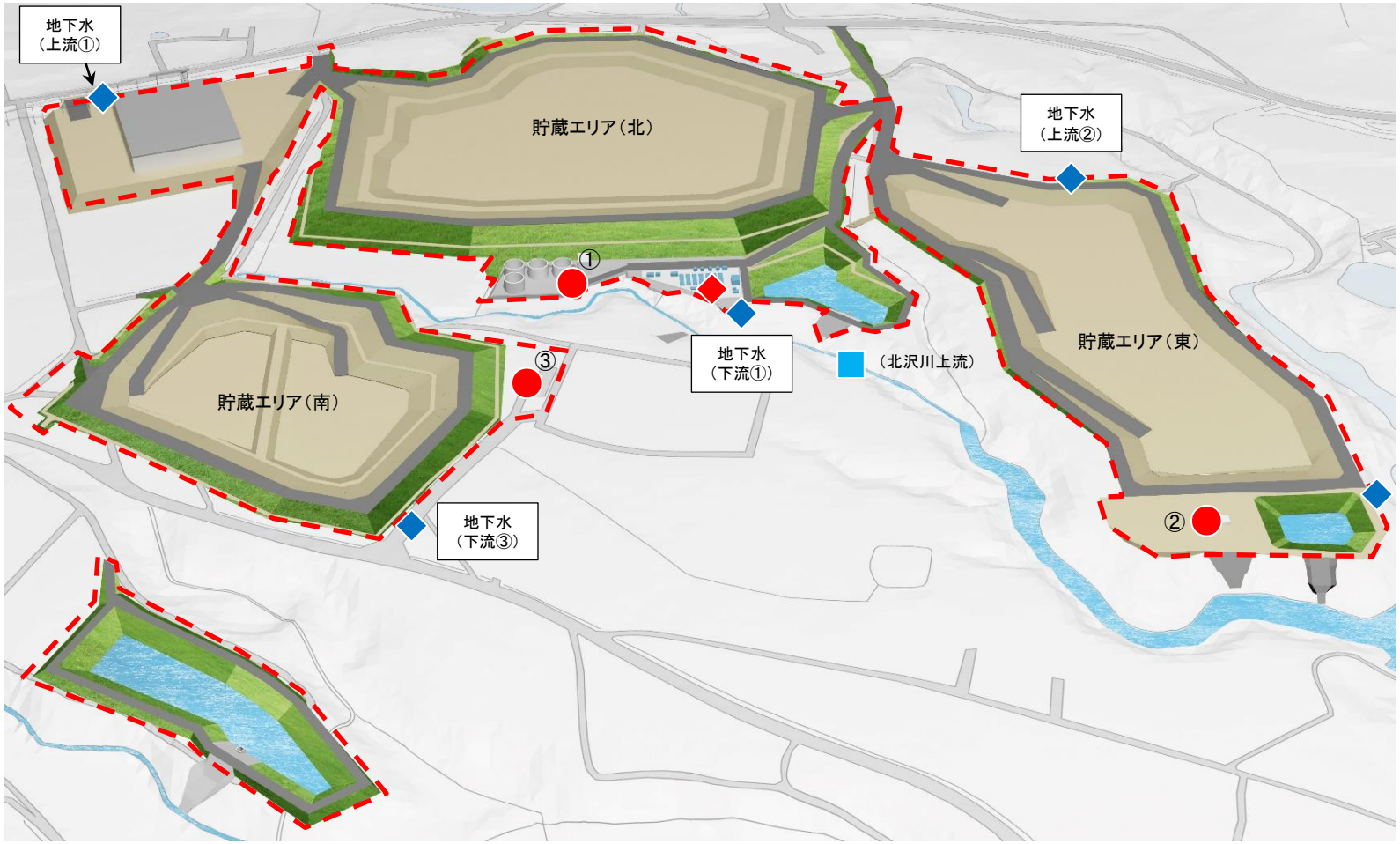
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}$$Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}$$Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}＋セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

測定地点			2022/7/18～2022/12/3 表面汚染密度（Bq/cm^2）
貯蔵施設境界		①	ND
		⑤	ND
		⑥	ND
		⑦	ND
浸出水処理施設	設備	汚泥脱水機	ND
処理土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルコン出口	ND
	重機	タイヤショベル①	ND
貯蔵エリア（南）	重機	ローラー①	ND
		ブルドーザー①	ND
		バックホウ②	ND
		バックホウ⑤	ND

表面汚染密度検出下限値：0.60Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（大熊①工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）＜貯蔵中＞



☆：施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度
- ●：地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ◆：浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ■：放流先河川の放射能濃度
- ---：敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊①工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日＼測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流①	2018/7/11 （稼働前）	240	8.1
	2023/1/11 （貯蔵中）	94	10
上流②	2020/2/24 （稼働前）	110	25
	2023/1/11 （貯蔵中）	46	12
下流①	2018/7/11 （稼働前）	32	9.5
	2023/1/11 （貯蔵中）	200	7.1
下流②	2020/2/24 （稼働前）	42	23
	2023/1/11 （貯蔵中）	33	5.9
下流③	2021/2/23 （稼働前）	42	9.6
	2023/1/11 （貯蔵中）	39	13

◆地下水（井戸）中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
上流①	2018/7/11 （稼働前）	ND	ND
	2023/1/11 （貯蔵中）	ND	ND
上流②	2020/2/24 （稼働前）	ND	ND
	2023/1/11 （貯蔵中）	ND	ND
下流①	2018/7/11 （稼働前）	ND	ND
	2023/1/11 （貯蔵中）	ND	ND
下流②	2020/2/24 （稼働前）	ND	ND
	2023/1/11 （貯蔵中）	ND	ND
下流③	2021/2/23 （稼働前）	ND	ND
	2023/1/11 （貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
集排水設備①	2018/7/11 （稼働前）	ND	ND
	2023/1/11 （貯蔵中）	ND	ND
集排水設備②	2020/3/5 （稼働前）	ND	ND
	2023/1/11 （貯蔵中）	ND	ND
集排水設備③	2021/3/9 （稼働前）	ND	ND
	2023/1/11 （貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定日＼測定項目	水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
2023/1/11	7.8	4.1	68	11

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD管理値：90mg/L，SS基準：60mg/L

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2023/1/5 ～2023/1/23	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

放流日	放流回数	濁度		放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
		最小値	最大値		
2023/1/9 ～2023/1/20	16	0.1	3.9	ND	527

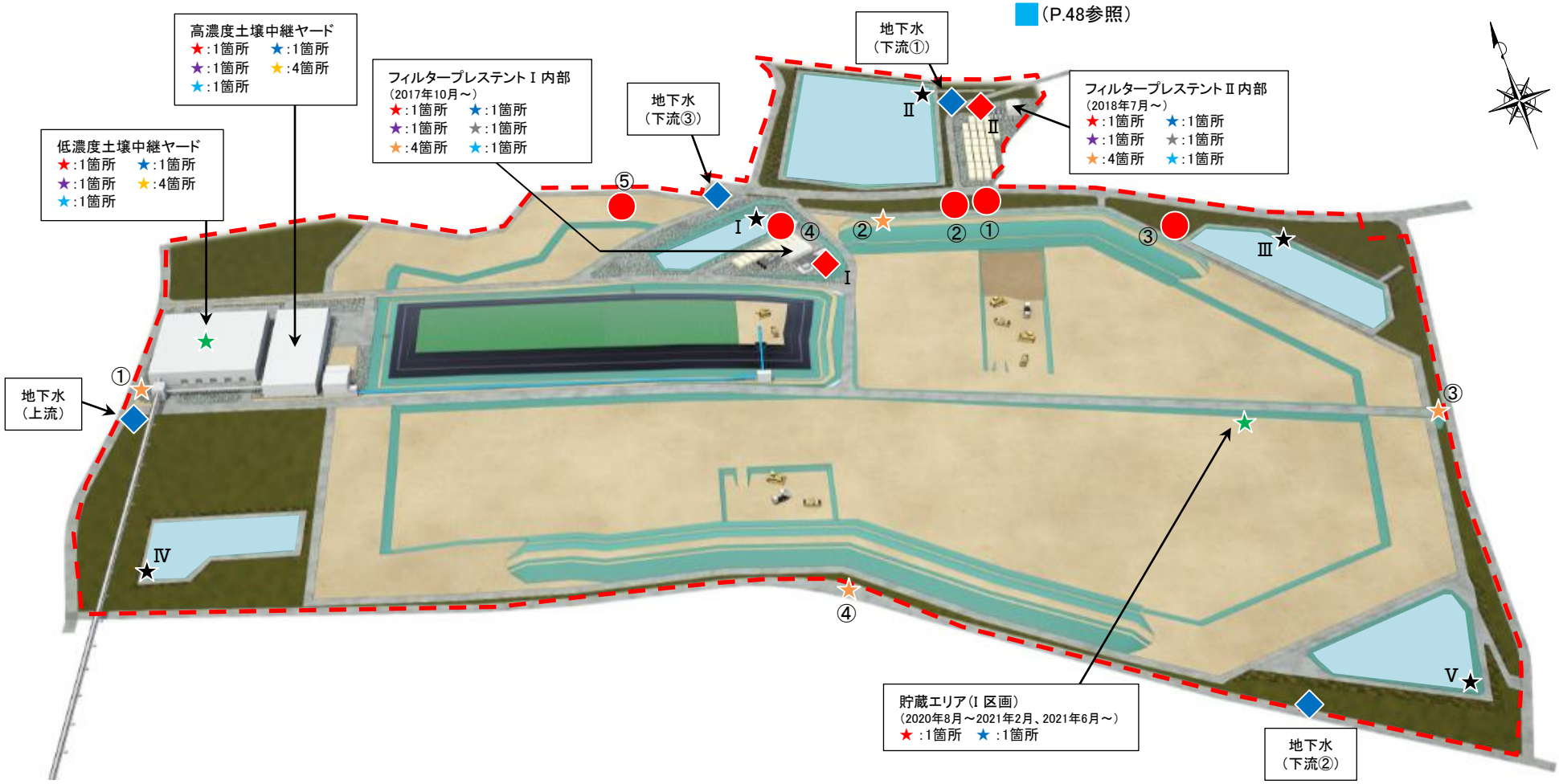
濁度管理値：5以下
放射性セシウム管理値：ND
NDとは、検出下限値（6.5Bq/L）未満であることを示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2018/7/11 （稼働前）	ND	ND
2023/1/11 （貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

土壌貯蔵施設（大熊②工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）①

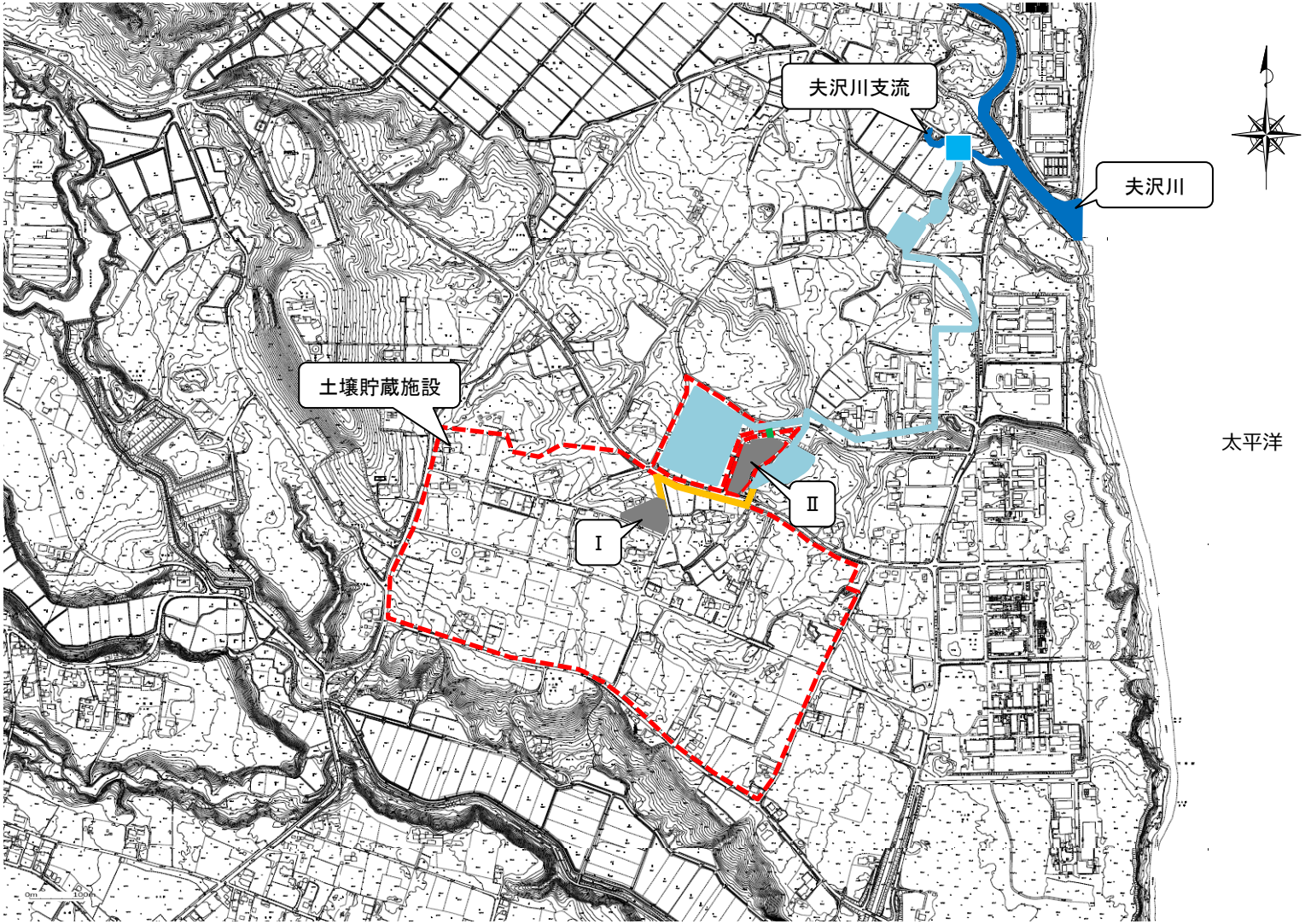


☆：施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度
- ●：地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ◆：浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★：沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ■：放流先河川の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（貯蔵施設境界・壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ★：表面汚染密度（重機）
- ---：敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊②工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）②



【 凡例 】

■ :河川水観測地点
--- : 敷地境界線
— :放流水の流路（浸出水処理施設Ⅰ）
— :放流水の流路（浸出水処理施設Ⅱ）

土壌貯蔵施設（大熊②工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日	測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2018/7/10	（稼働前）	13	13
	2022/7/7 ～2023/1/5	（稼働後）※	12	11
下流①	2018/7/11	（稼働前）	23	13
	2022/7/7 ～2023/1/5	（稼働後）※	27	13
下流②	2018/7/10	（稼働前）	17	5.7
	2022/7/7 ～2023/1/5	（稼働後）※	26	10
下流③	2017/10/11	（稼働前）	19	6.5
	2022/7/7 ～2023/1/5	（稼働後）※	61	15

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度（週次測定）

測定地点	測定日	測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
上流	2018/7/10	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/26	（稼働後）	ND	ND
下流①	2018/7/11	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/26	（稼働後）	ND	ND
下流②	2018/7/10	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/26	（稼働後）	ND	ND
下流③	2017/10/11	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/26	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日	測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
集排水設備①	2018/7/5	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/21 ～2023/1/23	（稼働後）	ND	ND
集排水設備②	2018/10/15	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/21 ～2023/1/23	（稼働後）	ND	ND
集排水設備③	2019/6/26	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/21 ～2023/1/23	（稼働後）	ND	ND
集排水設備④	2017/10/5	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/21 ～2023/1/23	（稼働後）	ND	ND
集排水設備⑤	2020/5/28	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/21 ～2023/1/23	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定地点	測定日	測定項目	水素イオン濃度 (pH) 最小値	水素イオン濃度 (pH) 最大値	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
処理水Ⅰ	2022/7/7 ～2023/1/5		7.5	8.2	0.8～1.6	14～24	ND～1
処理水Ⅱ	2022/7/7 ～2023/1/5		7.7	8.2	0.5～6.1	2.8～24	ND～2

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD管理値：90mg/L，SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）のNDとは、報告下限値（1mg/L）未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

測定地点	測定日	測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
処理水Ⅰ	2022/7/7 ～2023/1/26		ND	ND
処理水Ⅱ	2022/7/7 ～2023/1/26		ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

測定地点	放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
処理水Ⅰ	2022/7/1 ～2023/1/18	720	0.0	4.9	ND	20725.1
処理水Ⅱ	2022/7/1 ～2023/1/18	1162	0.0	4.7	ND	32051.4

濁度管理値：5以下
放射性セシウム管理値：ND
NDとは、検出下限値（5.85Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定日	測定項目	浮遊物質量 (SS) ※ (mg/L)
沈砂池Ⅰ	2022/7/7 ～2023/1/5		9
沈砂池Ⅱ	2022/7/7 ～2023/1/5		7
沈砂池Ⅲ	2022/7/7 ～2023/1/5		10
沈砂池Ⅳ	2022/9/1 ～2023/1/5		4
沈砂池Ⅴ	2022/12/1 ～2023/1/5		ND

SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日	測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2018/7/10	（稼働前）	ND	5.0
2022/7/7	（稼働後）	ND	1.0
2022/8/4 ～2023/1/5	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2022/7/8 ～2023/1/6 粉じん濃度※ (mg/m^3)
フィルタープレステントⅠ	0.5
フィルタープレステントⅡ	0.1
低濃度土壌中継ヤード	0.2
高濃度土壌中継ヤード	0.3
貯蔵エリア（I区画）	0.4

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2022/7/21 ～2023/1/26 空間線量率 (μSv/h) 最小値	2022/7/21 ～2023/1/26 空間線量率 (μSv/h) 最大値
フィルタープレステントⅠ	0.18	0.28
フィルタープレステントⅡ	0.71	0.88
低濃度土壌中継ヤード	0.21	0.23
高濃度土壌中継ヤード	0.20	0.25
貯蔵エリア（I区画）	0.52	0.86

★空気中の放射能濃度

測定地点	2022/7/21～2023/1/26 Cs-134 (Bq/cm^3)	2022/7/21～2023/1/26 Cs-137 (Bq/cm^3)
フィルタープレステントⅠ	ND	ND
フィルタープレステントⅡ	ND	ND
低濃度土壌中継ヤード	ND	ND
高濃度土壌中継ヤード	ND	ND

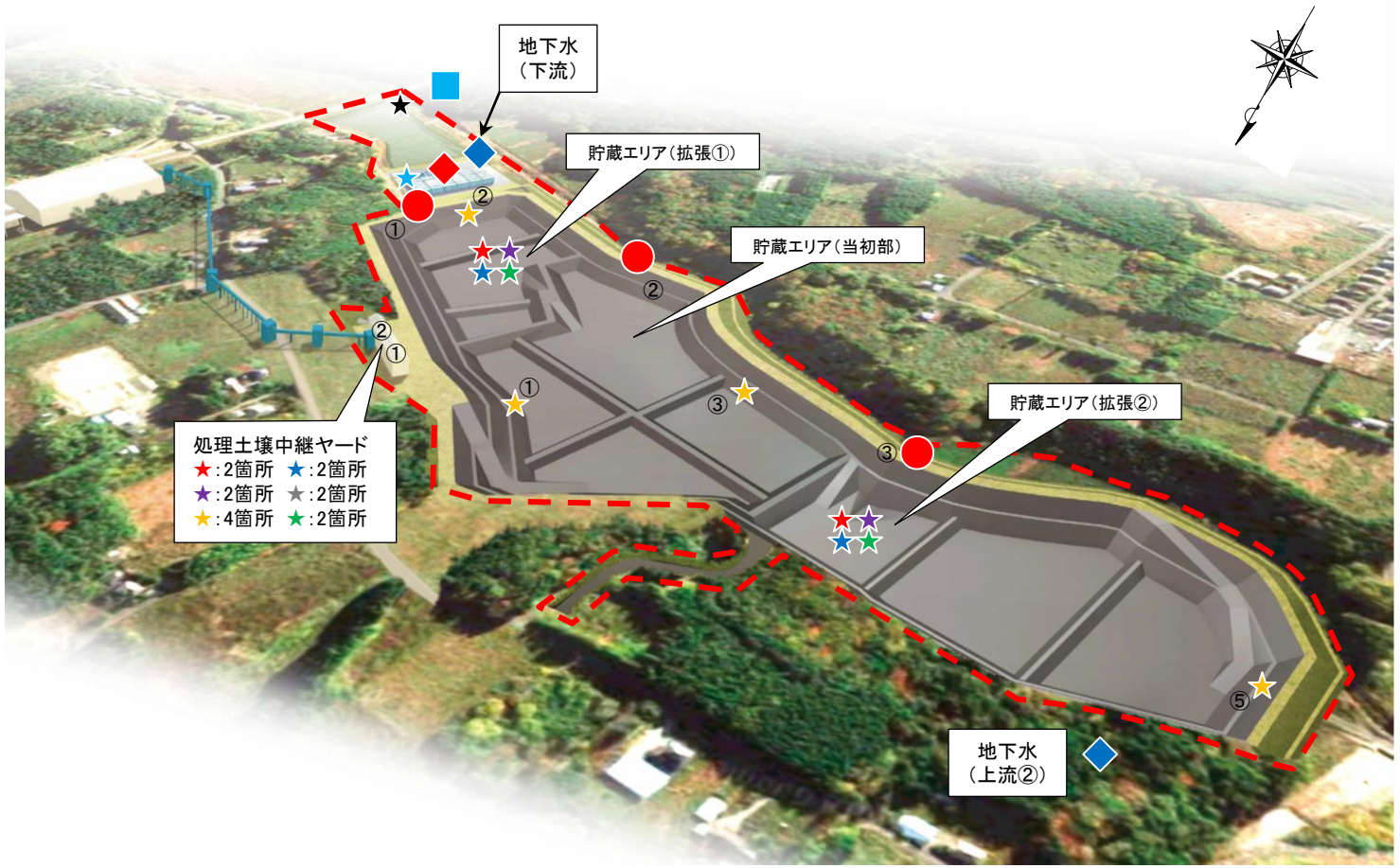
放射能濃度検出下限値：セシウム134：1.0×10^{-7}Bq/cm^3、セシウム137：1.0×10^{-7}Bq/cm^3
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

測定地点			2022/7/21 ～2023/1/26 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界		境界①	ND
		境界②	ND
		境界③	ND
		境界④	ND
フィルタープレステントⅠ	床	Ⅰ-①	ND
	壁	Ⅰ-①	ND
		Ⅰ-②	ND
		Ⅰ-③	ND
		Ⅰ-④	ND
	設備	フィルタープレスⅠ	ND
フィルタープレステントⅡ	床	①	ND
	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	フィルタープレスⅡ	ND
低濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルトコンベア出口	ND
	重機	バックホウ①	ND
		バックホウ②	ND
		ホイールローダー	ND
高濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルトコンベア出口	ND
貯蔵エリア（I区画）	重機	バックホウⅠ-①	ND
		バックホウⅠ-②	ND
		ブルドーザーⅠ-①	ND
		ローラーⅠ-①	ND
		スクレープドーザーⅠ-①	ND
		キャリアダンプⅠ-①	ND

表面汚染密度検出下限値：0.14Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（大熊③工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）



☆ :施設の位置

【 凡例 】

- ◆ ：地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度
- ★ ：沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ★ ：空間線量率（作業環境）
- ★ ：表面汚染密度（貯蔵施設境界・壁）
- --- ：敷地境界線
- ● ：地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ■ ：放流先河川の放射能濃度
- ★ ：空気中の放射能濃度
- ★ ：表面汚染密度（設備）
- ◆ ：浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★ ：粉じん濃度
- ★ ：表面汚染密度（床）
- ★ ：表面汚染密度（重機）

土壌貯蔵施設（大熊③工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日＼測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流②	2021/6/3 （稼働前）	17	13
	2022/7/7 ～2023/1/12 （稼働後）※	15	21
下流	2018/9/25 （稼働前）	90	130
	2022/7/7 ～2023/1/12 （稼働後）※	170	43

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度（週次測定）

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
上流②	2021/6/3 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/26 （稼働後）	ND	ND
下流	2018/9/25 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/26 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
集排水設備①	2020/2/10 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/14 ～2023/1/10 （稼働後）	ND	ND
集排水設備②	2018/9/27 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/14 ～2023/1/10 （稼働後）	ND	ND
集排水設備③	2021/10/8 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/14 ～2023/1/10 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定日＼測定項目	水素イオン濃度 (pH) 最小値	水素イオン濃度 (pH) 最大値	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
2022/7/7 ～2023/1/12	7.5	8.0	2.0～3.0	18～52	ND～8

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD管理値：90mg/L，SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）のNDとは、報告下限値（1mg/L）未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2022/7/7 ～2023/1/26	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
2022/7/1 ～2023/1/31	784	0.0	0.0	ND	16432.3

濁度管理値：5以下
放射性セシウム管理値：ND
NDとは、検出下限値（6.5Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定日＼測定項目	浮遊物質量 (SS)※ (mg/L)
2022/7/7 ～2023/1/25	16

SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日＼測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2018/9/18	（稼働前）	ND	1.2
2022/7/7 ～2023/1/12	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2022/7/8 ～2023/1/13 粉じん濃度※ (mg/m^3)
貯蔵エリア（拡張①）	0.4
貯蔵エリア（拡張②）	0.3
処理土壌中継ヤード①	0.8
処理土壌中継ヤード②	1.3

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2022/7/8 ～2023/1/13 空間線量率 (μSv/h) 最小値	最大値
貯蔵エリア（拡張①）	0.49	0.61
貯蔵エリア（拡張②）	0.78	0.90
処理土壌中継ヤード①	0.13	0.17
処理土壌中継ヤード②	0.16	0.22

★空気中の放射能濃度

測定地点	2022/7/8～2023/1/13 Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
貯蔵エリア（拡張①）	ND	ND
貯蔵エリア（拡張②）	ND	ND
処理土壌中継ヤード①	ND	ND
処理土壌中継ヤード②	ND	ND

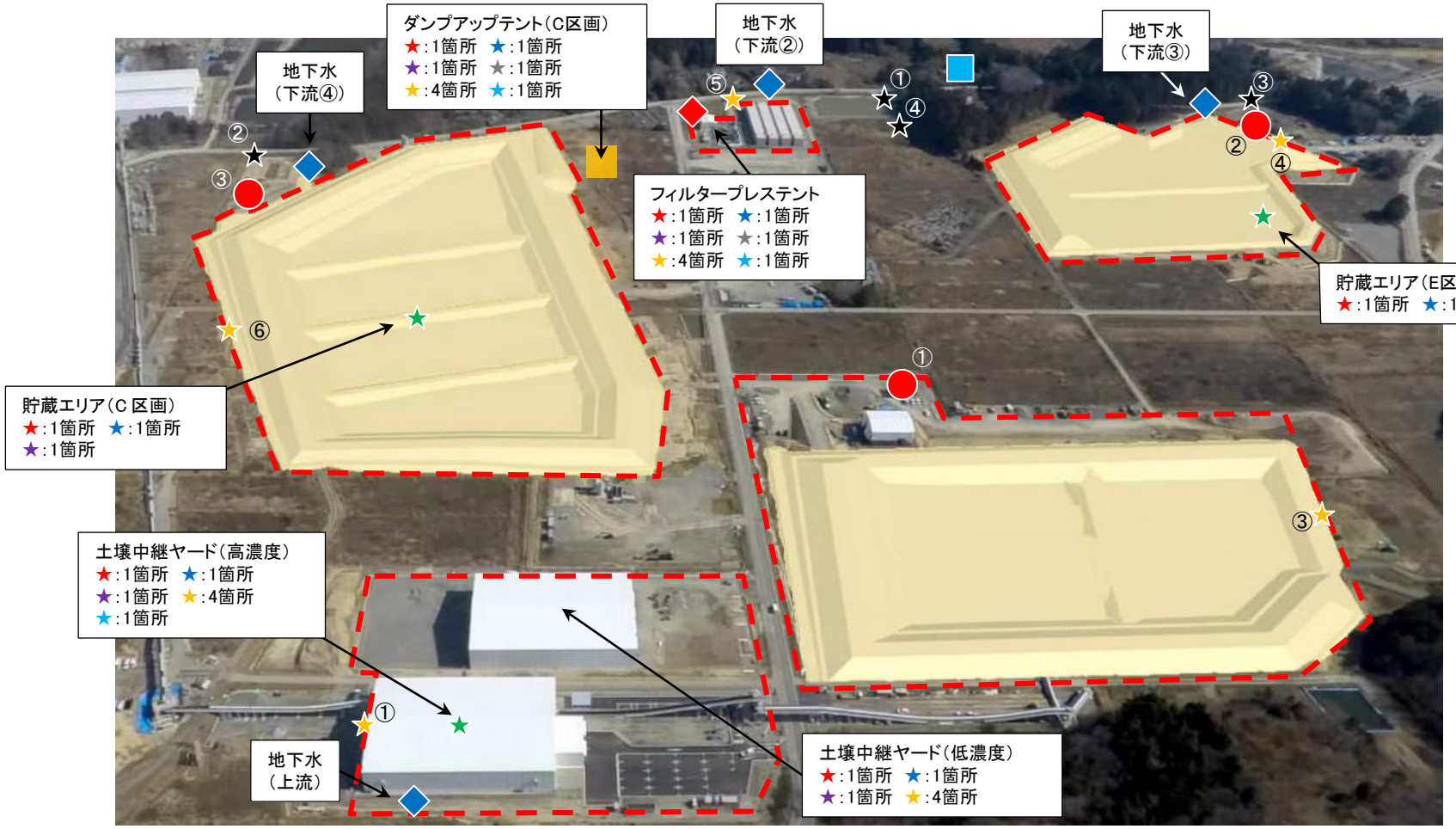
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}＋セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

測定地点			2022/7/8 ～2023/1/13 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界		①北	ND
		②東	ND
		③南	ND
		⑤西	ND
処理土壌中継ヤード	床	①	ND
		②	ND
	壁	①北	ND
		②東	ND
		③南	ND
		④西	ND
	重機	ブルドーザー①	ND
		ブルドーザー②	ND
浸出水処理施設	設備	調整槽	ND
		濁水処理設備	ND
		脱水プラント	ND
貯蔵エリア（拡張①）	重機	ブルドーザー	ND
		バックホウ	ND
		タイヤローラー	ND
		振動ローラー	ND
貯蔵エリア（拡張②）	重機	ブルドーザー	ND
		バックホウ	ND
		タイヤローラー	ND
		振動ローラー	ND

表面汚染密度検出下限値：0.14Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（大熊④工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）



☆ :施設の位置

【 凡例 】

- ◆ : 地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度
- ● : 地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ◆ : 浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★ : 沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ■ : 放流先河川の放射能濃度
- ★ : 粉じん濃度
- ★ : 空間線量率（作業環境）
- ★ : 空気中の放射能濃度
- ★ : 表面汚染密度（床）
- ★ : 表面汚染密度（貯蔵施設境界・壁）
- ★ : 表面汚染密度（設備）
- ★ : 表面汚染密度（重機）
- --- : 敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊④工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日＼測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2020/3/12 （稼働前）	37	17
	2022/7/7 ～2023/1/5 （稼働後）※	37	17
下流②	2020/3/12 （稼働前）	57	12
	2022/7/7 ～2023/1/5 （稼働後）※	36	11
下流③	2020/3/12 （稼働前）	24	21
	2022/7/7 ～2023/1/5 （稼働後）※	120	16
下流④	2020/9/3 （稼働前）	110	13
	2022/7/7 ～2023/1/5 （稼働後）※	46	12

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度（週次測定）

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
上流	2020/3/12 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/26 （稼働後）	ND	ND
下流②	2020/3/12 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/26 （稼働後）	ND	ND
下流③	2020/3/12 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/26 （稼働後）	ND	ND
下流④	2020/9/3 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/26 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
集排水設備①	2020/3/24 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/21 ～2023/1/23 （稼働後）	ND	ND
集排水設備②	2020/4/15 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/21 ～2023/1/23 （稼働後）	ND	ND
集排水設備③	2020/11/17 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/21 ～2023/1/23 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定日＼測定項目	水素イオン濃度 (pH) 最小値	水素イオン濃度 (pH) 最大値	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
2022/7/7 ～2023/1/5	7.8	8.2	1.7～4.3	23～61	ND～1

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD管理値：90mg/L，SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）のNDとは、報告下限値（1mg/L）未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2022/7/7	ND	1.0
2022/7/14 ～2022/9/29	ND	ND
2022/10/6	ND	1.0
2022/10/13	ND	ND
2022/10/20	ND	1.7
2022/10/27	ND	ND
2022/11/3	ND	1.3
2022/11/10	ND	1.1
2022/11/17 ～2022/11/24	ND	ND
2022/12/1	ND	1.0
2022/12/8 ～2022/12/26	ND	ND
2023/1/5	ND	1.2
2023/1/12 ～2023/1/26	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
2022/7/1 ～2023/1/31	1145	0.0	4.4	ND	32932

濁度管理値：5以下
放射性セシウム管理値：ND
NDとは、検出下限値（5.85Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定日＼測定項目	浮遊物質量 (SS) ※ (mg/L)
沈砂池①	2022/7/7 ～2023/1/5	4
沈砂池②	2022/7/7 ～2023/1/5	2
沈砂池③	2022/7/7 ～2023/1/5	8
沈砂池④	2022/7/7 ～2023/1/5	4

SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2020/3/12 （稼働前）	ND	ND
2022/7/7 ～2022/9/1 （稼働後）	ND	ND
2022/10/6 （稼働後）	ND	1.3
2022/11/3 ～2023/1/5 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2022/7/8 ～2023/1/6 粉じん濃度※ (mg/m^3)
フィルタープレステント	0.3
ダンプアップテント（C区画）	0.9
土壌中継ヤード（低濃度）	0.3
土壌中継ヤード（高濃度）	1.2
貯蔵エリア（C区画）	0.3

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2022/7/20 ～2023/1/26 空間線量率 (μSv/h) 最小値	2022/7/20 ～2023/1/26 空間線量率 (μSv/h) 最大値
フィルタープレステント	0.25	0.41
ダンプアップテント（C区画）	0.34	0.62
土壌中継ヤード（低濃度）	0.20	0.26
土壌中継ヤード（高濃度）	0.51	0.98
貯蔵エリア（C区画）	1.54	3.22

★空気中の放射能濃度

測定地点	2022/7/20～2023/1/26 Cs-134 (Bq/cm^3)	2022/7/20～2023/1/26 Cs-137 (Bq/cm^3)
フィルタープレステント	ND	ND
ダンプアップテント（C区画）	ND	ND
土壌中継ヤード（低濃度）	ND	ND
土壌中継ヤード（高濃度）	ND	ND
貯蔵エリア（C区画）	ND	ND

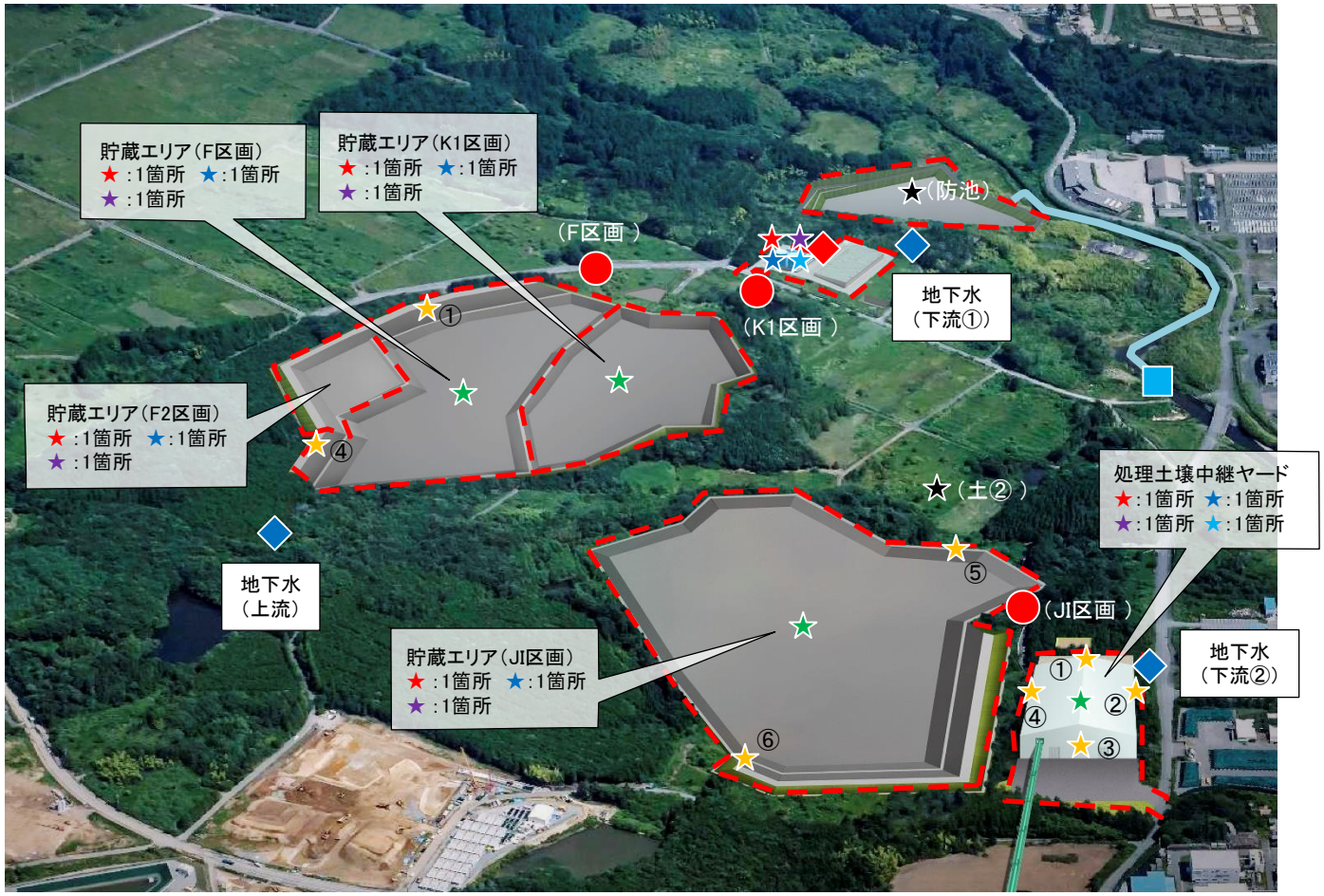
放射能濃度検出下限値：セシウム134：1.0×10^{-7}Bq/cm^3、セシウム137：1.0×10^{-7}Bq/cm^3
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

測定地点			2022/7/20 ～2023/1/26 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界		境界①	ND
		境界③	ND
		境界④	ND
		境界⑤	ND
		境界⑥	ND
フィルタープレステント	床	①	ND
	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	フィルタープレス	ND
ダンプアップテント（C区画）	床	①	ND
	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルコトンベア	ND
土壌中継ヤード（低濃度）	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
土壌中継ヤード（高濃度）	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルトコンベア出口	ND
	重機	バックホウ①	ND
貯蔵エリア（C区画）	重機	バックホウC①	ND
		バックホウC②	ND
		ブルドーザーC①	ND
		ブルドーザーC②	ND
		スクレープドーザーC①	ND
		キャリアダンプC①	ND
		ローラーC①	ND

表面汚染密度検出下限値：0.14Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）



☆：施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度
- ●：地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ◆：浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★：沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ■：放流先河川の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（貯蔵施設境界）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ★：表面汚染密度（重機）
- ---：敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2019/4/18 （稼働前）	21	11
	2022/7/14 ～2023/1/12 （稼働後）※	11	12
下流①	2019/4/18 （稼働前）	33	14
	2022/7/14 ～2023/1/12 （稼働後）※	53	18
下流②	2020/7/31 （稼働前）	29	21
	2022/7/14 ～2023/1/12 （稼働後）※	39	20

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度（週次測定）

測定地点	測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
上流	2019/4/18 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/26 （稼働後）	ND	ND
下流①	2019/4/18 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/26 （稼働後）	ND	ND
下流②	2020/8/6 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/26 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
貯蔵エリア（F区画）	2019/4/18 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/21 ～2023/1/17 （稼働後）	ND	ND
貯蔵エリア（K1区画）	2019/11/28 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/21 ～2023/1/17 （稼働後）	ND	ND
貯蔵エリア（J1区画）	2020/8/18 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/21 ～2023/1/17 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定日	水素イオン濃度 (pH) 最小値	水素イオン濃度 (pH) 最大値	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
2022/7/21 ～2023/1/12	7.6	7.9	1～2	33～70	2～13

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD管理値：90mg/L，SS基準：60mg/L

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2022/7/7 ～2023/1/26	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
2022/7/5 ～2023/1/31	912	0.0	4.0	ND	52593.8

濁度管理値：5以下
放射性セシウム管理値：ND
NDとは、検出下限値（6.5Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定日	浮遊物質量 (SS) ※ (mg/L)
沈砂池（土②）	2022/7/14 ～2023/1/12	33
沈砂池（防池）	2022/7/14 ～2023/1/12	14

SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※ 期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2020/12/22 （稼働前）※	ND	ND
2022/7/14 （稼働後）	ND	1.3
2022/8/3 （稼働後）	ND	1.8
2022/9/16 （稼働後）	ND	1.4
2022/10/11 ～2023/1/12 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1
※放流水の流路変更により2021年1月に観測地点を変更した。

★粉じん濃度

測定地点	2022/7/13 ～2023/1/12 粉じん濃度※ (mg/m^3)
貯蔵エリア（F区画）	1.7
貯蔵エリア（F2区画）	1.1
貯蔵エリア（K1区画）	3.3
貯蔵エリア（J1区画）	0.4
浸出水処理施設	0.4
処理土壌中継ヤード	4.5

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2022/7/13 ～2023/1/23 空間線量率 (μSv/h) 最小値	最大値
貯蔵エリア（F区画）	0.30	0.32
貯蔵エリア（F2区画）	0.35	0.80
貯蔵エリア（K1区画）	0.55	0.61
貯蔵エリア（J1区画）	0.65	0.73
浸出水処理施設	0.28	0.32
処理土壌中継ヤード	0.38	0.48

★空気中の放射能濃度

測定地点	2022/7/13～2023/1/12 Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
貯蔵エリア（F区画）	ND	ND
貯蔵エリア（F2区画）	ND	ND
貯蔵エリア（K1区画）	ND	ND
貯蔵エリア（J1区画）	ND	ND
浸出水処理施設	ND	ND
処理土壌中継ヤード	ND	ND

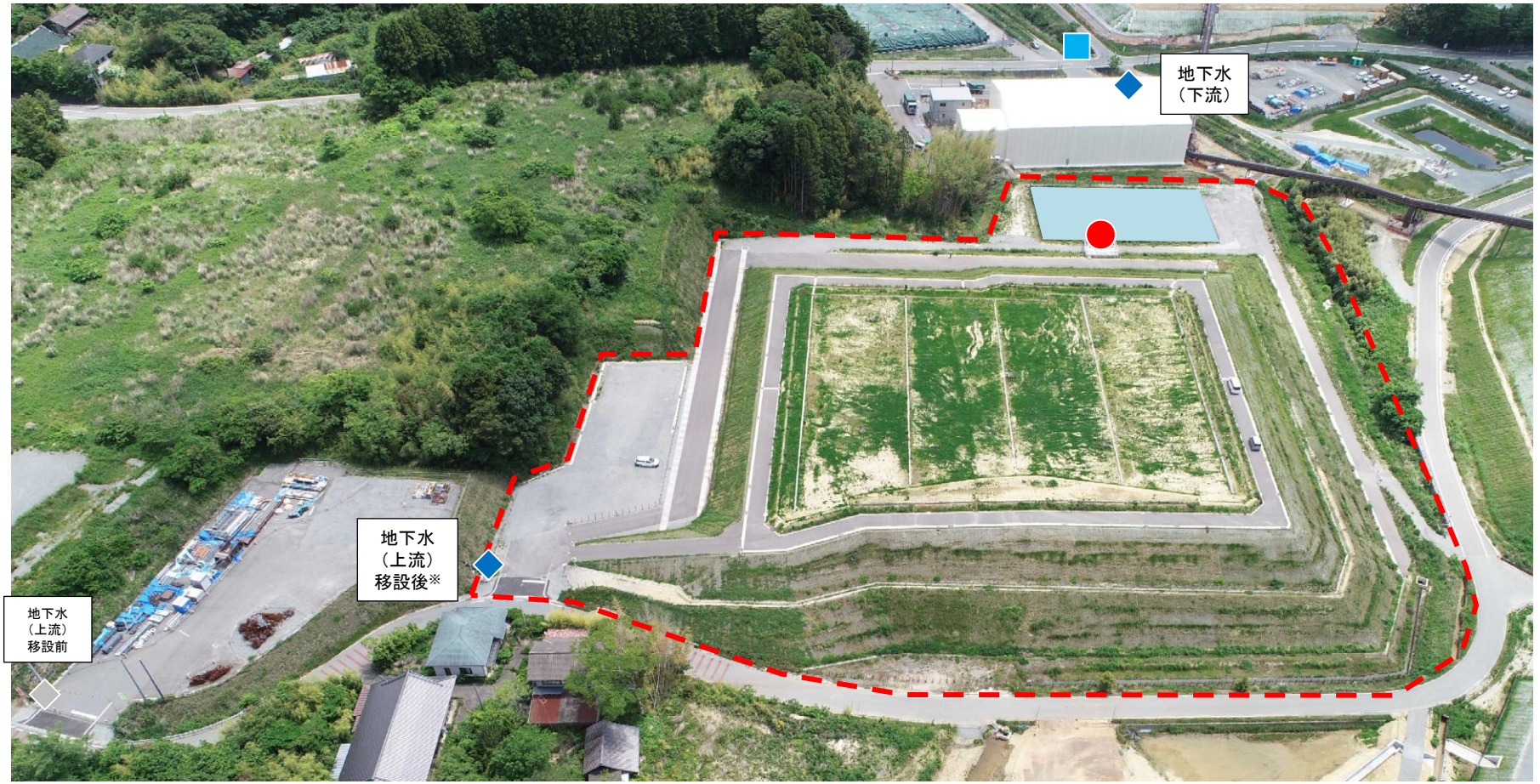
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★貯蔵施設境界、★設備、★重機）

測定地点			2022/7/13 ～2023/1/23 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界		境界①	ND
		境界④	ND
		境界⑤	ND
		境界⑥	ND
浸出水処理施設	設備	濁水処理装置	ND
処理土壌中継ヤード	境界	境界①	ND
		境界②	ND
		境界③	ND
		境界④	ND
	設備	集じん機	ND
	重機	バックホウA	ND
貯蔵エリア（F区画）	重機	バックホウA-①	ND
		バックホウA-②	ND
		ブルドーザーA-②	ND
貯蔵エリア（K1区画）	重機	バックホウB-①	ND
		ブルドーザーB	ND
貯蔵エリア（J1区画）	重機	バックホウC-①	ND
		ローラーC	ND
		ブルドーザーC	ND

表面汚染密度検出下限値：0.80Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（双葉①工区東側）のモニタリング測定地点（月次測定）＜貯蔵中＞



☆ :施設の位置

【 凡例 】

- ◆ : 地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度
- ◆ : （参考）過去の測定地点
- ● : 地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- --- : 敷地境界線
- ■ : 放流先河川の放射能濃度

※敷地境界の変更により上流井戸を移設し、2021年4月から測定を開始した。

土壌貯蔵施設（双葉①工区東側）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日＼測定項目	電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）
上流	2021/4/7（井戸移設後）	91	44
	2022/7/7～2023/1/10（貯蔵中）※	65	63
下流	2017/11/23（稼働前）	17	9.4
	2022/7/7～2023/1/10（貯蔵中）※	20	10

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
上流	2021/4/7（井戸移設後）	ND	ND
	2022/7/7～2023/1/10（貯蔵中）	ND	ND
下流	2017/11/23（稼働前）	ND	ND
	2022/7/7～2023/1/10（貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定日＼測定項目	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
2017/12/7（稼働前）	ND	ND
2022/7/7～2023/1/10（貯蔵中）	ND	ND

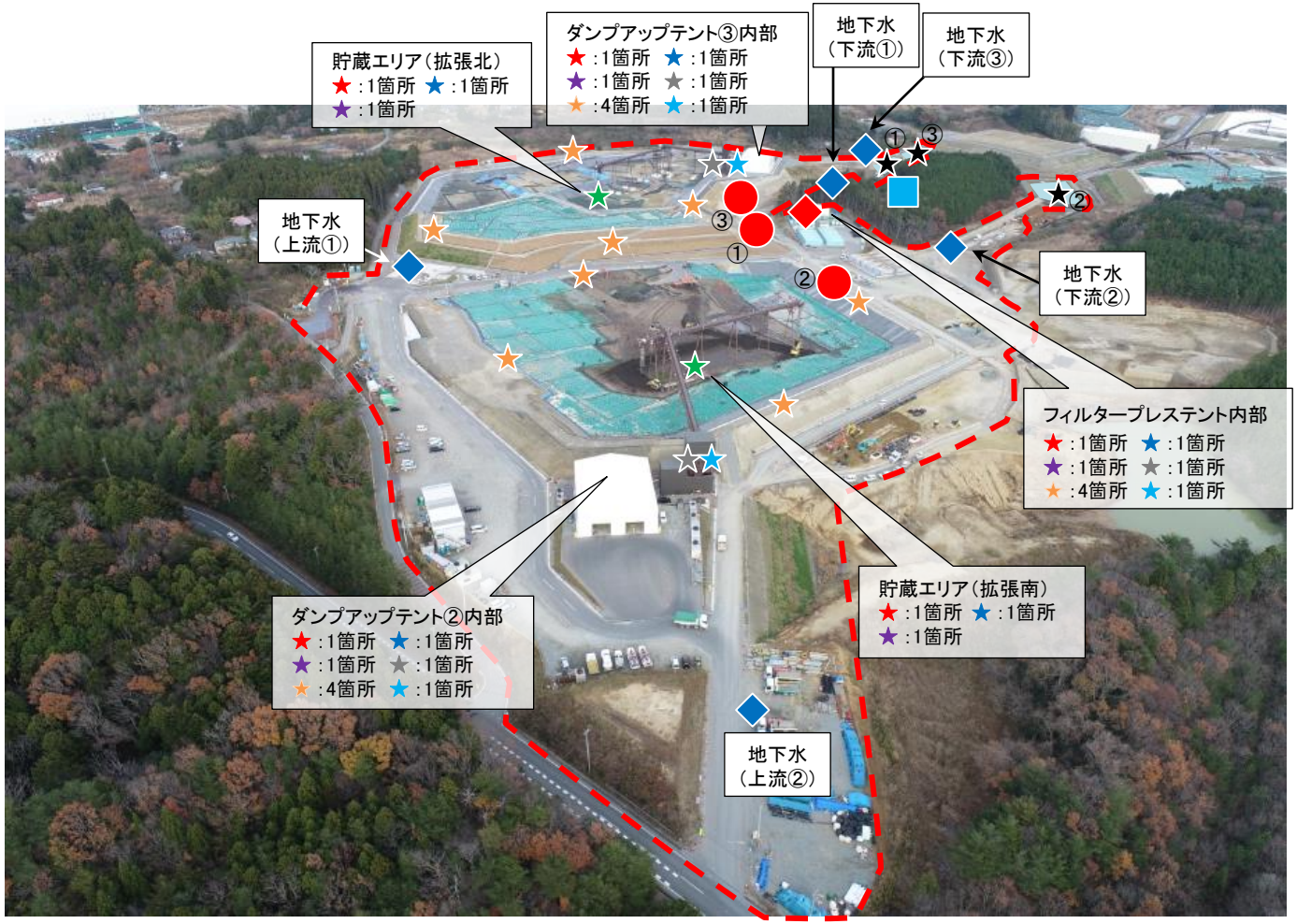
放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日＼測定項目	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
2017/11/2（稼働前）	ND	ND
2022/7/7（貯蔵中）	ND	1.1
2022/8/2～2022/11/8（貯蔵中）	ND	ND
2022/12/6（貯蔵中）	ND	1.0
2023/1/10（貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

土壌貯蔵施設（双葉①工区西側）のモニタリング測定地点（月次測定等）



☆：施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度
- ●：地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ◆：浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★：沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ■：放流先河川の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床、ベルトコンベア直下）
- ★：表面汚染密度（貯蔵エリア境界・壁）
- ★：表面汚染密度（設備、ベルトコンベア）
- ★：表面汚染密度（重機）
- ---：敷地境界線

土壌貯蔵施設（双葉①工区西側）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日＼測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流①	2018/9/10	（稼働前）	100	6.8
	2022/7/6 ～2023/1/11	（稼働後）※	98	32
上流②	2020/3/25	（稼働前）	19	13
	2022/7/6 ～2023/1/11	（稼働後）※	52	110
下流①	2018/9/10	（稼働前）	19	11
	2022/7/6 ～2023/1/11	（稼働後）※	16	13
下流②	2020/3/25	（稼働前）	83	9.6
	2022/7/6 ～2023/1/11	（稼働後）※	17	8.7
下流③	2021/10/27	（稼働前）	34	7.2
	2022/7/6 ～2023/1/11	（稼働後）※	42	10

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度（週次測定）

測定地点	測定日＼測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
上流①	2018/9/10	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/6 ～2023/1/25	（稼働後）	ND	ND
上流②	2020/3/25	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/6 ～2023/1/25	（稼働後）	ND	ND
下流①	2018/9/10	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/6 ～2023/1/25	（稼働後）	ND	ND
下流②	2020/3/25	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/6 ～2023/1/25	（稼働後）	ND	ND
下流③	2021/11/2	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/6 ～2023/1/25	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
集排水設備①	2018/9/10	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/12	（稼働後）	ND	ND
集排水設備②	2020/3/31	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/12	（稼働後）	ND	ND
集排水設備③	2022/1/11	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/12	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定日＼測定項目	水素イオン濃度 (pH) 最小値	水素イオン濃度 (pH) 最大値	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
2022/7/6 ～2023/1/11	7.2	7.8	1.7～17	31～49	ND～4

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD管理値：90mg/L，SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）のNDとは、報告下限値（1mg/L）未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2022/7/6 ～2022/7/20	ND	ND
2022/7/28	ND	1.3
2022/8/3	ND	1.1
2022/8/10	ND	1.2
2022/8/18	ND	1.1
2022/8/24 ～2022/9/28	ND	ND
2022/10/5	ND	1.2
2022/10/12 ～2023/1/25	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
2022/7/2 ～2023/1/25	389	0.1	0.9	ND	14052

濁度管理値：5以下
放射性セシウム管理値：ND
NDとは、検出下限値（6.5Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定日＼測定項目	浮遊物質量 (SS) ※ (mg/L)
沈砂池①	2022/7/6 ～2023/1/11	16
沈砂池②	2022/7/6 ～2023/1/11	4
沈砂池③	2022/7/6 ～2023/1/11	7

SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日＼測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2018/9/3	（稼働前）	ND	ND
2022/7/6 ～2023/1/11	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2022/7/7 ～2023/1/12 粉じん濃度※ (mg/m^3)
ダンプアップテント②	0.6
ダンプアップテント③	0.8
フィルタープレステント	ND
貯蔵エリア（拡張南）	ND
貯蔵エリア（拡張北）	ND

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
NDとは、定量下限値未満であることを示す。
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2022/7/7 ～2023/1/12 空間線量率 (μSv/h) 最小値	最大値
ダンプアップテント②	0.15	0.17
ダンプアップテント③	0.13	0.16
フィルタープレステント	0.15	0.21
貯蔵エリア（拡張南）	0.87	1.64
貯蔵エリア（拡張北）	0.74	1.98

★空気中の放射能濃度

測定地点	2022/7/7～2023/1/12 Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
ダンプアップテント②	ND	ND
ダンプアップテント③	ND	ND
フィルタープレステント	ND	ND
貯蔵エリア（拡張南）	ND	ND
貯蔵エリア（拡張北）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：$3.0\times10^{-7}Bq/cm^3$，セシウム137：$3.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

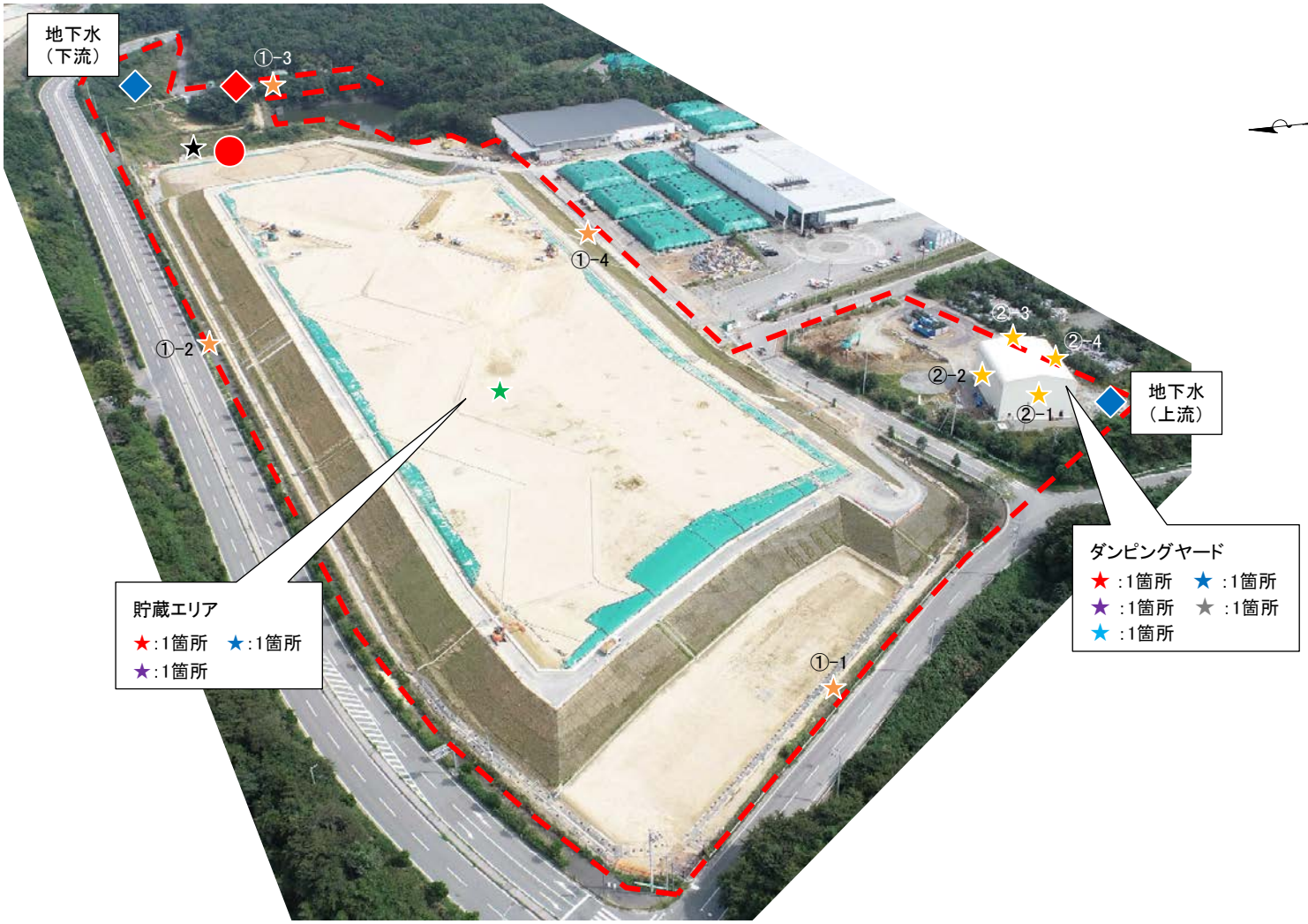
表面汚染密度（★床、★貯蔵エリア境界・壁、★設備、★重機）

測定地点		2022/7/16 ～2023/1/21 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
ダンプアップテント②	床	ND
	東側（壁）	ND
	西側（壁）	ND
	南側（壁）	ND
	北側（壁）	ND
	設備	ND
ダンプアップテント③	床	ND
	東側（壁）	ND
	西側（壁）	ND
	南側（壁）	ND
	北側（壁）	ND
	設備	ND
フィルタープレステント	床	ND
	東側（壁）	ND
	西側（壁）	ND
	南側（壁）	ND
	北側（壁）	ND
	設備	ND
貯蔵エリア（拡張南）	床（ベルトコンベア直下）	ND
	境界（東側）	ND
	境界（西側）	ND
	境界（南側）	ND
	境界（北側）	ND
	設備（ベルトコンベア）	ND
	重機	ND
貯蔵エリア（拡張北）	床（ベルトコンベア直下）	ND
	境界（東側）	ND
	境界（西側）	ND
	境界（南側）	ND
	境界（北側）	ND
	設備①（ベルトコンベア）	ND
	設備②（ベルトコンベア）	ND
	設備③（ベルトコンベア）	ND
	重機①	ND
	重機②	ND

表面汚染密度検出下限値：0.76Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（双葉②工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）①

（P.61参照）

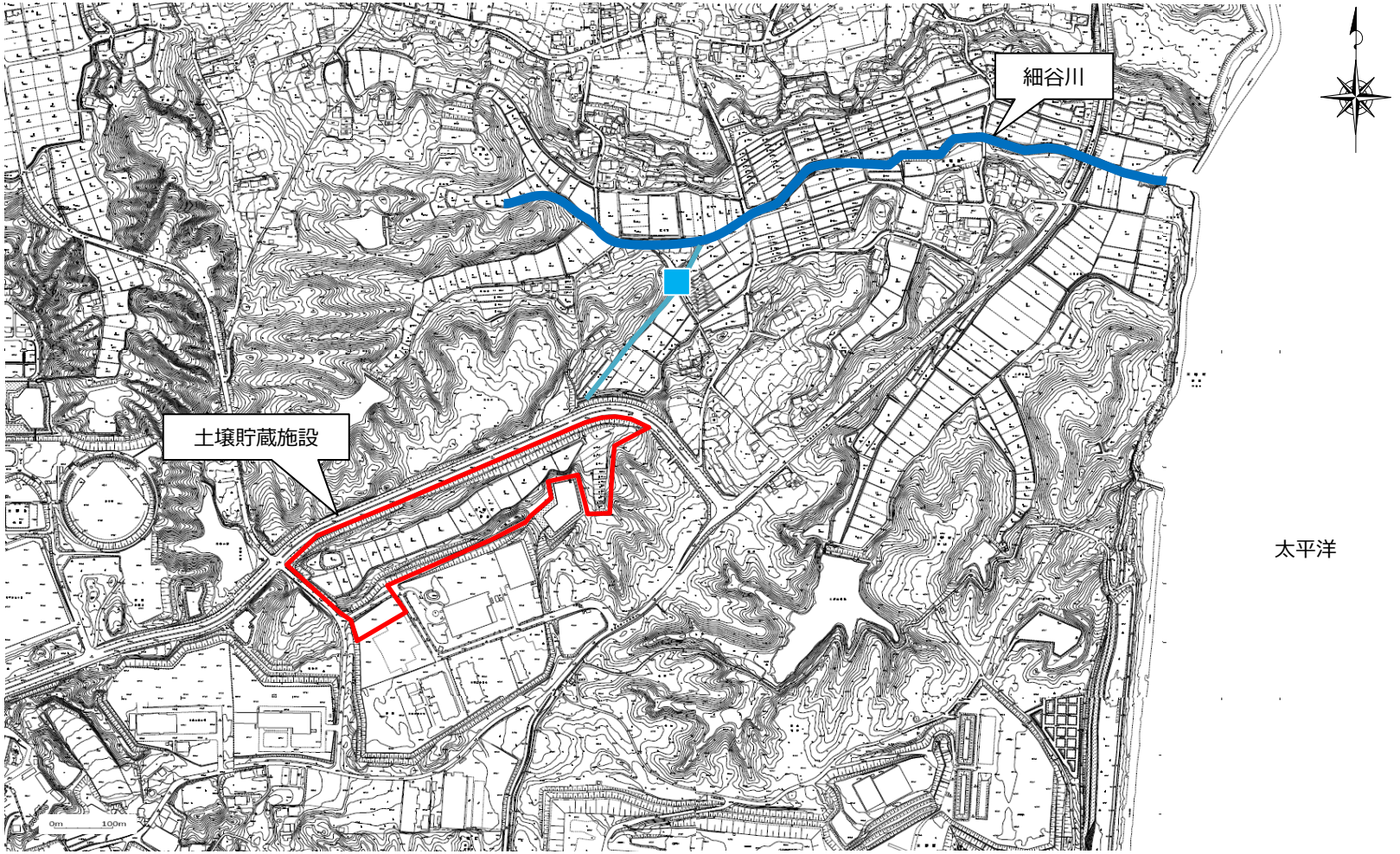


☆:施設の位置

【 凡例 】

- ◆ : 地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度
- ● : 地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ◆ : 浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★ : 沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ■ : 放流先河川の放射能濃度
- ★ : 粉じん濃度
- ★ : 空間線量率（作業環境）
- ★ : 空気中の放射能濃度
- ★ : 表面汚染密度（床）
- ★ : 表面汚染密度（貯蔵施設境界・壁）
- ★ : 表面汚染密度（設備）
- ★ : 表面汚染密度（重機）
- ---- : 敷地境界線

土壌貯蔵施設（双葉②工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）②



【 凡例 】
■ :河川水観測地点

土壌貯蔵施設（双葉②工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定項目 / 測定日	電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）
上流	2019/5/8（稼働前）	61	8.0
	2022/7/12～2023/1/5（稼働後）※	99	11
下流	2019/5/8（稼働前）	18	10
	2022/7/12～2023/1/5（稼働後）※	22	10

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度（週次測定）

測定地点	測定項目 / 測定日	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
上流	2019/5/8（稼働前）	ND	ND
	2022/7/7～2023/1/26（稼働後）	ND	ND
下流	2019/5/8（稼働前）	ND	ND
	2022/7/7～2023/1/26（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定項目 / 測定日	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
2019/5/21（稼働前）	ND	ND
2022/7/12～2023/1/25（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度（pH）		生物化学的酸素要求量（BOD）（mg/L）	化学的酸素要求量（COD）（mg/L）	浮遊物質量（SS）（mg/L）
	最小値	最大値			
2022/7/12～2023/1/5	7.1	7.7	ND～4	40～67	1～17

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD管理値：90mg/L，SS基準：60mg/L
生物化学的酸素要求量（BOD）のNDとは、報告下限値（1mg/L）未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

測定項目 / 測定日	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
2022/7/7～2023/1/26	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

放流日	放流回数	濁度		放射性セシウム（Bq/L）	放流量（m^3）
		最小値	最大値		
2022/7/1～2023/1/24	205	0.0	0.0	ND	5485

濁度管理値：5以下
放射性セシウム管理値：ND
NDとは、検出下限値（6.5Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定項目 / 測定日	浮遊物質量（SS）※（mg/L）
2022/7/12～2023/1/5	12

SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定項目 / 測定日	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
2019/4/24（稼働前）	ND	ND
2022/7/12～2023/1/5（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2022/7/12～2023/1/5 粉じん濃度※（mg/m^3）
ダンピングヤード	0.2
貯蔵エリア	0.2

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2022/7/12～2023/1/5 空間線量率（μSv/h）	
	最小値	最大値
ダンピングヤード	0.26	0.42
貯蔵エリア	0.23	0.34

★空気中の放射能濃度

測定地点	2022/7/12～2023/1/5	
	Cs-134（Bq/cm^3）	Cs-137（Bq/cm^3）
ダンピングヤード	ND	ND
貯蔵エリア	ND	ND

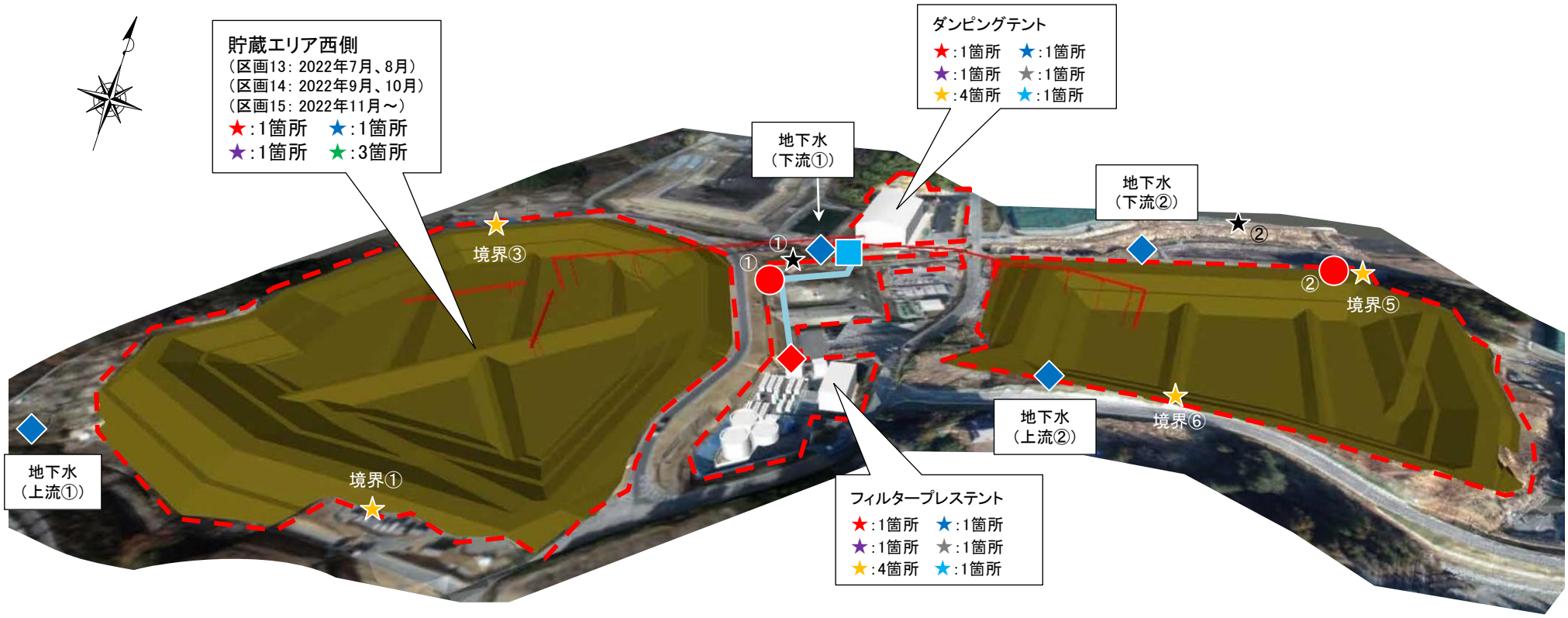
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}＋セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

測定地点			2022/7/12～2023/1/5 表面汚染密度（Bq/cm^2）
貯蔵施設境界		①-1	ND
		①-2	ND
		①-3	ND
		①-4	ND
ダンピングヤード	床		ND
	壁	②-1	ND
		②-2	ND
		②-3	ND
		②-4	ND
	設備	トラックホッパー	ND
貯蔵エリア	重機	バックホウ	ND

表面汚染密度検出下限値：0.63Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（双葉③工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）



☆ :施設の位置

【 凡例 】

- ◆ ：地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度
- ● ：地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ◆ ：浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★ ：沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ■ ：放流先河川の放射能濃度
- ★ ：粉じん濃度
- ★ ：空間線量率（作業環境）
- ★ ：空気中の放射能濃度
- ★ ：表面汚染密度（床）
- ★ ：表面汚染密度（貯蔵エリア境界・壁）
- ★ ：表面汚染密度（設備）
- ★ ：表面汚染密度（重機）
- ---：敷地境界線

土壌貯蔵施設（双葉③工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定項目 / 測定日		電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）
上流①	2019/12/24	（稼働前）	18	8.1
	2022/7/11～2023/1/11	（稼働後）※	14	5.6
上流②	2021/12/18	（稼働前）	20	14
	2022/7/11～2023/1/11	（稼働後）※	26	17
下流①	2019/12/24	（稼働前）	22	7.8
	2022/7/11～2023/1/11	（稼働後）※	23	9.2
下流②	2021/12/16	（稼働前）	49	52
	2022/7/11～2023/1/11	（稼働後）※	54	68

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度（週次測定）

測定地点	測定項目 / 測定日		Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
上流①	2019/12/24	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/4～2023/1/31	（稼働後）	ND	ND
上流②	2021/12/21	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/4～2023/1/31	（稼働後）	ND	ND
下流①	2019/12/24	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/4～2023/1/31	（稼働後）	ND	ND
下流②	2021/12/16	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/4～2023/1/31	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定項目 / 測定日		Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
集排水設備①	2019/12/20	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/13～2023/1/12	（稼働後）	ND	ND
集排水設備②	2021/12/16	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/13～2023/1/12	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度（pH） 最小値	水素イオン濃度（pH） 最大値	生物化学的酸素要求量（BOD）（mg/L）	化学的酸素要求量（COD）（mg/L）	浮遊物質量（SS）（mg/L）
2022/7/11～2023/1/18	7.6	7.9	1.8～10	32～90	1～25

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD管理値：90mg/L，SS基準：60mg/L

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

測定項目 / 測定日	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
2022/7/4	ND	2.5
2022/7/12	ND	1.2
2022/7/18	ND	1.9
2022/7/25	ND	1.9
2022/8/1	ND	2.1
2022/8/9	ND	2.4
2022/8/18	ND	1.6
2022/8/22	ND	2.2
2022/8/29	ND	ND
2022/9/5	ND	2.6
2022/9/12	ND	1.3
2022/9/20	ND	2.0
2022/9/27	ND	1.0
2022/10/3	ND	1.2
2022/10/10	ND	1.4
2022/10/17	ND	2.0
2022/10/24	ND	1.5
2022/10/31	ND	1.9
2022/11/7	ND	2.3
2022/11/15	ND	2.2
2022/11/21	ND	2.3
2022/11/28	ND	2.2
2022/12/5	ND	1.6
2022/12/12	ND	1.6
2022/12/19	ND	2.5
2022/12/26	ND	2.2
2023/1/4	ND	2.1
2023/1/10	ND	2.3
2023/1/16	ND	1.9
2023/1/23	ND	2.1
2023/1/31	ND	2.2

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム（Bq/L）	放流量（m^3）
2022/7/4～2023/1/31	911	0.0	2.1	ND	21947

濁度管理値：5以下
放射性セシウム管理値：ND
NDとは、検出下限値（6.5Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定項目 / 測定日	浮遊物質量（SS）※（mg/L）
沈砂池①	2022/7/11～2023/1/11	21
沈砂池②	2022/7/11～2023/1/11	4

SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定項目 / 測定日		Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
2019/12/17	（稼働前）	ND	ND
2022/7/11～2023/1/11	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2022/7/11～2023/1/13 粉じん濃度※（mg/m^3）
ダンピングテント	0.3
フィルタープレステント	0.1
貯蔵エリア西側	0.1

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2022/7/25～2023/1/23 空間線量率（μSv/h） 最小値	最大値
ダンピングテント	0.17	0.22
フィルタープレステント	0.26	1.30
貯蔵エリア西側	1.45	2.03

★空気中の放射能濃度

測定地点	2022/7/11～2023/1/13 Cs-134（Bq/cm^3）	Cs-137（Bq/cm^3）
ダンピングテント	ND	ND
フィルタープレステント	ND	ND
貯蔵エリア西側	ND	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}＋セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

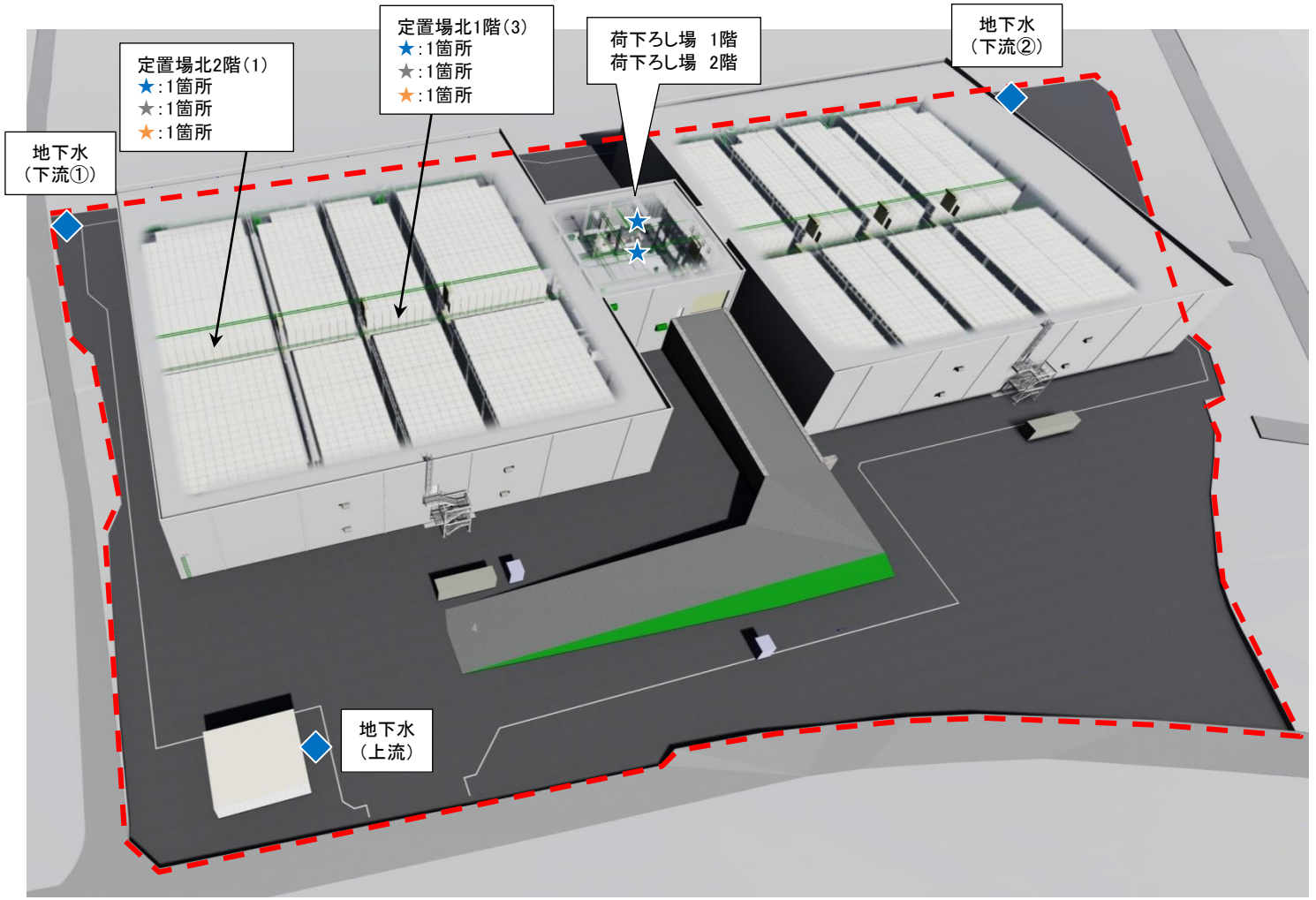
表面汚染密度（★床、★貯蔵エリア境界・壁、★設備、★重機）

測定地点			2022/7/25～2023/1/23 表面汚染密度（Bq/cm^2）
貯蔵エリア境界		境界①	ND
		境界③	ND
		境界⑤	ND
		境界⑥	ND
ダンピングテント	床		ND
	壁	北側	ND
		東側	ND
		南側	ND
		西側	ND
	設備	ベルトコンベア	ND
フィルタープレステント	床		ND
	壁	北側	ND
		東側	ND
		南側	ND
		西側	ND
	設備	フィルタープレス	ND
貯蔵エリア西側	重機	バックホウ	ND
		ブルドーザー	ND
		振動ローラー	ND

表面汚染密度検出下限値：0.39Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

廃棄物貯蔵施設のモニタリング結果（月次測定）

廃棄物貯蔵施設（大熊1工区）のモニタリング測定地点（月次測定）



★ :施設の位置

【 凡例 】

◆ : 地下水中の放射能濃度等　★ : 空間線量率(作業環境)　★ : 表面汚染密度(床)　★ : 表面汚染密度(壁)

--- : 敷地境界線

廃棄物貯蔵施設（大熊1工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目 / 測定日	電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）
上流	2020/3/31 （稼働前）	30	ND
	2022/7/1 ～2023/1/5 （稼働後）※	17	9.7
下流①	2020/3/31 （稼働前）	28	ND
	2022/7/1 ～2023/1/5 （稼働後）※	18	9.2
下流②	2020/3/31 （稼働前）	15	ND
	2022/7/1 ～2023/1/5 （稼働後）※	19	11

塩化物イオン濃度報告下限値：（稼働前）100mg/L 、（稼働後）0.1mg/L
NDとは、塩化物イオン濃度が報告下限値未満であることを示す。
※期間中の最大値を示す。

測定地点	測定項目 / 測定日	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
上流	2020/3/12 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/1 ～2023/1/5 （稼働後）	ND	ND
下流①	2020/3/9 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/1 ～2023/1/5 （稼働後）	ND	ND
下流②	2020/3/9 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/1 ～2023/1/5 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★空間線量率（作業環境）

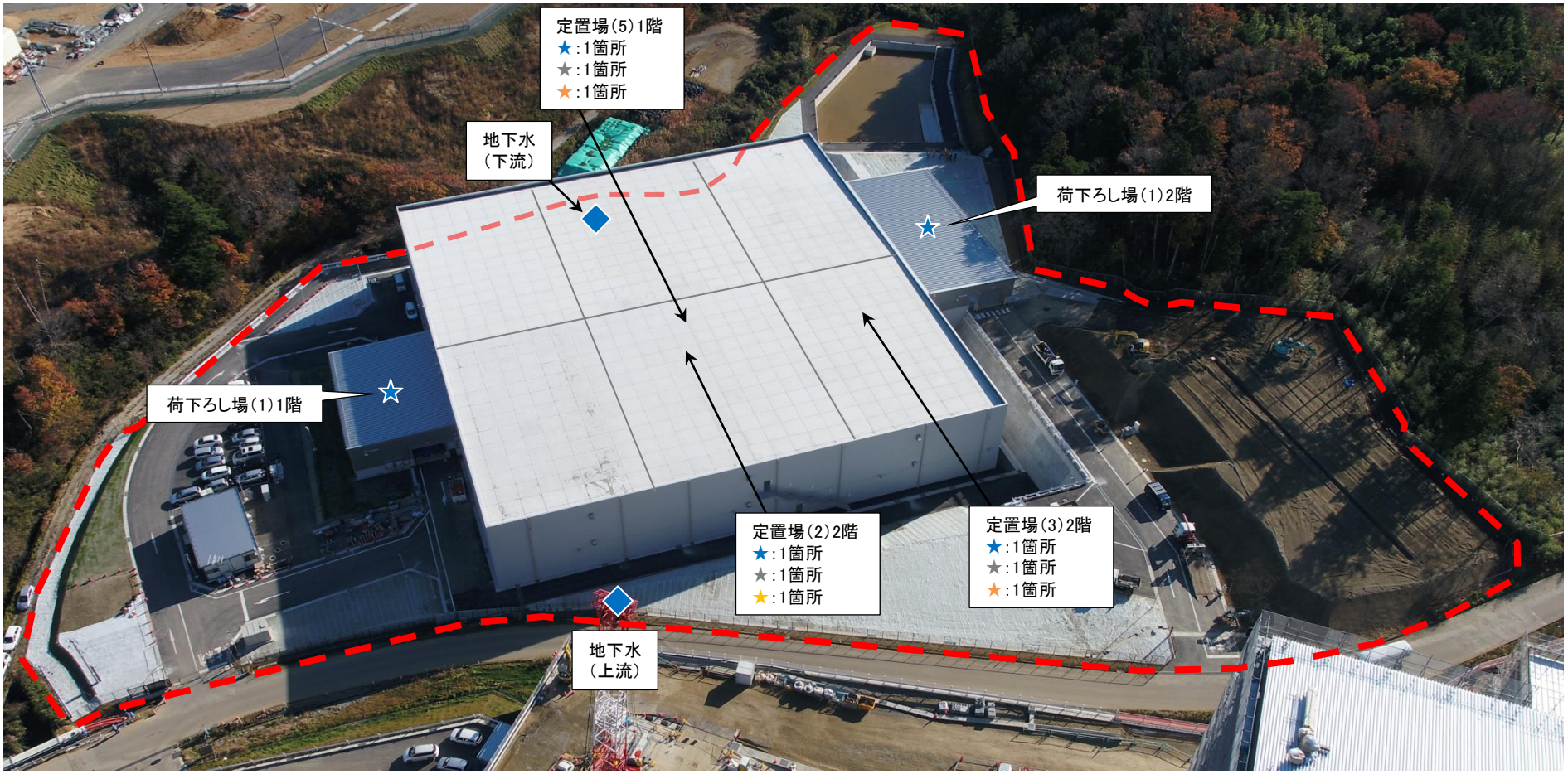
測定地点	2022/7/29 ～2023/1/27 空間線量率（μSv/h）	
	最小値	最大値
定置場北1階（3）	2.28	5.35
荷下ろし場 1階	0.08	0.08
定置場北2階（1）	3.73	10.5
荷下ろし場 2階	0.06	0.08

表面汚染密度（★床、★壁）

測定地点		2022/7/29 ～2023/1/27 表面汚染密度（Bq/cm^2）
床	定置場北1階（3）	ND
	定置場北2階（1）	ND
壁	定置場北1階（3）	ND
	定置場北2階（1）	ND

表面汚染密度検出下限値：0.60Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

廃棄物貯蔵施設（双葉1工区）のモニタリング測定地点（月次測定）



★ :施設の位置

【 凡例 】

◆ : 地下水中の放射能濃度等　★ : 空間線量率(作業環境)　★ : 表面汚染密度(床)　★ : 表面汚染密度(壁)

--- : 敷地境界線

廃棄物貯蔵施設（双葉1工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目 / 測定日	電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）
上流	2020/3/2	16	7.3
	2022/7/1 ～2023/1/5 （稼働後）※	16	9.4
下流	2020/3/2 （稼働前）	21	12
	2022/7/1 ～2023/1/5 （稼働後）※	25	6.8

※期間中の最大値を示す。

測定地点	測定項目 / 測定日	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
上流	2020/3/2 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/1 ～2023/1/5 （稼働後）	ND	ND
下流	2020/3/2 （稼働前）	ND	ND
	2022/7/1 ～2023/1/5 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2022/7/29 ～2023/1/27 空間線量率（μSv/h）	
	最小値	最大値
定置場（5）1階	0.75	8.11
荷下ろし場（1）1階	0.14	0.16
定置場（2）2階	2.82	2.82
定置場（3）2階	0.16	2.28
荷下ろし場（1）2階	0.14	0.15

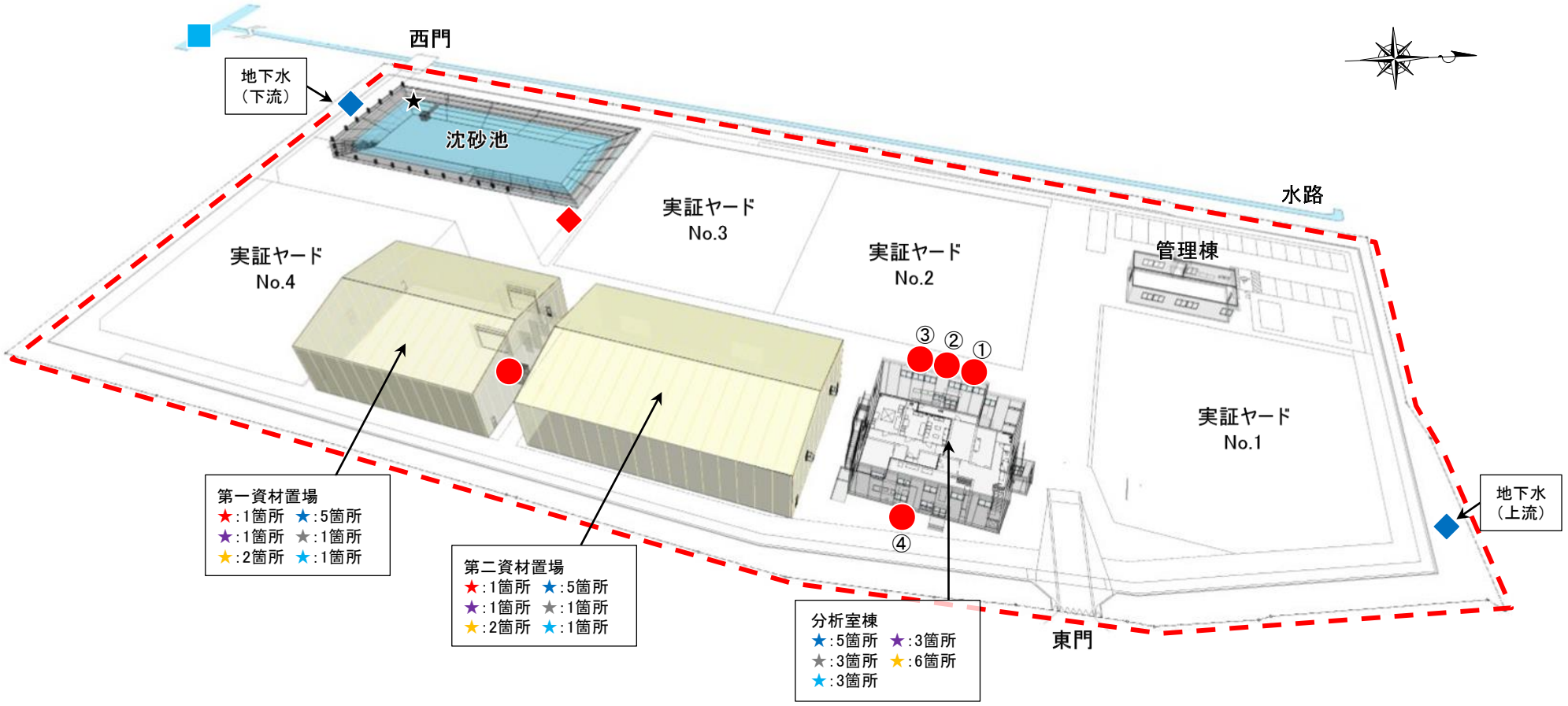
表面汚染密度（★床、★壁）

測定地点		2022/7/22 ～2023/1/20 表面汚染密度（Bq/cm^2）
床	定置場（5）1階	ND
	定置場（2）2階	ND
	定置場（3）2階	ND
壁	定置場（5）1階	ND
	定置場（2）2階	ND
	定置場（3）2階	ND

表面汚染密度検出下限値：0.60Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

技術実証フィールドのモニタリング結果（月次測定）

技術実証フィールドのモニタリング測定地点（月次測定）



☆ :施設の位置

【 凡例 】

- ◆ : 地下水中の放射能濃度等
- ● : 排気中の放射能濃度
- ◆ : 実証試験排水の放射能濃度等
- ★ : 沈砂池からの放流水の浮遊物質量、放射能濃度
- ■ : 放流先河川の放射能濃度
- ★ : 粉じん濃度
- ★ : 空間線量率（作業環境）
- ★ : 空気中の放射能濃度
- ★ : 表面汚染密度（床）
- ★ : 表面汚染密度（壁）
- ★ : 表面汚染密度（設備）
- --- : 敷地境界線

技術実証フィールドのモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目 / 測定日		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2019/9/6	（稼働前）	27	8.0
	2022/7/7 ～2023/1/10	（稼働後）※	25	9.2
下流	2019/9/6	（稼働前）	14	8.0
	2022/7/7 ～2023/1/10	（稼働後）※	53	7.2

※期間中の最大値を示す。

測定地点	測定項目 / 測定日		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
上流	2019/9/6	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/10	（稼働後）	ND	ND
下流	2019/9/6	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/10	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●排気中の放射能濃度

測定地点		測定対象	2022/7/7～2023/1/6 Cs-134 (Bq/m³N)	Cs-137 (Bq/m³N)
第一資材置場	集じん機	円筒ろ紙	ND	ND
		ドレン部	ND	ND
分析室棟	①一般分析第一前処理室	円筒ろ紙	ND	ND
		ドレン部	ND	ND
	②固体試料第一前処理室 ※	円筒ろ紙	ND	ND
		ドレン部	ND	ND
	③固体試料第二前処理室	円筒ろ紙	ND	ND
		ドレン部	ND	ND
	④放射能濃度測定室前室	円筒ろ紙	ND	ND
		ドレン部	ND	ND

放射能濃度検出下限値（ろ紙部）：セシウム134：0.5 Bq/m³N、セシウム137：0.5 Bq/m³N
放射能濃度検出下限値（ドレン部）：セシウム134：1.0 Bq/m³N、セシウム137：1.0 Bq/m³N
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
※除じん装置の不具合により、2022年7,8月は測定なし。なお、当該期間中に同室の使用なし。

◆実証試験排水の環境項目

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) 最小値	最大値	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
2022/7/1 ～2023/1/11	8.0	8.5	ND～1.7	9.3～45	ND～2.8

pH管理値：5.8～8.6，BOD管理値：60mg/L，COD管理値：90mg/L，SS管理値：60mg/L
生物化学的酸素要求量（BOD）のNDとは、報告下限値（1mg/L）未満であることを示す。

◆実証試験排水の放射能濃度等

放流日	放流回数	濁度 最小値	最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m³)
2022/7/1 ～2023/1/20	8	<0.1	4.5	ND	55.8

濁度管理値：5以下
放射能濃度検出下限値：１Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定項目 / 測定日	浮遊物質量 (SS) ※ (mg/L)
2022/7/7 ～2023/1/10	26

SS管理値：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※期間中の最大値を示す。

★沈砂池からの放流水の放射能濃度

測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2022/7/7 ～2023/1/10	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定項目 / 測定日		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2019/9/27	（稼働前）	ND	1.2
2022/7/7	（稼働後）	ND	ND
2022/8/4	（稼働後）	ND	2.3
2022/9/8	（稼働後）	ND	1.7
2022/10/5 ～2023/1/10	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2022/7/6 ～2023/1/6 粉じん濃度※ (mg/m³)
第一資材置場	0.2
第二資材置場	0.1

定量下限値：0.1mg/m³、高濃度粉じんの下限値：10mg/m³
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点		2022/7/6 ～2023/1/6 空間線量率 (μSv/h) 最小値	最大値
第一資材置場	東	0.60	0.69
	西	0.24	0.27
	南	0.39	0.57
	北	0.19	0.22
	中央	0.31	0.37
第二資材置場	東	0.31	0.41
	西	0.23	0.27
	南	0.23	0.27
	北	0.25	0.31
	中央	0.26	0.36
分析室棟	一般分析第一前処理室	0.09	0.10
	固体試料第二前処理室	0.13	0.15
	放射能濃度測定室	0.13	0.16
	防護具脱衣室	0.10	0.11
	廊下1	0.11	0.13

★空気中の放射能濃度

測定地点		2022/7/6～2023/1/6 Cs-134 (Bq/cm³)	Cs-137 (Bq/cm³)
第一資材置場		ND	ND
第二資材置場		ND	ND
分析室棟	一般分析第一前処理室	ND	ND
	固体試料第一前処理室	ND	ND
	固体試料第二前処理室	ND	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：1.0×10^{-7}Bq/cm³、セシウム137：1.0×10^{-7}Bq/cm³
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm³]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

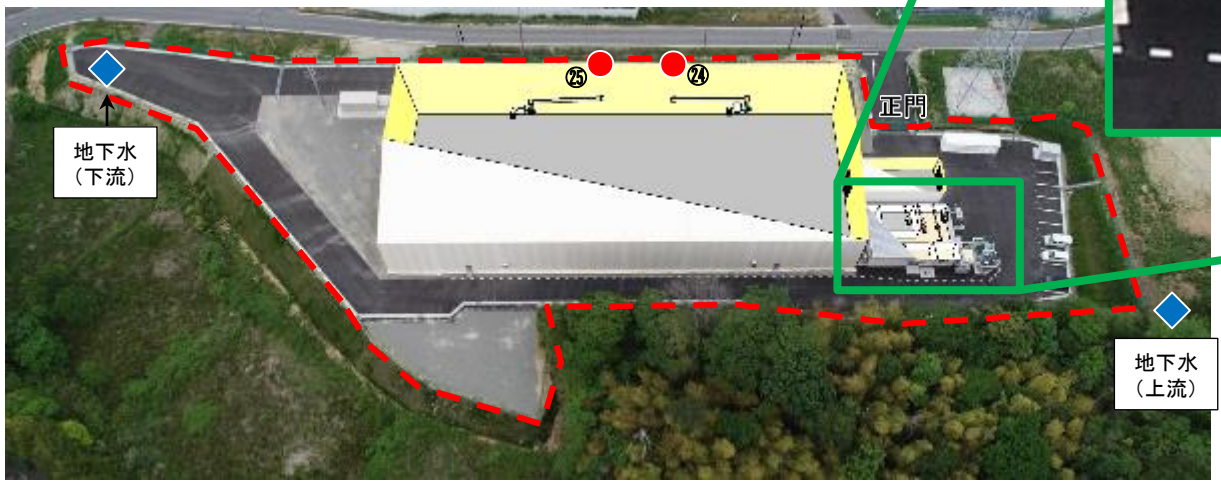
表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

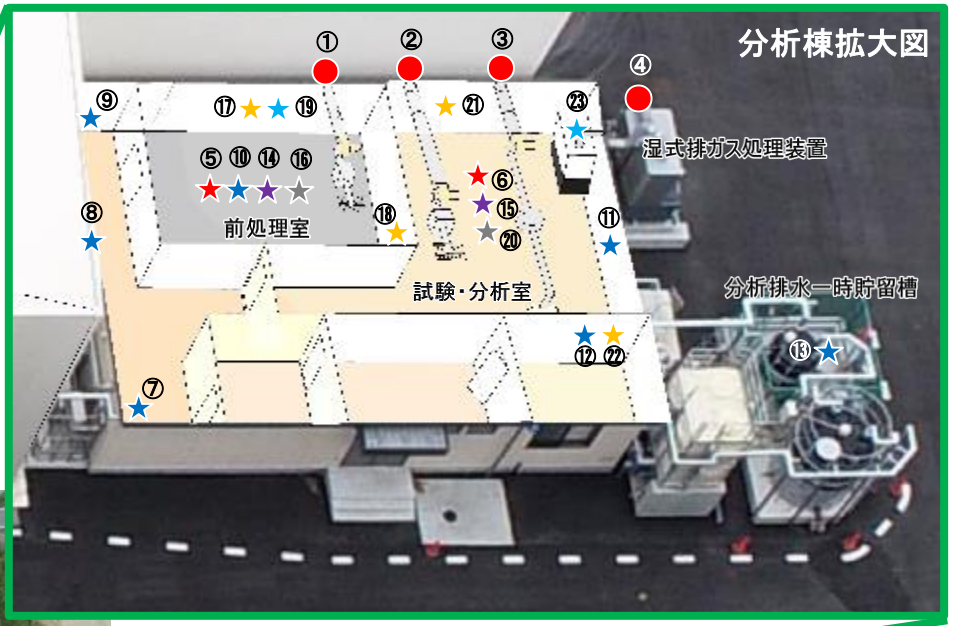
測定地点				2022/7/6 ～2023/1/6 表面汚染密度 (Bq/cm²)
第一資材置場		床	中央	ND
		壁	東	ND
			西	ND
		設備	集じん機	ND
第二資材置場		床	中央	ND
		壁	東	ND
			西	ND
		設備	操作盤	ND
分析室棟	一般分析第一前処理室	床	中央	ND
		壁	東	ND
			西	ND
		設備	集じん機	ND
	固体試料第一前処理室	床	中央	ND
		壁	東	ND
			西	ND
		設備	集じん機	ND
	固体試料第二前処理室	床	中央	ND
		壁	東	ND
			西	ND
		設備	集じん機	ND

表面汚染密度検出下限値：0.21Bq/cm²
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm²

飛灰洗浄処理技術等実証施設の
モニタリング結果（月次測定）

飛灰洗浄処理技術等実証施設のモニタリング測定地点（月次測定）





☆：施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水中の放射能濃度等
- ●：排気中の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ---：敷地境界線

飛灰洗浄処理技術等実証施設のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目 / 測定日		電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）
上流	2021/7/21	（稼働前）	14	13
	2022/7/7 ～2023/1/10	（稼働後）※	14	15
下流	2021/7/21	（稼働前）	12	7.0
	2022/7/7 ～2023/1/10	（稼働後）※	14	8.2

※期間中の最大値を示す。

測定地点	測定項目 / 測定日		Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
上流	2021/7/21	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/10	（稼働後）	ND	ND
下流	2021/7/21	（稼働前）	ND	ND
	2022/7/7 ～2023/1/10	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●排気中の放射能濃度

測定地点		2022/7/11～2023/1/11 Cs-134（Bq/m^3N）	Cs-137（Bq/m^3N）
①前処理室	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
②試験・分析室	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
③ICP分析装置	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
④湿式スクラバー	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
㉔実証棟集じん機南	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
㉕実証棟集じん機北	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND

放射能濃度検出下限値（ろ紙部）：セシウム134：0.5 Bq/m^3N、セシウム137：0.5 Bq/m^3N
放射能濃度検出下限値（ドレン部）：セシウム134：1.0 Bq/m^3N、セシウム137：1.0 Bq/m^3N
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★粉じん濃度

測定地点	2022/7/12 ～2023/1/11 粉じん濃度※（mg/m^3）
⑤前処理室	0.7
⑥試験・分析室	0.2

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点		2022/7/11 ～2023/1/11 空間線量率（μSv/h） 最小値	最大値
スクリーニング室	⑦西	0.18	0.21
前室	⑧北	0.13	0.16
	⑨東	0.12	0.13
前処理室	⑩中央	0.17	0.22
試験・分析室	⑪南	0.12	0.14
	⑫西	0.11	0.12
分析排水一時貯留槽	⑬表面	0.20	0.23

★空気中の放射能濃度

測定地点	2022/7/11～2023/1/11 Cs-134（Bq/cm^3）	Cs-137（Bq/cm^3）
⑭前処理室	ND	ND
⑮試験・分析室	ND	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／$3\times10^{-3}\leqq1$

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点			2022/7/11 ～2023/1/11 表面汚染密度（Bq/cm^2）
前処理室	床	⑯中央	ND
	壁	⑰東	ND
		⑱西	ND
	設備	⑲ヒュームフード	ND
試験・分析室	床	⑳中央	ND
	壁	㉑東	ND
		㉒西	ND
	設備	㉓ドラフトチャンバー	ND

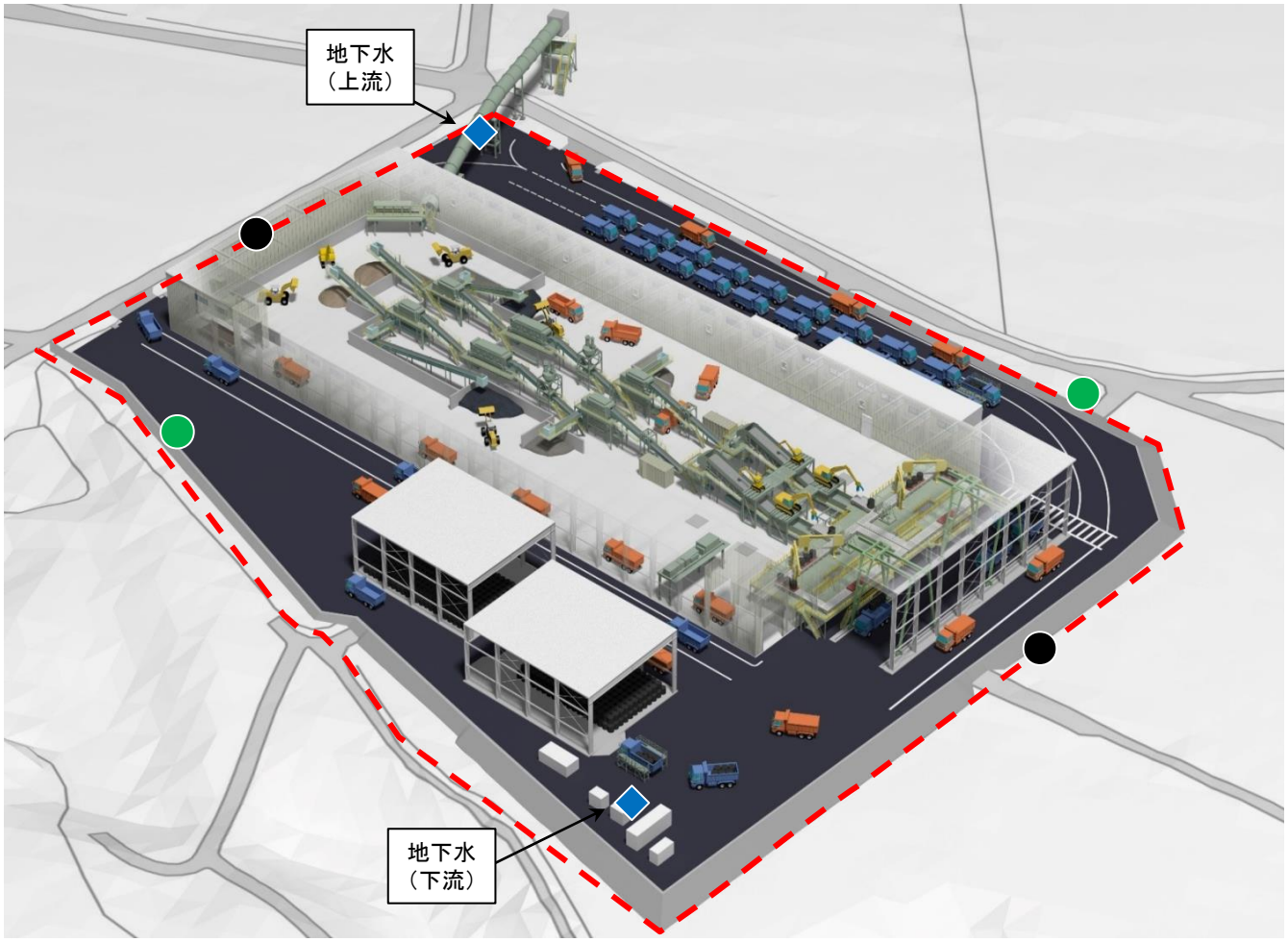
表面汚染密度検出下限値：0.21Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

受入・分別施設のモニタリング結果（年次測定）

以下の施設については、中間貯蔵施設環境安全委員会（第23回）でモニタリング結果を報告して以降、年次測定は実施していないため、今回は報告対象外。

・大熊②工区、第1期（環境モニタリング最終回）
・大熊②工区、第2期
・大熊③工区
・大熊④工区
・双葉①工区、第1期（環境モニタリング最終回）
・双葉①工区、第2期
・双葉②工区　（環境モニタリング最終回）

受入・分別施設（大熊①工区）のモニタリング測定地点（年次測定）



★：施設の位置

【凡例】
● ：騒音・振動　● ：悪臭　◆ ：地下水検査項目　--- ：敷地境界線

受入・分別施設（大熊①工区）のモニタリング測定結果（年次測定）
＜環境モニタリング最終回＞

●騒音

測定地点	測定項目 / 測定日	騒音レベル（dB）
北側	2018/7/10　（稼働前）	54
	2022/8/24　（稼働後）	53
南側	2018/7/10　（稼働前）	56
	2022/8/24　（稼働後）	54

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB　（昼間7:00～19:00）

●振動

測定地点	測定項目 / 測定日	振動レベル（dB）
北側	2018/7/10　（稼働前）	31
	2022/8/24　（稼働後）	30未満
南側	2018/7/10　（稼働前）	30未満
	2022/8/24　（稼働後）	30未満

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定地点	測定項目 / 測定日	臭気指数
西側	2018/7/10　（稼働前）	11　（風上）
	2022/8/24　（稼働後）	10未満　（風上）
東側	2018/7/10　（稼働前）	14　（風下）
	2022/8/24　（稼働後）	10未満　（風下）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水検査項目

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀（mg/L）	総水銀（mg/L）	カドミウム（mg/L）	鉛（mg/L）	六価クロム（mg/L）
	地下水検査基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2018/7/10　（稼働前）	不検出	ND	0.0019	0.120	ND
	2022/8/24　（稼働後）	不検出	ND	ND	0.002	ND
下流	2018/7/10　（稼働前）	不検出	ND	0.0003	0.025	ND
	2022/8/24　（稼働後）	不検出	ND	0.0003	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	砒素（mg/L）	全シアン（mg/L）	PCB（mg/L）	トリクロロエチレン（mg/L）	テトラクロロエチレン（mg/L）
	地下水検査基準	0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2018/7/10　（稼働前）	0.030	不検出	不検出	ND	ND
	2022/8/24　（稼働後）	0.001	不検出	不検出	ND	ND
下流	2018/7/10　（稼働前）	0.003	不検出	不検出	ND	ND
	2022/8/24　（稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ジクロロメタン（mg/L）	四塩化炭素（mg/L）	1,2-ジクロロエタン（mg/L）	1,1-ジクロロエチレン（mg/L）	1,2-ジクロロエチレン（mg/L）
	地下水検査基準	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2018/7/10　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/8/24　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2018/7/10　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/8/24　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

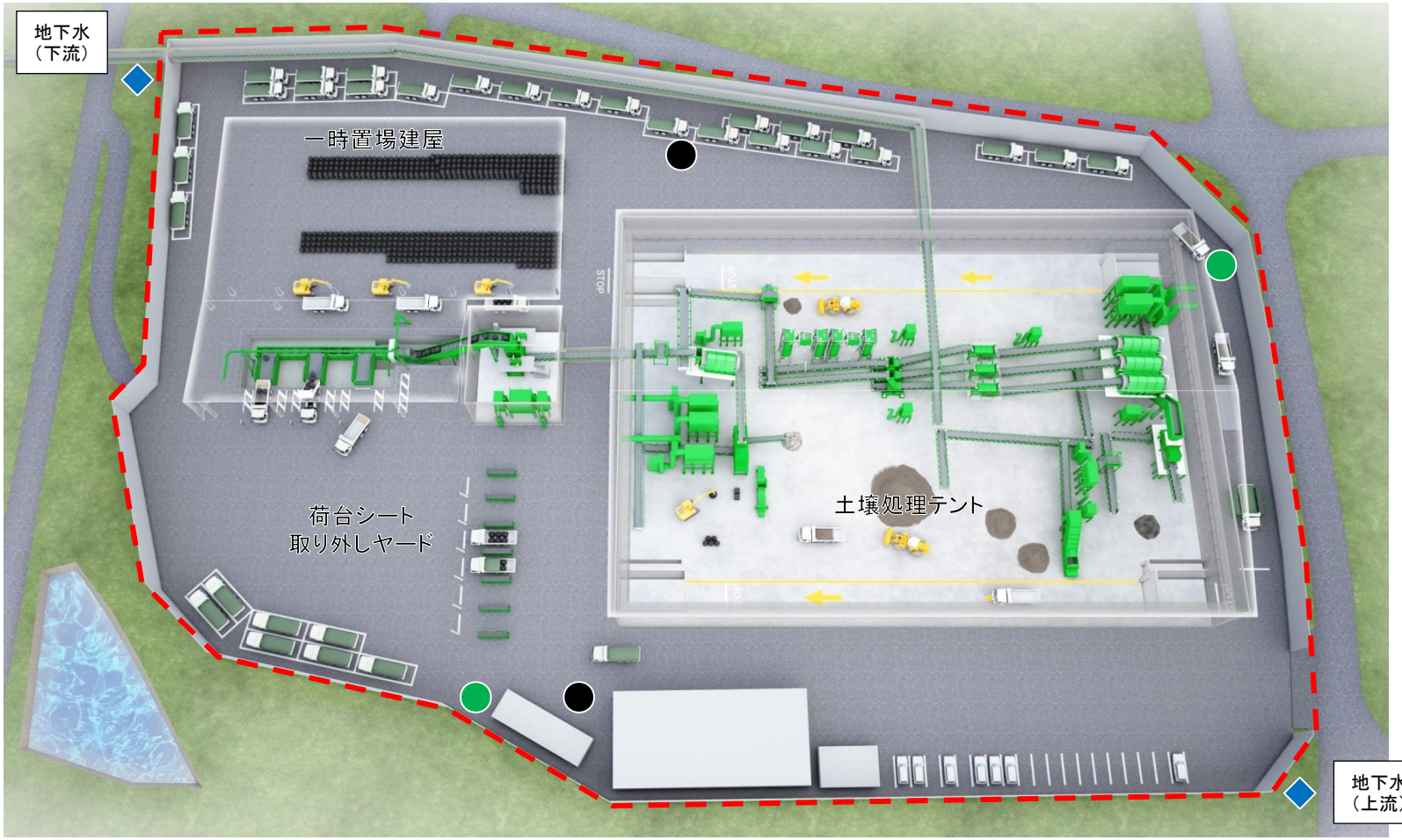
測定地点	測定項目 / 測定日	1,1,1-トリクロロエタン（mg/L）	1,1,2-トリクロロエタン（mg/L）	1,3-ジクロロプロペン（mg/L）	チウラム（mg/L）	シマジン（mg/L）
	地下水検査基準	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2018/7/10　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/8/24　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2018/7/10　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/8/24　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	チオベンカルブ（mg/L）	ベンゼン（mg/L）	セレン（mg/L）	1,4-ジオキサン（mg/L）	クロロエチレン（mg/L）
	地下水検査基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2018/7/10　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/8/24　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2018/7/10　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/8/24　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ダイオキシン類（pg-TEQ/L）
	地下水検査基準	1以下
上流	2018/7/10　（稼働前）	23
	2022/8/24　（稼働後）	0.34
下流	2018/7/10　（稼働前）	2.7
	2022/8/24　（稼働後）	0.16

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

受入・分別施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定地点（年次測定）



★：施設の位置

【 凡例 】
● ：騒音・振動　● ：悪臭　◆ ：地下水検査項目　--- ：敷地境界線

受入・分別施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定結果（年次測定）

●騒音

測定地点	測定項目 / 測定日	騒音レベル（dB）
西側	2019/7/26　（稼働前）	70
	2022/9/14　（稼働後）	73
南側	2019/7/26　（稼働前）	74
	2022/9/14　（稼働後）	75

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB　（昼間7:00～19:00）

●振動

測定地点	測定項目 / 測定日	振動レベル（dB）
西側	2019/7/26　（稼働前）	37
	2022/9/14　（稼働後）	50
南側	2019/7/26　（稼働前）	53
	2022/9/14　（稼働後）	61

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定地点	測定項目 / 測定日	臭気指数
西側	2019/7/30　（稼働前）	10未満　（風下）
	2022/9/14　（稼働後）	10未満　（風下）
東側	2019/7/30　（稼働前）	10未満　（風上）
	2022/9/14　（稼働後）	10未満　（風上）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水検査項目

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀（mg/L）	総水銀（mg/L）	カドミウム（mg/L）	鉛（mg/L）	六価クロム（mg/L）
	地下水検査基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2019/7/26　（稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND
	2022/9/14　（稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND
下流	2019/7/26　（稼働前）	不検出	ND	ND	0.007	ND
	2022/9/14　（稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	砒素（mg/L）	全シアン（mg/L）	PCB（mg/L）	トリクロロエチレン（mg/L）	テトラクロロエチレン（mg/L）
	地下水検査基準	0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2019/7/26　（稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
	2022/9/14　（稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND
下流	2019/7/26　（稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
	2022/9/14　（稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ジクロロメタン（mg/L）	四塩化炭素（mg/L）	1,2-ジクロロエタン（mg/L）	1,1-ジクロロエチレン（mg/L）	1,2-ジクロロエチレン（mg/L）
	地下水検査基準	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2019/7/26　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/9/14　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2019/7/26　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/9/14　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,1,1-トリクロロエタン（mg/L）	1,1,2-トリクロロエタン（mg/L）	1,3-ジクロロプロペン（mg/L）	チウラム（mg/L）	シマジン（mg/L）
	地下水検査基準	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2019/7/26　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/9/14　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2019/7/26　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/9/14　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	チオベンカルブ（mg/L）	ベンゼン（mg/L）	セレン（mg/L）	1,4-ジオキサン（mg/L）	クロロエチレン（mg/L）
	地下水検査基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2019/7/26　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/9/14　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2019/7/26　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/9/14　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ダイオキシン類（pg-TEQ/L）
	地下水検査基準	1以下
上流	2019/7/26　（稼働前）	0.037
	2022/9/14　（稼働後）	0.052
下流	2019/7/26　（稼働前）	0.035
	2022/9/14　（稼働後）	0.018

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設のモニタリング結果（年次測定）

以下の施設については、中間貯蔵施設環境安全委員会（第23回）でモニタリング結果を報告して以降、年次測定は実施していないため、今回は報告対象外。

・大熊②工区
・大熊③工区
・大熊④工区
・双葉①工区東側
・双葉①工区西側
・双葉③工区

土壌貯蔵施設（大熊①工区）のモニタリング測定地点（年次測定）

☆：施設の位置

【 凡例 】

- ●：騒音・振動
- ●：悪臭
- ◆：地下水検査項目（井戸）
- ◆：浸出水処理施設放流水の排水基準項目
- ■：放流先河川の環境基準項目
- ---：敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊①工区）のモニタリング測定結果（年次測定）①

●騒音

測定地点	測定項目／測定日	騒音レベル（dB）
北側	2018/7/11　（稼働前）	55
	2022/6/8　（稼働後）	53
南側	2021/2/23　（稼働前）	63
	2022/6/8　（稼働後）	63

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB （昼間7:00～19:00）

●振動

測定地点	測定項目／測定日	振動レベル（dB）
北側	2018/7/11　（稼働前）	30未満
	2022/6/8　（稼働後）	31
南側	2021/2/23　（稼働前）	43
	2022/6/8　（稼働後）	43

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定地点	測定項目／測定日	臭気指数
西側	2020/2/12　（稼働前）	10未満　（風上）
	2022/6/15　（稼働後）	10未満　（風下）
東側	2020/2/12　（稼働前）	10未満　（風下）
	2022/6/15　（稼働後）	10未満　（風上）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水検査項目（井戸）

測定地点	測定項目／測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)
	地下水検査基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下	0.01以下	検出されないこと
上流①	2018/7/11　（稼働前）	不検出	ND	0.0023	0.028	ND	0.014	不検出
	2022/6/7　（稼働後）	不検出	ND	ND	0.001	ND	0.01	不検出
上流②	2020/2/24　（稼働前）	不検出	ND	ND	0.022	ND	0.005	不検出
	2022/6/7　（稼働後）	不検出	ND	ND	0.001	ND	0.001	不検出
下流①	2018/7/11　（稼働前）	不検出	ND	0.0037	0.12	ND	0.027	不検出
	2022/6/7　（稼働後）	不検出	ND	0.0004	0.001	ND	ND	不検出
下流②	2020/2/24　（稼働前）	不検出	ND	ND	0.005	ND	0.001	不検出
	2022/6/7　（稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流③	2021/2/23　（稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2022/6/6　（稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出

測定地点	測定項目／測定日	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	検出されないこと	0.01以下	0.01以下	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下
上流①	2018/7/11　（稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/6/7　（稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
上流②	2020/2/24　（稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/6/7　（稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2018/7/11　（稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/6/7　（稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/2/24　（稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/6/7　（稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流③	2021/2/23　（稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/6/6　（稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目／測定日	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)
	地下水検査基準	0.04以下	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下	0.02以下
上流①	2018/7/11　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/6/7　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
上流②	2020/2/24　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/6/7　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2018/7/11　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/6/7　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/2/24　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/6/7　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流③	2021/2/23　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/6/6　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目／測定日	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水検査基準	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下	1以下
上流①	2018/7/11　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.75
	2022/6/7　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.47
上流②	2020/2/24　（稼働前）	ND	0.002	ND	ND	0.18
	2022/6/7　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.092
下流①	2018/7/11　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	17
	2022/6/7　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.35
下流②	2020/2/24　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.12
	2022/6/7　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.2
下流③	2021/2/23　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.07
	2022/6/6　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.13

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（大熊①工区）のモニタリング測定結果（年次測定）②

◆浸出水処理施設放流水の排水基準項目

測定項目 / 測定日	アルキル水銀化合物 (mg/L)	水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物 (mg/L)	カドミウム及びその化合物 (mg/L)	鉛及びその化合物 (mg/L)	有機燐化合物 (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	検出されないこと	0.005以下	0.03以下	0.1以下	1以下
2022/6/7 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	六価クロム化合物 (mg/L)	砒素及びその化合物 (mg/L)	シアン化合物 (mg/L)	ポリ塩化ビフェニル (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.5以下	0.1以下	1以下	0.003以下	0.1以下
2022/6/7 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.1以下	0.2以下	0.02以下	0.04以下	1以下
2022/6/7 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.4以下	3以下	0.06以下	0.02以下	0.06以下
2022/6/7 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン及びその化合物 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.03以下	0.2以下	0.1以下	0.1以下	0.5以下
2022/6/7 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	ほう素及びその化合物 (mg/L)	ふっ素及びその化合物 (mg/L)	アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物 (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量） (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（動植物油脂類含有量） (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	50以下	15以下	200以下	5以下	30以下
2022/6/7 （稼働後）	ND	ND	3.6	ND	ND

測定項目 / 測定日	フェノール類含有量 (mg/L)	銅含有量 (mg/L)	亜鉛含有量 (mg/L)	溶解性鉄含有量 (mg/L)	溶解性マンガン含有量 (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	5以下	3以下	2以下	10以下	10以下
2022/6/7 （稼働後）	ND	ND	ND	0.22	4

測定項目 / 測定日	クロム含有量 (mg/L)	大腸菌群数 (個/cm^3)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
浸出水処理施設の排水基準	2以下	3000以下	10以下
2022/6/7 （稼働後）	ND	20	0.032

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

■放流先河川の環境基準項目

測定項目 / 測定日	カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)
水質環境基準	0.003以下	検出されないこと	0.01以下	0.02以下	0.01以下
2018/7/11 （稼働前）	0.0015	不検出	ND	ND	ND
2022/6/7 （稼働後）	0.0003	不検出	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	総水銀 (mg/L)	アルキル水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)
水質環境基準	0.0005以下	検出されないこと	検出されないこと	0.02以下	0.002以下
2018/7/11 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
2022/6/7 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)
水質環境基準	0.004以下	0.1以下	0.04以下	1以下	0.006以下
2018/7/11 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2022/6/7 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
水質環境基準	0.01以下	0.01以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
2018/7/11 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2022/6/7 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	フッ素 (mg/L)
水質環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	10以下	0.8以下
2018/7/11 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2022/6/7 （稼働後）	ND	ND	ND	0.7	0.09

測定項目 / 測定日	ホウ素 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
水質環境基準	1以下	0.05以下
2018/7/11 （稼働前）	ND	ND
2022/6/7 （稼働後）	ND	ND

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) ※1	生物化学的酸素要求量 (BOD) ※1 (mg/L)	浮遊物質量 (SS) ※1 (mg/L)	溶存酸素量 (DO) ※1 (mg/L)
2018/7/11 （稼働前）	6.8	2	15	8.2
2022/6/7 （稼働後）	7.5	1.5	11	9.1

測定項目 / 測定日	大腸菌数 ※1,※2 (CFU/100mL)
2022/3/7 （改正前）	3
2022/6/7 （改正後）	550

※1：中間貯蔵施設区域及び周辺の河川は、環境基準の水域類型に指定されていない。
（参考）河川C類型の環境基準：pH 6.5～8.5、BOD 5mg/L以下、SS 50mg/L以下、DO 5mg/L以上
※2：大腸菌数は2022年4月1日から適用された。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定地点（年次測定）

☆：施設の位置

【 凡例 】

- ●：騒音・振動
- ◆：浸出水処理施設放流水の排水基準項目
- ●：悪臭
- ■：放流先河川の環境基準項目 ※
- ◆：地下水検査項目（井戸）
- ---：敷地境界線

※ 放流水の流路変更により2020年1月に観測地点を変更した。

土壌貯蔵施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定結果（年次測定）①

●騒音

測定地点	測定項目 / 測定日	騒音レベル (dB)
西側①	2021/7/20 （稼働前）	62
	2022/6/13 （稼働後）	69
西側②	2020/7/31 （稼働前）	68
	2022/6/13 （稼働後）	58
東側①	2019/4/18 （稼働前）	66
	2022/6/13 （稼働後）	62
東側②	2020/7/31 （稼働前）	63
	2022/6/13 （稼働後）	61

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB （昼間7:00～19:00）

●振動

測定地点	測定項目 / 測定日	振動レベル (dB)
西側①	2021/7/20 （稼働前）	32
	2022/6/13 （稼働後）	39
西側②	2020/7/31 （稼働前）	44
	2022/6/13 （稼働後）	35
東側①	2019/4/18 （稼働前）	54
	2022/6/13 （稼働後）	33
東側②	2020/7/31 （稼働前）	48
	2022/6/13 （稼働後）	47

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定地点	測定項目 / 測定日	臭気指数
北側①	2019/4/18 （稼働前）	10未満 （風上）
	2022/6/13 （稼働後）	10未満 （風上）
北側②	2020/7/28 （稼働前）	10未満 （風下）
	2022/6/13 （稼働後）	10未満 （風上）
南側①	2021/7/20 （稼働前）	10未満 （風下）
	2022/6/13 （稼働後）	10未満 （風下）
南側②	2020/7/28 （稼働前）	10未満 （風上）
	2022/6/13 （稼働後）	10未満 （風下）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水検査項目（井戸）

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)
	地下水検査基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下	0.01以下	検出されないこと
上流	2019/4/18 （稼働前）	不検出	ND	ND	0.051	ND	ND	不検出
	2022/6/13 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流①	2019/4/18 （稼働前）	不検出	ND	ND	0.008	ND	ND	不検出
	2022/6/13 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流②	2020/7/31 （稼働前）	不検出	ND	ND	0.009	ND	ND	不検出
	2022/6/13 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出

測定地点	測定項目 / 測定日	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	検出されないこと	0.01以下	0.01以下	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下
上流	2019/4/18 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/6/13 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2019/4/18 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/6/13 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/7/31 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/6/13 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)
	地下水検査基準	0.04以下	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下	0.02以下
上流	2019/4/18 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/6/13 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2019/4/18 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/6/13 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/7/31 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/6/13 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水検査基準	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下	1以下
上流	2019/4/18 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.79
	2022/6/13 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.016
下流①	2019/4/18 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.039
	2022/6/13 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.015
下流②	2020/7/31 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.027
	2022/6/13 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.015

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定結果（年次測定）②

◆浸出水処理施設放流水の排水基準項目

測定項目 / 測定日	アルキル水銀化合物 (mg/L)	水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物 (mg/L)	カドミウム及びその化合物 (mg/L)	鉛及びその化合物 (mg/L)	有機燐化合物 (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	検出されないこと	0.005以下	0.03以下	0.1以下	1以下
2022/6/13 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	六価クロム化合物 (mg/L)	砒素及びその化合物 (mg/L)	シアン化合物 (mg/L)	ポリ塩化ビフェニル (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.5以下	0.1以下	1以下	0.003以下	0.1以下
2022/6/13 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.1以下	0.2以下	0.02以下	0.04以下	1以下
2022/6/13 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.4以下	3以下	0.06以下	0.02以下	0.06以下
2022/6/13 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン及びその化合物 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.03以下	0.2以下	0.1以下	0.1以下	0.5以下
2022/6/13 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	ほう素及びその化合物 (mg/L)	ふっ素及びその化合物 (mg/L)	アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物 (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量） (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（動植物油脂類含有量） (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	50以下	15以下	200以下	5以下	30以下
2022/6/13 （稼働後）	ND	ND	4.7	ND	ND

測定項目 / 測定日	フェノール類含有量 (mg/L)	銅含有量 (mg/L)	亜鉛含有量 (mg/L)	溶解性鉄含有量 (mg/L)	溶解性マンガン含有量 (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	5以下	3以下	2以下	10以下	10以下
2022/6/13 （稼働後）	ND	ND	ND	0.1	0.23

測定項目 / 測定日	クロム含有量 (mg/L)	大腸菌群数 (個/cm^3)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
浸出水処理施設の排水基準	2以下	3000以下	10以下
2022/6/13 （稼働後）	ND	95	0.029

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

■放流先河川の環境基準項目

測定項目 / 測定日	カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)
水質環境基準	0.003以下	検出されないこと	0.01以下	0.02以下	0.01以下
2020/12/22 （稼働前）	ND	不検出	ND	ND	ND
2022/6/13 （稼働後）	ND	不検出	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	総水銀 (mg/L)	アルキル水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)
水質環境基準	0.0005以下	検出されないこと	検出されないこと	0.02以下	0.002以下
2020/12/22 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
2022/6/13 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)
水質環境基準	0.004以下	0.1以下	0.04以下	1以下	0.006以下
2020/12/22 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2022/6/13 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
水質環境基準	0.01以下	0.01以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
2020/12/22 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2022/6/13 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	フッ素 (mg/L)
水質環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	10以下	0.8以下
2020/12/22 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2022/6/13 （稼働後）	ND	ND	ND	0.2	ND

測定項目 / 測定日	ホウ素 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
水質環境基準	1以下	0.05以下
2020/12/22 （稼働前）	ND	ND
2022/6/13 （稼働後）	ND	ND

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) ※1	生物化学的酸素要求量 (BOD) ※1 (mg/L)	浮遊物質量 (SS) ※1 (mg/L)	溶存酸素量 (DO) ※1 (mg/L)
2020/12/22 （稼働前）	7.9	0.6	1	14.7
2022/6/13 （稼働後）	7.5	ND	7	10

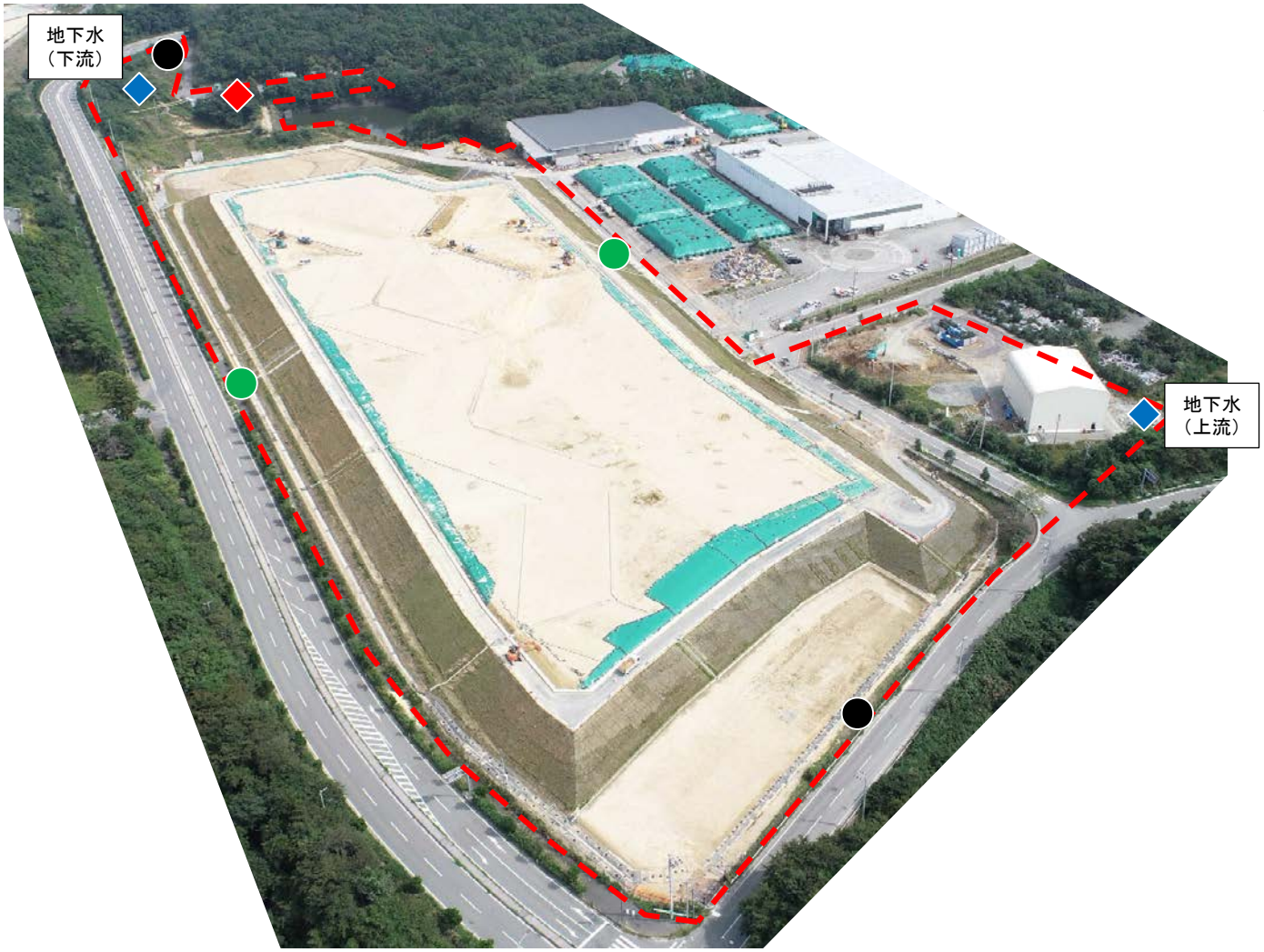
測定項目 / 測定日	大腸菌数 ※1,※2 (CFU/100mL)
2022/3/7 （改正前）	33
2022/6/13 （改正後）	200

※1：中間貯蔵施設区域及び周辺の河川は、環境基準の水域類型に指定されていない。
（参考）河川C類型の環境基準：pH 6.5～8.5、BOD 5mg/L以下、SS 50mg/L以下、DO 5mg/L以上
※2：大腸菌数は2022年4月1日から適用された。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（双葉②工区）のモニタリング測定地点（年次測定）

（P.61参照）



☆：施設の位置

【 凡例 】

- ●：騒音・振動
- ●：悪臭
- ◆：地下水検査項目（井戸）
- ◆：浸出水処理施設放流水の排水基準項目
- ■：放流先河川の環境基準項目
- ---：敷地境界線

土壌貯蔵施設（双葉②工区）のモニタリング測定結果（年次測定）①

●騒音

測定地点	測定項目 / 測定日	騒音レベル（dB）
北側	2019/5/21　（稼働前）	52
	2022/11/10　（稼働後）	73
南側	2019/5/21　（稼働前）	80
	2022/11/10　（稼働後）	47

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB　（昼間7:00～19:00）

●振動

測定地点	測定項目 / 測定日	振動レベル（dB）
北側	2019/5/21　（稼働前）	35
	2022/11/10　（稼働後）	52
南側	2019/5/21　（稼働前）	38
	2022/11/10　（稼働後）	31

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定地点	測定項目 / 測定日	臭気指数
西側	2019/5/21　（稼働前）	10未満　（風上）
	2022/11/10　（稼働後）	10未満　（風下）
東側	2019/5/21　（稼働前）	10未満　（風下）
	2022/11/10　（稼働後）	10未満　（風上）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水検査項目（井戸）

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)
	地下水検査基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2019/5/8　（稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND
	2022/11/10　（稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND
下流	2019/5/8　（稼働前）	不検出	ND	0.0003	0.073	ND
	2022/11/10　（稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2019/5/8　（稼働前）	0.006	不検出	不検出	ND	ND
	2022/11/10　（稼働後）	0.006	不検出	不検出	ND	ND
下流	2019/5/8　（稼働前）	0.007	不検出	不検出	ND	ND
	2022/11/10　（稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2019/5/8　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/11/10　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2019/5/8　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/11/10　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	地下水検査基準	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2019/5/8　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/11/10　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2019/5/8　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/11/10　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2019/5/8　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/11/10　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2019/5/8　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/11/10　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水検査基準	1以下
上流	2019/5/8　（稼働前）	0.23
	2022/11/10　（稼働後）	0.080
下流	2019/5/8　（稼働前）	0.057
	2022/11/10　（稼働後）	0.017

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（双葉②工区）のモニタリング測定結果（年次測定）②

◆浸出水処理施設放流水の排水基準項目

測定項目 / 測定日	アルキル水銀化合物 (mg/L)	水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物 (mg/L)	カドミウム及びその化合物 (mg/L)	鉛及びその化合物 (mg/L)	有機燐化合物 (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	検出されないこと	0.005以下	0.03以下	0.1以下	1以下
2022/11/10 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	六価クロム化合物 (mg/L)	砒素及びその化合物 (mg/L)	シアン化合物 (mg/L)	ポリ塩化ビフェニル (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.5以下	0.1以下	1以下	0.003以下	0.1以下
2022/11/10 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.1以下	0.2以下	0.02以下	0.04以下	1以下
2022/11/10 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.4以下	3以下	0.06以下	0.02以下	0.06以下
2022/11/10 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン及びその化合物 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.03以下	0.2以下	0.1以下	0.1以下	0.5以下
2022/11/10 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	ほう素及びその化合物 (mg/L)	ふっ素及びその化合物 (mg/L)	アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物 (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量） (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（動植物油脂類含有量） (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	50以下	15以下	200以下	5以下	30以下
2022/11/10 （稼働後）	ND	ND	6.6	ND	ND

測定項目 / 測定日	フェノール類含有量 (mg/L)	銅含有量 (mg/L)	亜鉛含有量 (mg/L)	溶解性鉄含有量 (mg/L)	溶解性マンガン含有量 (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	5以下	3以下	2以下	10以下	10以下
2022/11/10 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	1

測定項目 / 測定日	クロム含有量 (mg/L)	大腸菌群数 (個/cm^3)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
浸出水処理施設の排水基準	2以下	3000以下	10以下
2022/11/10 （稼働後）	ND	8	0.00028

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

■放流先河川の環境基準項目

測定項目 / 測定日	カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)
水質環境基準	0.003以下	検出されないこと	0.01以下	0.02以下	0.01以下
2019/4/24 （稼働前）	ND	不検出	ND	ND	0.002
2022/11/10 （稼働後）	ND	不検出	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	総水銀 (mg/L)	アルキル水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)
水質環境基準	0.0005以下	検出されないこと	検出されないこと	0.02以下	0.002以下
2019/4/24 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
2022/11/10 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)
水質環境基準	0.004以下	0.1以下	0.04以下	1以下	0.006以下
2019/4/24 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2022/11/10 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
水質環境基準	0.01以下	0.01以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
2019/4/24 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2022/11/10 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	フッ素 (mg/L)
水質環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	10以下	0.8以下
2019/4/24 （稼働前）	ND	ND	ND	0.5	0.14
2022/11/10 （稼働後）	ND	ND	ND	0.2	0.1

測定項目 / 測定日	ホウ素 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
水質環境基準	1以下	0.05以下
2019/4/24 （稼働前）	ND	ND
2022/11/10 （稼働後）	ND	ND

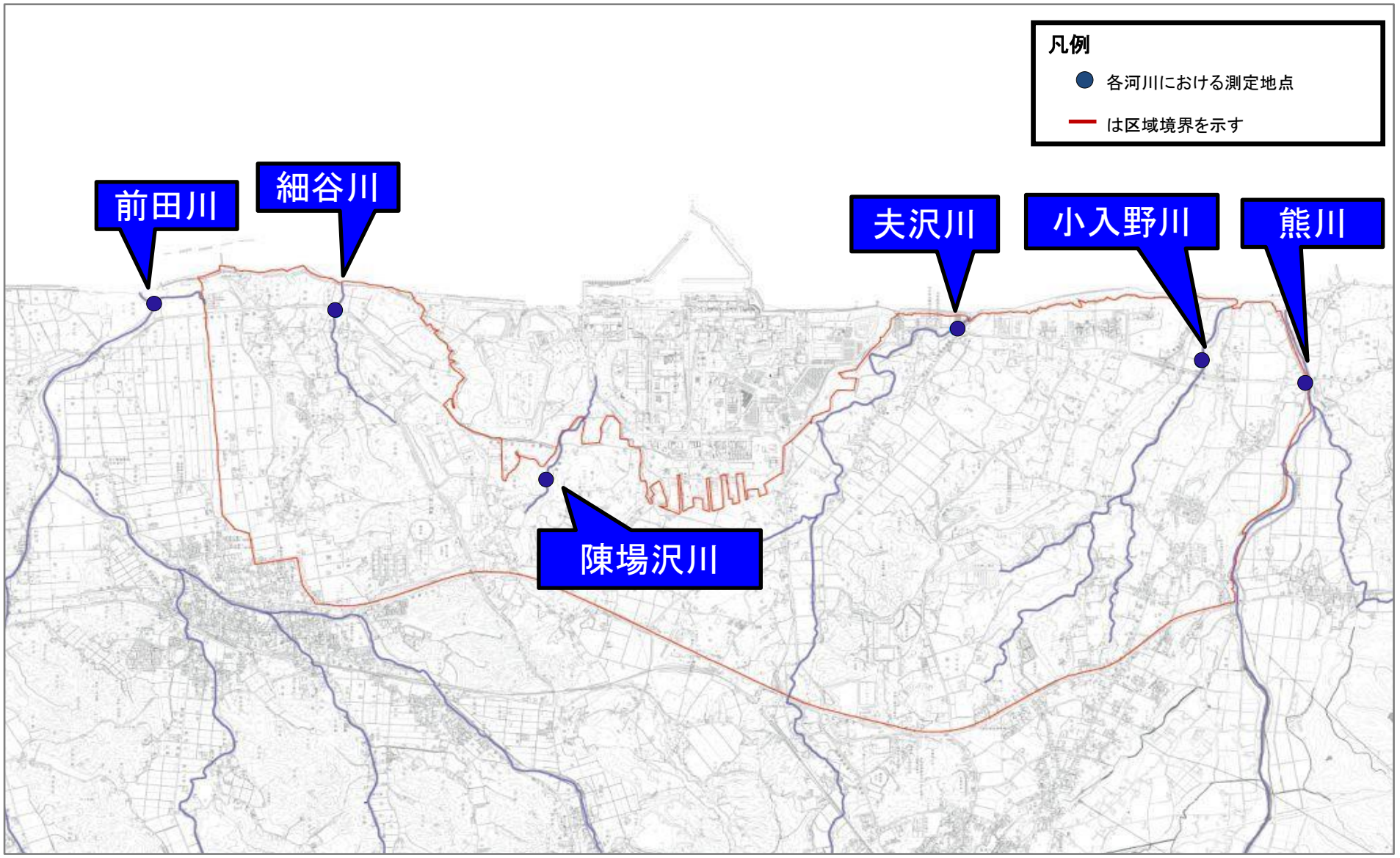
測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) ※1	生物化学的酸素要求量 (BOD) ※1 (mg/L)	浮遊物質量 (SS) ※1 (mg/L)	溶存酸素量 (DO) ※1 (mg/L)
2019/4/24 （稼働前）	7.9	2.2	140	10.2
2022/11/10 （稼働後）	7.4	1.4	9	10.2

測定項目 / 測定日	大腸菌数 ※1,※2 (CFU/100mL)
2022/3/7 （改正前）	2
2022/11/10 （改正後）	190

※1：中間貯蔵施設区域及び周辺の河川は、環境基準の水域類型に指定されていない。
（参考）河川C類型の環境基準：pH 6.5～8.5、BOD 5mg/L以下、SS 50mg/L以下、DO 5mg/L以上
※2：大腸菌数は2022年4月1日から適用された。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

河川最下流における放射性セシウムの測定地点



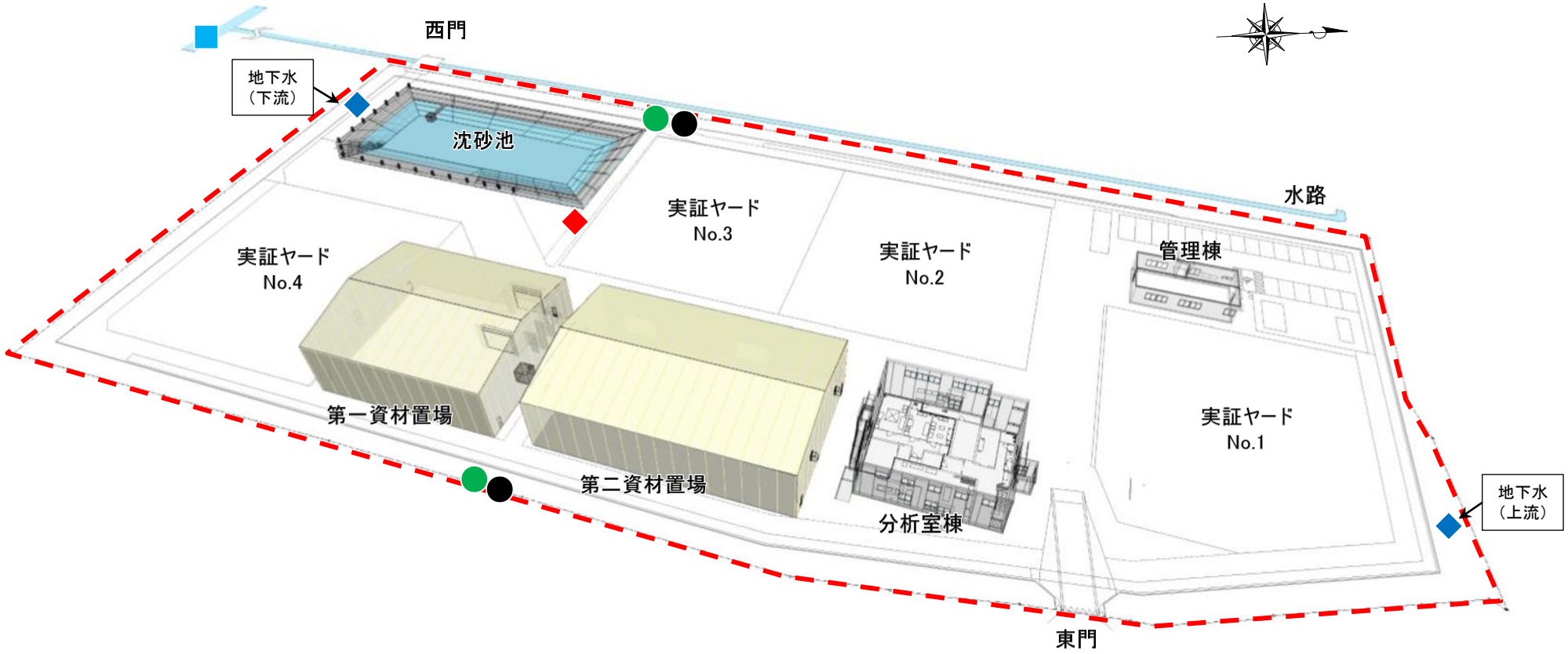
廃棄物貯蔵施設のモニタリング結果（年次測定）

中間貯蔵施設環境安全委員会（第23回）でモニタリング結果を報告して以降、
年次測定は実施していないため、今回は報告対象外。

・大熊1工区
・双葉1工区

技術実証フィールドのモニタリング結果（年次測定）

技術実証フィールドのモニタリング測定結果（年次測定）



☆：施設の位置

【 凡例 】

- ●：騒音・振動
- ●：悪臭
- ◆：地下水検査項目
- ◆：実証試験排水の排水基準項目
- ■：放流先河川の環境基準項目
- ---：敷地境界線

技術実証フィールドのモニタリング測定結果（年次測定）①

●騒音

測定地点	測定項目 / 測定日	騒音レベル（dB）
西側	2019/9/21　（稼働前）	38
	2022/10/12　（稼働後）	47
東側	2019/9/21　（稼働前）	38
	2022/10/12　（稼働後）	57

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB （昼間7:00～19:00）

●振動

測定地点	測定項目 / 測定日	振動レベル（dB）
西側	2019/9/21　（稼働前）	30未満
	2022/10/12　（稼働後）	30未満
東側	2019/9/21　（稼働前）	30未満
	2022/10/12　（稼働後）	30未満

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定地点	測定項目 / 測定日	臭気指数
西側	2019/9/21　（稼働前）	10未満　（風下）
	2022/10/12　（稼働後）	10未満　（風下）
東側	2019/9/21　（稼働前）	10未満　（風上）
	2022/10/12　（稼働後）	10未満　（風上）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水検査項目

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀（mg/L）	総水銀（mg/L）	カドミウム（mg/L）	鉛（mg/L）	六価クロム（mg/L）
	地下水検査基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2019/9/6　（稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND
	2022/10/5　（稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND
下流	2019/9/6　（稼働前）	不検出	ND	0.0007	0.094	ND
	2022/10/5　（稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	砒素（mg/L）	全シアン（mg/L）	PCB（mg/L）	トリクロロエチレン（mg/L）	テトラクロロエチレン（mg/L）
	地下水検査基準	0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2019/9/6　（稼働前）	0.039	不検出	不検出	ND	ND
	2022/10/5　（稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND
下流	2019/9/6　（稼働前）	0.014	不検出	不検出	ND	ND
	2022/10/5　（稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ジクロロメタン（mg/L）	四塩化炭素（mg/L）	1,2-ジクロロエタン（mg/L）	1,1-ジクロロエチレン（mg/L）	1,2-ジクロロエチレン（mg/L）
	地下水検査基準	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2019/9/6　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/10/5　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2019/9/6　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/10/5　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,1,1-トリクロロエタン（mg/L）	1,1,2-トリクロロエタン（mg/L）	1,3-ジクロロプロペン（mg/L）	チウラム（mg/L）	シマジン（mg/L）
	地下水検査基準	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2019/9/6　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/10/5　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2019/9/6　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/10/5　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	チオベンカルブ（mg/L）	ベンゼン（mg/L）	セレン（mg/L）	1,4-ジオキサン（mg/L）	クロロエチレン（mg/L）
	地下水検査基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2019/9/6　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/10/5　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2019/9/6　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/10/5　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ダイオキシン類（pg-TEQ/L）
	地下水検査基準	1以下
上流	2019/9/6　（稼働前）	0.043
	2022/10/5　（稼働後）	0.026
下流	2019/9/6　（稼働前）	4
	2022/10/5　（稼働後）	0.025

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

技術実証フィールドのモニタリング測定結果（年次測定）②

◆実証試験排水の排水基準項目

測定項目 / 測定日	アルキル水銀化合物 (mg/L)	水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物 (mg/L)	カドミウム及びその化合物 (mg/L)	鉛及びその化合物 (mg/L)	有機燐化合物 (mg/L)
実証試験排水の排水基準	検出されないこと	0.005以下	0.03以下	0.1以下	1以下
2022/11/11 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	六価クロム化合物 (mg/L)	砒素及びその化合物 (mg/L)	シアン化合物 (mg/L)	ポリ塩化ビフェニル (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)
実証試験排水の排水基準	0.5以下	0.1以下	1以下	0.003以下	0.1以下
2022/11/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
実証試験排水の排水基準	0.1以下	0.2以下	0.02以下	0.04以下	1以下
2022/11/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)
実証試験排水の排水基準	0.4以下	3以下	0.06以下	0.02以下	0.06以下
2022/11/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン及びその化合物 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
実証試験排水の排水基準	0.03以下	0.2以下	0.1以下	0.1以下	0.5以下
2022/11/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	ほう素及びその化合物 (mg/L)	ふっ素及びその化合物 (mg/L)	アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物 (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量） (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（動植物油脂類含有量） (mg/L)
実証試験排水の排水基準	50以下	15以下	200以下	5以下	30以下
2022/11/11 （稼働後）	ND	ND	3	ND	ND

測定項目 / 測定日	フェノール類含有量 (mg/L)	銅含有量 (mg/L)	亜鉛含有量 (mg/L)	溶解性鉄含有量 (mg/L)	溶解性マンガン含有量 (mg/L)
実証試験排水の排水基準	5以下	3以下	2以下	10以下	10以下
2022/11/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	クロム含有量 (mg/L)	大腸菌群数 (個/cm^3)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
実証試験排水の排水基準	2以下	3000以下	10以下
2022/11/11 （稼働後）	ND	0	0.000050

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

■放流先河川の環境基準項目

測定項目 / 測定日	カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)
水質環境基準	0.003以下	検出されないこと	0.01以下	0.02以下	0.01以下
2019/9/27 （稼働前）	ND	不検出	ND	ND	ND
2022/10/5 （稼働後）	ND	不検出	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	総水銀 (mg/L)	アルキル水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)
水質環境基準	0.0005以下	検出されないこと	検出されないこと	0.02以下	0.002以下
2019/9/27 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
2022/10/5 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)
水質環境基準	0.004以下	0.1以下	0.04以下	1以下	0.006以下
2019/9/27 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2022/10/5 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
水質環境基準	0.01以下	0.01以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
2019/9/27 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2022/10/5 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	フッ素 (mg/L)
水質環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	10以下	0.8以下
2019/9/27 （稼働前）	ND	ND	ND	0.09	0.09
2022/10/5 （稼働後）	ND	ND	ND	0.5	ND

測定項目 / 測定日	ホウ素 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
水質環境基準	1以下	0.05以下
2019/9/27 （稼働前）	ND	ND
2022/10/5 （稼働後）	ND	ND

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) ※1	生物化学的酸素要求量 (BOD) ※1 (mg/L)	浮遊物質量 (SS) ※1 (mg/L)	溶存酸素量 (DO) ※1 (mg/L)
2019/9/27 （稼働前）	8	1.3	ND	11.7
2022/10/5 （稼働後）	7.9	6.8	5.3	9.6

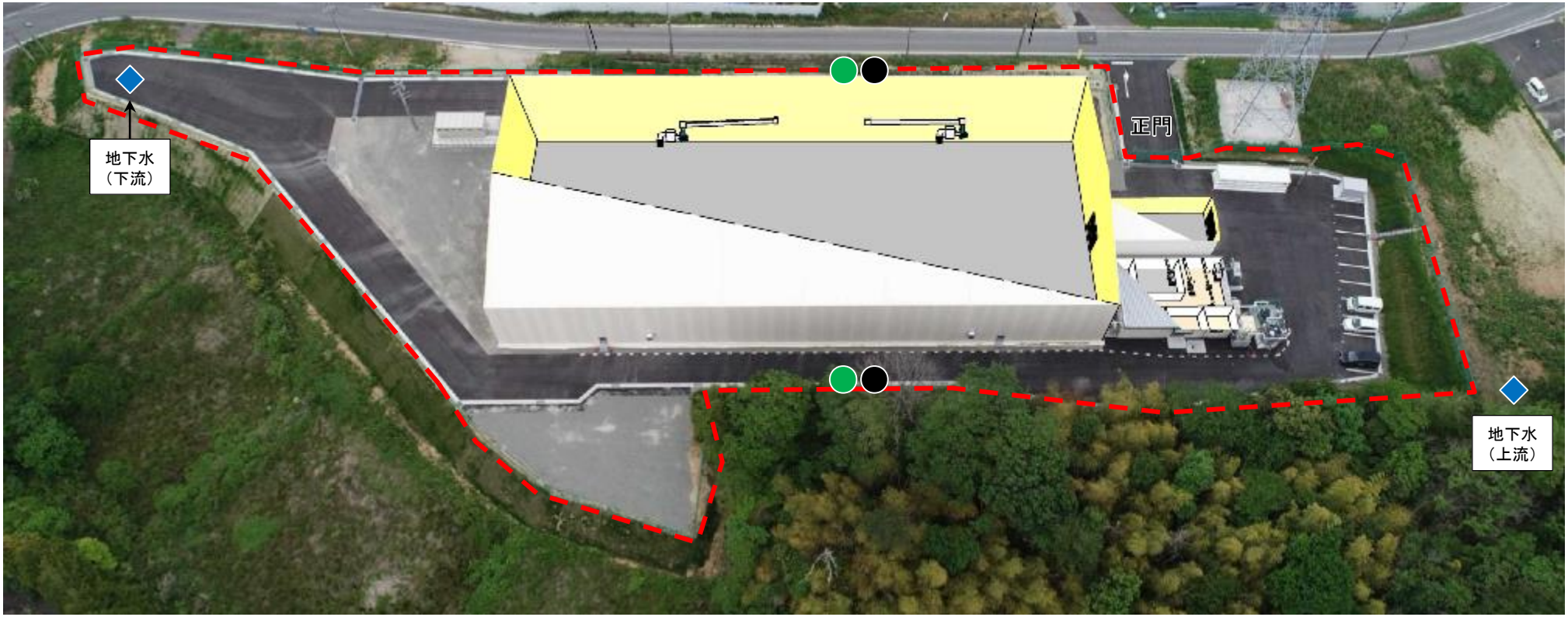
測定項目 / 測定日	大腸菌数 ※1,※2 (CFU/100mL)
2022/3/7 （改正前）	30
2022/10/5 （改正後）	3800

※1：中間貯蔵施設区域及び周辺の河川は、環境基準の水域類型に指定されていない。
（参考）河川C類型の環境基準：pH 6.5～8.5、BOD 5mg/L以下、SS 50mg/L以下、DO 5mg/L以上
※2：大腸菌数は2022年4月1日から適用された。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

飛灰洗浄処理技術等実証施設の
モニタリング結果（年次測定）

飛灰洗浄処理技術等実証施設のモニタリング測定地点（年次測定）



☆ :施設の位置

【 凡例 】

● ：騒音・振動　● ：悪臭　◆ ：地下水検査項目　--- ：敷地境界線

飛灰洗浄処理技術等実証施設のモニタリング測定結果（年次測定）

●騒音

測定地点	測定項目 / 測定日	騒音レベル（dB）
西側	2021/7/26　（稼働前）	54
	2022/10/11　（稼働後）	52
東側	2021/7/26　（稼働前）	56
	2022/10/11　（稼働後）	54

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB　（昼間7:00～19:00）

●振動

測定地点	測定項目 / 測定日	振動レベル（dB）
西側	2021/7/26　（稼働前）	31
	2022/10/11　（稼働後）	34
東側	2021/7/26　（稼働前）	38
	2022/10/11　（稼働後）	39

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定地点	測定項目 / 測定日	臭気指数
西側	2021/7/26　（稼働前）	10未満　（風上）
	2022/10/11　（稼働後）	10未満　（風上）
東側	2021/7/26　（稼働前）	10未満　（風下）
	2022/10/11　（稼働後）	10未満　（風下）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水検査項目

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀（mg/L）	総水銀（mg/L）	カドミウム（mg/L）	鉛（mg/L）	六価クロム（mg/L）
	地下水検査基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2021/7/21　（稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND
	2022/10/12　（稼働後）	不検出	ND	ND	ND	0.003
下流	2021/7/21　（稼働前）	不検出	ND	0.0004	ND	ND
	2022/10/12　（稼働後）	不検出	ND	0.0004	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	砒素（mg/L）	全シアン（mg/L）	PCB（mg/L）	トリクロロエチレン（mg/L）	テトラクロロエチレン（mg/L）
	地下水検査基準	0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2021/7/21　（稼働前）	0.005	不検出	不検出	ND	ND
	2022/10/12　（稼働後）	0.004	不検出	不検出	ND	ND
下流	2021/7/21　（稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
	2022/10/12　（稼働後）	0.002	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ジクロロメタン（mg/L）	四塩化炭素（mg/L）	1,2-ジクロロエタン（mg/L）	1,1-ジクロロエチレン（mg/L）	1,2-ジクロロエチレン（mg/L）
	地下水検査基準	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2021/7/21　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/10/12　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2021/7/21　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/10/12　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,1,1-トリクロロエタン（mg/L）	1,1,2-トリクロロエタン（mg/L）	1,3-ジクロロプロペン（mg/L）	チウラム（mg/L）	シマジン（mg/L）
	地下水検査基準	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2021/7/21　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/10/12　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2021/7/21　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/10/12　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

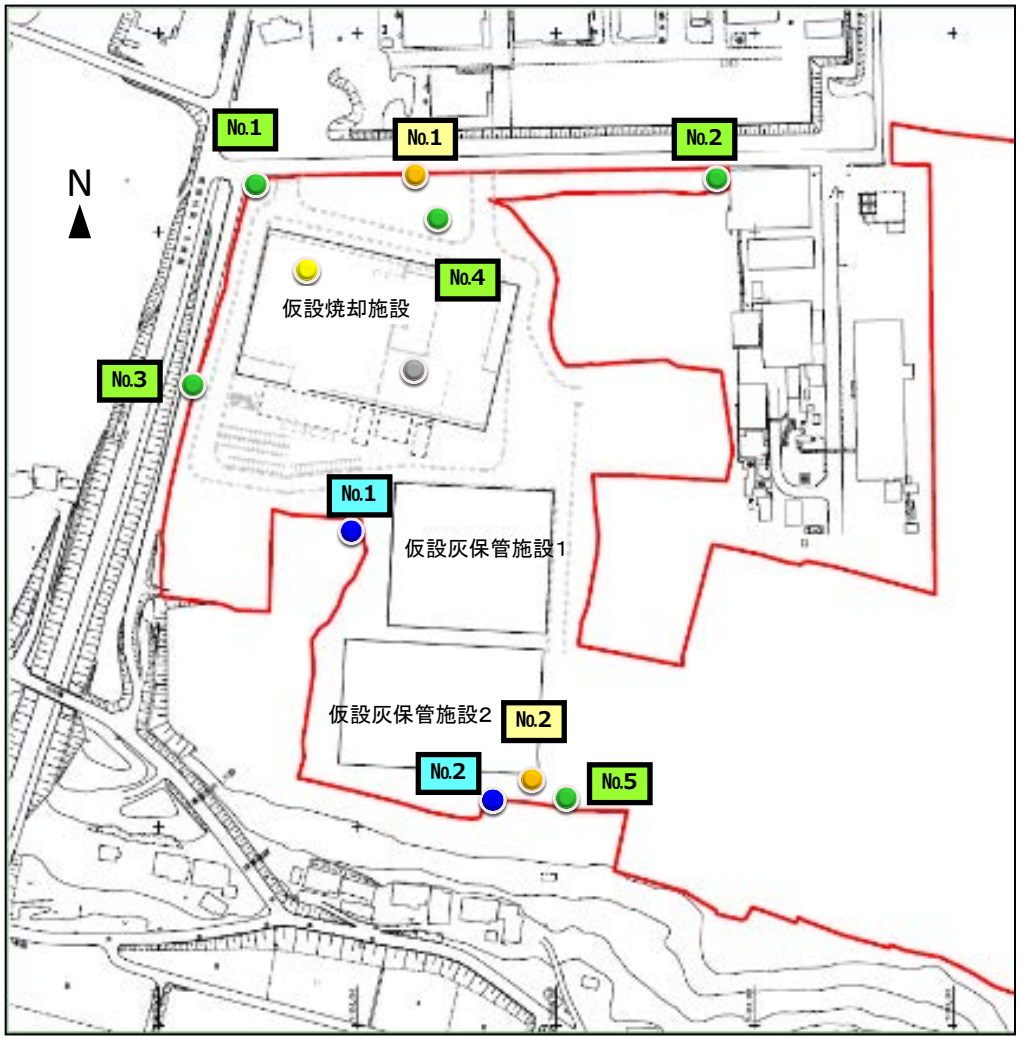
測定地点	測定項目 / 測定日	チオベンカルブ（mg/L）	ベンゼン（mg/L）	セレン（mg/L）	1,4-ジオキサン（mg/L）	クロロエチレン（mg/L）
	地下水検査基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2021/7/21　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/10/12　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2021/7/21　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2022/10/12　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ダイオキシン類（pg-TEQ/L）
	地下水検査基準	1以下
上流	2021/7/21　（稼働前）	0.084
	2022/10/12　（稼働後）	0.025
下流	2021/7/21　（稼働前）	0.045
	2022/10/12　（稼働後）	0.027

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

仮設焼却施設のモニタリング結果

大熊町仮設焼却施設のモニタリング測定地点



凡例

- 排ガス中の放射性物質濃度
- 地下水（井戸）中の放射性物質濃度
- 雨水（雨水排水集水桝）中の放射能濃度
- 空間線量率
- 粉じん濃度

大熊町仮設焼却施設のモニタリング測定結果

排ガス

測定地点	放射能濃度（Bq/Nm^3）	
煙突測定口	2022/7～2023/2	ND

検出下限値：4Bq/Nm^3
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

粉じん

測定地点	粉じん濃度（mg/m^3）	
受入ヤード破砕機近傍	2022/7～2023/2	0.10～2.10

雨水

測定地点	放射能濃度（Bq/L）	
No.1	2022/7～2023/2	ND
No.2	2022/7～2023/2	ND

検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

地下水

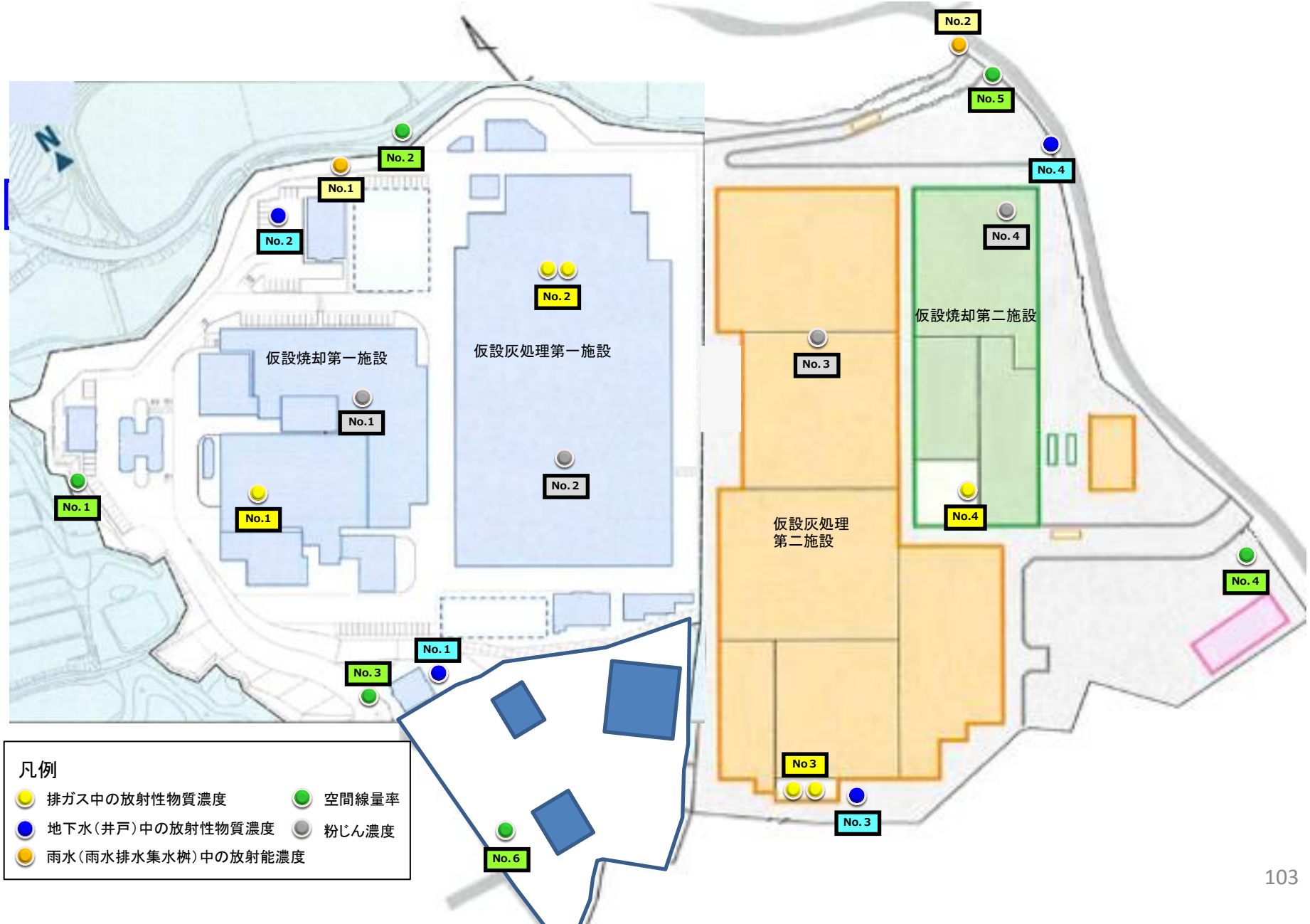
測定地点	放射能濃度（Bq/L）	
No.1	2022/7～2023/2	ND
No.2	2022/7～2023/2	ND

検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

空間線量率

測定地点	空間線量率（μSv/h）	
No.1	稼働前（2017/12/1～11）	4.41 ～ 4.60
	2022/7～ 2023/2	2.11 ～ 2.77
No.2	稼働前（2017/12/1～11）	4.41 ～ 4.63
	2022/7～ 2023/2	2.26 ～ 2.90
No.3	稼働前（2017/12/1～11）	2.05 ～ 2.21
	2022/7～ 2023/2	0.77 ～ 0.96
No.4	稼働前（2017/12/1～11）	0.61 ～ 1.10
	2022/7～ 2023/2	0.27 ～ 0.33
No.5	稼働前（2017/12/1～11）	0.93 ～ 1.11
	2022/7～ 2023/2	0.28 ～ 0.41

双葉町仮設処理施設のモニタリング測定地点



双葉町仮設処理施設のモニタリング測定結果

排ガス

測定地点	放射能濃度放射能濃度（Bq/Nm³）	
煙突測定口　No.1	2022/7～2023/2	ND
煙突測定口　No.2	2022/7～2023/2	ND
煙突測定口　No.3	2022/7～2023/2	ND
煙突測定口　No.4	2022/7～2023/2	ND

検出下限値：4Bq/Nm³
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

粉じん

測定地点	粉じん濃度（mg/m³）	
受入ヤード No.1焼却	2022/7～2023/2	0.33～0.89
受入ヤード破砕機 近傍　No.1灰処理	2022/7～2023/2	0.02～0.28
受入ヤード破砕機 近傍　No.2焼却	2022/7～2023/2	0.69～5.03
受入ヤード破砕機 近傍　No.2灰処理	2022/7～2023/2	0.04～0.66

雨水

測定地点	放射能濃度（Bq/L）	
No.1	2022/7～2023/2	ND
No.2	2022/7～2023/2	ND

検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

地下水

測定地点	放射能濃度（Bq/L）	
No.1	2022/7～2023/2	ND
No.2	2022/7～2023/2	ND
No.3	2022/7～2023/2	ND
No.4	2022/7～2023/2	ND

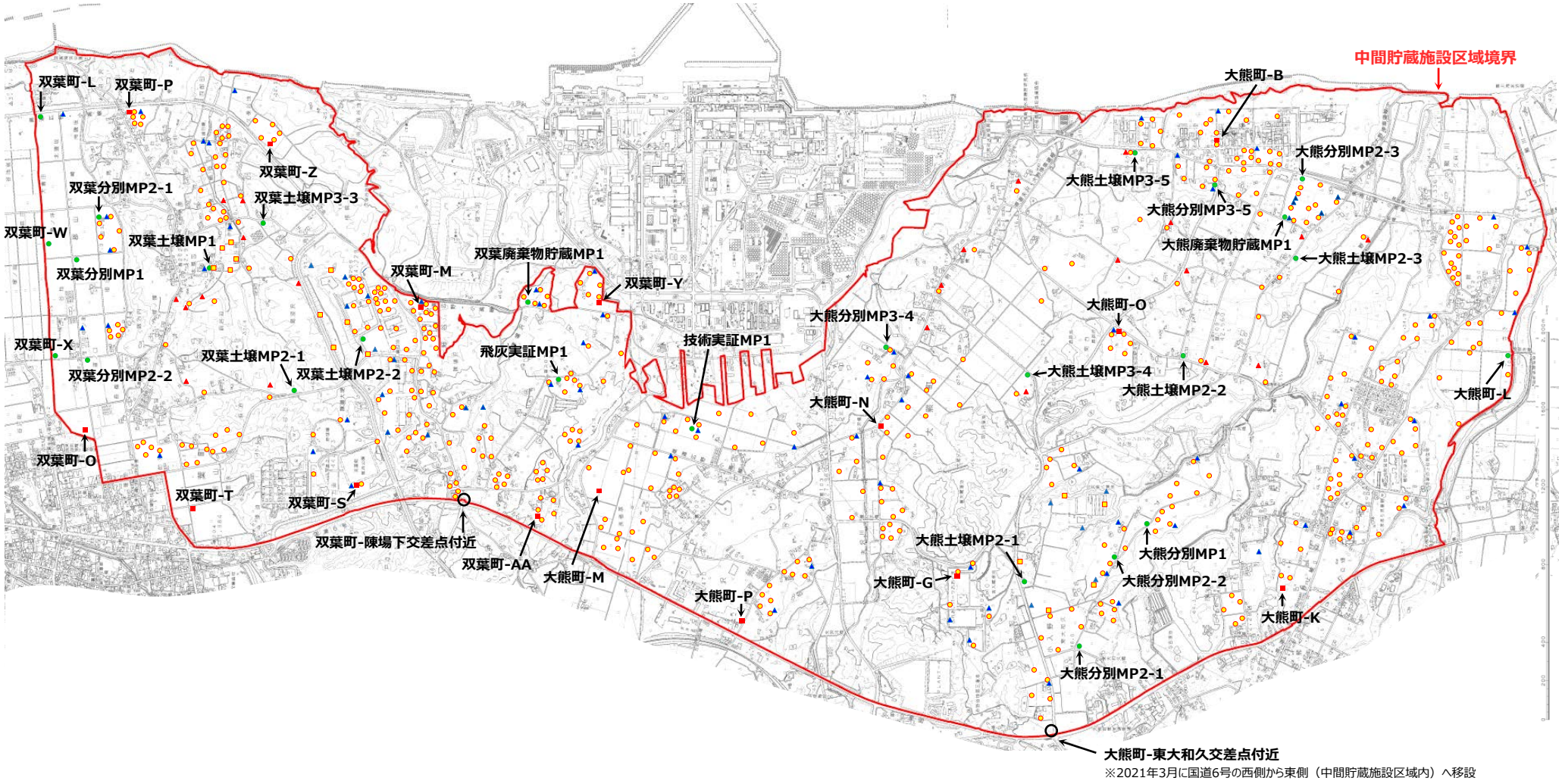
検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

空間線量率

測定地点	空間線量率（μSv/h）	
MP No.1	稼働前（2020/1/16～24）	0.17 ～ 0.22
	2022/7～2023/2	0.14～ 0.18
MP No.2	稼働前（2020/1/16～24）	0.13 ～ 0.17
	2022/7～2023/2	0.13～ 0.16
MP No.3	稼働前（2020/1/16～24）	0.20 ～ 0.26
	2022/7～2023/2	0.16～ 0.20
MP No.4	稼働前（2020/3/1～3/26）	0.38 ～ 0.43
	2022/7～2023/2	0.30～ 0.35
MP No.5	稼働前（2020/3/1～3/26）	0.38 ～ 0.42
	2022/7～2023/2	0.30 ～ 0.35
MP No.6	稼働前（2020/3/1～3/26）	0.19 ～ 0.20
	2022/7～2023/2	0.13～ 0.17

中間貯蔵施設区域におけるモニタリング結果

中間貯蔵施設区域における放射線モニタリング位置図



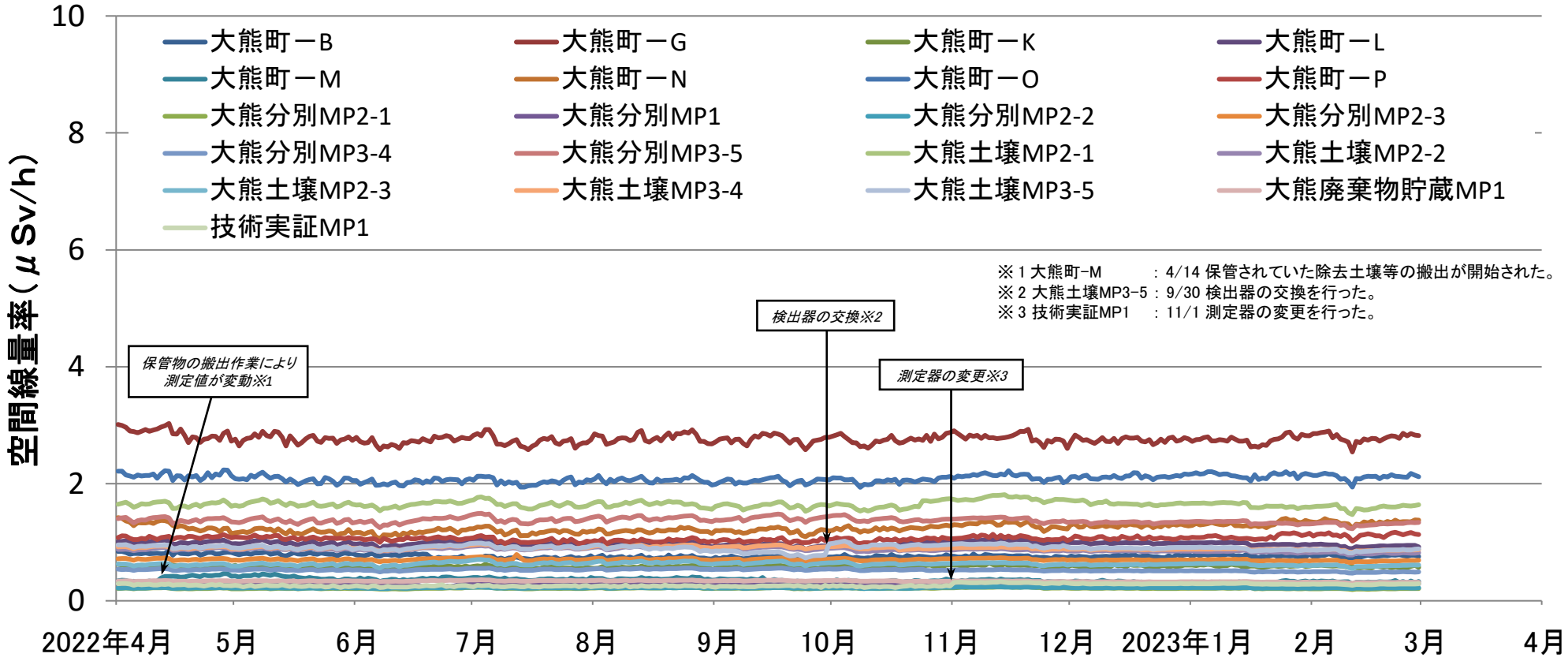
【凡例】

- 空間線量率測定地点（リアルタイムデータ自動送信）
- 空間線量率測定地点（連続測定週次データ回収）
- 空間線量率測定地点（週次測定）
- 空間線量率測定地点（月次測定）
- 地下水中放射能濃度測定地点（月次測定）
- 地下水中放射能濃度測定地点（週次測定）
- 大気中放射能濃度、空間線量率測定地点（リアルタイムデータ自動送信）

2023年2月28日時点

空間線量率及び地下水中の放射能濃度の測定結果（大熊町）

○ モニタリングの地点数：連続測定21箇所、週次測定325箇所で空間線量率の測定を行っている。
○ モニタリングの結果　：空間線量率は0.16～6.05μSv/hの範囲であり、保管物の搬出作業や降雨・積雪による変動が見られたが、除去土壌等の保管・処理・貯蔵、灰処理ばいじんを封入した鋼製角形容器の貯蔵及び除去土壌等を用いた実証試験事業等による周辺への影響は見られなかった。

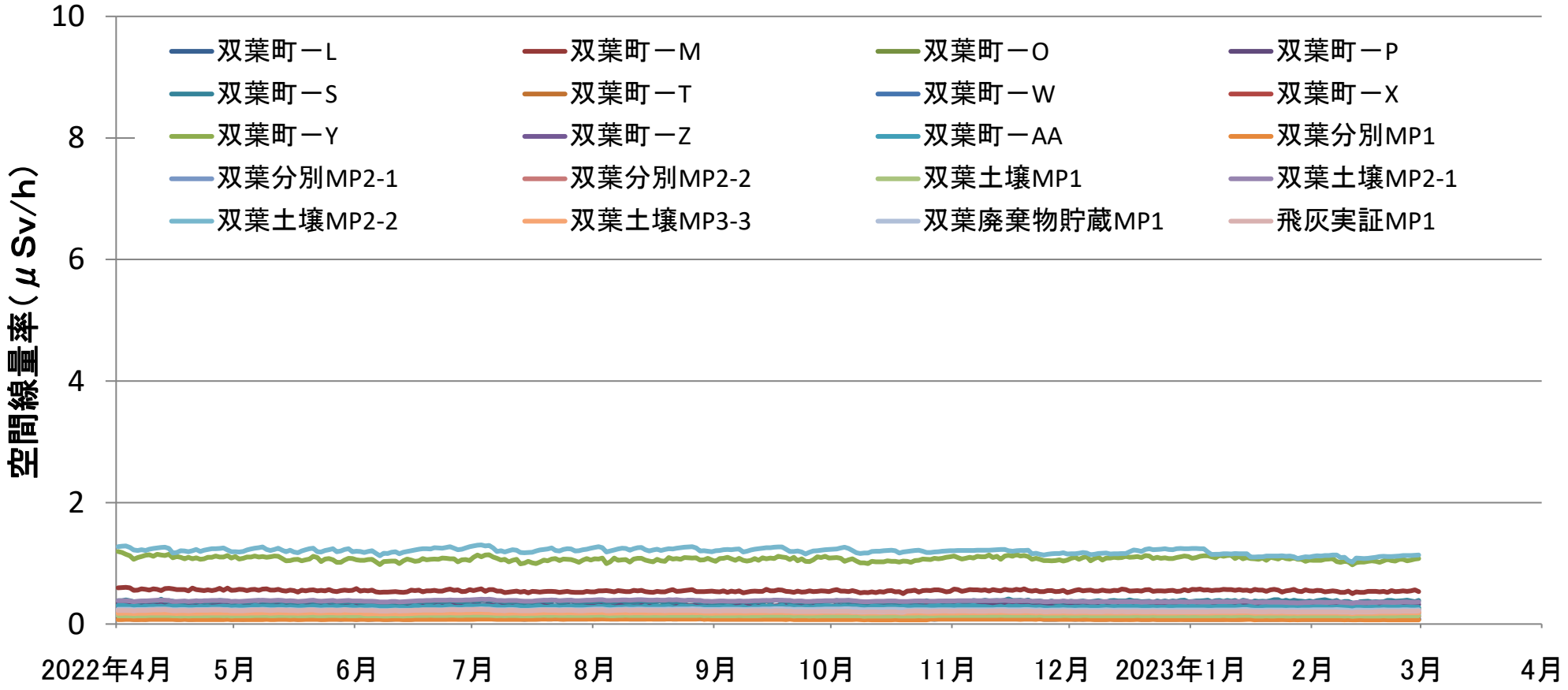


空間線量率の推移（連続測定）（2022年4月1日～2023年2月28日）

○ 地下水中の放射能濃度は、全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。

空間線量率及び地下水中の放射能濃度の測定結果（双葉町）

○ モニタリングの地点数：連続測定20箇所、週次測定275箇所で空間線量率の測定を行っている。
○ モニタリングの結果　：空間線量率は0.07～5.36μSv/hの範囲であり、降雨・積雪による変動が見られたが、除去土壌等の保管・処理・貯蔵、灰処理ばいじんを封入した鋼製角形容器の貯蔵及び溶融飛灰を用いた実証試験事業等による周辺への影響は見られなかった。



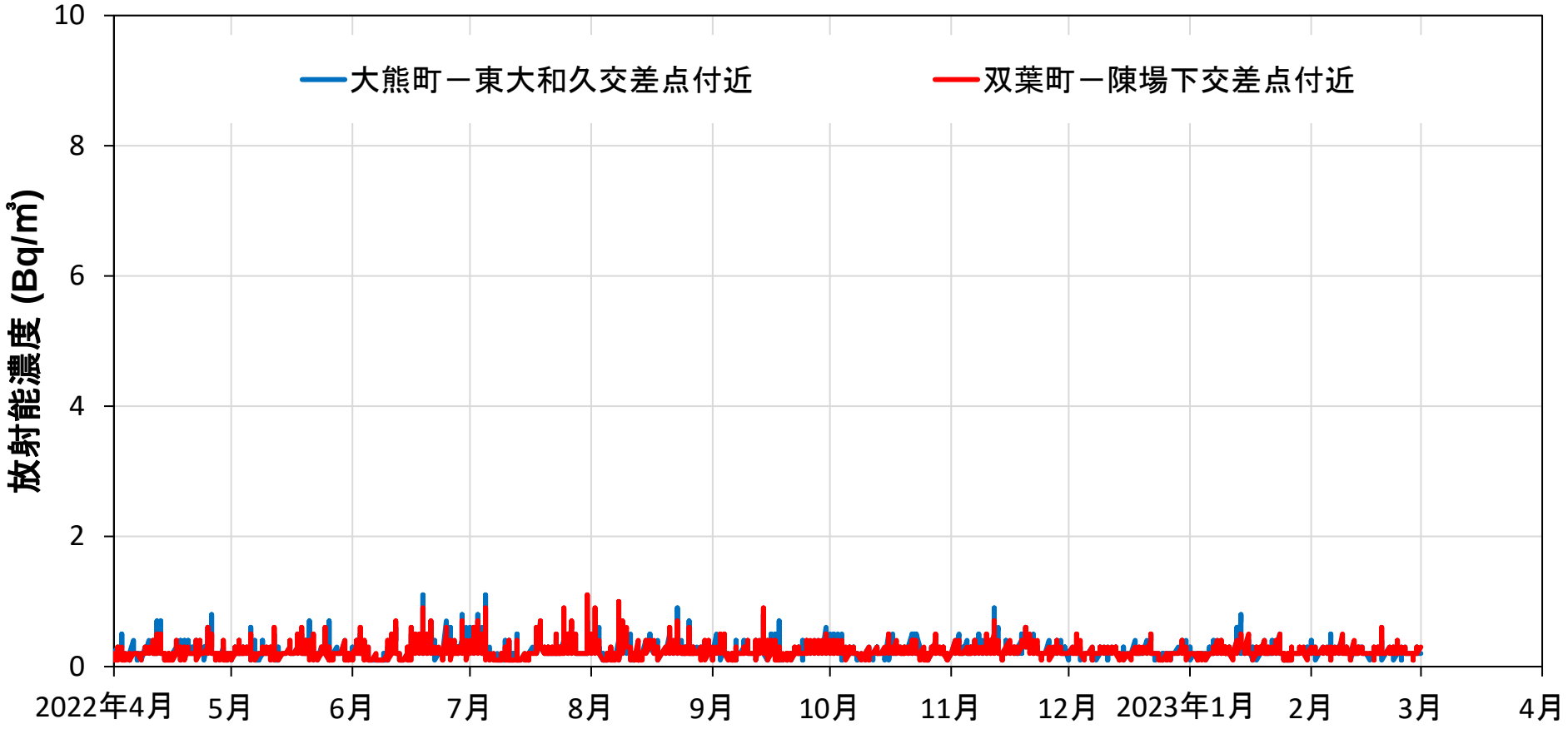
空間線量率の推移（連続測定）（2022年4月1日～2023年2月28日）

○ 地下水中の放射能濃度は、全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。

中間貯蔵施設区域境界における大気中放射能濃度の測定結果

○区域境界における大気中放射能濃度は全て検出下限値未満であることを確認した（測定頻度：週1回）。
※検出下限値は数万分の1Bq/m³程度、濃度限度はセシウム134濃度/20+セシウム137濃度/30≦1

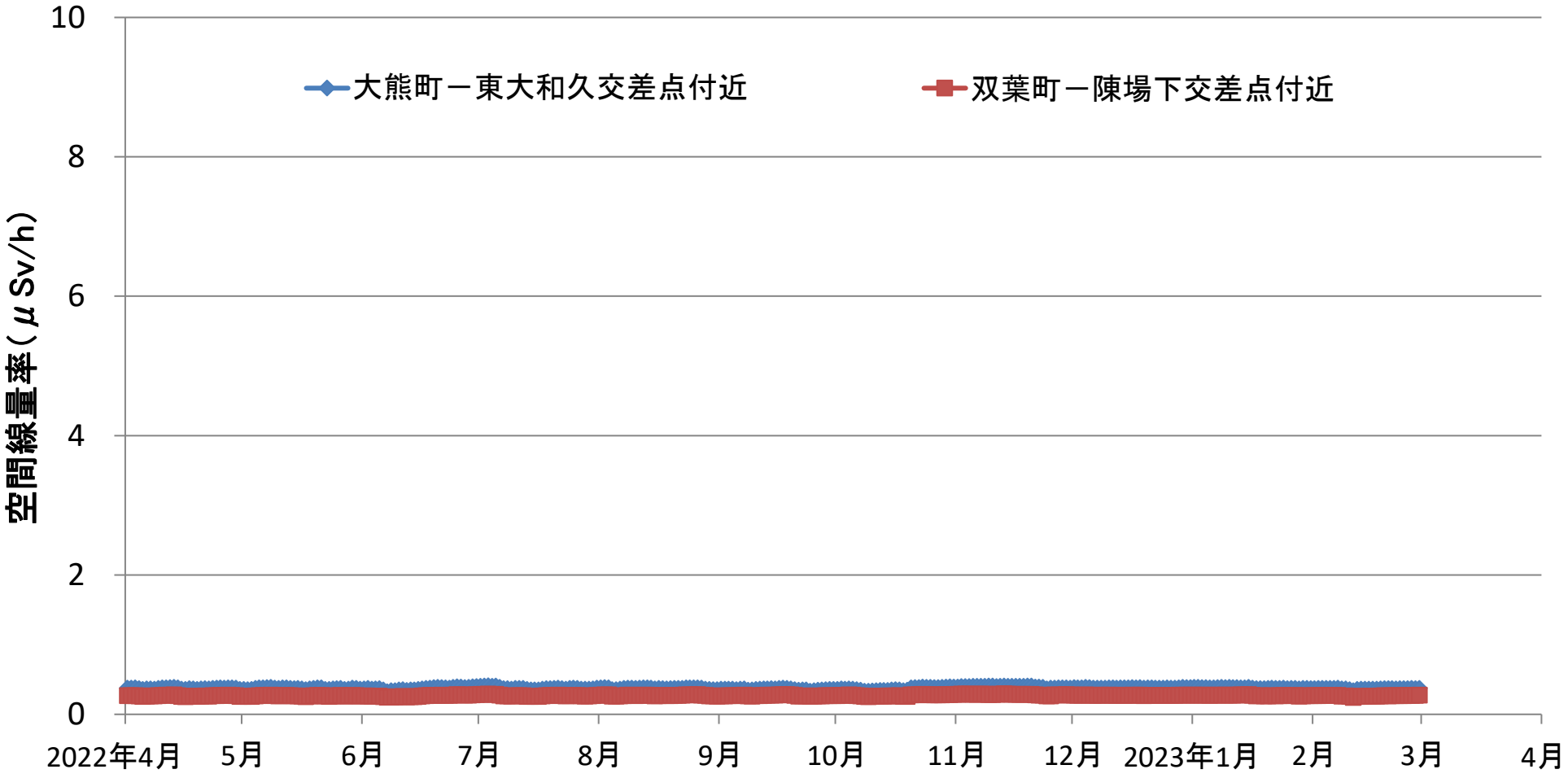
○放射能濃度の変化をより迅速に把握するため、β線の放射能濃度をリアルタイムに監視している。連続測定結果は下図のとおりであり、通常の変動の範囲内で推移している。



中間貯蔵施設区域境界における大気中のβ線の放射能濃度（連続測定）
（2022年4月1日～2023年2月28日）

中間貯蔵施設区域境界における空間線量率の測定結果（連続測定）

○ 区域境界における空間線量率は下図のとおりであり、降雨・積雪による変動が見られたが、通常の変動の範囲内で推移している。



中間貯蔵施設区域境界における空間線量率の推移（連続測定）
（2022年4月1日～ 2023年2月28日）

輸送路における放射線量率の測定結果

輸送路における放射線量率の測定地点

○　輸送車両の通過地点のうち交差点や速度低下地点において、遮へい板付きの測定器を用いて周囲の放射線の影響を除去し、車道から歩道方向に入射する放射線量率の変化を測定している。

輸送路における放射線量率の測定結果

○ 輸送車両が通る時などに、数十秒間程度、平常時より高い放射線量率が観測される場合があったが、追加被ばく線量は十分に小さいことを確認した。

	当該地点を通過した輸送車両数［台］	うち通過時に線量率の増加が観測されたもの［台］※1	（参考）当該地点の空間線量率［μSv/h］	（輸送車両通過時） 追加被ばく線量率（瞬間最大値）［μSv/h］※2	（輸送車両通過時） 線量率の増加が観測された時間（累積）［分］※2	（輸送車両通過時） 追加被ばく線量（累積）［μSv］
①南相馬IC	25,039	1,141	0.11	0.04	153	0.05
②浪江IC※3	15,589	142	0.23	0.04	49	0.02
③大熊IC	38,724	667	0.29	0.11	122	0.02
④常磐双葉IC	13,665	57	0.85	0.03	9.3	0.003

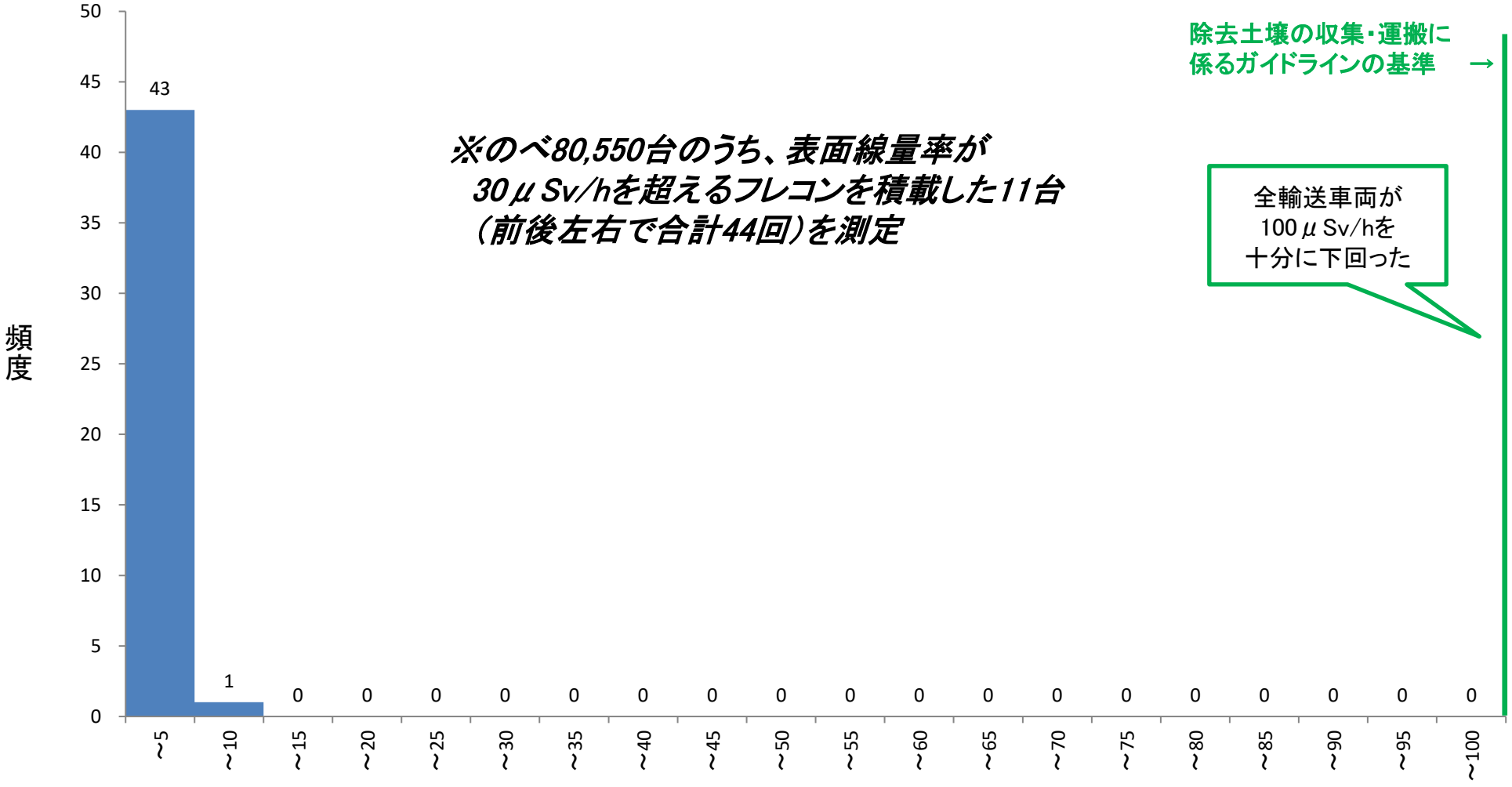
※1 各地点の放射線量率の測定結果について「測定期間の平均値＋標準偏差の3倍」を超過した輸送車両数。
※2 測定は20秒単位。
※3 ICにおける降車と乗車の輸送車両を対象としている。

輸送路における放射線量率の測定結果（2022年4月1日 ～ 2023年2月28日）

輸送車両のモニタリング結果

仮置場搬出時の輸送車両周辺の空間線量率の測定結果

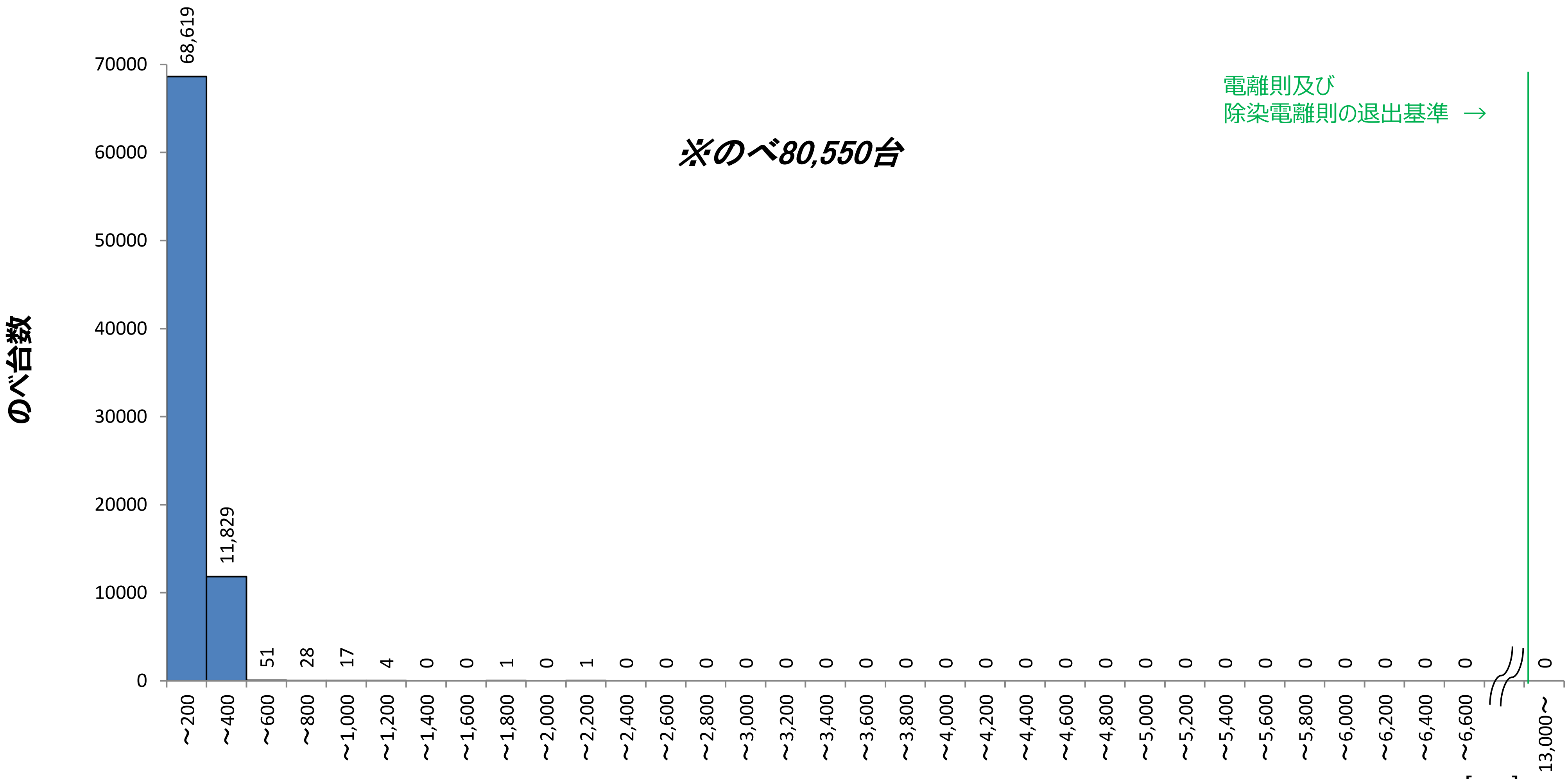
○ 仮置場からの搬出時に、表面線量率が30μSv/hを超えるフレコンを積載した車両について、前後左右1メートル離れた地点で空間線量率を測定し、積載した除去土壌等による周辺への放射線の影響を確認している。



輸送車両周辺の空間線量率の測定結果（2022年4月1日 ～ 2023年2月28日） ※バックグラウンドの影響も含む

中間貯蔵施設退出時の輸送車両の表面汚染密度の測定結果

○　中間貯蔵施設からの退出時に、除去土壌等を荷下ろしした輸送車両の汚染検査（スクリーニング）を行い、電離則及び除染電離則に定められた基準を超えていないことを確認している。



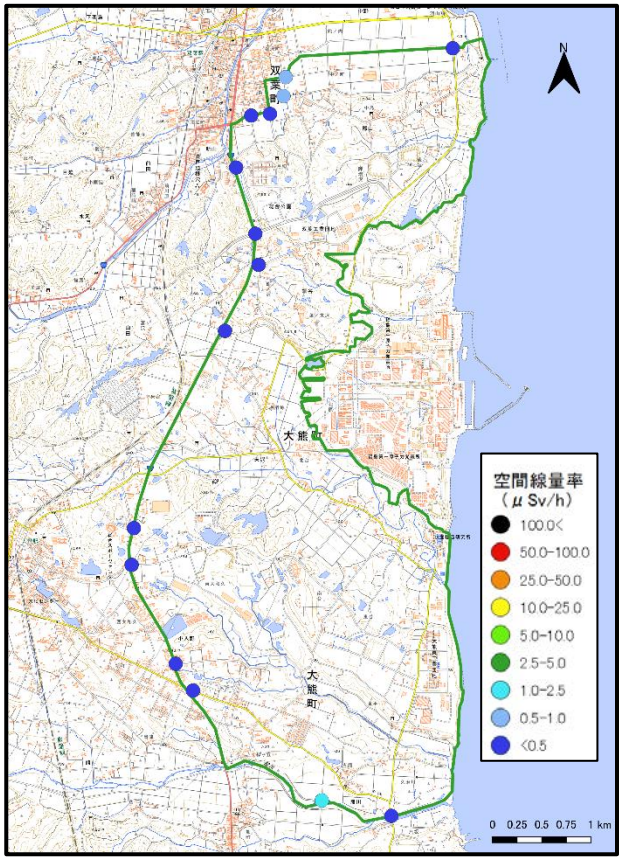
輸送車両のスクリーニング時の最大の表面汚染密度の分布(2022年4月1日 ～ 2023年2月28日)

※表面汚染密度の値はバックグラウンドを含むグロス値

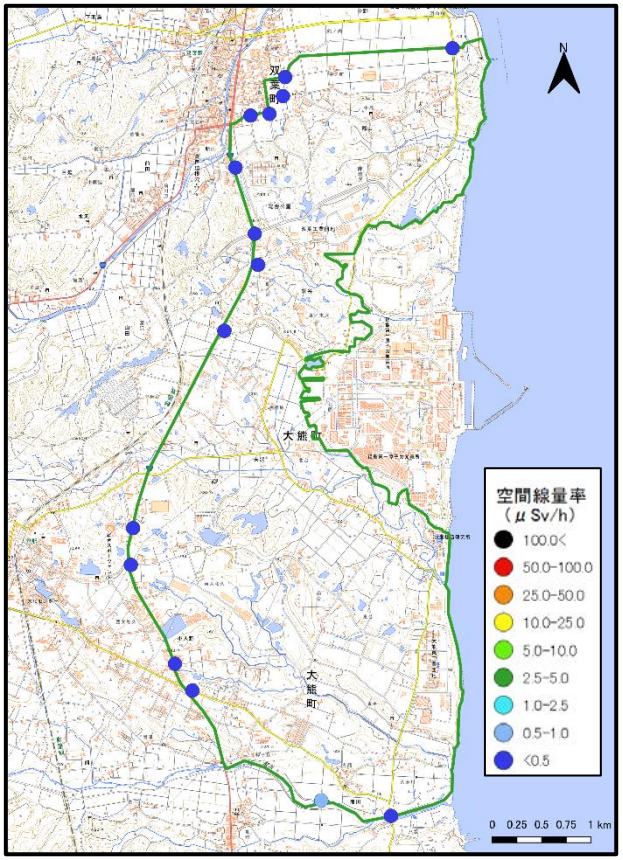
中間貯蔵施設における区域境界（ゲート付近等）のモニタリングの実施について

- 特定復興再生拠点の避難指示解除を踏まえ、中間貯蔵施設区域の安全に係る情報提供として、中間貯蔵施設区域境界（ゲート付近等）の地表面のモニタリング（空間線量率及び表面汚染密度の測定）を実施している。
- 2022年12月の測定結果は以下のとおり。当該データはJESCOホームページにて公表している。

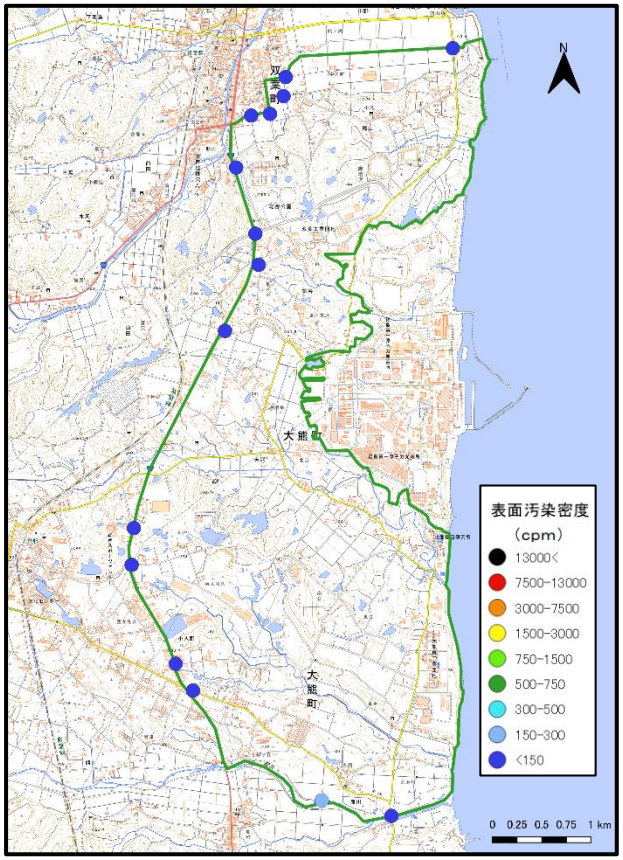
空間線量率（at 1m）



空間線量率（表面）



表面汚染密度（計数率）



中間貯蔵施設区域

資料2

中間貯蔵施設事業において
発生した事例と対応等について
（2022年８月環境安全委員会報告以降）

2023年３月

環境省

事業において発生した事例と対応等

	事案の内容	主な発生要因	主な再発防止策
交通事故	輸送車両の物損（対物）事故（2件） （高速道路センターポールへ接触） ※うち1件は「もらい事故」	・よそ見運転	・高速道路の対面走路での安全走行を再徹底
	業務車両の物損（対車両）事故① （中間貯蔵事業外のダンプと衝突 ）	・交差点右折時の左側確認不足	・信号機の無い交差点、及び一時停止義務のない交差点において、一旦停止励行を徹底
	業務車両の物損（対車両）事故② （一般車両との接触）	・T字路左折時の左側不注意 ・漫然運転	・安全運転遵守を再徹底
	業務車両の人身事故 （事務所駐車場で作業員と接触）	・後方駐車時の後方安全確認不足	・駐車場に誘導員を配置 ・駐車場内で車両後方を通過しないことを徹底
	通勤時の交通事故（3件） ※うち2件は「もらい事故」	・凍結路面の認識不足	・危険箇所のハザードマップを作成 ・冬季安全運転励行を再徹底
業務車両の故障等	タイヤの脱落	・タイヤ交換時のナット締め付け不足	・現場従事車両のナット締め付け再確認を実施 ・タイヤ交換は専門業者へ変更
輸送車両の故障等	エンジントラブル	・経年劣化（温度センサー不良）	・日常点検・定期点検の確実な実施 ・車両トラブル時の対応を再徹底
	ルート逸脱	・運転手のヒューマンエラー等	・逸脱箇所にて、有人による案内を実施 ・逸脱発生箇所について、車載音声ナビを分かりやすく改善
現場での事故等	物損（架空線切断）	・切断可能な架空線と誤判断 ・架空線切断の判断を現場単独で実施 ・架空線確認が含まれる手順を省略	・架空線の種類について教育を実施 ・「架空線切断は担当監督官の承認を得る」ルールを設定 ・業務遂行上のルール遵守を徹底
	転倒によるけが	・撤去資材の放置 ・近道としてネット上を通過	・作業区画の設定により、廃棄資材を整理 ・資材上を通行しないことを徹底
	挟まれによるけが	・オートフック未解除状態で作業継続 ・オートフック稼働域を掌握	・オートフックが自動解除されない場合の対応方法を策定 ・オートフックの稼働域の部分に注意喚起表示を実施
その他の事案	土壌貯蔵施設、浸出水処理設備PH調整槽からの溢水	・PH調整槽のフロート式レベルスイッチの動作不良	・設備稼働前のフロート式レベルスイッチの動作確認 ・フロート式レベルスイッチのケーブル劣化点検と交換

現場での事故等（物損／架空線切断）

事例の概要

・家屋解体作業時の架空線切断　　2022年7月28日　15時13分頃 ＜(株)丸東＞

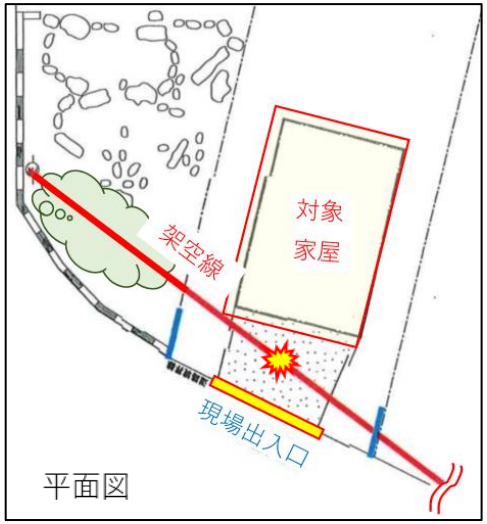
家屋解体作業において、業務車両の出入口確保を行う際、出入口を横断する状態で敷設されていた架空線(NTT光ケーブル)を切断した。

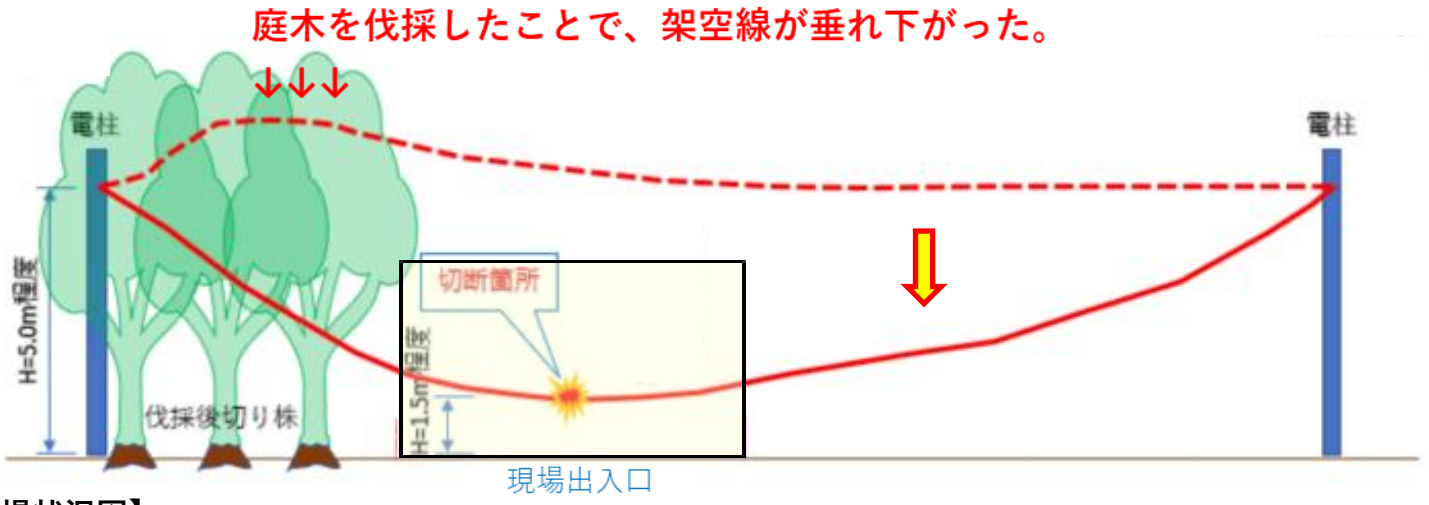
発生要因

- 家屋解体現場の請負事業者担当職員が、電話配線と誤認し、切断許可をした。(切断した。)
- 架空線確認すべき手順を省略した。
  (出入口ゲートを追加設置するに当たり、現場の出入口ゲート追加設置の立会を依頼しなかったため、架空線確認の機会を逸した。)
- 架空線の種類について認識・確認がされていなかった。

再発防止策

- 「架空線の切断は、担当監督官の承認を得る」ルールを設定。
- 「現場の出入口ゲートの設置の際は、立会いの依頼をする」ルールの遵守を徹底。
- 架空線の種類、及び「架空線を切断するルール」にいて教育を実施。





【現場状況図】

現場での事故等（挟まれによるけが）

事例の概要

・オートフックに指を挟まれ作業員がけが　　2022年10月25日　10時15分頃　＜(株)伊藤工務店＞

- 保管場で大型土のうに玉掛けの際、自動開放されていないオートフックを解除させるため、フックの稼働域に右手を添えていたところ、自動開放となったフックが跳ね上がり、小指を挟まれた。
- 右小指末節骨骨折。

発生要因

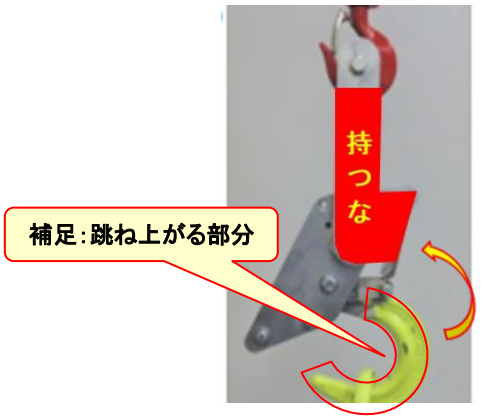
- オートフックが自動開放されていない状態で作業を継続した。
- オートフックの稼働域を掴んで作業をした。

再発防止策

- オートフックが自動開放されていない場合は、絶対に触らないことを徹底。
- オートフックが自動開放されない場合は、バックホウの上下操作によって自動開放させることを手順書へ反映。
- オートフック本体に、「作業中の接触禁止」の注意喚起表示を実施。

【けが発生時の状況】

【フックへの注意喚起（イメージ）】



その他の事案（土壌貯蔵施設、浸出水処理設備PH調整槽からの溢水）

事例の概要

・土壌貯蔵施設、浸出水処理設備PH調整槽からの処理済水の溢水

2023年１月18日　10時10分頃　＜清水JV＞

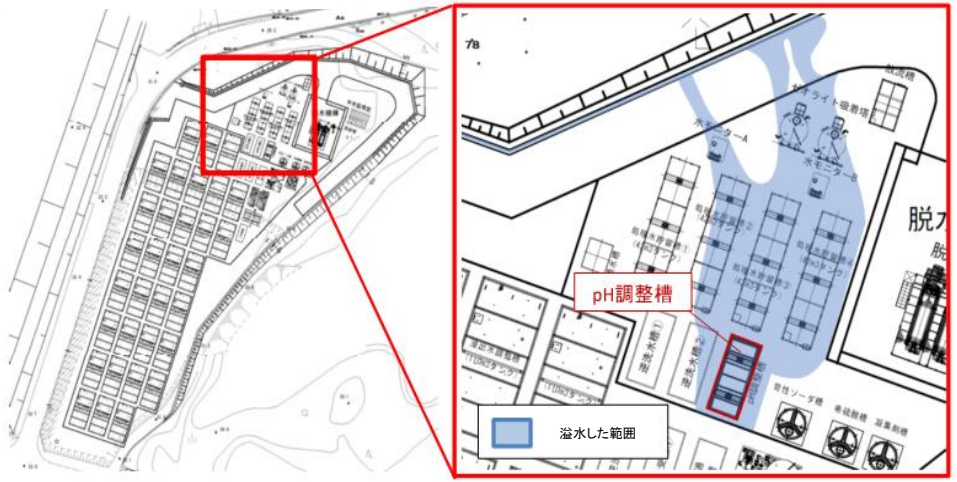
土壌貯蔵施設からの浸出水を処理している設備において、凝集沈殿・砂ろ過による処理後の水が、放射能濃度測定前にPH調整槽から溢水した。溢水した水の放射能濃度は検出下限値未満であること、及びPH値は基準値内であることを測定により確認した。

発生要因

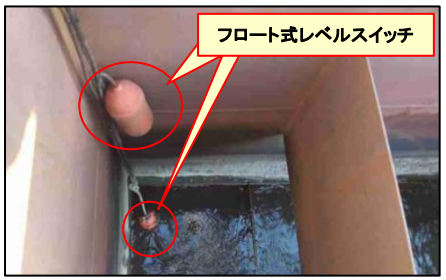
- PH調整槽のフロート式レベルスイッチ（※）の動作不良
  ⇒フロート式レベルスイッチのケーブルが硬くなっていたものと推測。
  ※一定の液位でポンプを起動させ、槽内の水を次工程へ移送させるスイッチ

再発防止策

- 施設稼働前のフロート式レベルスイッチの動作確認
- 冬季の設備稼働時の点検作業員を増員
- フロート式レベルスイッチのケーブル劣化点検と交換

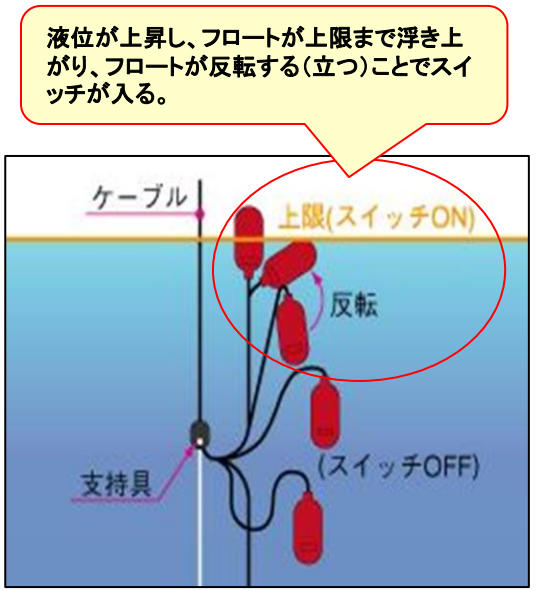


【大熊2工区_土壌貯蔵施設_浸出水処理設備_概略図】



【PH調整槽内部_液位は低い状態の時】

【PH調整槽外観】



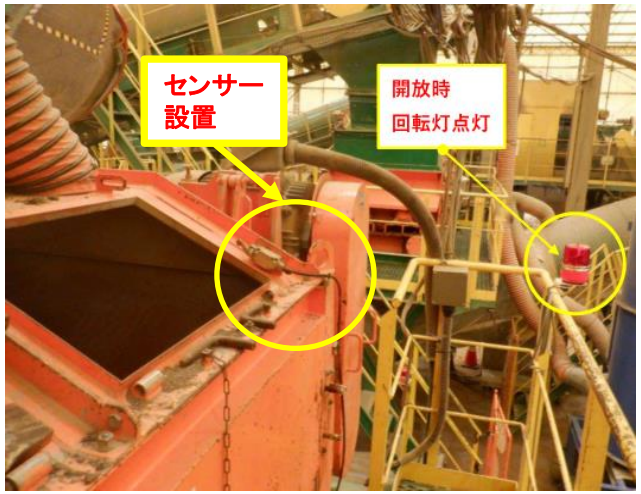
【フロート式レベルスイッチ動作原理（略）】

死亡事故（改質ミキサに巻き込まれ）に対する再発防止策等①　※前回報告事項

①受注者における再発防止対策
- 機械設備と連動するセンサー（インターロック機構）の設置や、清掃方法の改善を行った。
- 清掃作業時の作業手順・体制を改善した。（JV職員による分電盤の鍵の管理等）
- 作業員の退避等を確認するための監視カメラを増設した。
- 操作室からミキサ内の様子を確認できるよう、ミキサの直上等に監視カメラを増設した。
- 「チョイ回し」を行う清掃作業の時間帯は、JV職員を1名追加した。

②環境省の対応
- 監督職員による受入・分別施設の緊急点検を実施し、他施設で問題の無いことを確認した。
- 7月末より、月1回の頻度で監督職員による受入・分別施設の夜間パトロールを継続して実施中。
- 福島地方環境事務所の全受注者を対象に、
  ○各工事ごとの危険作業・危険個所の洗い出しと安全対策の実施
  ○全作業従事者に対する安全教育の実施　等
  を緊急要請し、実施内容について作業適正化・安全対策等協議会で受注者に対し共有した。

※なお、本件事案の当事者（関係受注者）に対しては、12/12～2週間の指名停止措置を実施済。



センサー設置等

JV職員による退避確認

監視カメラでの退避確認
（操作室）

死亡事故（改質ミキサに巻き込まれ）に対する再発防止策等②　※前回報告事項

③当該事故以降の環境省の活動

- 夜間パトロールを実施

目　　的：人間の集中力が低下する夜間時間帯作業において、手順書の遵守状況及び作業状況を確認する。
また、安全に作業が遂行出来る環境にあることを確認し、改善すべき点については指導を実施する。
対象施設：夜間作業を実施している受入・分別施設（大熊4工区・双葉1工区）
実施頻度：2022年7月末より、月1回
対 応 者：担当監督官2名

④受注者における安全対策

- 事故等を発生させた場合、関係者全員を対象に事例周知会を開催し、下記について実施する。
  - ・発生事例の説明
  - ・再発防止策の周知
  - ・手順の改訂を実施した場合は、改訂手順書の確認
- 工事等協議会での議題（事故事例）に対して、事例検討を実施。
  - ・提示された議題に対して、各事業者毎に検討会を実施し、類似事案を発生させない為のポイントを関係者で再確認する。

【夜間パトロール／手順履行の確認】

【受注者活動／再発防止策の周知会】

【受注者活動／改訂手順の周知会】

死亡事故（改質ミキサに巻き込まれ）に対する再発防止策等③　※前回報告事項

⑤環境省が実施する安全対策（詳細は次ページ以降）
　下記の活動を通して、事故等発生リスクの低減を実施している。

- 作業員研修等の実施
  ・中間貯蔵施設工事に携わる全ての作業員を対象に作業員研修を開催。（各事業者：1回／年）また、輸送車両の全運転者にも毎年度の研修を実施。
- 工事等協議会における事故事例等の周知、及び注意喚起
  ・中間貯蔵事業で事故が発生した場合、当該事故について周知し、各事業者においても類似事案を発生させないよう、注意喚起・要請。
  ・季節的な注意事項の提示、及び大けがに至る可能性が高い事例の抽出を行い、事故発生防止のための注意点を周知。
- 工程会議
  ・中間貯蔵施設の整備に関する工事で発生した事故等について、周知を実施し、類似案件の発生防止を要請。
- 監督官パトロール
  ・中間貯蔵施設の整備に関する工事を対象に担当監督官が現場パトロールを実施し、ルールの遵守状況の確認や危険要素の事前排除指示を行い、安全な作業遂行のための指導を実施。
- 労働安全コンサルタント帯同パトロール
  ・労働安全衛生法等、各種法令に沿った作業遂行について確認し、必要に応じて改善指示・指導・助言を行う。
- 委託業者によるパトロール
  ・ ルールの遵守、手順書遵守状況について確認を実施し、環境省へ報告。

【監督官パトロールでの指摘
／保護メガネ着用の指導】

【監督官パトロールの様子
／工事進捗状況の確認】

【労働安全コンサルタントによる指摘
／安全ブロックの適正使用の指導】

安全対策について①　（作業員安全研修）

作業員研修

本年度より、仮置場を含めて中間貯蔵施設工事に携わる全ての作業員を対象に安全研修を実施。
2022年度は2月末までに30回開催・計2,109名が受講。

・ルール遵守の重要性・発生事故事例を基に再発防止に重要となるポイントを周知。

・通勤・帰宅時の交通事故の状況と交通安全の指導・教育を実施。
・中間貯蔵施設事業は、地域の多大なご協力の下に実施されていることをあらためて説明。
・本事業において発生した事故等の状況を説明し、労働災害含む危険予知の気付きを促す教育を実施。

作業員安全研修

安全対策について②　（運転者研修）

新任運転者研修

輸送車両の運転者及び受注者職員等を対象に、中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送に係る研修を実施
2022年度は2月末までに4回実施。

＜主な内容＞

- 福島県警察本部から、県内の交通事情、高速道路での交通安全対策、事故時の対応等について講義。
- 環境省から緊急時の対応に関するマニュアルの周知を行い、福島県警察本部、いわき市消防本部等の指導の下、緊急時の迅速な通報・連絡訓練を実施。

現任運転者研修

輸送に従事している全ての運転者が毎年度の再研修として受講。2022年度は2月末までに11回開催。

＜主な内容＞

- 中間貯蔵施設工事・輸送は地域の多大なご協力の下に実施される事業であることについて、地元の方々から寄せられているご意見も含めて再説明。
- 中間貯蔵施設工事・輸送において発生している事故等の状況を説明。
- 自らの運転の自己評価や危険予知の気付きを促す教育を実施。

新任運転者研修

現任運転者研修

安全対策について③　（協議会）

中間貯蔵工事等協議会

労働安全衛生・公衆災害・交通安全の情報交換と安全施工の向上を目的に2015年12月より開催。
重大事故等の発生要因及び再発防止策等の共有と、安全課題に対するテーマを決め定期的に意見交換を行い、各現場における安全対策の強化・改善につなげている。
2022年度は、５月に熱中症対策、６月に輸送の安全（逸水防止対策・運転手健康管理）、８月に自然災害への備え、９月に火災等防止対策、11月に冬季事故対策、12月に墜落・転倒防止対策の各テーマについて意見交換を行った。

労働災害防止協議会

福島県労働局及び富岡労働基準監督署の指導により、中間貯蔵施設工事の安全管理の更なる向上を目的に、2020年９月より開催。
2022年度は７月５日及び10月４日に開催し、安全対策の事例報告と労働安全施策の確認を行った。

中間貯蔵工事等協議会

労働災害防止協議会

安全対策について④　（安全パトロール）

受注者と環境省職員による合同パトロール

受注者と環境省職員による合同の安全パトロールを定期的に実施。
2022年度は7月５日及び10月４日に受入・分別施設の解体現場と土壌貯蔵施設のパトロールを行い施工安全に関して意見交換を実施。

労働安全コンサルタントによるパトロール

通常の巡回パトロールとは別に、環境省職員と労働安全コンサルタントによる安全パトロールを実施。
2022年度は新規受注者や過去に事故等の発生現場等を対象に月２回程度、現場の安全衛生管理状況の確認と指導を行った。

走行状況のパトロール

双葉警察署からの協力を得て、速度超過や交通安全に注意すべき箇所等において、輸送車両等の（帰投時を含む）走行状況を確認。2022年度（７月、10月実施）は浪江町、双葉町内にて実施。

受注者と環境省職員による合同パトロール

労働安全コンサルタントによるパトロール

走行状況のパトロール

安全対策について⑤　（優良ドライバー表彰）

優良ドライバー表彰

運転手の安全意識とモチベーションの維持・向上のため、安全な輸送を100日以上行った者に、受注者を通じて優良ドライバー認定証（ヘルメット及び車両ダッシュボードに掲示）を交付。

・2023年２月末時点の交付人数は16名（100日以上200日未満：９名、200日以上300日未満：２名、300日以上：５名）。

※連続運転日数100日以上の運転者に対する優良ドライバーの割合は100%

金：300日以上

銀：200日以上300日未満

銅：100日以上200日未満

優良ドライバー認定証
（安全輸送の継続日数ごとに3種類）

認定証の交付

資料2別添

中間貯蔵施設事業において発生した事例と対応等の詳細（2022年８月環境安全委員会報告以降）

2023年３月

環境省

交通事故（輸送車両の物損（対物）事故）

事例の概要

・輸送車両（実車）の高速道路上中央分離帯センターポールとの接触

2022年８月１日　12時34分頃 ＜前田JV＞

南相馬市からの輸送車両が常磐自動車道（上り車線）を走行中、浪江ICと常磐双葉ICの間で、中央分離帯センターポールに接触した。

発生要因

・よそ見運転

再発防止策

・高速道路の対面走路での安全走行を再徹底

交通事故（輸送車両の物損（対車両）事故）

事例の概要

・輸送車両（実車）の対向車線をはみ出してきた一般車両との接触（<u>もらい事故</u>）

2022年７月29日　12時22分頃 ＜大成JV＞

飯舘村からの輸送車両（空荷）が、２回転目の輸送のため仮置き場へ戻る途中、国道114号を飯舘村方面へ走行中、対向車線をはみ出して走行してきた一般車両（乗用車）と接触した。

交通事故（業務車両の人身事故）

事例の概要

・通勤車両の事務所駐車場駐車時に作業員と接触　2022年７月８日　７時20分頃 ＜（株）丸東＞

通勤車両が事務所駐車場へ後方移動にて駐車しようとした際、車両後方を通過していた作業員に接触した。

発生要因

・後方駐車時の後方安全確認不足

再発防止策

・駐車場に誘導員を配置
・駐車場内は、車両後方を通行しないこと徹底

交通事故（業務車両の物損（対車両）事故①）

事例の概要

・**業務車両が中間貯蔵事業外運搬車両と衝突**　　2022年８月22日　11時30分頃　＜安藤ハザマJV＞
　業務車両が、双葉町内の側道から県道254号線に右折する際、県道254号線を東側へ直進中の中間貯蔵事業外運搬車両（10tダンプ）に衝突した。

発生要因

・交差点右折時の左側確認不足

再発防止策

・信号機無し、及び一時停止義務のない交差点において、一時停止を確実に実施することを徹底

交通事故（業務車両の物損（対車両）事故②）

事例の概要

・**業務車両の一般乗用車との接触**　　2022年８月24日　８時55分頃 ＜前田JV＞
　富岡町の商用施設駐車場から県道163号線に右折する際、一般乗用車に接触した。

発生要因

・T字路左折時の左側確認不足
・左側からの車両が直進すると思い込み

再発防止策

・安全運転遵守を再徹底

交通事故（通勤時交通事故①）

事例の概要

・凍結路面でスリップし路肩に乗り上げ　2022年12月7日　6時28分頃 ＜JESCO＞

通勤のため国道288号を普通車両で走行中、凍結路面でスリップし、ガードレールに接触後路肩に乗り上げ停止した。

発生要因

・凍結路面への認識不足
・減速不足

再発防止策

・危険箇所のハザードマップ作成
・冬季安全運転励行を再徹底

交通事故（通勤時交通事故②）

事例の概要

・工事車両（業務終了後）の対向車線をはみ出してきた一般車両との衝突（<u>もらい事故</u>）

2022年12月19日　16時35分頃 ＜大林JV＞

車両基地に戻るため国道288号を工事車両で走行中、対向車線を走行中の一般車両が凍結路面でスリップし、当該車両に衝突した。

事例の概要

・通勤車両の対向車線をはみ出してきた一般車両との衝突（<u>もらい事故</u>）

2023年2月11日　6時50分頃 ＜JESCO＞

通勤のため県道35号を走行中、対向車線を走行中の一般車両が凍結路面でスリップし、当該車両に衝突した。

業務車両の故障等（タイヤの脱落）

事例の概要

・工事車両のタイヤ脱落　　2022年11月22日　9時45分頃 ＜清水JV＞

採取土（土壌貯蔵施設の堰堤に使用）を積んだ工事車両が、場内の中央台線工事用道路のカーブを走行した際、左側輪の後軸タイヤ２本が脱落した。

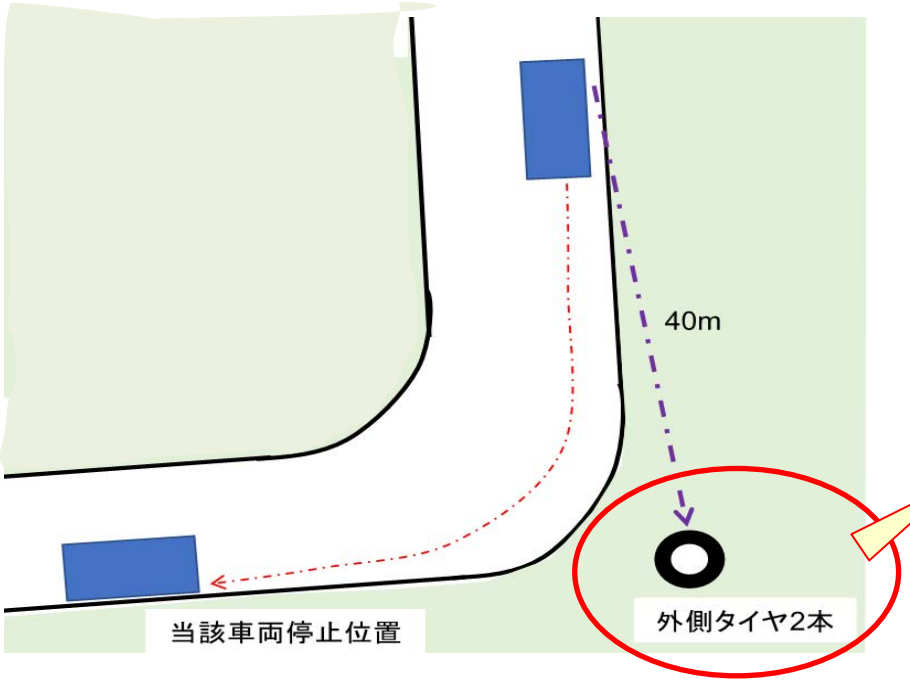
発生要因

・冬タイヤへの交換時のナット締め付け不足

再発防止策

・現場従事車両のナット締め付け確認を実施
・タイヤ交換は専門業者へ依頼することへ変更

【現場の状況図】



【脱落したタイヤ】

【車両の状況】

輸送車両の故障等（エンジントラブル）

事例の概要

飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が、飯舘村内の県道31号線を走行中、エンジン警告灯が点灯したため安全な場所へ停止・待機した。ディーラーのリモート診断で走行可能を確認し、仮置場へ戻った。
（2022年7月11日）＜大成JV＞

発生要因

- 経年劣化による温度センサー不良

再発防止策

- 日常点検、定期点検等の確実な実施
- 車両トラブル時の対応を再徹底

輸送車両の故障等（ルート逸脱）

事例の概要

二本松市からの焼却灰輸送車両4号車（実車）が、国道288号を走行中、町道との交差点で左折すべきところを直進した。
（2022年11月26日）＜西松建設（株）＞

ルート逸脱後の対応

- 逸脱後は、安全な場所に待機し、受注者が安全に輸送ルートに復帰する方法を環境省と確認するなどした後、正規ルートに復帰した。

再発防止策

- ルート逸脱箇所にて、有人による案内を実施
- 逸脱発生箇所について車載音声ナビを分かりやすく改善

現場での事故等（物損／架空線切断）

事例の概要

・家屋解体作業時の架空線切断　　2022年7月28日　15時13分頃 ＜(株)丸東＞

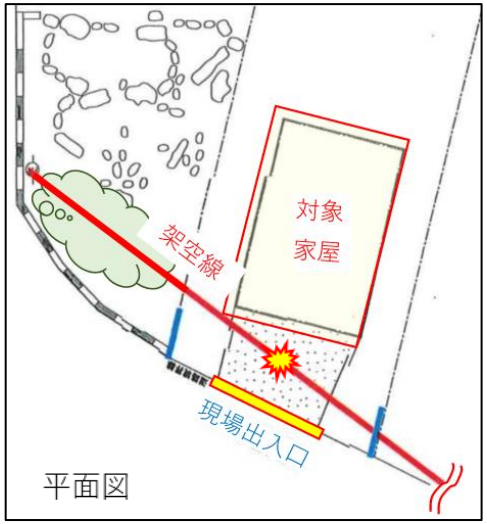
家屋解体作業において、業務車両の出入口確保を行う際、出入口を横断する状態で敷設されていた架空線(NTT光ケーブル)を切断した。

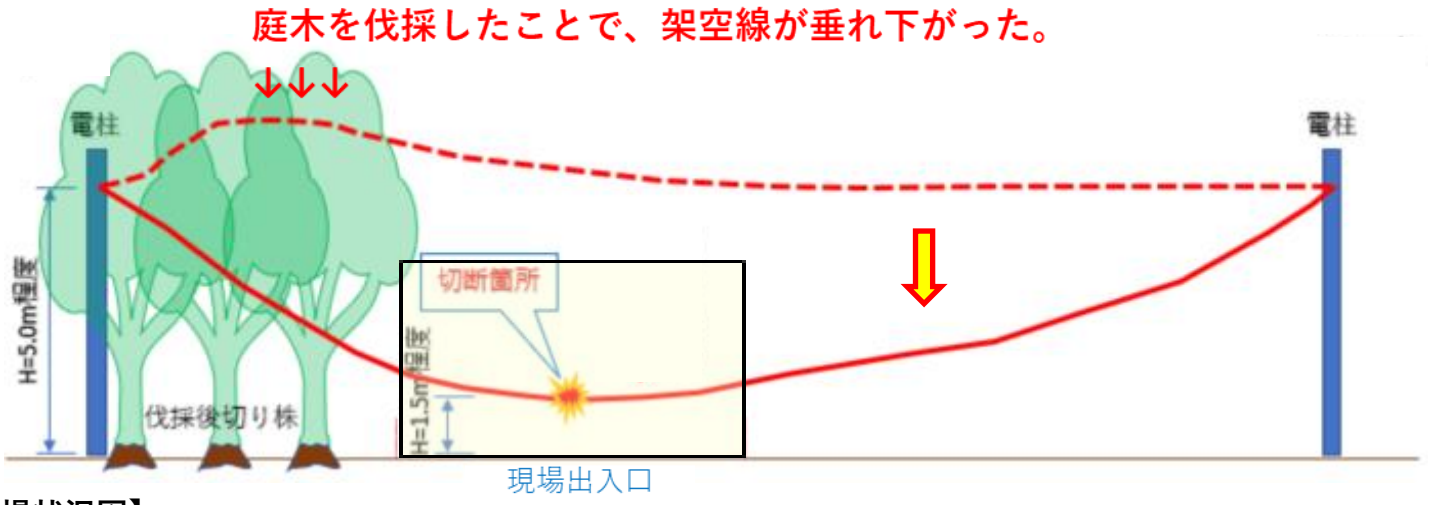
発生要因

- 家屋解体現場の請負事業者担当職員が、電話配線と誤認し、切断許可をした。(切断した。)
- 架空線確認すべき手順を省略した。
  (出入口ゲートを追加設置するに当たり、現場の出入口ゲート追加設置の立会を依頼しなかったため、架空線確認の機会を逸した。)
- 架空線の種類について認識・確認がされていなかった。

再発防止策

- 「架空線の切断は、担当監督官の承認を得る」ルールを設定。
- 「現場の出入口ゲートの設置の際は、立会いの依頼をする」ルールの遵守を徹底。
- 架空線の種類、及び「架空線を切断するルール」にいて教育を実施。





【現場状況図】

現場での事故等（転倒によるけが）

事例の概要

・足を滑らせて転倒し作業員がけが　　2022年８月27日　11時10分頃　＜鹿島JV＞

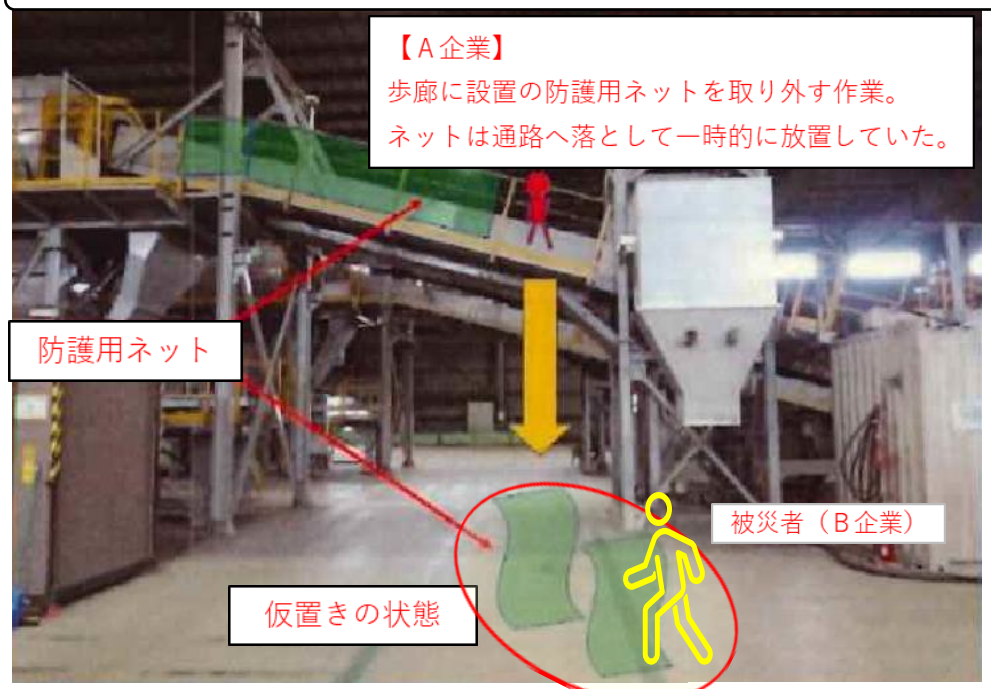
- 施設内で施設解体の準備作業を行っていた作業員が、作業エリアの床面に仮置きしてあった廃棄予定の防護用ネット（プラスチック製の編み目ネット）を左足で踏んだ際、足を滑らせ転倒した。
- 左足腓骨骨折。

発生要因

- 廃棄予定の資材（防護用ネット）を床面に放置していた。
- 施設内を移動する際、ネット上を歩いた。
- 小走りで移動した。

再発防止策

- 施設内の通路上に資材を置かない。（作業区画・資材置場を整理する。）
- 資材上を歩かない。
- 現場は走らない。



【けが発生時の現場状況（イメージ）】

現場での事故等（挟まれによるけが）

事例の概要

・オートフックに指を挟まれ作業員がけが　　2022年10月25日　10時15分頃　＜(株)伊藤工務店＞

- 保管場で大型土のうに玉掛けの際、自動開放されていないオートフックを解除させるため、フックの稼働域に右手を添えていたところ、自動開放となったフックが跳ね上がり、小指を挟まれた。
- 右小指末節骨骨折。

発生要因

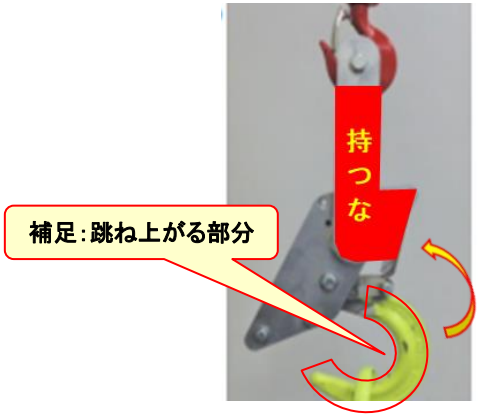
- オートフックが自動開放されていない状態で作業を継続した。
- オートフックの稼働域を掴んで作業をした。

再発防止策

- オートフックが自動開放されていない場合は、絶対に触らないことを徹底。
- オートフックが自動開放されない場合は、バックホウの上下操作によって自動開放させることを手順書へ反映。
- オートフック本体に、「作業中の接触禁止」の注意喚起表示を実施。

【けが発生時の状況】

【フックへの注意喚起（イメージ）】



その他の事案（土壌貯蔵施設、浸出水処理設備PH調整槽から溢水）

事例の概要

・土壌貯蔵施設、浸出水処理設備PH調整槽から処理済水の溢水

2023年1月18日　10時10分頃　＜清水JV＞

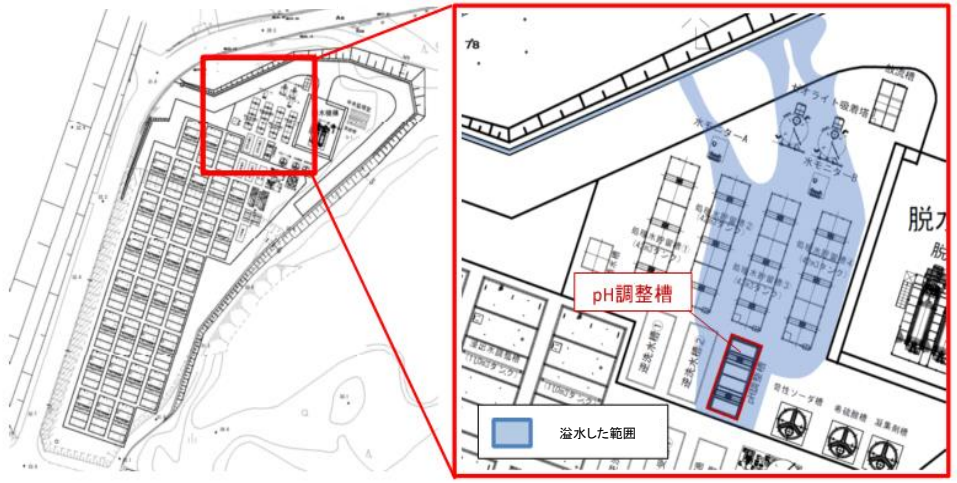
土壌貯蔵施設からの浸出水を処理している設備において、凝集沈殿・砂ろ過による処理後の水が、放射能濃度測定前にPH調整槽から溢水した。溢水した水の放射能濃度は検出下限値未満であること、及びPH値は基準値内であることを測定により確認した。

発生要因

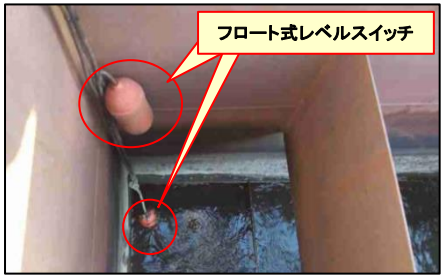
- PH調整槽のフロート式レベルスイッチ（※）の動作不良
  ⇒フロート式レベルスイッチのケーブルが硬くなっていたもの推測。
  ※一定の液位でポンプを起動させ、槽内の水を次工程へ移送させるスイッチ

再発防止策

- 施設稼働前のフロート式レベルスイッチの動作確認
- 冬季の設備稼働時の点検作業員を増員
- フロート式レベルスイッチのケーブル劣化点検と交換

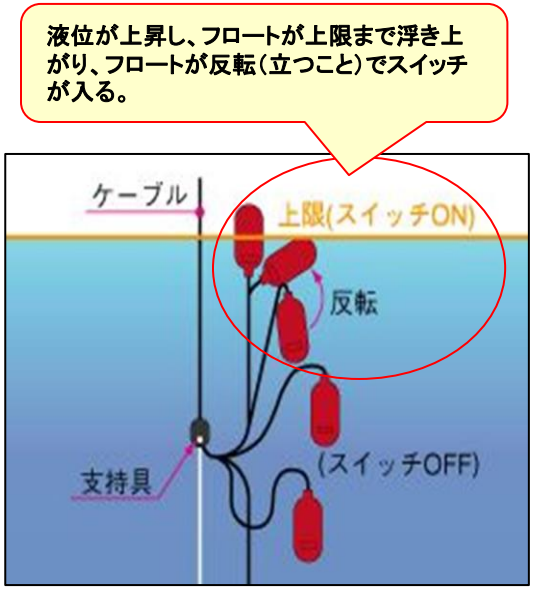


【大熊2工区_土壌貯蔵施設_浸出水市を利設備_概略図】



【PH調整槽内部_液位は低い状態の時】

【PH調整槽外観】



【フロート式レベルスイッチ動作原理（略）】

資料3

福島県・大熊町・双葉町が実施した
中間貯蔵施設における状況確認の結果等について

令和５年３月２８日
福島県生活環境部
中間貯蔵・除染対策課

令和４年度状況確認の結果

安全協定に基づく、中間貯蔵施設の整備・運営、除去土壌等の輸送等（搬出時の積込み作業）についての状況確認の結果は次のとおりです。

1　輸送の状況確認

実　施　者　福島県
対象仮置場　１０市町村（各市町村１ヵ所）
実 施 期 間　令和４年５月～１２月

主な確認事項	結果
・フレコン毎の含水確認作業の実施	○
・トラック荷台への漏水防止シートの敷設	○
・トラック荷台でのフレコンの固縛	○
・上部シート掛けの実施	○

2　施設の状況確認

実　施　者　福島県、双葉町、大熊町
実 施 期 間　令和４年４月～令和５年３月

対象施設(施設数)	延べ実施回数
受入・分別施設 (9)	12
土壌貯蔵施設 (10)	13
減容化施設 (3)	13
廃棄物貯蔵施設 (2)	2
その他施設	3

主な確認事項	結果
・作業の安全性	○
⇒受入・分別施設での人身事故への対応 (p.3)	
・除去土壌等の飛散防止対策	○
⇒受入・分別施設のモニタリング(p.4) ⇒土壌貯蔵施設の浸出水処理設備(pH調整槽)からの流出について(p.5)	
・環境モニタリング	○
⇒土壌貯蔵施設放流水からの排水基準超過への対応 (p.6)	

受入・分別施設での人身事故への対応

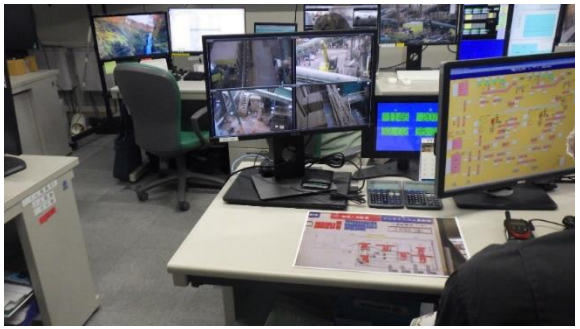
令和4年6月に発生した改質ミキサへの巻き込まれ事故について、7月に続き（前回の環境安全委員会で報告済み）、再発防止策の履行状況を確認した結果は次のとおりです。

1　調査概要

年月日　令和５年２月１０日（金）
場　所　双葉①工区受入・分別施設
実施者　福島県・双葉町

2　調査結果

確認事項	結果	
カメラによる改質ミキサ内部及び場内の監視状況	○	ＪＶ職員が当日の作業員の名前が入った配置図を手元で確認しながら作業状況の監視を行うなど、工夫が図られていた。
改質ミキサへのインターロックの設置	○	
清掃作業手順の変更及び作業員への周知	○	ＪＶ職員が日常的なＫＹ活動やヒヤリ・ハット、作業員へのヒアリングを通じて継続的に作業手順書の改善を図っているほか、作業フローを場内に掲示することで作業員が常に確認できるようにしていた。
作業手順の遵守状況	○	環境省が夜間パトロール等により作業員の手順書の遵守状況を確認し、適宜指導していた。



カメラによる場内の監視状況

場内での作業フローの掲示状況

受入・分別施設解体時のモニタリング

令和4年度に実施された受入･分別施設の解体に際し、飛散防止対策の確認及び周辺の空間線量率等の測定を行いました。その結果、解体中及び解体後の空間線量率は解体前と同程度であり、解体中に風下で採取した大気浮遊じんの放射能濃度は基準※を下回りました。

1　概要

※ 周辺の空気中の濃度限度　$\frac{Cs-134}{20}+\frac{Cs-137}{30}\leqq 1$

実施内容 ＼ 対象施設	双葉①工区 解体期間(R4.4月～11月)	双葉②工区 解体期間(R4.6月～10月)
飛散防止対策の確認	R4.5.20	R4.5.26
解体中の調査(空間線量率･大気浮遊じん)	R4.7.13	R4.7.13
解体後の調査(空間線量率)	R4.12.16	R4.12.16

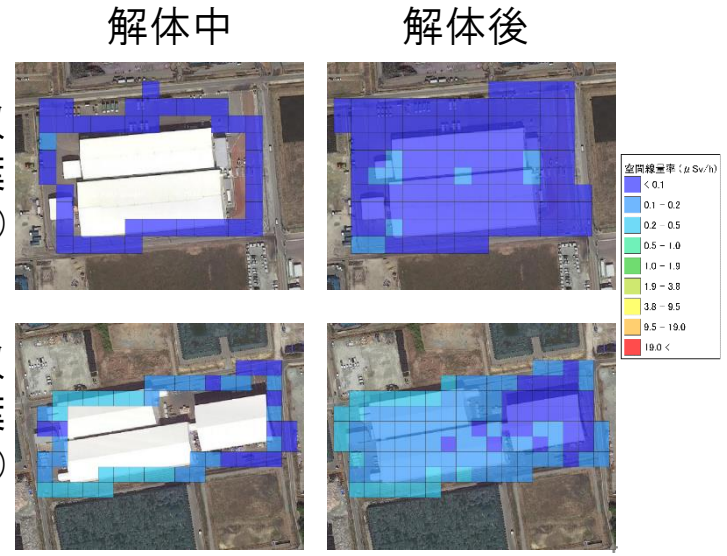
2　飛散防止対策

- 解体前の施設内の清掃
- 搬出作業時の負圧管理及び二重扉による密閉
- 搬出物の汚染検査

3　調査結果

対象受入･分別施設	解体前※ (環境省調査) 空間線量率 (μSv/h)	解体中		解体後
		大気浮遊じん (Bq/m³)	空間線量率 (μSv/h)	空間線量率 (μSv/h)
双葉①工区	0.10～0.11	不検出	0.08～0.11	0.08～0.12
双葉②工区	0.12～0.42	不検出	0.11～0.28	0.10～0.33

※ 令和3年度末　　不検出：3 Bq/m³以下



土壌貯蔵施設の浸出水処理設備(pH調整槽)からの流出について

令和5年1月18日10時10分頃、当県による安全協定に基づくモニタリング実施時に、側溝への流出を発見し、事業者による応急対応について確認するとともに、その後の改善状況を確認した結果は次のとおりです。

1　流出の状況等

【モニタリング】

土壌貯蔵施設からの排水を検査するために実施

【流出水について】

・土壌貯蔵施設（大熊②工区）の浸出水の処理工程（重要な水処理が終了し放流する前にpHを調整する場所）の水

・流出量は２m^3程度と推計

【応急措置の内容】

・流出の停止（ｐＨ調整槽から放流槽に移送するポンプを手動で作動）

・流出水の回収等（側溝を土嚢でせき止め、流出水を回収）

【県による検査】

分析項目 / 分析検体	放射能濃度 (Cs-137及びCs-134)	ｐＨ
ｐＨ調整槽	不検出	8.1
防災調整池	不検出	7.9

不検出：3 Bq/L以下

2　再発防止策の履行状況

年月日　令和５年３月３日（金）

実施者　福島県・大熊町

確認事項	結果	
レベルスイッチの改修等	○	不具合のあったレベルスイッチは新品に交換されていた。また、高水位用のレベルスイッチ（オーバーフロー防止）が増設されていた。
浸出水処理設備の日常点検	○	点検項目に「レベルスイッチの作動状況」が追加され、毎日の実施が記録されていた

レベルスイッチの交換及び増設状況

土壌貯蔵施設放流水からの排水基準値超過への対応

令和4年1月に土壌貯蔵施設の放流水中の溶解性マンガンが「中間貯蔵施設に係る指針」に定める基準値を超過した件について、浸出水処理設備の改修状況等を確認しました。
また、改修後の溶解性マンガン濃度は1．８ mg/Lで、基準値を下回りました。

1　状況確認の概要

年月日　令和５年２月１６日（木）
場　所　双葉③工区土壌貯蔵施設　浸出水処理設備
実施者　福島県

2　改善状況確認結果

調査事項	結果	
設備の改修状況	○	苛性ソーダタンクが増設され、苛性ソーダ及びポリ鉄の送液ポンプの送液能力が向上していた。
稼働状況	○	凝集沈殿処理前及び放流前の水のｐＨが適正な値を示していることを確認した。
日常点検記録	○	２月の点検記録において、各タンク内のｐＨ確認、ｐＨメーターの校正が実施されていることを確認した。

3　モニタリングの結果

採取日	溶解性マンガン濃度(mg/L)	基準値(mg/L)
令和4年1月25日	11	10
令和5年2月16日	1.8	